

Canon

EOS R50V



詳細ガイド

この使用説明書は、EOS R50VのファームウェアがVer.1.1.0以上であることを前提に説明しています。

JA

目次

はじめに	10
カメラと主な付属品	11
補足情報	12
対応アクセサリ	13
使用説明書について	14
すぐ撮影するには	15
このガイドについて	22
使用できるカードについて	24
安全上のご注意	25
取り扱い上のご注意	28
各部の名称	31
ソフトウェア/アプリケーション	40
準備と基本操作	45
バッテリーを充電する	46
バッテリーとカードを入れる/取り出す	49
モニターを使う	55
電源を入れる	57
RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける/取り外す	63
EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける/取り外す	67
マルチアクセサリシュー	71
基本操作	73
メニュー機能の操作と設定	88
クイック設定	94
画面にタッチして操作する	96
動画撮影モード	100
〈A+〉：全自動撮影（シーンインテリジェントオート動画）	101
〈SCN〉：スペシャルシーン動画	104
美肌動画	106
レビュー用動画	107
手ブレ補正動画	108

応用撮影（動画）ゾーン.....	109
動画自動露出.....	111
動画シャッター優先AE.....	113
動画絞り優先AE.....	114
動画マニュアル露出.....	115
スロー&ファストモーション記録.....	117
カスタム撮影モード.....	119
静止画撮影モード.....	120
撮影モードの設定方法.....	121
P：プログラムAE.....	123
Tv：シャッター優先AE.....	124
Av：絞り優先AE.....	126
M：マニュアル露出.....	129
露出を固定して撮る/AEロック撮影.....	131
B：バルブ撮影.....	133
A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）.....	134
自分撮り.....	142
ポートレート.....	143
美肌.....	144
パノラマショット.....	145
料理.....	147
手持ち夜景.....	148
撮影.....	149
メニュー目次：動画撮影.....	152
メニュー目次：静止画撮影.....	158
動画記録サイズ.....	162
動画記録形式.....	170
静止画記録画質.....	172
DPRAW設定.....	176
静止画アスペクト比.....	178
デジタルズーム.....	179
デジタルテレコン.....	181

録音	182
露出補正	195
動画 ISO感度に関する設定	196
静止画 ISO感度に関する設定	200
動画Av値 1/8段設定	203
動画 オートスローシャッター	204
フリッカーレス撮影	205
測光モード	207
AF時の検出被写体優先AE	208
カラーモード	209
明瞭度	239
HDR撮影 (PQ)	240
HDRモード	241
オートライティング最適マイザ	245
高輝度側・階調優先	246
ホワイトバランス	247
ホワイトバランスの補正	256
レンズ光学補正	258
長秒時露光のノイズ低減	265
高感度撮影時のノイズ低減	266
ダストデリートデータ取得	267
タイムラプス動画	270
シネマビュー	281
動画セルフタイマー	282
フォーカスBKT撮影	283
ドライブモード	288
インターバルタイマー撮影	289
サイレントシャッター機能	293
シャッター方式	294
カードなしリリース	296
タリーランプ	297
手ブレ補正 (IS機能) 設定	298
動画自動水平補正	300

メタデータ.....	301
タイムコード.....	302
撮影画像の確認時間.....	309
高速表示.....	310
表示Simulation.....	311
HDR/C.Logビューアシスト.....	313
フォルスカラー設定.....	316
ゼブラ設定.....	318
撮影情報表示設定.....	320
動画撮影情報表示の自動回転.....	330
クイック設定画面.....	331
クイック設定カスタマイズ.....	332
表示フレームレート設定.....	335
鏡像表示.....	337
自動電源オフ温度.....	338
温度上昇緩和.....	340
HDMI接続時の表示.....	341
Canon LogのHDMI出力レンジ.....	343
クリエイティブアシスト設定記憶.....	344
動画撮影全般.....	345
静止画撮影全般.....	349
外部ストロボ撮影.....	352
ストロボ撮影の設定.....	357
AF/ドライブ.....	370
メニュー目次：AFタブ（動画撮影）.....	371
メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）.....	374
AF動作.....	377
動画サーボAF.....	383
AFエリアの選択.....	387
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）.....	411
登録人物優先.....	418
AF機能のカスタマイズ.....	433
ドライブモードの選択.....	441

セルフタイマー撮影.....	444
リモコン撮影.....	446
操作をカスタマイズする.....	447
再生.....	449
メニュー目次：再生タブ.....	450
画像の再生.....	452
画像の拡大表示.....	457
インデックス表示（複数画像表示）.....	459
動画の再生.....	462
動画の前後部分のカット.....	466
4K動画からのフレームの切り出し.....	469
テレビで見る.....	472
画像プロテクト.....	474
画像消去.....	478
静止画の回転.....	485
動画の回転情報の変更.....	486
レーティング.....	487
印刷指定/DPOF.....	493
クリエイティブアシスト.....	498
JPEG/HEIF画像のリサイズ.....	501
JPEG/HEIF画像のトリミング.....	503
HEIF画像をJPEG画像に変換.....	506
スライドショー.....	510
画像検索の条件設定.....	513
前回の画像から再生.....	516
再生する情報の設定.....	517
AFフレーム表示.....	520
再生時のグリッド.....	521
動画再生カウント.....	522
通信機能.....	524
メニュー目次：通信機能タブ.....	526
スマートフォン（タブレット）と接続.....	528

ワイヤレスリモコンと接続.	555
EOS Utilityと接続.	560
image.canonに画像送信.	570
高度な接続.	575
USB(UVC/UAC)接続で配信.	588
HDMI 接続で配信.	596
Camera Connectで配信.	598
Live Switcher Mobileで配信.	609
通信機能の基本設定.	617
2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続.	638
機内モード.	639
Wi-Fi設定.	640
Bluetooth設定.	641
カメラの名前.	642
GPSの設定.	643
エラー内容の表示.	647
エラー表示の対応.	648
USB接続アプリの選択.	655
通信の設定初期化.	656
仮想キーボードの操作方法.	657
無線通信機能での注意事項.	658
セキュリティについて.	660
ネットワークの設定を確認する.	661
無線通信機能の接続状態.	662
機能設定.	664
メニュー目次：機能設定タブ.	665
フォルダの設定.	668
静止画画像番号.	672
動画クリップ番号.	677
ファイル名の設定.	680
カード初期化.	686
縦位置画像回転表示.	688
動画縦位置情報の付加.	690

日付／時刻／エリア	691
言語	694
システム周波数	695
機能ガイド	696
電子音	697
音量	698
音声モニター	699
モニターの明るさ	706
メニュー画面の拡大	707
HDMI出力解像度	708
パスワードの管理	709
節電	714
カメラの初期化	715
カスタム撮影モード（C1-C3）	716
バッテリー情報	719
著作権情報	720
その他の情報	723
操作カスタマイズ	724
メニュー目次：操作カスタマイズタブ	725
操作カスタマイズで変更できる内容	729
カスタム機能／マイメニュー	754
メニュー目次：カスタム機能タブ	755
カスタム機能で変更できる内容	756
メニュー目次：マイメニュータブ	759
マイメニューの登録	760
資料	767
パソコンへの画像の取り込み	768
スマートフォンへの画像の取り込み	772
USB電源アダプターを使って充電／給電する	775
故障かな？と思ったら	777
エラー表示	793
情報表示	794

主な仕様.....	806
商標・ライセンスについて.....	827

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに[安全上のご注意](#)、および[取り扱い上のご注意](#)をお読みください。また、この「詳細ガイド」をよく読んで正しくお使いください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本製品）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

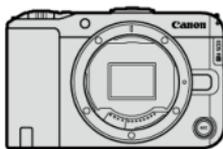
著作権について

あなたがカメラ（本製品）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

- [カメラと主な付属品](#)
- [補足情報](#)
- [対応アクセサリ](#)
- [使用説明書について](#)
- [すぐ撮影するには](#)
- [このガイドについて](#)
- [使用できるカードについて](#)
- [安全上のご注意](#)
- [取り扱い上のご注意](#)
- [各部の名称](#)
- [ソフトウェア/アプリケーション](#)

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ

(ボディキャップ (カメラカバー R-F-5) 付き、シューカバー付き)



バッテリーパック LP-E17

(保護カバー付き)



充電器 バッテリーチャージャー LC-E17



ストラップ

- メモリーカード (📁)、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。
- ソフトウェア (📄) は、キヤノンホームページからダウンロードしてください。

⚠ 注意

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください (📄)。
なお、レンズの使用説明書 (PDFファイル) は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

補足情報

各機能に対応しているレンズ情報、およびカメラに関する補足情報については、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H001/>



対応アクセサリ

最新の対応アクセサリについては、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H002/>



使用説明書について

- **使用説明書（製品に付属）**

ご使用前に必ずお読みください。

- **詳細ガイド**

すべての使い方は、この「詳細ガイド」で説明しています。
最新の詳細ガイドは、下記のサイトでご確認ください。

<https://cam.start.canon/C021/>



- **レンズ使用説明書**

下記のサイトでご確認、またはダウンロードしてください。

<https://cam.start.canon/>



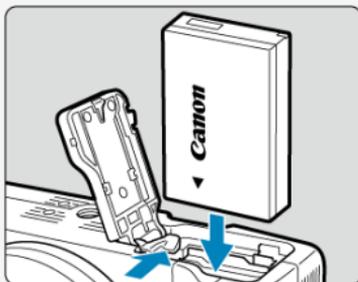
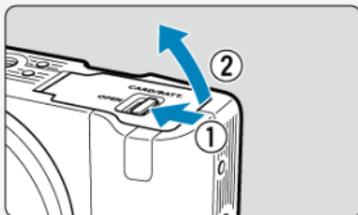
ソフトウェア使用説明書については[ソフトウェア使用説明書](#)を参照してください。

参考

- [📄: 使用説明書・ソフトウェア URL] を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示できます。

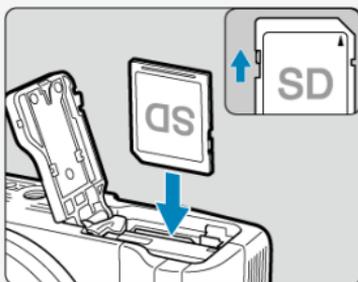
すぐ撮影するには

1. バッテリーを入れる (🔋)



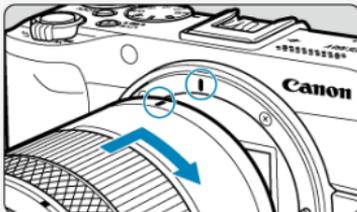
- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください (🔋)。

2. カードを入れる (📷)



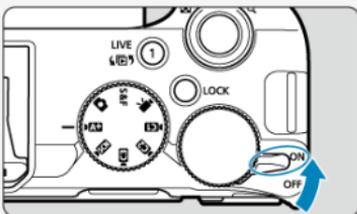
- カードの表を、カメラの前面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

3. レンズを取り付ける (🔗)

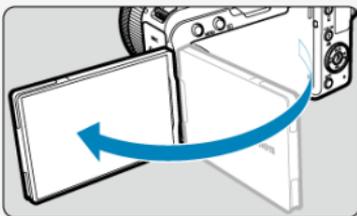


- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。

4. 電源スイッチを〈ON〉にする (🔗)

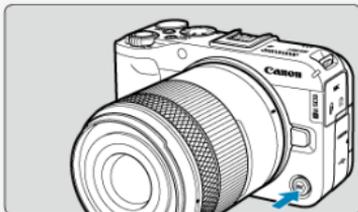
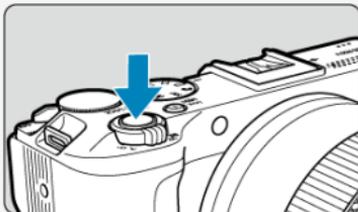


5. モニターを開いてセットする (🔗)



- モニターに言語の設定画面が表示されたときは、[言語](#)を参照してください。
- モニターに日付／時刻／エリアの設定画面が表示されたときは、[日付／時刻／エリア](#)を参照してください。
- モニターにパスワードの設定画面が表示されたときは、[パスワードを設定する](#)を参照してください。
- モニターに【ようこそ】の画面が表示されたら、画面の指示に従ってカメラとスマートフォンを接続します (🔗)。

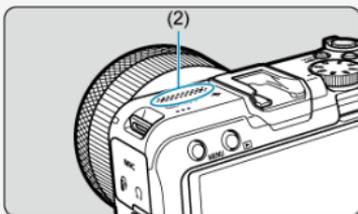
3. 動画を撮影する (📷)



- 動画撮影ボタン（上面または前面）を押すと、動画撮影が始まります。画面の [●] をタッチしても、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に [●REC] (1) が表示され、画面の周囲に赤枠が表示されます。



- 音声は動画撮影用マイク (2) で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の [■] をタッチしても、動画撮影が終了します。

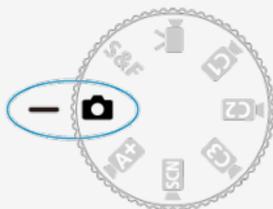
4. 撮影した動画を確認する (🔍)



- <▶> ボタンを押します。
- <🔍> を2回押します。

静止画を撮影する

1. モードダイヤルを <📷> にする



2. 撮影モードのアイコンをタッチする



3. [A+] を選ぶ

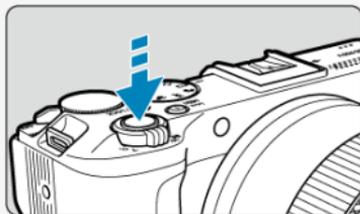


4. ピントを合わせる (📷)



- 顔を検知すると、ピント合わせを行う追尾フレーム [] が顔の部分に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

5. 撮影する (📷)



- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

6. 撮影した画像を確認する



- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- <▶> ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (🔄)。

このガイドについて

[☑ 本文中の絵文字について](#)

[☑ 操作説明の前提について](#)

本文中の絵文字について

	メイン電子ダイヤルを示しています。
	サブ電子ダイヤルを示しています。
   	 十字キーの押す方向を示しています。
	レンズのコントロールリングを示しています。
	クイック設定／設定ボタンを示しています。
	操作ボタンから指を離れたあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

- その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

	タイトル右の  は、静止画撮影用の機能であることを示しています。
	タイトル右の  は、動画撮影用の機能であることを示しています。
	タイトル右の  は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。
	関連トピックへのリンクを示しています。
	撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
	補足説明や補足事項を記載しています。
	上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
	困ったときの助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉(☑)、マルチ電子ロック機能がオフ(☑)になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、RF-S14-30mm F4-6.3 IS STM PZレンズを取り付けた状態で説明しています。
- このガイドで使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。
- 「EFレンズ/EF-Sレンズ使用時」の記載は、マウントアダプターを併用して、EFレンズまたはEF-Sレンズを使用する（装着する）という意味です。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください (🔗)。

- SD/SDHC/SDXCメモリーカード

* UHS-II、UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適應する性能（書き込み／読み取り速度）を備えたカードを使用してください (🔗)。



このガイドでは、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

*画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。



警告

死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。
 - バッテリーを子供の手の届く範囲内に置かない。
ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
- 電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。
- この製品はボタン/コイン電池を使用しています。
ボタン/コイン電池は危険であり、新品が使用済みかにかかわらず、常に子供の手の届かないところに保管してください。
これらの電池を飲み込んだり、体のどこかに入れたりすると、2時間以内に重傷や死亡に至ることがあります。
ボタン/コイン電池を飲み込んだ、または体のどこかに入れた疑いがある場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
 - 指定外の電源は使わない。
 - 分解や改造をしない。
 - 強い衝撃や振動を与えない。
 - 破損したときは、内部に触れない。
 - 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
 - アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
 - 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
 - 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
- 感電の原因となります。
- バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
 - 指定外の製品で使わない。
 - 熱したり、火中投入しない。
 - 指定外の製品で充電しない。
 - 端子に他の金属や金属製のピンやゴミに触れさせない。
 - 液漏れしたものは使わない。
 - 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。
- 感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

- バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
 - 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
 - ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
 - 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
 - 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。
 - 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
- 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
- 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
- コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
- 電源に長時間つないだままにしない。
- 5°C～40°Cの範囲外で充電しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- 長時間、身体と同じ部位に触れさせたまま使わない。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

- 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。

電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

- ベットの近くにバッテリーを置かない。

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により故障や火災の原因となることがあります。

⚠️注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- ストロボを目に近付けて発光しない。

目をいためる恐れがあります。

- 長い時間、ファインダー（ファインダーがある製品）や画面を見続けず、乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

- ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。

やけどや故障の原因となります。

- 製品を高温や低温となる場所に放置しない。

製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

- ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。

- レンズを強く押ししたり、ぶつけたりしない。

けがやカメラの故障の原因となります。

- 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。

- カメラを三脚につけたまま移動しない。

けがや事故の原因となります。

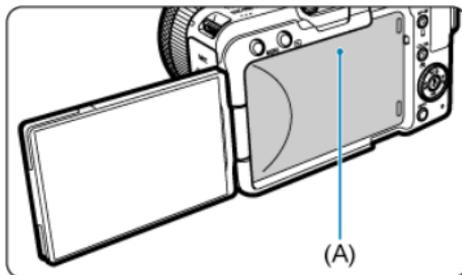
- 製品の内部には手を入れない。

けがの原因となります。

- 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。



- 連続撮影を長時間繰り返したり、動画撮影を行うと、モニター収納部 (A) の温度が高くなる場合がありますので触らないでください。やけどの原因となることがあります。



- [📷: 自動電源オフ温度] を [高] に設定すると、カメラ本体、およびカードがより高温になることがあります。
 - 低温やけどなどの原因になる可能性がありますので、手持ちで撮影することは避けて、三脚などのご使用をおすすめします。
 - 撮影直後はカードに触れないでください。カードが高温になり、やけどの原因となることがあります。温度が下がってからカードを取り出してください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでシャッター幕の動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズなどにゴミが付いているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行くと、カメラの温度が高くなる場合があります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。
- 逆光での撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。また、強い光源（太陽、レーザー、人工的な強い光源など）が撮影画面の内側や外側近くに絶対に入らないようにしてください。強い光の集光により、撮像素子やカメラ内部の損傷、発煙などの恐れがあります。
- 撮影時以外は、太陽光などがレンズに入らないようにレンズキャップを取り付けてください。

モニターについて

下記の現象は、記録されている画像には影響ありません。

- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

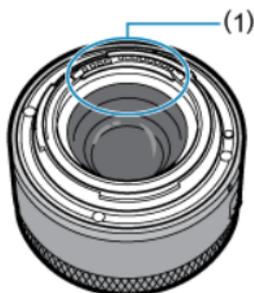
カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの端子に、ほこり、異物が付着しないようにしてください。また、指や金属が触れないようにしてください。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行くと、カードの温度が高くなる場合があります。これは故障ではありません。

レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点 (1) やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

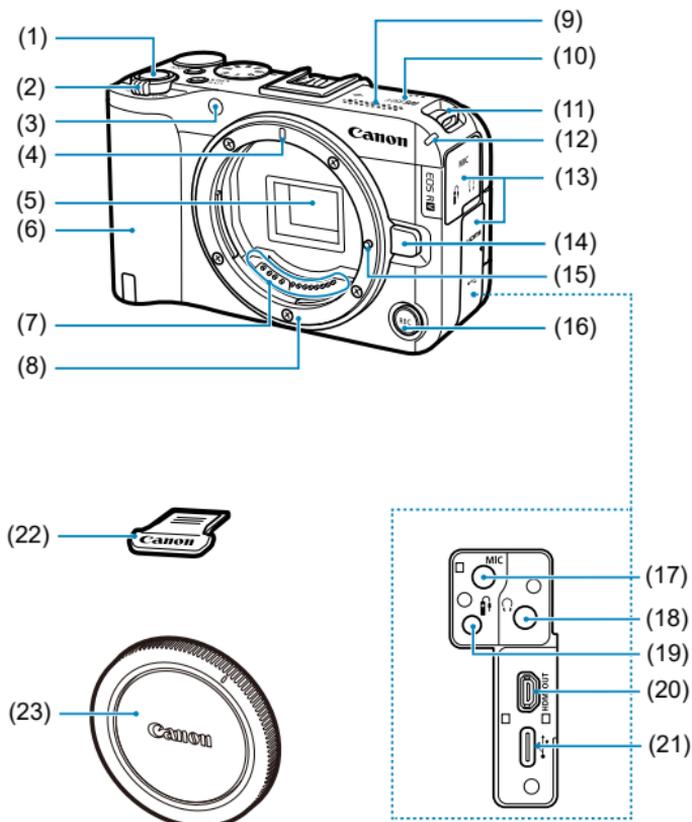


撮像素子の前面に付着する汚れについて

- 撮像素子にゴミやほこりが付いて、画像に写り込んだときは、市販品のプロアーを使用して、自分で清掃することができます。
- 撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。
- 汚れが画像に写り込むときは、できるだけ修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

各部の名称

☑ ストラップ (吊りひも) の取り付け方



-
- (1) シャッターボタン／動画撮影ボタン

 - (2) ズームレバー
撮影時：〈W〉 広角／〈T〉 望遠
再生時：〈☒〉 インデックス／〈Q〉 拡大

 - (3) AF補助光／赤目緩和／セルフタイマー／リモコンランプ

 - (4) RFレンズ取り付け指標

 - (5) 撮像素子

 - (6) グリップ

 - (7) 接点

 - (8) レンズマウント

 - (9) マイク

 - (10) スピーカー

 - (11) ストラップ取り付け部

 - (12) タリールンプ

 - (13) 端子カバー

 - (14) レンズロック解除ボタン

 - (15) レンズロックピン

 - (16) 〈REC〉 動画撮影ボタン（前面）

 - (17) 〈MIC〉 外部マイク入力端子

 - (18) 〈Ω〉 ヘッドフォン端子

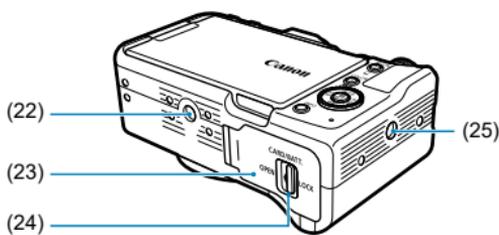
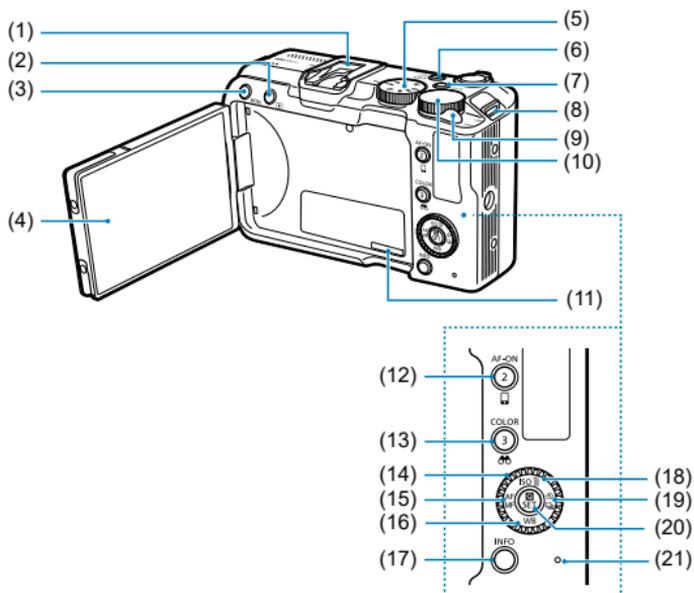
 - (19) 〈f〉 リモコン端子

 - (20) 〈HDMI OUT〉 HDMIマイクロ出力端子

 - (21) 〈•⇄〉 デジタル端子

 - (22) シューカバー

 - (23) ボディキャップ
-



-
- (1) マルチアクセサリシュー
 - (2)  再生ボタン
 - (3)  メニューボタン
 - (4) モニター
 - (5) モードダイヤル
 - (6)  1/LIVE /  1/ライブ配信/動画と静止画再生の切り換えボタン
 - (7)  **LOCK** マルチ電子ロックボタン
 - (8) ストラップ取り付け部
 - (9)  **ON/OFF** 電源スイッチ
 - (10)  メイン電子ダイヤル
 - (11) シリアル番号 (機番)
 - (12)  2/AFスタート/スマートフォンへ画像を送信ボタン
 - (13)  3/COLOR /  3/カラーモード/画像検索ボタン
 - (14)  サブ電子ダイヤル/十字キー
 - (15)  **AFMF** 左/オートフォーカス、マニュアルフォーカスボタン
 - (16)  **WB** 下/ホワイトバランスボタン
 - (17)  **INFO** インフォボタン
 - (18)  **ISO** /  上/ISO/消去ボタン
 - (19)  右/セルフタイマー/ドライブモード選択ボタン
 - (20)  クイック設定/設定ボタン
 - (21) アクセスランプ
 - (22) 三脚ねじ穴
 - (23) カード/バッテリー収納部ふた
 - (24) カード/バッテリー収納部ふたロック
 - (25) 三脚ねじ穴
-

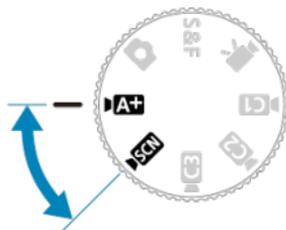
モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影（動画）」と「応用撮影（動画）」、「静止画撮影」の機能ゾーンがあります。

(1) かんたん撮影（動画）ゾーン

動画撮影ボタンを押すだけで、被写体やシーンに応じたカメラまかせの撮影ができます。

〈▶SCN〉モードでは、画面左上のアイコンをタッチして、撮影モードを選びます。



〈▶A+〉：シーンインテリジェントオート動画 (📷)

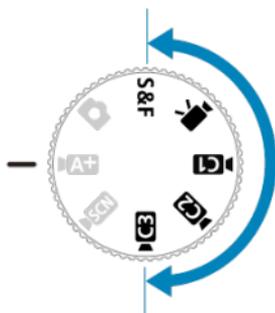
〈▶SCN〉：スペシャルシーン動画 (📷)

[📷]	美肌動画
[📷]	レビュー用動画
[📷]	手ブレ補正動画

(2) 応用撮影（動画）ゾーン (🔗)

自分で露出などを設定する動画撮影ができます。

〈S&F〉〈📷〉モードでは、画面左上のアイコンをタッチして、撮影モードを選びます。



〈S&F〉：スロー&ファストモーション動画

[📷 S&F]	S&F 動画自動露出
[📷 S&F Tv]	S&F 動画シャッター優先AE
[📷 S&F Av]	S&F 動画絞り優先AE
[📷 S&F M]	S&F 動画マニュアル露出

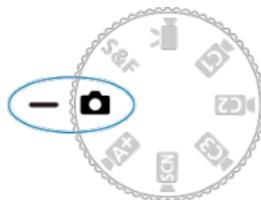
〈📷〉：応用動画

[📷]	動画自動露出
[📷 Tv]	動画シャッター優先AE
[📷 Av]	動画絞り優先AE
[📷 M]	動画マニュアル露出

〈📷C1〉〈📷C2〉〈📷C3〉：カスタム撮影モード (🔗)

(3) : 静止画撮影

かんたん撮影ゾーンでは、被写体やシーンに合わせたカメラまかせの撮影ができます。応用撮影ゾーンでは、自分で露出などを設定して撮影ができます。画面左上のアイコンをタッチして、撮影モードを選びます。



● かんたん撮影ゾーン

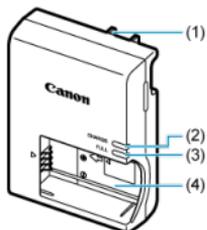
	シーンインテリジェントオート
	自分撮り
	ポートレート
	美肌
	パノラマ
	料理
	手持ち夜景

● 応用撮影ゾーン

[P]	プログラムAE
[Tv]	シャッター優先AE
[Av]	絞り優先AE
[M]	マニュアル露出
[B]	バルブ撮影

バッテリーチャージャー LC-E17

バッテリーパック LP-E17用の充電器です (🔌)。



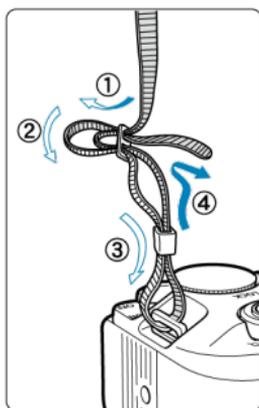
-
- (1) 電源プラグ

 - (2) 充電ランプ

 - (3) 充電完了ランプ

 - (4) バッテリー取り付け部

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

ソフトウェア/アプリケーション

- [☑ ソフトウェア/アプリケーションの概要](#)
- [☑ パソコン用ソフトウェアのインストール](#)
- [☑ スマートフォン用アプリケーションのインストール](#)
- [☑ ソフトウェア使用説明書](#)

ソフトウェア/アプリケーションの概要

パソコン用ソフトウェア

- **EOS Utility**
カメラとパソコンを接続し、撮影画像のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。
- **Digital Photo Professional**
RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。画像の閲覧・編集・印刷などができます。
- **Neural network Image Processing Tool**
ディープラーニング画像処理技術により、RAW画像の高画質化処理を行うソフトウェアです。有償プランへの加入が必要です。
- **Neural network Upscaling Tool**
ディープラーニング画像処理技術により、JPEG/TIFF画像の拡大処理を行うソフトウェアです。有償プランへの加入が必要です。
- **Picture Style Editor**
ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。
- **Canon XF Utility**
動画ファイルをパソコンに取り込み、再生や静止画への切り出しなどを行うソフトウェアです。

スマートフォン用アプリケーション

- **Camera Connect**
カメラとスマートフォンを無線または有線で接続して、スマートフォンへの撮影画像の取り込み、リモート撮影、カメラの各種設定などを行うことができます。

- **Digital Photo Professional Express**

スマートフォン／タブレット用のRAW現像・画像編集用アプリケーションです。有償プランへの加入が必要です。

パソコン用ソフトウェアのインストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。なお、旧バージョンのソフトウェアは上書きされます。

⚠ 注意

- カメラとパソコンを接続した状態でインストールしないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、インストールできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理や、画像の正しい表示などを行うことはできません。

1. ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
<https://cam.start.canon/>

ソフトウェアによっては、シリアル番号の入力が必要です。シリアル番号は、カメラ本体に記載されています。

2. パソコン上で解凍する

Windows

- 表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

macOS

- dmgファイルをダブルクリックすると、インストール画面が表示されます。
- 画面内のアイコンをダブルクリックすると、インストーラーが起動します。

3. 画面の指示に従ってインストールする

スマートフォン用アプリケーションのインストール

- 必ず最新版をインストールしてください。
- Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。
- キヤノンの下記のWebサイトからもGoogle PlayまたはApp Storeにアクセスすることができます。

<https://cam.start.canon/>



ソフトウェア使用説明書

ソフトウェア使用説明書は、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/>



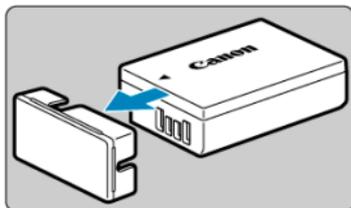
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

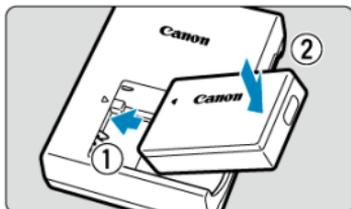
- [バッテリーを充電する](#)
- [バッテリーとカードを入れる／取り出す](#)
- [モニターを使う](#)
- [電源を入れる](#)
- [RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す](#)
- [EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す](#)
- [マルチアクセサリシュー](#)
- [基本操作](#)
- [メニュー機能の操作と設定](#)
- [クイック設定](#)
- [画面にタッチして操作する](#)

バッテリーを充電する

1. 付属の保護カバーを外す

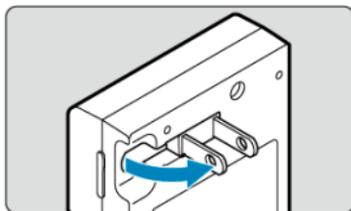


2. バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける

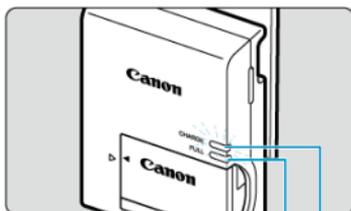


- 取り外しは逆の手順で行います。

3. 充電する



- 充電器のプラグを矢印の方向に起こし、プラグをコンセントに差し込みます。



(2) (1)

- 自動的に充電が始まり、充電ランプ (1) がオレンジ色に点灯します。
 - 充電が完了すると、充電完了ランプ (2) が緑色に点灯します。
 - 使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温 (+23°C) で約2時間です。
なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
 - 安全に充電を行うため、低温下 (+5°C~+10°C) では充電時間が長くなります (最長約4時間)。
- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
充電してからお使いください。
 - **充電は使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっています。
 - **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**
 - **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**
バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
 - **充電器は海外でも使うことができる**
充電器は、家庭用電源のAC100~240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

- フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です
バッテリーの劣化度を確認した上で (27)、新しいバッテリーをお買い求めください。

! 注意

- 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E17以外は充電できません。

バッテリーとカードを入れる／取り出す

☑ [入れ方](#)

☑ [カードを初期化する](#)

☑ [取り出し方](#)

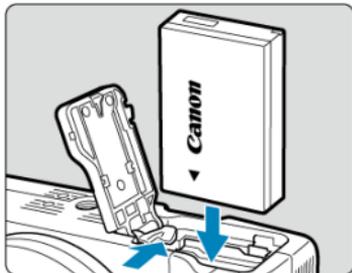
充電したバッテリーパック LP-E17とカードをカメラに入れます。撮影した画像は、カードに記録されます。

入れ方

1. カード／バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける

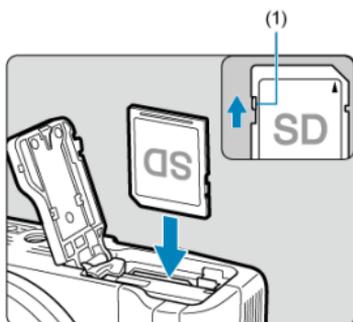


2. バッテリーを入れる



- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3. カードを入れる

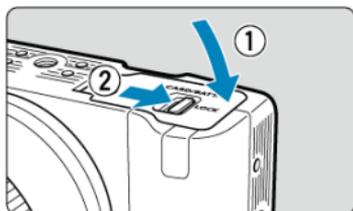


- カードの表を、カメラの前面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

⚠ 注意

- カードの書き込み禁止スイッチ (1) が上側 (書き込み/消去可能位置) にセットされていることを確認してください。

4. ふたを閉じる



- ふたを押して閉じ、カード/バッテリー収納部ふたロックをスライドしてロックします。

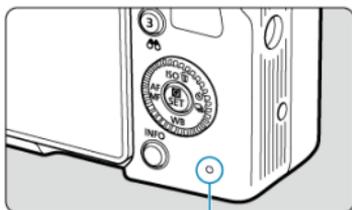
⚠ 注意

- バッテリーパック LP-E17以外は使用できません。

カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください (🔗)。

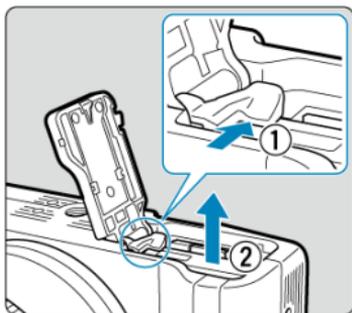
1. カード/バッテリー収納部ふたロックをスライドして開ける



(1)

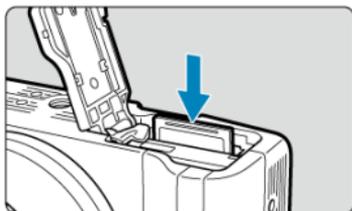
- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- アクセランプ (1) が消えていることを確認して、カード/バッテリー収納部ふたを開きます。
- モニターに「書き込み中...」と表示されたときは、ふたを閉じてください。

2. バッテリーを取り出す

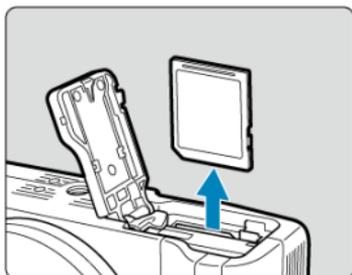


- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押し、ロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー (🔒) を取り付けてください。

3. カードを取り出す



- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。



- カードをまっすぐに取り出して、ふたを閉じます。

注意

撮影時に画面に赤い【】が表示されたときは、カードをすぐに取り出さないでください。カメラ内部の発熱により、カードが熱くなっていることがあります。電源スイッチを〈OFF〉にして撮影を休止し、しばらく経ってからカードを取り出してください。撮影直後に熱くなっているカードを取り出すと、カードを落下させてカードが破損する恐れがあります。カードを取り出すときは十分注意してください。

参考

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- 【 : カードなしリリース】を【しない】に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます (🔒)。

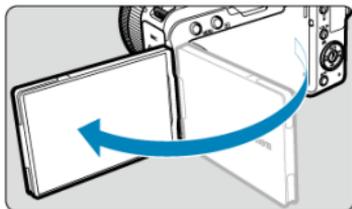
! 注意

- アクセスランプが点灯/点滅しているときは、カードへの記録/読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード/バッテリー収納部ふたを開けないでください。また、アクセスランプが点灯/点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。
 - カードを取り出す
 - バッテリーを取り出す
 - カメラ本体に振動や衝撃を与える
 - 電源コードの抜き差しを行う
(家庭用電源アクセサリ (別売) 使用時)
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください (🔗)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード (MMC) は使用できません (カードエラー表示)。

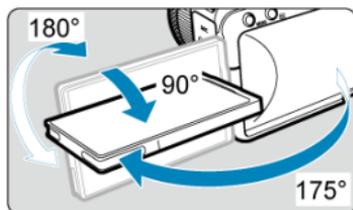
モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

1. モニターを開く

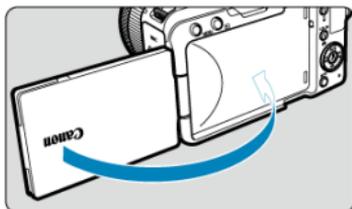


2. モニターを回転させる



- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

3. 画面を表向きにする



- 通常は画面を表向きにして使用します。

注意

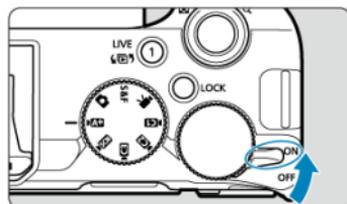
- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

参考

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる

- ☑ [表示言語を設定する](#)
- ☑ [日付/時刻/エリアを設定する](#)
- ☑ [パスワードを設定する](#)
- ☑ [カメラとスマートフォンを接続する](#)
- ☑ [バッテリー残量表示について](#)



- 〈ON〉
カメラが作動します。
- 〈OFF〉
カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

参考

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[書き込み中...]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

表示言語を設定する

電源スイッチを入れたときに、[言語^③]の設定画面が表示されたときは、[言語](#)を設定してください。

日付／時刻／エリアを設定する

[日付/時刻/エリア] の設定画面が表示されたときは、[日付/時刻/エリア](#)を設定してください。

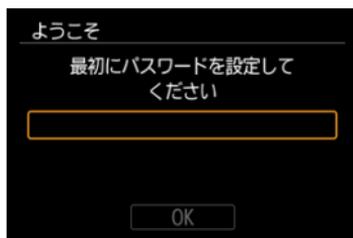
パスワードを設定する

カメラ内の情報に不正にアクセスされることを防ぐため、カメラにパスワードを設定します。

⚠ 注意

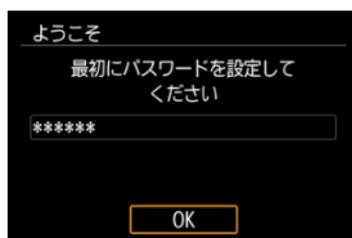
- パスワードを設定しても、カード内の撮影データ等は保護されません。
- 本製品の盗難やカードの盗難については、弊社は一切の責任を負いかねます。
- [次回から確認しない] にチェックを付ける場合は、第三者にカメラの設定情報などにアクセスされないようご注意ください。

1. パスワードを設定する

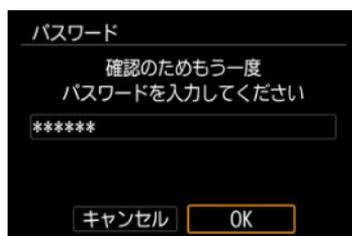


- 6桁の数字を入力し、[OK] を押します。

2. [OK] を選ぶ

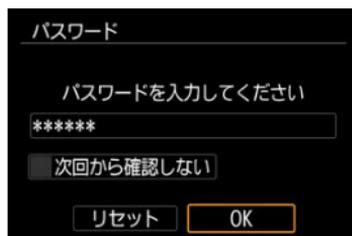


3. もう一度パスワードを入力する



- [OK] を選ぶとパスワードが設定されます。

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに、[パスワード] 画面が表示されます。設定したパスワードを入力します。



- [次回から確認しない] にチェックを付けると、次回よりこの画面は表示されません。
- [リセット] を選ぶと、カメラの設定が初期化され、パスワードが解除されます。

注意

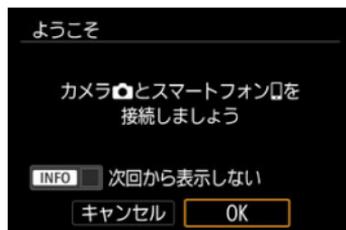
- パスワード入力画面の状態のときは、パスワードを入力するまで以下の接続が利用できません。
 - USB接続
 - Wi-Fi接続
 - Bluetooth接続
- 以下の場合、パスワード入力画面で [次回から確認しない] にチェックを付けてください。
 - 電源スイッチを〈OFF〉にしたとき、もしくはオートパワーオフ中に、Bluetooth機能を使用する
 - image.canonへ画像を自動送信する
 - Camera Control APIの自動接続機能を使用する

参考

- パスワードの設定後にパスワードの変更などを行う場合は、[パスワードの管理](#)を参照してください。

カメラとスマートフォンを接続する

設定画面が表示されたときは、[OK] を選択すると、スマートフォンとの接続手順が表示されます (🔗)。



バッテリー残量表示について

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに表示されます。



	バッテリーの残量は十分です。
	バッテリーの残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
	まもなくバッテリー切れになります（点滅表示）。
	バッテリーを充電してください。

参考

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
 - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - 手ブレ補正機能を使用する
 - Wi-Fi機能、Bluetooth[®]機能を使用する
 - モニターを頻繁に使用する
 - マルチアクセサリシュー対応アクセサリを使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- [🔋: バッテリー情報] でバッテリーの状態を確認することができます (🔍)。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

RFレンズ、RF-Sレンズを取り付ける／取り外す

[取り付け方](#)

[取り外し方](#)

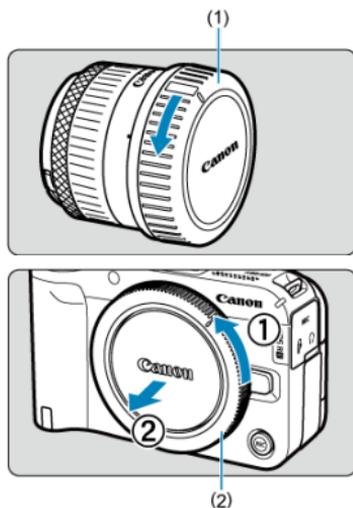
注意

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズ取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

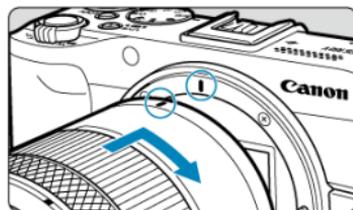
- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

1. キャップを外す



- レンズのダストキャップ (1) とボディキャップ (2) を矢印の方向に回して外します。

2. レンズを取り付ける



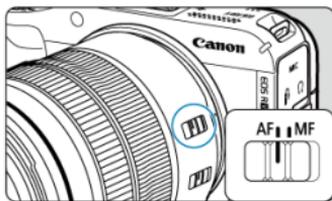
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3. フォーカスモードを〈AF〉に設定する

- 〈AF〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈MF〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。
- フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時
〔AF：フォーカスモード〕を〔AF〕に設定します。



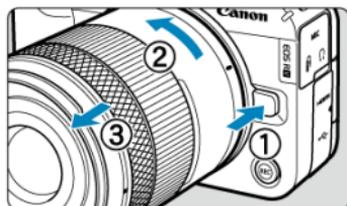
- フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時
レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定します。レンズ側の設定が優先されますので、カメラの設定は機能しません。



4. レンズキャップを外す

取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す

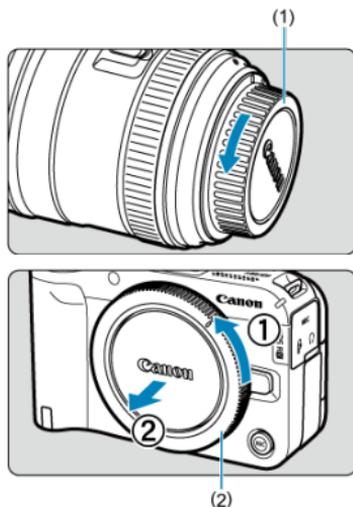
☑ [取り付け方](#)

☑ [取り外し方](#)

マウントアダプター EF-EOS R (別売) を使用すると、すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。なお、EF-Mレンズは使用できません。

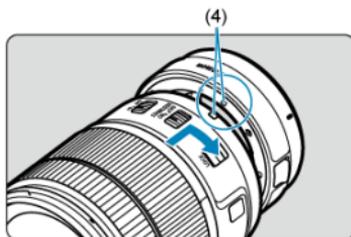
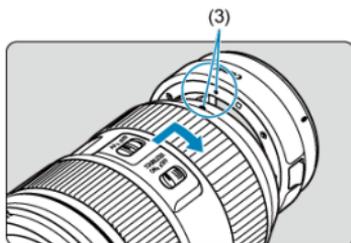
取り付け方

1. キャップを外す



- レンズのダストキャップ (1) とボディキャップ (2) を矢印の方向に回して外します。

2. アダプターにレンズを取り付ける

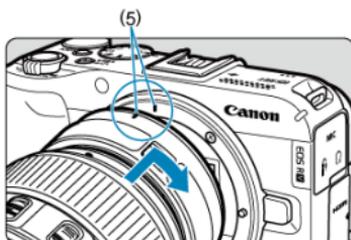


- アダプターの取り付け指標（赤または白）とレンズ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

(3) 赤い指標

(4) 白い指標

3. カメラにアダプターを取り付ける



- アダプターとカメラの赤いレンズ取り付け指標 (5) を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

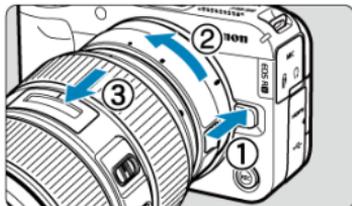
4. レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



- 〈AF〉はAuto Focus : 自動ピント合わせのことで。
- 〈MF〉はManual Focus : 手動ピント合わせのことで。自動ピント合わせはできません。

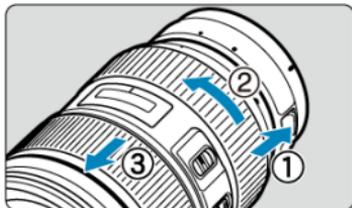
5. レンズキャップを外す

1. レンズロック解除ボタンを押しながら、アダプターを矢印の方向に回す



- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

2. レンズをアダプターから取り外す



- アダプターのレンズ取り外しレバーをスライドしながら、レンズを反時計方向に回します。
- 回転が止まるまで回してから、レンズを取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

⚠ 注意

- レンズに関する注意事項は、[RFレンズ](#)、[RF-Sレンズ](#)を取り付ける/取り外すをご確認ください。

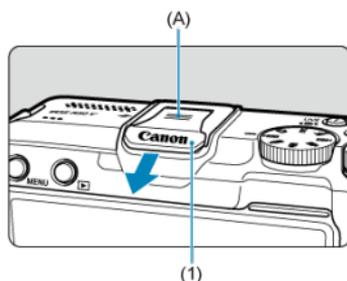
マルチアクセサリースュー

[マルチアクセサリースューを使用する](#)

マルチアクセサリースューは、電源供給機能と高度な情報通信機能を備えたアクセサリースューです。

マルチアクセサリースューを使用する

シューカバーの取り外し

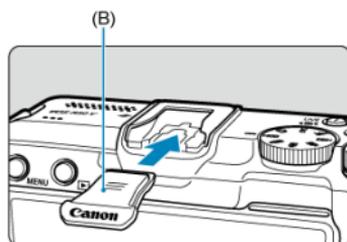


- シューカバー (1) の (A) の部分に指をかけて矢印の方向に引き抜きます。取り外したシューカバーは、紛失しないように保管してください。

アクセサリーの取り付け

- マルチアクセサリースュー用の接点で通信を行うアクセサリーを取り付けるときは、アクセサリーの取り付け脚をカチッと音がするまで差し込んでから、取り付け脚ロックレバーをスライドして固定します。詳しくは、使用するアクセサリーの使用説明書を参照してください。
- 本カメラでマルチアクセサリースューに非対応のアクセサリーを使用するときは、別売のマルチアクセサリースューアダプター AD-E1が必要です。詳しくはキヤノンのホームページを参照してください ()。

シューカバーの取り付け



- マルチアクセサリースューからアクセサリを取り外したときは、ほこりや水などから接点を保護するため、シューカバーを取り付けてください。
- シューカバーの (B) の部分を矢印の方向に押しながら、突き当たるまで差し込んでください。

⚠ 注意

- アクセサリーは、[アクセサリの取り付け](#)の内容に従って、正しく取り付けてください。カメラやアクセサリの動作不良や、アクセサリが落下する恐れがあります。
- マルチアクセサリースューにごみなどが入ったときは、市販品のブロアーなどを使用して除去してください。
- マルチアクセサリースューに水分が入ったときは、カメラの電源をOFFにして、乾くまで放置してください。
- シューカバーは、カメラに付属のものをお使いください。

基本操作

- ☑ [カメラの構え方](#)
- ☑ [ズームレバー](#)
- ☑ [動画撮影ボタン](#)
- ☑ [シャッターボタン](#)
- ☑ [☺ メイン電子ダイヤル](#)
- ☑ [☉ サブ電子ダイヤル](#)
- ☑ [〈LOCK〉マルチ電子ロックボタン](#)
- ☑ [〈INFO〉インフォボタン](#)
- ☑ [〈i〉コントロールリング](#)
- ☑ [〈1 / LIVE / 1/2 / 3〉1 / ライブ配信 / 動画と静止画再生の切り換えボタン](#)
- ☑ [〈2 / AF-ON / 2 / 3〉2 / AFスタート / スマートフォンへ画像を送信ボタン](#)
- ☑ [〈3 / COLOR / 3 / 4〉3 / カラーモード / 画像検索ボタン](#)

● モニターを見ながら撮影

モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくは[モニターを使う](#)を参照してください。



(1)



(2)

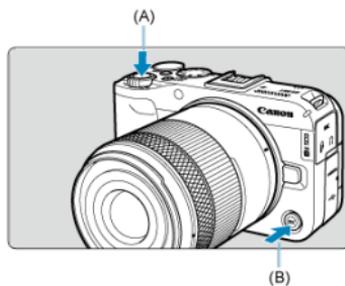


(3)

- (1) 通常のアングル
- (2) ローアングル
- (3) ハイアングル

動画撮影ボタン

動画撮影ボタン (A) (B) を押すと、動画撮影を開始します。もう一度押すと、終了します。



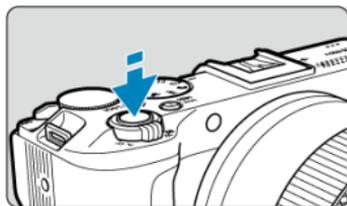
参考

- 動画撮影ボタン (A) は、静止画撮影時はシャッターボタンとして機能します。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

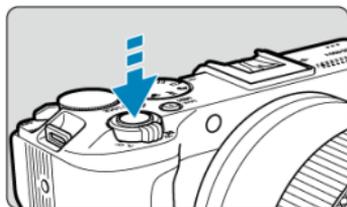
半押し



自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニターに8秒間表示されます（測光タイマー/8）。

全押し



シャッターが切れて撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

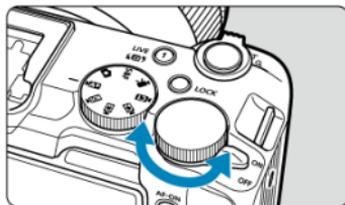
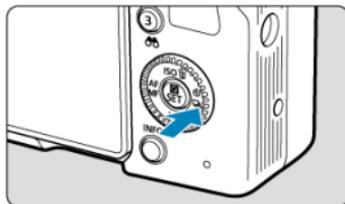
- [カメラの構え方](#)のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

 参考

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

〈〉メイン電子ダイヤル

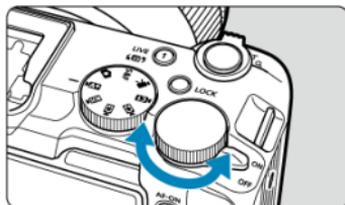
(1) ボタンを押したあと〈〉を回す



〈〉ボタンなどを押したあと、〈〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- ISO感度の設定などに使用します。

(2) 〈〉のみを回す



モニターを見ながら〈〉を回します。

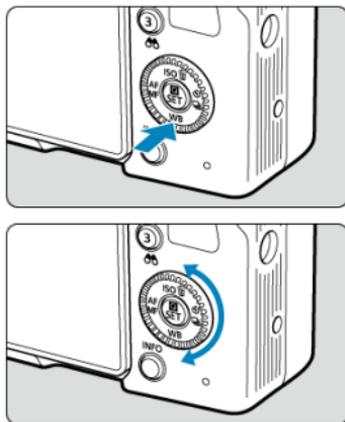
- シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

参考

- (1) の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態 (☑) でも行うことができます。

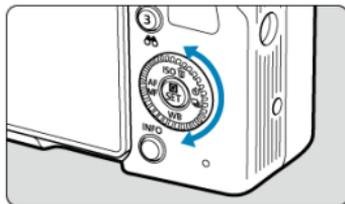
〈〉サブ電子ダイヤル

(1) ボタンを押したあと 〈〉を回す



〈WB〉ボタンなどを押したあと、〈〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

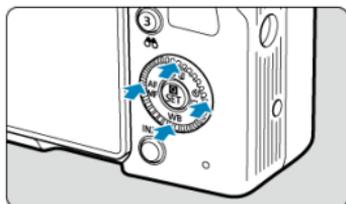
(2) 〈〉のみを回す



モニターを見ながら 〈〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

(3) ボタンを押したあと〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉を押す



〈MENU〉〈〉ボタンを押したあと、〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押して、メニューやクイック設定の機能を設定します。

参考

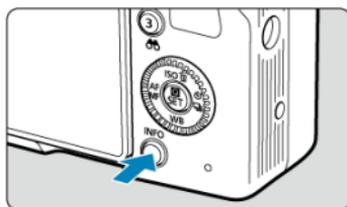
- (1) と (3) の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態 () でも行うことができます。

〈LOCK〉マルチ電子ロックボタン

〔: マルチ電子ロック〕を設定し ()、〈LOCK〉ボタンを押すと、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、コントロールリングが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。再度、〈LOCK〉ボタンを押すと、設定が解除されます。

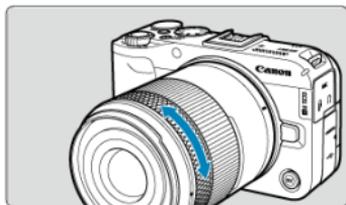


〈INFO〉 インフォボタン



〈INFO〉 ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。

〈0〉コントロールリング

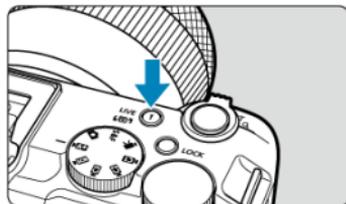


初期状態では、応用撮影ゾーンのとくに、シャッターボタンを半押しした状態で、RFレンズ、またはマウントアダプターのコントロールリングを回すと、露出補正を設定することができます。また、[☞：ダイヤル/リング カスタマイズ] の [0] で [☞]、コントロールリングに他の機能を割り当てることもできます。

⚠ 注意

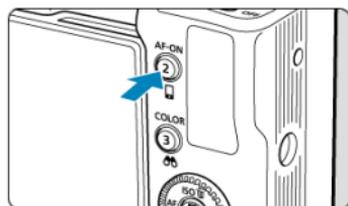
- フォーカス/コントロールリングを搭載していて、フォーカス/コントロール切り換えスイッチがないレンズ使用時は、[☞：フォーカス/コントロールリング] の設定が必要です [☞]。

〈1 / LIVE / (LIVE)〉 1 / ライブ配信 / 動画と静止画再生の切り換えボタン



動画撮影時には、ライブ配信の設定画面 (LIVE) が表示されます。再生時には、動画と静止画を切り換えることができます。

〈2 / AF-ON / 2 / AFスタート / スマートフォンへ 画像を送信ボタン



動画撮影時には、オートフォーカスが作動します（かんたん撮影（動画）ゾーンを除く）。
静止画撮影時には、シャッターボタン半押しと同じ操作を行うことができます（かんたん撮
影を除く）。再生時には、スマートフォンへ画像を送信する設定画面が表示されます（）。

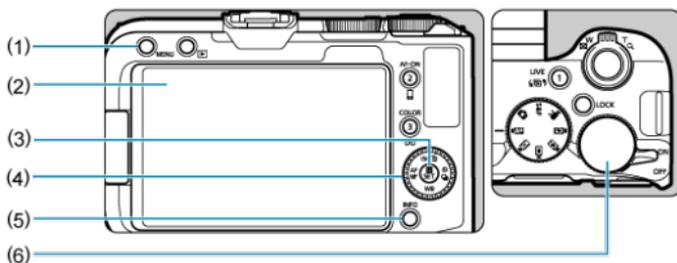
〈3 / COLOR / 3〉3 / カラーモード / 画像検索ボタン



動画撮影、静止画撮影時には、カラーモードの選択画面 (☑) が表示されます。再生時には、事前に設定された検索条件の画像を表示します。

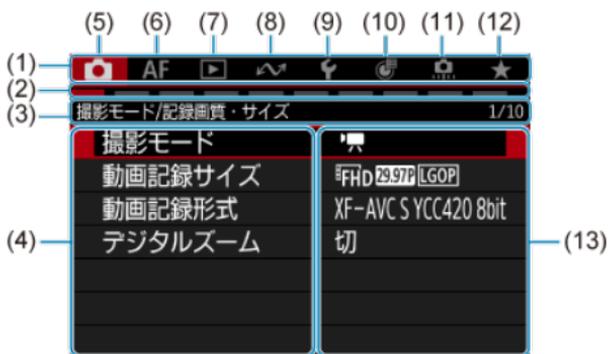
メニュー機能の操作と設定

- [応用撮影ゾーンのメニュー画面](#)
- [かんたん撮影ゾーンのメニュー画面](#)
- [メニュー機能の設定操作](#)
- [メニュー項目の灰色表示](#)



-
- (1) 〈MENU〉ボタン
 - (2) モニター
 - (3) 〈〉ボタン
 - (4) 〈/◆〉サブ電子ダイヤル/十字キー
 - (5) 〈INFO〉ボタン
 - (6) 〈〉メイン電子ダイヤル
-

応用撮影ゾーンのメニュー画面



(1) メインタブ

(2) サブタブ

(3) サブタブの名称

(4) メニュー項目

(5) 📷：撮影

(6) **AF**：オートフォーカス

(7) ▶：再生

(8) 📶：通信機能

(9) 🛠️：機能設定

(10) ⚙️：操作カスタマイズ

(11) ⚫️：カスタム機能

(12) ★：マイメニュー

(13) 設定内容

かんたん撮影ゾーンのメニュー画面



* かんたん撮影ゾーンのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

1. メニューを表示する

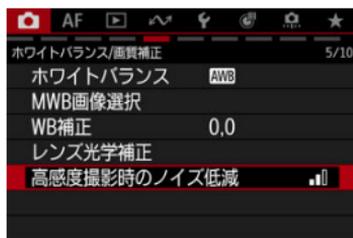


- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューが表示されます。

2. タブを選ぶ

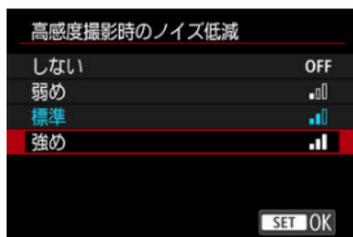
- 〈INFO〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。ズームレバーで切り換えることもできます。
- 〈〉を回してサブタブを選びます。

3. 項目を選ぶ



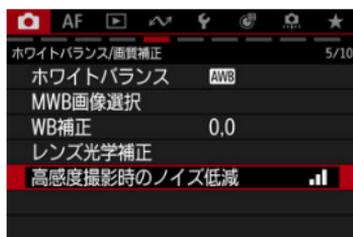
- 〈〉を回して項目を選び、〈〉を押します。

4. 内容を選ぶ



- 〈〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。

5. 内容を設定する



- 〈〉を押すと設定されます。

6. 設定を終了する

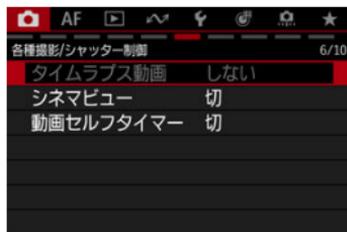
- 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

参考

- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり 〈〉でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示

例：[デジタルズーム：入] 設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び(Ⓢ)を押すと、優先されている機能を確認することができます。

制限している機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

注意

- 項目によっては、制限している機能を確認できないことがあります。

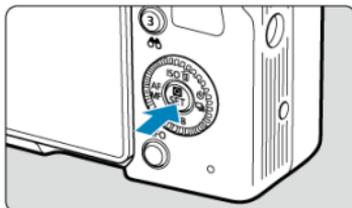
参考

- [🔧：カメラの初期化] の [基本設定] を選ぶと、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます (🔍)。

クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。

1. <Q>を押す (10)



2. 項目を選び、内容を設定する

動画撮影時



静止画撮影時



- <Q>を回して項目を選びます。
- <Q>を回して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。

 参考

- 動画撮影モードでは、クイック設定画面の表示位置を選択できます (🔗)。

画面にタッチして操作する

- ☑ [タッチ](#)
- ☑ [ドラッグ](#)
- ☑ [タッチシャッターで撮影する](#)

タッチ

画面例（クイック設定）



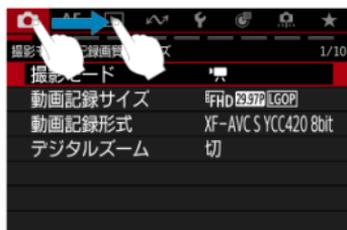
- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば [Q] をタッチすると、クイック設定の状態になります。[←] をタッチすると、元の画面に戻ります。

参考

- [🔊: 電子音] を [入] に設定すると、タッチ操作時に電子音を鳴らすことができます (🔊)。
- [👆: タッチ操作] でタッチしたときの反応を設定することができます (👆)。

ドラッグ

画面例（メニュー画面）

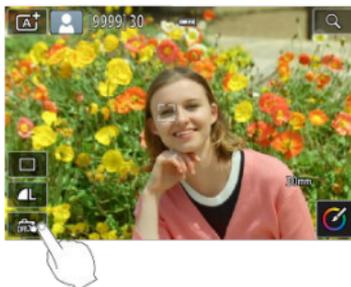


- モニターに指を触れたまま動かします。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

1. タッチシャッター機能を設定する



- 画面の [OFF] にタッチします。
- タッチするたびに、[OFF] と [ON] が切り換わります。
- [ON] (タッチシャッター：する)
タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- [OFF] (タッチシャッター：しない)
タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。

2. 画面にタッチして撮影する



- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- 設定されているAFエリアで、タッチした位置でピント合わせが行われます (タッチAF)。
- [ON] に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

⚠ 注意

- ドライブモードを [📷] [📷H] [📷] に設定していても、1枚撮影になります。
- [AF: AF動作] が [サーボAF] に設定されていても、画面にタッチしたときは [ワンショットAF] でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- [📷: 撮影画像の確認時間] で [撮影画像の確認時間] を [ホールド] に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しするか、[🔍] にタッチすると、次の撮影を行うことができます。

📖 参考

- バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

動画撮影モード

この章では、モードダイヤルの「かんたん撮影（動画）ゾーン」「応用撮影（動画）ゾーン」を使って上手に撮影する方法を説明しています。「かんたん撮影（動画）ゾーン」では、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。

かんたん撮影（動画）ゾーン

- [〈A+〉：全自動撮影（シーンインテリジェントオート動画）](#)
- [〈SCN〉：スペシャルシーン動画](#)

応用撮影（動画）ゾーン

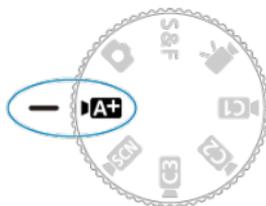
- [応用撮影（動画）ゾーン](#)

〈A+〉: 全自動撮影 (シーンインテリジェントオート動画)

シーン判別アイコン

カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[シーン判別アイコン](#)を参照してください。

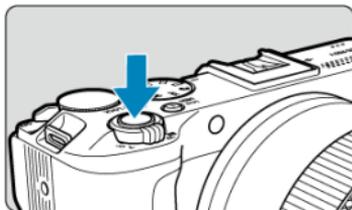
1. モードダイヤルを〈A+〉にする



2. ピントを合わせる

- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (📷)。

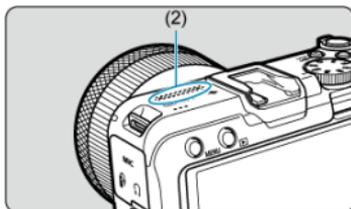
3. 撮影する



- 動画撮影ボタン（上面または前面）を押すと、動画撮影が始まります。画面の [●] をタッチしても、動画撮影が始まります (👉)。



- 動画撮影中は、[●REC] (1)の表示、画面の周囲に赤枠の表示、タリールランプの点灯が行われます。



- 音声は動画撮影用マイク(2)で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の [■] をタッチしても、動画撮影が終了します。

シーン判別アイコン



撮影モードが **(A+)** のときは、カメラがシーンを判別して、シーンにあった全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、[シーン判別アイコン](#)を参照してください。

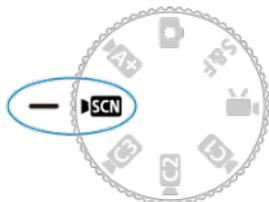
〈SCN〉：スペシャルシーン動画

- 美肌動画
- レビュー用動画
- 手ブレ補正動画

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶと、撮影に適した機能が自動設定されます。

* 〈SCN〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。

1. モードダイヤルを〈SCN〉にする



2. 撮影モードのアイコンにタッチする



3. 撮影モードを選ぶ



- [美肌] : 美肌動画
- [レビュー] : レビュー用動画
- [手ブレ補正] : 手ブレ補正動画

美肌動画

画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果をかけることができます。
クイック設定で、[美肌効果]の強弱や、[レビュー用AF]などを設定することができます。

📖 撮影のポイント

● 顔にピントを合わせる

顔とカメラの距離を調整して、顔にAFフレーム [] が表示されるようにしてピントを合わせます。[レビュー用AF]を[入]にすると、カメラからもっとも近い被写体にピントが合いますので、カメラの前に顔があれば、顔にピントを合わせた撮影ができます。なお、追尾フレームは表示されません。

⚠ 注意

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。
- 美肌効果を強くすると、意図しない画像になることがあります。事前にテスト撮影を行ない、撮影画像を確認することをおすすめします。

📖 参考

- [美肌効果]の設定は、撮影モードを変更したり電源をオフにしても、記憶されません。

レビュー用動画

カメラの近くにあるものにピントを合わせて撮影することができます。商品などのレビュー撮影に適しています。

クイック設定で、明るさなどを調整することができます。

⚠ 注意

- AFフレームは表示されません。
- 被写体を選択することはできません。

手ブレ補正動画

手ブレを軽減した動画を撮影することができます。
クイック設定で、明るさなどを調整することができます。

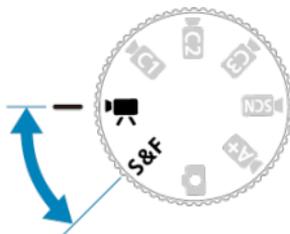
参考

- 人物と風景を交互に撮影するときなど、シーンによる明るさの変化が大きい場合に、露出の追従性を高めた制御を行います。

応用撮影（動画）ゾーン

- [動画自動露出](#)
- [動画シャッター優先AE](#)
- [動画絞り優先AE](#)
- [動画マニュアル露出](#)
- [スロー&ファストモーション記録](#)
- [カスタム撮影モード](#)

1. モードダイヤルを〈P/A〉または〈S&F〉にする



2. 撮影モードのアイコンにタッチする



3. 撮影モードを選ぶ

〈〉: 応用動画



- []: 動画自動露出
- []: 動画シャッター優先AE
- []: 動画絞り優先AE
- []: 動画マニュアル露出

〈〉: スロー&ファストモーション記録



- []: S&F 動画自動露出
- []: S&F 動画シャッター優先AE
- []: S&F 動画絞り優先AE
- []: S&F 動画マニュアル露出

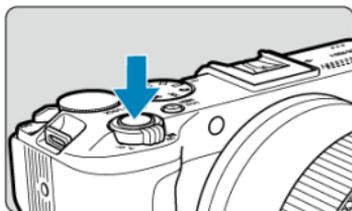
動画自動露出

明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1. ピントを合わせる

- 初期状態では、[AF: 動画サーボAF] が [する] に設定されているため、常時ピント合わせが行われます (🔗)。
- 初期状態では〈AF-ON〉ボタンを押すと、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。

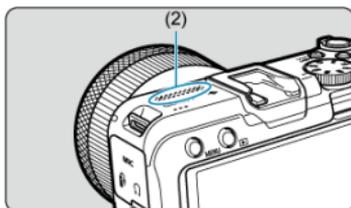
2. 撮影する



- 動画撮影ボタン（上面または前面）を押すと、動画撮影が始まります。画面の [●] をタッチしても、動画撮影が始まります (📺)。



- 動画撮影中は画面右上に [●REC] (1) が表示され、画面の周囲に赤枠が表示されます。



- 音声はマイク (2) で記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。画面の [■] をタッチしても、動画撮影が終了します。

動画シャッター優先AE

シャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. シャッタースピード (1) を設定する



(1)

- 画面を見ながら  を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

2. ピントを合わせて撮影する

- [動画自動露出](#)の手順1、2と同じです。

注意

- 動画撮影中にシャッタースピードの変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。
- 設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録サイズのフレームレートによって異なります。

動画絞り優先AE

絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッタースピードは、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1. 絞り数値 (1) を設定する



(1)

- 画面を見ながら  を回して設定します。

2. ピントを合わせて撮影する

- [動画自動露出](#)の手順1、2と同じです。

注意

- 動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

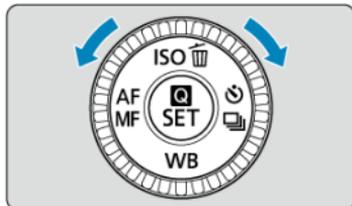
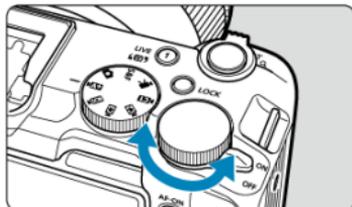
参考

#####

動画マニュアル露出

シャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。

1. シャッタースピードと絞り数値、ISO感度を設定する



(1) (2) (3)

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピード (1) は , 絞り数値 (2) は , ISO感度 (3) はISO感度をタッチして設定します ()。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります ()。

2. ピントを合わせて撮影する

- [動画自動露出](#)の手順1、2と同じです。

ⓘ 注意

- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25~1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。
- 設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録サイズのフレームレートによって異なります。

📖 参考

- ISOオート設定時に、以下の方法で±3段までの範囲で露出補正を行うことができます
 - 露出レベル表示にタッチする
 - [📷: 露出補正]
 - シャッターボタンを半押しした状態でコントロールリングを回す
- ISOオート設定時に [✳] を割り当てたボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、再度 [✳] を割り当てたボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます。
- [✳] を割り当てたボタンを押して構図を変えると、[✳] を割り当てたボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示 (📊) で確認することができます。
- ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます。

スロー&ファストモーション記録

☑ S&F記録の撮影モード

スロー&ファストモーション (S&F) 記録では、スローモーション、またはファストモーションで再生される動画の撮影ができます。音声は記録されません。スローモーション、またはファストモーションの速度 (再生速度) は [📷: 動画記録サイズ] で設定します。

1. [📷: 動画記録サイズ] を選ぶ

2. 記録サイズを選ぶ



- <🔧> を回してタブを選びます。
- <◀> <▶> で項目を選びます。

3. 記録時のフレームレートを選ぶ



- <🔧> を回してタブを選びます。
- <◀> <▶> で項目を選びます。

4. 再生時のフレームレートを選ぶ



-  を回してタブを選びます。
-   で項目を選びます。
- 再生速度は、画面の右上に表示されます。

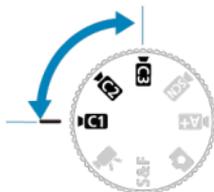
5. を押す

S&F記録の撮影モード

- **[] : S&F 動画自動露出**
明るさに応じて自動露出制御が行われます。撮影方法は[動画自動露出](#)と同じです。
- **[] : S&F 動画シャッター優先AE**
シャッタースピードを設定して、S&F記録を行うことができます。撮影方法は[動画シャッター優先AE](#)と同じです。
- **[] : S&F 動画絞り優先AE**
絞り数値を設定して、S&F記録を行うことができます。撮影方法は[動画絞り優先AE](#)と同じです。
- **[] : S&F 動画マニュアル露出**
シャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、S&F記録を行うことができます。撮影方法は[動画マニュアル露出](#)と同じです。

カスタム撮影モード

[ : カスタム撮影モード (C1-C3)] で登録したカメラの設定内容で撮影できます ()。モードダイヤルの    は、それぞれ [カスタム撮影モード : C1] [カスタム撮影モード : C2] [カスタム撮影モード : C3] に対応しています。



静止画撮影モード

この章では、モードダイヤルの「静止画モード」を使って上手に撮影する方法を説明しています。

「かんたん撮影」では、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。

- [撮影モードの設定方法](#)

応用撮影

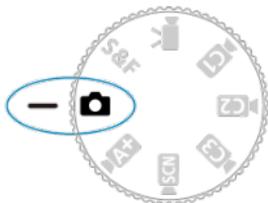
- [P：プログラムAE](#)
- [Tv：シャッター優先AE](#)
- [Av：絞り優先AE](#)
- [M：マニュアル露出](#)
- [露出を固定して撮る／AEロック撮影](#)
- [B：バルブ撮影](#)

かんたん撮影

- [A+：全自動撮影（シーンインテリジェントオート）](#)
- [自分撮り](#)
- [ポートレート](#)
- [美肌](#)
- [パノラマショット](#)
- [料理](#)
- [手持ち夜景](#)

撮影モードの設定方法

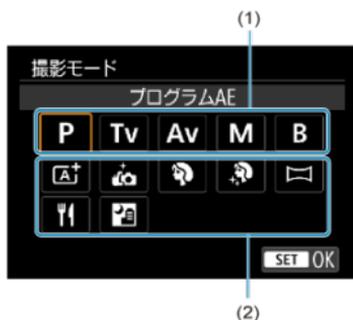
1. モードダイヤルを〈〉にする



2. 撮影モードのアイコンをタッチする



3. 撮影モードを選ぶ



(1) 応用撮影ゾーン

被写体やシーンに応じて、自分で露出などを設定して撮影ができます。

- [P] : プログラムAE
- [Tv] : シャッター優先AE
- [Av] : 絞り優先AE
- [M] : マニュアル露出
- [B] : バルブ撮影

(2) かんたん撮影ゾーン

被写体やシーンに応じて、カメラまかせの撮影ができます。

- [A+] : シーンインテリジェントオート
- [📷] : 自分撮り
- [👤] : ポートレート
- [👩] : 美肌
- [📺] : パノラマショット
- [🍴] : 料理
- [🌃] : 手持ち夜景

P: プログラムAE

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。

* [P] はProgram (プログラム) の略です。

* AEはAuto Exposure (オートエクスポージャー) の略で自動露出のことです。

1. ピントを合わせる

- シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まります。

2. 表示を確認して撮影する



- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。

注意

- 遅いシャッタースピードと小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。
- 速いシャッタースピードと大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター (別売) を使用してください。

参考

[P] モードと [A+] モードの違いについて

- [A+] モードのときは、AFエリアや測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。[P] モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AFエリアや測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- [P] モードのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ (プログラム) を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
- プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、設定したいシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで (露出表示が消えたとき) に自動的に解除されます。
- ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv : シャッター優先AE

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

* [Tv] はTime value (タイムバリュー) の略で時間量のことで、



流動感のある写真
(遅いスピード : 1/30秒)



動きを止めた写真
(速いスピード : 1/2000秒)

1. シャッタースピードを設定する



- 〈〉を回して設定します。

2. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 絞り数値が自動的に決まります。

3. 表示を確認して撮影する



- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

⚠ 注意

- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで  を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。
- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで  を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

📖 参考

シャッタースピードの表示について

- 例えば「0"5」は0.5秒を、「15"」は15秒を表しています。

Av : 絞り優先AE

[ピントの合う範囲を確認する](#)

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

* [Av] はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



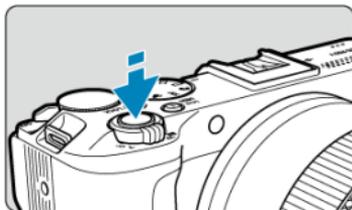
背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

1. 絞り数値を設定する



-  を回して設定します。

2. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- シャッタースピードが自動的に決まります。

3. 表示を確認して撮影する



- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

注意

- 遅いシャッタースピードが点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。
- 速いシャッタースピードが点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。シャッタースピードの点滅が止まるまで〈〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

参考

絞り数値の表示について

- 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「F00」になります。

ピントの合う範囲を確認する

絞りは撮影しないときは開いていて、撮影の瞬間だけ大きさが変わります。このため、モニターで見えるピントの合う範囲は狭く（浅く）なっています。ボタンに （絞り込み）を登録すると、登録したボタンを押したときにピントの合う範囲が確認できるようになります。

参考

- 絞り数値が大きいほどピントの合う範囲は前後に広がります。
- 画像を見ながら、絞り込み機能を割り当てたボタンを押すと、被写界深度の効果が分かりやすくなります。
- 絞り込み機能を割り当てたボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M : マニュアル露出

☑ ISOオート設定時の露出補正

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は、露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

* [M] はManual (マニュアル) の略です。

1. ISO感度を設定する (☑)

- 〈ISO〉 ボタンを押して設定します。
- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます (☑)。

2. シャッタースピードを設定する



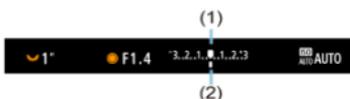
- 〈〉を回して設定します。

3. 絞り数値を設定する



- 〈〉を回して設定します。

4. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク [] で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標

(2) 露出レベルマーク

5. 露出を決めて撮影する



- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を [AUTO] に設定したときは、以下の方法で露出補正 (☑) を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする
- [📷: 露出補正]
- シャッターボタンを半押しした状態で (🔍) を回す (☑)

⚠ 注意

- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。
- ISOオート設定時にストロボを使用したときは、露出補正量を設定しても補正は行われません。

📖 参考

- ISOオート設定時にAEロック機能を割り当てたボタンを押すと、ISO感度を固定(ロック) することができます。
- AEロック機能を割り当てたボタンを押して構図を変えると、ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- AEロック機能の割り当てについては、[撮影時ボタンカスタマイズ](#)を参照してください。
- [P] [Tv] [Av] モードで露出補正 (☑) を行っていたときは、[M] モード+ISOオートに変更したときに、設定していた補正量が引き継がれます。

露出を固定して撮る/AEロック撮影

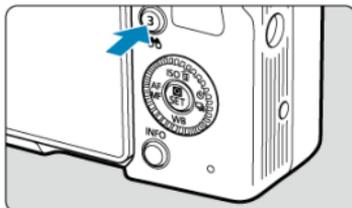
☑ AEロックの効果

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。AEロック機能を割り当てたボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1. ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出値が表示されます。

2. AEロック機能を割り当てたボタンを押す



- 画面左下に「*」が表示され、露出が固定（AEロック）されます。

3. 構図を決めて撮影する



参考

- AEロック機能の割り当てについては、[撮影時ボタン カスタマイズ](#)を参照してください。
- バルブ撮影時はAEロックできません。

AEロックの効果

測光モードの選択	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
	ピントを合わせたAFフレームを中心に した露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にし た露出値でAEロック
	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

*  設定時に、手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） を行う設定にすると、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。

B : バルブ撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

1. 絞り数値を設定する

-  を回して設定します。

2. 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- 画面に露光経過時間が表示されます。

注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます。

参考

- **[ : 長秒時露光のノイズ低減]** で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます ()。
- バルブ撮影を行うときは、三脚およびリモコンの使用をおすすめします。
- バルブ撮影時のリモコンの操作方法については、リモコンの使用説明書を参照してください。

A+ : 全自動撮影 (シーンインテリジェントオート)

- ☑ [こんなときは](#)
- ☑ [動いているものを撮影する](#)
- ☑ [シーン判別アイコン](#)
- ☑ [設定の変更](#)
- ☑ [クリエイティブアシスト](#)

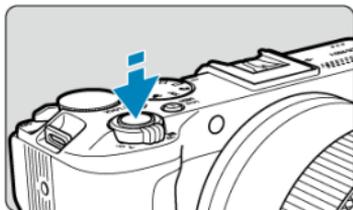
[A+] モードではカメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、自動でピントを合わせることができます (📷)。

1. カメラを被写体 (写したいもの) に向ける



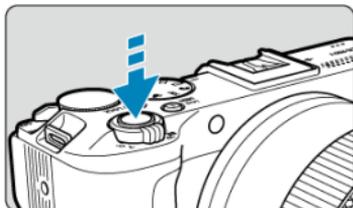
- 撮影条件により、被写体にAFフレーム (1) が表示されます。
- 画面にAFフレームが表示されているときは、AFフレームを被写体に合わせます。
- クリエイティブアシストで効果を付けたいときは、(📷) を押して効果を選びます (📷)。

2. ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- 画面に表示された人物の顔や被写体にタッチして、ピントを合わせることもできます。
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光 (☑) が自動投光されます。
- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります (=ワンショットAF)。
- 被写体が動いているときは、ピントが合うと、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます (=サーボAF)。

3. 撮影する



- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。

⚠ 注意

- 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き (止まっている/動いている) を適切に検知できないことがあります。

参考

- AF動作（ワンショットAF/サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。ワンショットAFに自動設定されても、シャッターボタン半押し中に、被写体が動いたと判断したときは、サーボAFに切り換わります。
- [A+]モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影 (📷) にして、[A+]以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください (📷)。

?こんなときは

- **ピントが合わない（AFフレームがオレンジ色に点灯）**
明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください (📷)。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
- **複数のAFフレームが同時に表示される**
表示されているすべての位置にピントが合っています。
- **シャッタースピード（数字）が点滅している**
光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、外部ストロボ (📷) を使用して撮影することをおすすめします。
- **ストロボ撮影で、明るい写真になった**
ストロボ撮影時に、被写体が近いと、明るい写真（露出オーバー）になることがあります。被写体から離れて撮影してください。
- **ストロボ撮影で、画面の下側が不自然に暗くなった**
被写体に近づきすぎると、レンズの影が写り込むことがあります。被写体から離れて撮影してください。また、レンズフードは外して撮影してください。

参考

- 手ブレしやすい暗い場所では、カメラが動かないように構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズを使用するときは、広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- 暗い場所で人物を撮影するときは、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

動いているものを撮影する



シャッターボタンを半押しすると、被写体の動きに追従してピント合わせが行われます。シャッターボタンを半押ししたまま、被写体を画面内に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコン



カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンのアイコンが画面の左上に表示されます (📷)。

設定の変更

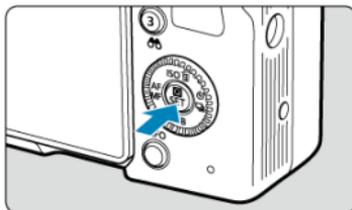


画面のアイコンをタッチして、ドライブモード、記録画質、タッチシャッター、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。

クリエイティブアシスト

好みの効果を付けて撮影することができます。

1. <MENU> を押す

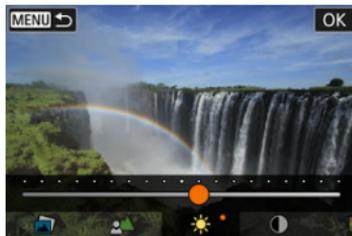


2. 効果を選ぶ



- <MENU> で効果を選び、<MENU> を押します。

3. 効果の度合い・内容を選ぶ



- <MENU> で設定し、<MENU> を押します。
- 設定をリセットしたいときは、<COLOR> ボタンを押して [OK] を選びます。

クリエイティブアシストの効果

-  **プリセット**

用意された効果の中から選ぶことができます。

[B&W]を設定したときは[鮮やかさ][色あい1][色あい2]は選べません。

-  **背景ぼかし**

背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。[オート]に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ(F値)によっては、設定できない位置があります。

-  **明るさ**

画像の明るさを設定することができます。

-  **コントラスト**

コントラスト(明暗差)の強さを設定することができます。

-  **鮮やかさ**

色の鮮やかさを設定することができます。

-  **色あい1**

アンバーとブルーの色あいを設定することができます。

-  **色あい2**

グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。

-  **モノクロ**

モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。

参考

- ストロボ撮影時、[背景ぼかし]は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源スイッチを〈OFF〉にすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、 : **クリエイティブアシスト設定記憶** を [する] に設定しておく、設定が保持されます。

効果の登録

現在の効果をカメラに登録したいときは、[クリエイティブアシスト]の設定画面で  **INFO**  **登録** をタッチして [OK] を選びます。最大3つまで [プリセット] の [USER*] に登録することができます。すでに3つ登録されているときは、[USER*]のいずれかを上書きする必要があります。

自分撮り

自分撮りに適した設定で撮影されます。モニターを対面状態にしてください。



💡撮影のポイント

● 明るさや美肌効果を設定する

【明るさ】や【美肌効果】を5段階から選ぶことができます。【背景】で背景のぼかし具合も設定できます。

● 画面にタッチして撮影する

シャッターボタン全押しだけでなく、 にタッチして  (タッチシャッター：する) に設定すると、画面にタッチして撮影することができます (📷)。

⚠ 注意

- ピントが合ってから撮影が終了するまで、カメラと自分との距離が変わらないようにしてください。
- カメラを落とさないように注意してください。

📖 参考

- セルフタイマーランプ (📷) は点滅しません。

ポートレート

背景をぼかして人物を浮き立たせた、肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



🔦 撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**
人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっかりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。
- **望遠レンズを使用する**
ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。
- **顔にピントを合わせる**
ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、[AF:瞳検出]を[する]に設定すると、瞳にピントが合うように撮影することができます。
- **連続撮影する**
初期状態では、[] (低速連続撮影) に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

美肌

画像処理によって肌がなめらかに見えるような効果をかけることができます。



💡撮影のポイント

● 顔が検出されるようにする

美肌効果をかける主被写体が検出されたときに顔に枠が表示されます。被写体の顔に枠が表示されるよう被写体との距離を調整すると、効果的に美肌効果をかけることができます。

● 顔にピントを合わせる

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、[AF: 瞳検出]を[する]に設定すると、瞳にピントが合うように撮影することができます。

❗ 注意

- 撮影シーンによっては、人の肌以外も補正されることがあります。

パノラマショット

シャッターボタンを全押ししたままカメラを一定の方向に動かして撮影すると、連続撮影した画像を合成してパノラマ画像が作成されます。



1. 撮影する方向を選ぶ

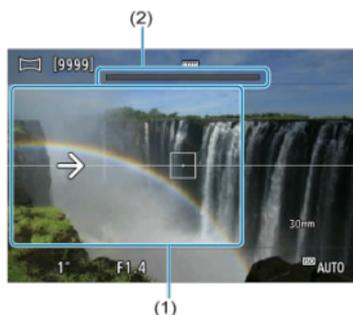


- 画面右下の [カメラ+方向] をタッチして撮影する方向を選びます。
- カメラを動かす方向を示す矢印が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しする

- ピントを合わせ、シャッターボタンを半押ししたままにします。

3. 撮影する



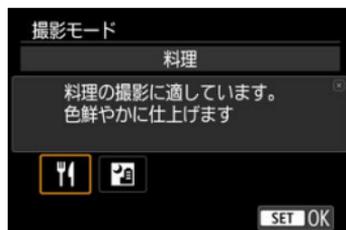
- シャッターボタンを全押ししたまま、矢印の方向にカメラを一定の速さでまっすぐに動かします。
- 画面で透明に表示されている部分 (1) が撮影されていきます。
- 撮影の進み具合を示すバー (2) が表示されます。
- シャッターボタンを離すか、バーがすべて白色になると撮影が終了します。

ⓘ 注意

- スイングのブレ補正に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🔗)。
- シーンによっては、思いどおりの画像が保存されなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- カメラの動かし方が速すぎたり遅すぎたりすると、撮影が途中で中断されます。ただし、作成された画像は保存されます。
- <□> モードで撮影した画像は画像サイズが大きいため、キヤノン製プリンターにカードを差し込んでプリントするときは、一度パソコンなどで画像をリサイズしてからプリントしてください。また、ソフトウェアや Web サービスなどで画像が正しく扱えないときは、画像のリサイズをお試しください。
- 次の被写体やシーンでは、適切に合成されないことがあります。
 - 動いている被写体
 - 近くの被写体
 - 構図の中で明暗差が大きいとき
 - 空や海など単調な色や模様が続くシーン
- スイングブレ補正による振動が伝わるがありますが、撮影に影響はありません。
- 焦点距離の長いレンズを使用する場合や夜景シーンなどの暗いシーンを撮影する場合には、ゆっくりカメラを動かして撮影することをおすすめします。

料理

料理の撮影に適しています。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。



🔦 撮影のポイント

● 色あいを変える

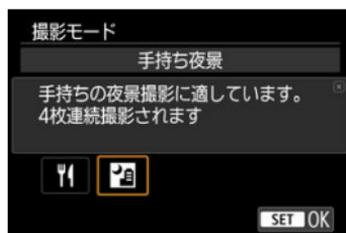
[色あい] を変えることができます。〈〉を押して、料理の赤みを強めたいときは[暖色] (赤) 側に、赤みが強すぎる場合は[寒色] (青) 側に設定を変更して撮影してください。

⚠ 注意

- 赤みのある被写体の色が薄くなる場合があります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、[色あい] が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならない場合があります。

手持ち夜景

三脚などを使用しない、手持ちでの夜景撮影に適しています。



📖 撮影のポイント

● カメラが動かないように構える

カメラが動かないように、脇を締めて構えます (📷)。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。

❗ 注意

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 夜景などを撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス) (📷) に設定して手動でピントを合わせてください。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大いときは、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、画面に [BUSY] が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 画面に表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

動画撮影と静止画撮影は、モードダイヤル (📷) で切り換えます。

⚠ 注意

- 動画撮影と静止画撮影を切り換えたときは、撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影時の静止画撮影はできません。

- [メニュー目次：動画撮影](#)
- [メニュー目次：静止画撮影](#)

動画撮影

- [動画記録サイズ](#)
- [動画記録形式](#)
- [デジタルズーム](#)
- [録音](#)
- [露出補正](#) 応用
- [動画 ISO感度に関する設定](#) 応用
- [動画Av値 1/8段設定](#) 応用
- [動画 オートスローシャッター](#) 応用
- [AF時の検出被写体優先AE](#)
- [カラーモード](#) 応用
- [明瞭度](#) 応用
- [HDR撮影 \(PQ\)](#) 応用
- [オートライティングオプティマイザ](#) 応用
- [高輝度側・階調優先](#) 応用
- [ホワイトバランス](#) 応用
- [ホワイトバランスの補正](#) 応用
- [レンズ光学補正](#) 応用
- [高感度撮影時のノイズ低減](#) 応用
- [タイムラプス動画](#)
- [シネマビュー](#) 応用
- [動画セルフタイマー](#)
- [タリーランプ](#) 応用
- [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- [動画自動水平補正](#)

- [メタデータ](#) **応用**
- [タイムコード](#)
- [HDR/C.Logビューアシスト](#) **応用**
- [フォルスカラー設定](#) **応用**
- [ゼブラ設定](#) **応用**
- [撮影情報表示設定](#)
- [動画撮影情報表示の自動回転](#)
- [クイック設定画面](#)
- [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**
- [鏡像表示](#)
- [自動電源オフ温度](#)
- [温度上昇緩和](#)
- [HDMI接続時の表示](#)
- [Canon LogのHDMI出力レンジ](#) **応用**
- [動画撮影全般](#)

静止画撮影

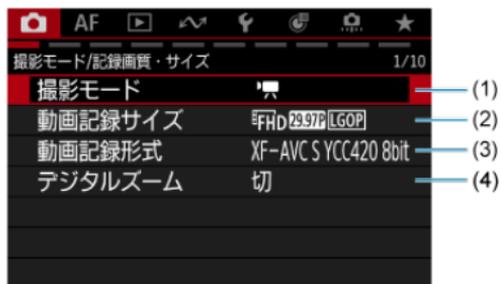
- [静止画記録画質](#)
- [DPRAW設定](#)
- [静止画アスペクト比](#)
- [デジタルテレコン](#) **応用**
- [露出補正](#) **応用**
- [静止画 ISO感度に関する設定](#) **応用**
- [フリッカーレス撮影](#) **応用**
- [測光モード](#) **応用**
- [AF時の検出被写体優先AE](#)
- [カラーモード](#) **応用**
- [明瞭度](#) **応用**
- [HDR撮影 \(PQ\)](#) **応用**
- [HDRモード](#) **応用**
- [オートライティングオブティマイザ](#) **応用**
- [高輝度側・階調優先](#) **応用**
- [ホワイトバランス](#) **応用**
- [ホワイトバランスの補正](#) **応用**
- [レンズ光学補正](#) **応用**
- [長秒時露光のノイズ低減](#) **応用**
- [高感度撮影時のノイズ低減](#) **応用**
- [ダストデリートデータ取得](#) **応用**
- [フォーカスBKT撮影](#) **応用**

- [ドライブモード](#)
- [インターバルタイマー撮影](#)
- [サイレントシャッター機能](#) **応用**
- [シャッター方式](#) **応用**
- [カードなしリリース](#)
- [手ブレ補正（IS機能）設定](#)
- [撮影画像の確認時間](#)
- [高速表示](#) **応用**
- [表示Simulation](#) **応用**
- [HDR/C.Logビューアシスト](#) **応用**
- [撮影情報表示設定](#)
- [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**
- [表示フレームレート設定](#)
- [鏡像表示](#)
- [自動電源オフ温度](#)
- [クリエイティブアシスト設定記憶](#)
- [静止画撮影全般](#)
- [外部ストロボ撮影](#) **応用**
- [ストロボ撮影の設定](#) **応用**

メニュー目次：動画撮影

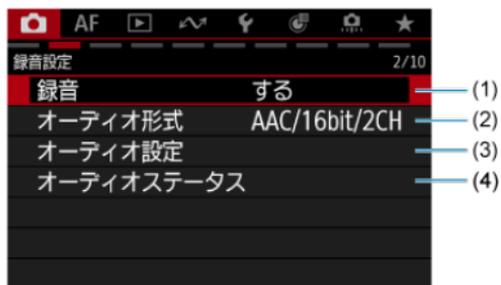
☑ [動画撮影時の情報表示](#)

● 撮影モード/記録画質・サイズ



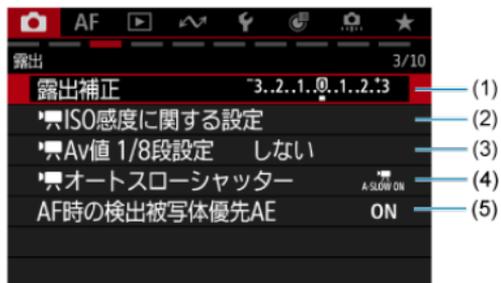
- (1) [撮影モード](#)
- (2) [動画記録サイズ](#)
- (3) [動画記録形式](#)
- (4) [デジタルズーム](#)

● 録音設定



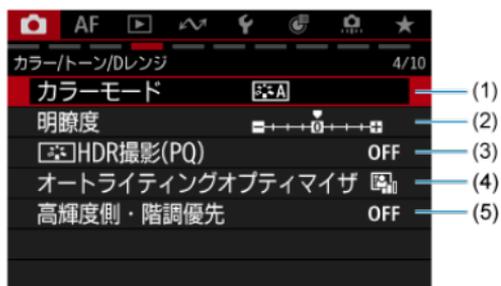
- (1) [録音](#)
- (2) [オーディオ形式](#)
- (3) [オーディオ設定](#) **応用**
- (4) [オーディオステータス](#)

● 露出



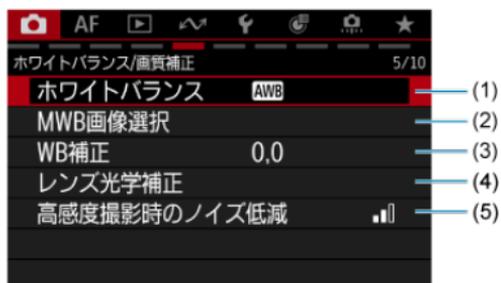
- (1) [露出補正](#) 応用
- (2) [ISO感度に関する設定](#) 応用
- (3) [Av値 1/8段設定](#) 応用
- (4) [オートスローシャッター](#) 応用
- (5) [AF時の検出被写体優先AE](#)

● カラー/トーン/Dレンジ



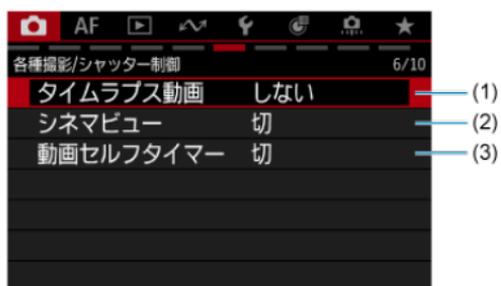
- (1) [カラーモード](#) 応用
- (2) [明瞭度](#) 応用
- (3) [HDR撮影\(PQ\)](#) 応用
- (4) [オートライティング最適マイザ](#) 応用
- (5) [高輝度側・階調優先](#) 応用

● ホワイトバランス/画質補正



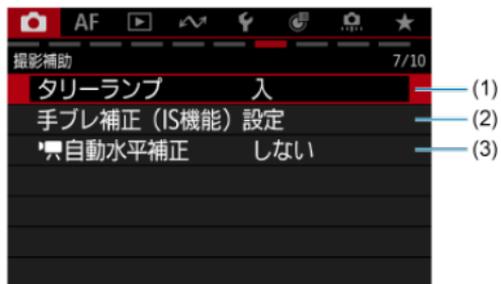
- (1) [ホワイトバランス](#) **応用**
- (2) [MWB画像選択](#) **応用**
- (3) [WB補正](#) **応用**
- (4) [レンズ光学補正](#) **応用**
- (5) [高感度撮影時のノイズ低減](#) **応用**

● 各種撮影/シャッター制御



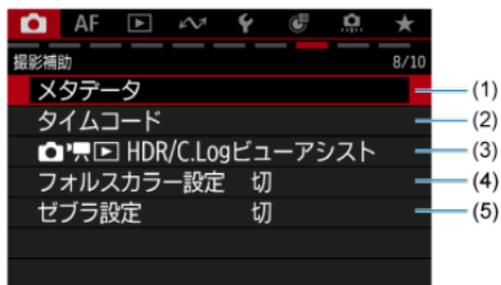
- (1) [タイムラプス動画](#)
- (2) [シネマビュー](#) **応用**
- (3) [動画セルフタイマー](#)

● 撮影補助



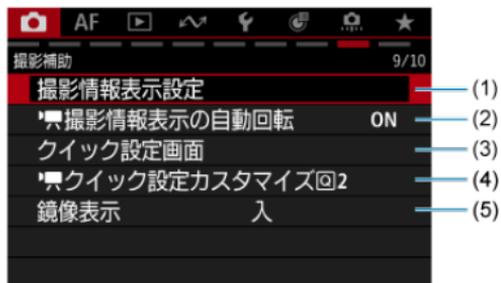
- (1) [タリーランプ](#) 応用
- (2) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- (3) [自動水平補正](#)

● 撮影補助



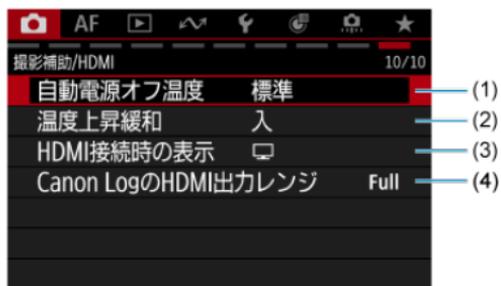
- (1) [メタデータ](#) 応用
- (2) [タイムコード](#)
- (3) [HDR/C.Logビューアシスト](#) 応用
- (4) [フォルスカラー設定](#) 応用
- (5) [ゼブラ設定](#) 応用

● 撮影補助



- (1) [撮影情報表示設定](#)
- (2) [撮影情報表示の自動回転](#)
- (3) [クイック設定画面](#)
- (4) [クイック設定カスタマイズ②](#) **応用**
- (5) [鏡像表示](#)

● 撮影補助/HDMI



- (1) [自動電源オフ温度](#)
- (2) [温度上昇緩和](#)
- (3) [HDMI接続時の表示](#)
- (4) [Canon LogのHDMI出力レンジ](#) **応用**

動画撮影時の情報表示

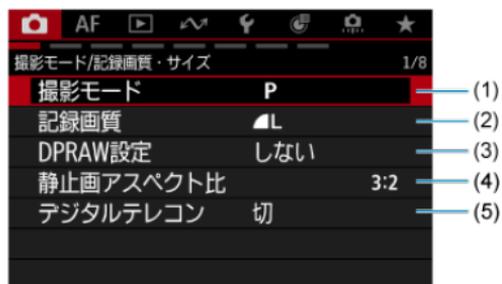
動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[情報表示](#)を参照してください。

⚠ 注意

- 動画撮影可能時間の表示は目安です。
- 動画撮影中に、カメラ内部の温度が上昇して、赤い【】が表示されたときは、撮影開始前に表示される動画撮影可能時間より前に撮影が終了することがあります (ⓧ)。

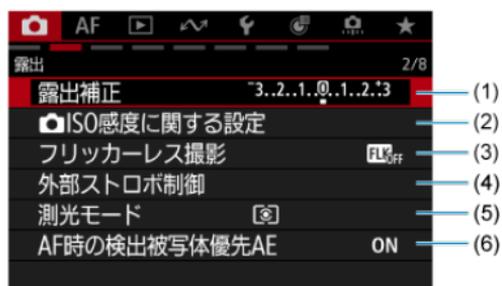
メニュー目次：静止画撮影

● 撮影モード/記録画質・サイズ



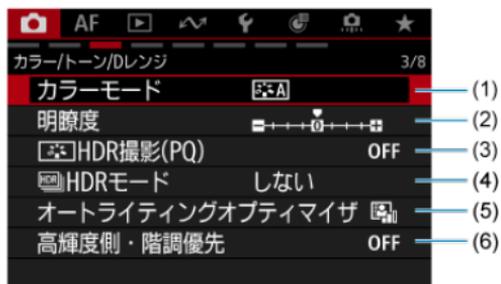
- (1) [撮影モード](#)
- (2) [記録画質](#)
- (3) [DPRAW設定](#)
- (4) [静止画アスペクト比](#)
- (5) [デジタルテレコン](#) **応用**

● 露出



- (1) [露出補正](#) **応用**
- (2) [ISO感度に関する設定](#) **応用**
- (3) [フリッカーレス撮影](#) **応用**
- (4) [外部ストロボ制御](#) **応用**
- (5) [測光モード](#) **応用**
- (6) [AF時の検出被写体優先AE](#)

● カラー/トーン/Dレンジ



- (1) [カラーモード](#) 応用
- (2) [明瞭度](#) 応用
- (3) [HDR撮影\(PQ\)](#) 応用
- (4) [HDRモード](#) 応用
- (5) [オートライティング最適化](#) 応用
- (6) [高輝度側・階調優先](#) 応用

● ホワイトバランス/画質補正



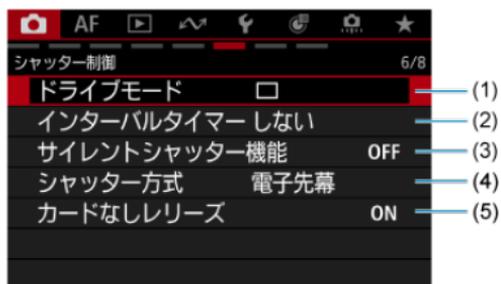
- (1) [ホワイトバランス](#) 応用
- (2) [MWB画像選択](#) 応用
- (3) [WB補正](#) 応用
- (4) [レンズ光学補正](#) 応用
- (5) [長秒時露光のノイズ低減](#) 応用
- (6) [高感度撮影時のノイズ低減](#) 応用
- (7) [ダストデリートデータ取得](#) 応用

● 各種撮影



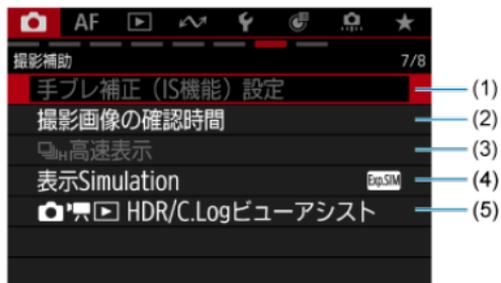
- (1) [フォーカスBKT撮影](#) 応用

● シャッター制御



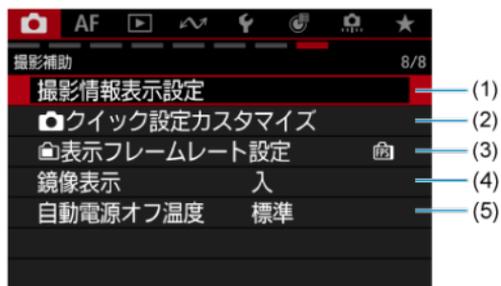
- (1) [ドライブモード](#)
- (2) [インターバルタイマー](#)
- (3) [サイレントシャッター機能](#) 応用
- (4) [シャッター方式](#) 応用
- (5) [カードなしリリース](#)

● 撮影補助



- (1) [手ブレ補正 \(IS機能\) 設定](#)
- (2) [撮影画像の確認時間](#)
- (3) [高速表示](#) **応用**
- (4) [表示Simulation](#) **応用**
- (5) [HDR/C.Logビューアシスト](#) **応用**

● 撮影補助



- (1) [撮影情報表示設定](#)
- (2) [クイック設定カスタマイズ](#) **応用**
- (3) [表示フレームレート設定](#)
- (4) [鏡像表示](#)
- (5) [自動電源オフ温度](#)

📄 参考

- [△↑] モードのときは、[クリエイティブアシスト設定記憶] が表示されます (🔗)。

- [4K動画撮影](#)
- [撮影範囲](#)
- [動画が記録できるカード](#)
- [ファイルサイズが4GBを超える動画撮影](#)
- [動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安](#)
- [撮影時間の制限](#)

[: 動画記録サイズ] で、解像度、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。
 なお、フレームレートは、[: システム周波数] の設定 () により、自動的に切り換わります。

1. [: 動画記録サイズ] を選ぶ ()

2. 項目を設定する



- を回してタブ (1) を選びます。
- を上下左右に操作して設定 (2) を変更します。
- 変更が終わったら、 を押します。

解像度	画像サイズ	縦横比
4K	3840×2160	16 : 9
FHD	1920×1080	16 : 9

フレームレート (fps : frames per second)

- **[[119.9P] 119.9fps / [59.94P] 59.94fps / [29.97P] 29.97fps**
テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **[[100.0P] 100.00fps / [50.00P] 50.00fps / [25.00P] 25.00fps**
テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。
- **[[23.98P] 23.98fps**
主に映画関連で使用します。[[🔊 : システム周波数] を「NTSC」に設定したときに選択できます。

圧縮方式

- **[[GOP] 標準 (Long GOP)**
複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。

動画記録形式

- 動画記録形式を参照してください (🔗)。

⚠ 注意

- [[🔊 : システム周波数] の設定を変更したときは、[[📷 : 動画記録サイズ] の再設定を行ってください。
- 4K動画や高フレームレートの動画などでは、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録サイズの設定や、使用するレンズにより、解像感やノイズ感は多少異なります。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (🔗)。
- HD画質、VGA画質の動画を撮影することはできません。

4K動画撮影

- 4K動画を撮影するには安定した高速書き込みが可能なカードが必要です。詳しくは、[動画が記録できるカード](#)を参照してください。
- 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなる場合があります。動画撮影時に白い【】または赤い【】が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、JPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（）。

撮影範囲

解像度と撮影範囲の関係については、「主な仕様」を参照してください (🔗)。

⚠ 注意

- 動画電子IS機能設定時は (🔗)、画面の中央部分がクロップされます。

動画が記録できるカード

各動画記録サイズで記録できるカードの詳細は、[記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能](#)を参照してください。

なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ (📷) で正しく記録できることを確認してください。

⚠ 注意

- 4K動画撮影を行うときは、撮影前に [📷 : カード初期化] の [物理フォーマット] でカードを初期化してください (📷)。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

📖 参考

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします (📷)。
- カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

- SDカードでは1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える動画撮影はできません。
- SDHCカードでは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。再生時は自動で連続再生されます。
- SDXCカードでは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、4GBを超えるサイズの1つの動画ファイルとして記録されます。

⚠ 注意

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください (🔗)。パソコン (OS) の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。
- SDHCカードに記録された4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むと、複数のファイルに分かれた状態で表示されます。先頭のファイルを削除すると、残りの動画ファイルの再生ができなくなります。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する場合、パソコンを操作してカメラ内の動画ファイルを削除しないでください。動画ファイルが正しく認識されなくなることがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの 目安

[記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能](#)を参照してください。

撮影時間の制限

1回の撮影時間の制限については、「主な仕様」を参照してください (🔗)。撮影時間の上限に達した時点で撮影は自動的に終了します。

⚠ 注意

- 動画の再生を長時間行ったり、ライブビュー状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

ハイフレームレート

撮影モードが [📹] [📹] [📹] [📹] のときは、[FHD] 時に119.9fps/100.0fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。

⚠ 注意

- 「スロー&ファストモーション記録」時の [120_{AF}] / [100_{AF}] は本ハイフレームレートと仕様が異なります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下では、画面にちらつきが発生することがあります。
- 撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- 撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- HDMI出力映像のフレームレートは、59.94fpsまたは50.00fpsになります。
- 動画の再生を長時間行ったり、映像表示状態を長時間続けたりすると、カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能な時間が短くなることがあります。

[XF-HEVC S動画とXF-AVC S動画](#)

記録される動画ファイルの形式を設定することができます。

1.  : 動画記録形式] を選ぶ ()

2. 項目を選ぶ



XF-HEVC S動画とXF-AVC S動画

XF-HEVC S動画/XF-AVC S動画は、それぞれH.265/HEVCとMPEG-4 AVC/H.264を拡張したキヤノン独自のビデオフォーマットによる動画です。画質を維持しながら、高いデータ圧縮率を実現しています。

動画記録形式	コーデック	輝度・色相・彩度 (YCbCr) / 色深度	説明	制限事項
XF-HEVC S YCC422 10bit	H.265/ HEVC	4:2:2/10bit	YCC422 10ビットの信号をXF-HEVC S方式で撮影することができます。パソコンによる編集を前提としています。	ソフトウェアによっては、正しく再生されないことがあります。
XF-HEVC S YCC420 10bit	H.265/ HEVC	4:2:0/10bit	YCC420 10ビットの信号をXF-HEVC S方式で撮影することができます。	-
XF-AVC S YCC420 8bit	MPEG-4 AVC/ H.264	4:2:0/8bit	YCC420 8ビットの信号をXF-AVC S方式で撮影することができます。ソフトウェアによる再生の互換性が高い記録形式です。	 :  HDR撮影(PQ)]で[HDR PQ]を設定したときは選べません。
XF-AVC S YCC422 10bit	MPEG-4 AVC/ H.264	4:2:2/10bit	YCC422 10ビットの信号をXF-AVC S方式で撮影することができます。パソコンによる編集を前提としています。	ソフトウェアによっては、正しく再生されないことがあります。

参考

- カスタムピクチャーファイルの色空間に【C.Gamut】または【BT.2020】を設定したときは、10bitの記録形式を選ぶことをおすすめします (👉)。

- [RAW画像](#)
- [記録画質を選ぶときの目安](#)
- [連続撮影可能枚数（バースト枚数）](#)

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEG画像、HEIF画像の記録画質は、/ **L**// **M**// **S1**// **S1**// **S2**です。RAW画像の記録画質は、**RAW**/**CRAW**のいずれかを設定することができます。

1. ：記録画質] を選ぶ (🔗)
2. 記録画質を設定する



- RAW画像は 、JPEG/HEIF画像は でサイズを選びます。
- を押すと設定されます。

参考

- HEIF画像は、：HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定しているときに設定することができます。撮影後に、JPEG画像に変換することができます (🔗)。
- RAW画像とJPEG/HEIF画像の設定を両方 [一] にしたときは、に設定されません。
- RAWとJPEG/HEIFの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、HEIF：.HIF、RAW：.CR3）で記録されます。
- **S2**は （ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、**RAW**（ロウ）、**CRAW**（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイベグ）、HEIF（ヒーフ）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換してそのまま記録した「生（ロウ）データ」で、**RAW**、**CRAW**から選ぶことができます。なお、**CRAW**は**RAW**に比べてファイルサイズが小さいRAW画像です。

RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG/HEIF画像などを生成することができます。

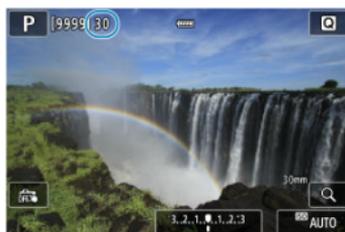
参考

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、[静止画・ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#)を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



撮影画面の左上の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

参考

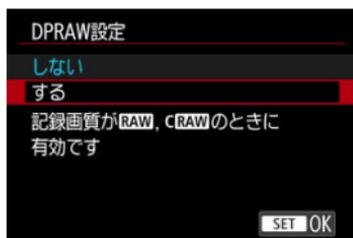
- 連続撮影可能枚数が、「99」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていき、内部メモリーがいっぱいになると、モニターに【BUSY】が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、[静止画・ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#)の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。
- 【📷：記録画質】や【📷：ドライブモード】の設定を変更すると、連続撮影の時間を延長することができます。
 - 【📷：記録画質】で、【RAW】または【CRAW】以外を選択する
 - 【📷：ドライブモード】で、【📷】または【📷H】以外を選択する

DPRAW機能を設定して**RAW**、**CRAW**画像を撮影すると、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付加された「特別なRAW画像（DPRAW画像）」として記録されます。これをDPRAW撮影といいます。

EOS用ソフトウェアのDigital Photo ProfessionalでDPRAW画像の現像処理を行う際に、DPRAW画像に記録されたデュアルピクセル情報を活用して、「被写体の奥行き情報に基づく解像感の微調整」「カメラの撮影視点の微調整」「ゴーストの低減」を行うことができます。なお、**撮影条件により効果が異なりますので、DPRAW撮影を行う前に、Digital Photo Professional使用説明書を参照して、DPRAW機能の特徴と現像処理についてご確認ください。**

1. [📷 : DPRAW設定] を選ぶ (🔍)

2. [する] を選ぶ



3. 記録画質を**RAW**または**CRAW**に設定する

- 記録画質を**RAW**、**RAW**+JPEG、**RAW**+HEIF、**CRAW**、**CRAW**+JPEG、**CRAW**+HEIFのいずれかに設定します。

4. 撮影する

- デュアルピクセル情報が付加されたRAW画像（DPRAW画像）が記録されます。

⚠ 注意

- 電源スイッチを<ON>にしたときや、オートパワーオフ状態から復帰したときの起動時間が長くなります。
- DPRAW撮影時は、連続撮影速度が遅くなります (🔍)。
- ドライブモードの [📷] [📷H] は選択できません。[📷] [📷H] に設定されているときは、[📷] の設定で撮影されます。
- RAW画像、RAW+JPEG画像またはRAW+HEIF画像を撮影したときは、通常撮影時に比べてややノイズが増えることがあります。
- HDR撮影、フォーカスBKT撮影、電子シャッター、ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

DPRAW機能の調整量・補正効果について

- レンズの絞り数値が開放側のときに、調整量・補正効果が上がります。
- 使用するレンズや撮影シーンなどによっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- カメラの姿勢（縦／横）によって調整量・補正効果が変わります。
- 撮影条件によっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。

画像のアスペクト（縦横）比を変えて撮影することができます。

1. [📷: 静止画アスペクト比] を選ぶ (🔍)

2. アスペクト比を設定する



- アスペクト比を選びます。

● JPEG画像

設定したアスペクト比で記録されます。

● RAW画像

常に [3:2] のアスペクト比で記録されます。RAW画像には設定したアスペクト比情報が付加され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

アスペクト比		
4:3	16:9	1:1

📖 参考

- [4:3] [16:9] [1:1] の設定で撮影したRAW画像を再生したときは、撮影範囲が線で表示されます（この線は画像には記録されません）。

記録サイズが [FHD 29.97P] / [FHD 23.98P] (NTSC)、または [FHD 25.00P] (PAL) のときに、デジタルズームで約1~10倍の望遠撮影ができます。

1. [📷: デジタルズーム] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- [入] を選び、〈🔍〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。

3. デジタルズームを使う



- 画面右下の [W/T] をタッチします。
- デジタルズームバーが表示されます。
- [▲T] または 〈▲〉 を押すと望遠側、[▼W] または 〈▼〉 を押すと広角側にズームします。ズームレバーでも操作することができます。
- 〈AF-ON〉ボタンを押すと、[1点AF] (中央固定) でピント合わせが行われます。
- デジタルズームを解除するときは、手順2で [切] を選びます。

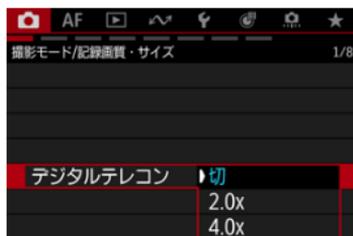
 注意

- 手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。
- 上限感度は ISO12800になります。
- 拡大表示はできません。
- 動画デジタルズームでは映像をデジタル処理するため、拡大するほど映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- ピントが合いにくい撮影条件も参照してください (🔗)。
- カメラ内部の温度が上昇して、撮影可能時間が短くなる場合があります。
- [📷: 温度上昇緩和] が [切] に固定されます (🔗)。

撮影画面の中央部を拡大して、撮影倍率をレンズの倍率以上に変更することができます。

1. [📷: デジタルテレコン] を選ぶ (🔗)

2. 撮影倍率を選ぶ



- [切] を選ぶと、撮影倍率は変わりません。

⚠ 注意

- 撮影倍率を高くするほど、画質は低下します。
- RAW画質が選択されているときは、設定できません。

📖 参考

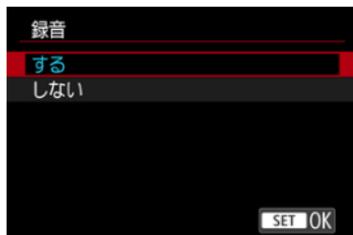
- AFフレームは、中央1点固定になります。追尾フレームは表示されません。

- [録音](#)
- [オーディオ形式](#)
- [オーディオ設定](#)
- [録音モード](#)
- [録音レベル](#)
- [ウィンドカット](#)
- [音声ノイズ低減](#)
- [アッテネーター](#)
- [マイクの指向性](#)
- [オーディオステータス](#)

録音

動画撮影時に録音するときは [する] を選びます。外部マイクまたはマルチアクセサリシュー対応マイクを使用しない場合は、内蔵マイクで録音されます。

1.  : 録音] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



- 録音レベルの調整などは、 : オーディオ設定] で行います (🔗)。

注意

- Wi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクの出力プラグを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- 4チャンネル録音で記録した場合、ソフトウェアによっては正しく再生できない場合があります。

参考

- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（[**しない**] 設定時を除く）。なお、テレビから音を出したときにハウリングが起こったときは、カメラをテレビから離したり、テレビの音量を下げてください。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数は、48kHzで記録されます。

4チャンネル録音

本機は4チャンネルの音声録音に対応しています。
4チャンネル録音は、以下の組み合わせがあります。

- マルチアクセサリ—シュー対応マイク (2ch)、内蔵マイク (2ch)
- マルチアクセサリ—シュー対応マイク (2ch)、外部マイク (2ch)
- 外部マイク (2ch)、外部マイク (2ch)
- 内蔵マイク (2ch)、内蔵マイク (2ch)

! 注意

- [LPCM/24bit/4CH] で記録したとき、ソフトウェアによっては、動画ファイルが正しく再生できない場合があります (🔗)。

📖 参考

- 現在、どのマイクからの入力が有効になっているかは、[📷: オーディオステータス] で確認することができます (🔗)。
- マルチアクセサリ—シュー対応マイクを使用する場合は、CH1とCH2にマルチアクセサリ—シュー対応マイク、CH3とCH4に内蔵マイクが割り当てられます。
- マルチアクセサリ—シュー対応マイクと外部マイクを使用する場合は、CH1とCH2にマルチアクセサリ—シュー対応マイク、CH3とCH4に外部マイクが割り当てられます。

オーディオ形式

動画撮影の録音で使用するオーディオ形式を選ぶことができます。

1. [📷: オーディオ形式] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



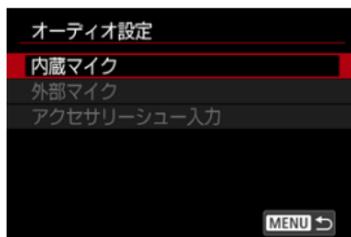
⚠ 注意

- [LPCM/24bit/4CH] を選んだときに4チャンネル録音を行うことができます。[AAC/16bit/2CH] を選んだときは、2チャンネル録音（単一マイク）になります。
- 4チャンネル録音を行った場合、ソフトウェアによっては正しく再生できないことがあります。

録音に使用するマイクの設定を行います。外部マイクまたはマルチアクセサリースュー対応マイクを使用する場合は、各マイクの使用説明書もあわせて参照してください。

1. [📷: オーディオ設定] を選ぶ (🔗)

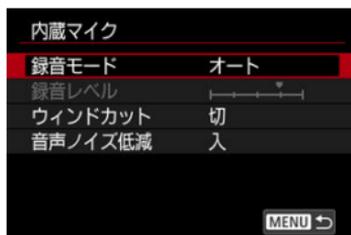
2. 使用する機器を選ぶ



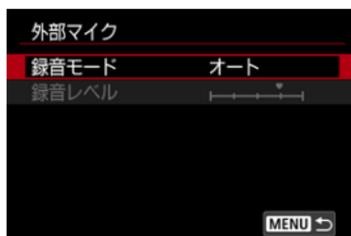
- **内蔵マイク**
内蔵マイクの設定を行います。
- **外部マイク**
外部マイク入力端子を使用する外部マイクの設定を行います。
- **アクセサリースュー入力**
マルチアクセサリースュー対応マイクの設定を行います。

3. 項目を設定する

[内蔵マイク] 選択時



[外部マイク] 選択時



[アクセサリースュー入力] 選択時



- 設定項目は、使用するマイクによって異なります。

⚠ 注意

- [録音モード]、[ウィンドカット] または [アッテネーター] の設定を変更すると、ノイズ低減のため、設定値が切り換わる瞬間の音声は記録されません。

録音モード



- **オート**

録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

- **マニュアル**

録音レベルを任意に調整することができます。調整は「録音レベル」で行います。

⚠ 注意

- ヘッドフォンで音声を聞きながら、「録音モード」の設定を切り換えしないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

📖 参考

- 画面下部のレベルメーターに録音レベルが表示されます。

録音レベル



【録音モード】が【マニュアル】のときに設定することができます。
レベルメーターを見ながら(⊙)を回すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」(-12dB)の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

ウィンドカット



内蔵マイク、またはウィンドカットに対応したマルチアクセサリシュー対応マイクを使用するときに設定できます。

【オート】に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を低減することができます。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

音声ノイズ低減

内蔵マイクでの録音時、AF動作時のレンズの作動音や、定常的なホワイトノイズを低減する機能です。

- **切**
音声ノイズ低減が無効になります。
- **入**
音声ノイズ低減が有効になります。
- **強**
[入] 設定時より、音声ノイズ低減の効果が大きくなります。

⚠ 注意

- [入] 設定時は、[切] 設定時に比べ、音質が変わる場合があります。
- [強] 設定時は、[入] 設定時よりも音声ノイズ低減の効果は大きいですが、音質の変化も大きくなる場合があります。
- 音声ノイズ低減の効果はレンズによって異なります。
- ホワイトノイズの低減によって、一部のノイズに気づきやすくなる場合があります。
- 音声ノイズ低減の効果や音質の変化は、撮影条件および撮影環境によって異なるため、試し撮りによる事前確認をおすすめします。
- ヘッドフォンから出力される音声のノイズを低減するには、[音声モニタリング] (🔊) を設定してください。

アッテネーター

マルチアクセサリシュー対応マイクを使用する場合は、アッテネーター（録音時の音割れを抑制する機能）の入/切を設定することができます。詳しくはマルチアクセサリシュー対応マイクの使用説明書を参照してください。

マイクの指向性

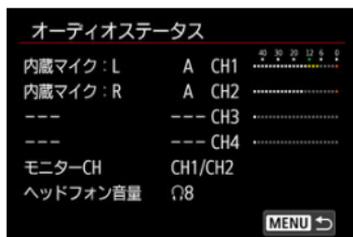
指向性切り換え機能を搭載したマルチアクセサリシュー対応マイクで設定することができます。詳しくは指向性切り換え機能を搭載したマルチアクセサリシュー対応マイクの使用説明書を参照してください。

オーディオステータス

現在どのマイクからの入力が無効になっているかやヘッドフォンの音量がどのくらいに設定されているかなどを確認することができます。

1. [📷: オーディオステータス] を選ぶ (🔍)

2. 内容を確認する



📖 参考

- [モニターCH] には、[🔊: 音声モニター] の [ヘッドフォン] で、[撮影時モニターCH] で設定したチャンネルが表示されます。

露出補正は、カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）、または暗め（マイナス補正）に撮影するための操作です。

露出補正は、以下の撮影モードで可能です。

動画撮影時：[P] [Tv] [Av] [M] [S&F] [S&F Tv] [S&F Av] [S&F M]

静止画撮影時：[P] [Tv] [Av] [M]

- ライブビュー状態で露出補正するときには、シャッターボタンを半押しして、 を回して設定します。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



- メニューを操作して露出補正するときには、：露出補正 を選び、以下の画面で補正量を設定します。



参考

- 露出補正を行うと、 が表示されます。
- 露出補正を解除するときには、露出レベルを標準露出指標 ()、または"0"の位置に戻します。
- [M] モード+ISOオート設定時の露出補正については、[M：マニュアル露出](#)を参照してください。
- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

[オートの上限](#)

 オートの上限

[M] [SAF M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

1. ISO感度の表示をタッチする



2. ISO感度を設定する



-  を回すか、登録済みの設定値を選びます。
- [AUTO] 以外を指定してから [登録] を選ぶと、よく使うISO感度の設定値を登録することができます。
- [AUTO] を選ぶと、ISO感度が自動設定されます。
- ISO感度の設定が [AUTO] のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が、撮影画面に表示されます。
- <INFO> ボタンを押すと、[AUTO] に設定することができます。

ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きいく（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

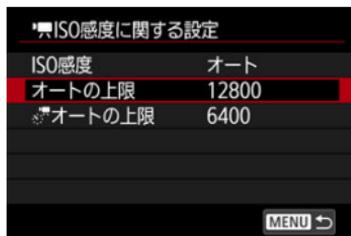
⚠ 注意

- 高ISO感度、高温、長秒時露光の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

オートの上限

[] [] [] [] [] [] モード、または [] [] モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

1. [: ISO感度に関する設定] を選ぶ (👉)
2. [オートの上限] を選ぶ



- [オートの上限] を選び、(👉) を押します。

3. ISO感度を選ぶ



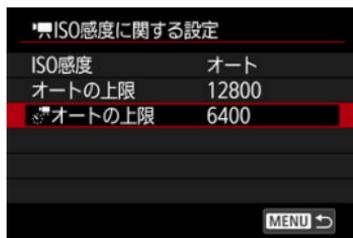
- ISO感度を選び、〈MENU〉を押します。

ISOオートの上限

[P] [Tv] [Av] モード、または [M] モード+ISOオートの設定で4Kタイムラプス/フルHDタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

1. [カメラ] : [ISO感度に関する設定] を選ぶ (P)

2. [ISOオートの上限] を選ぶ



- [ISOオートの上限] を選び、〈MENU〉を押します。

3. ISO感度を選ぶ



- ISO感度を選び、を押します。

[ISO感度 \[AUTO\] 時の上限値設定について](#)

ISO感度は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンの場合は、ISO感度が自動設定されます。

1. ISO感度の表示をタッチする



2. ISO感度を設定する



-  を回すか、登録済みの設定値を選びます。
- [AUTO] 以外を指定してから [登録] を選ぶと、よく使うISO感度の設定値を登録することができます。
- [AUTO] を選ぶと、ISO感度が自動設定されます。
- ISO感度の設定が [AUTO] のときにシャッターボタンを半押しすると、実際に設定されるISO感度の数値が、撮影画面に表示されます。
- **<INFO>** ボタンを押すと、[AUTO] に設定することができます。

ISO感度を選ぶときの目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。

- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。



参考

- [📷: 📷ISO感度に関する設定] の [ISO感度] の画面で設定することもできます。



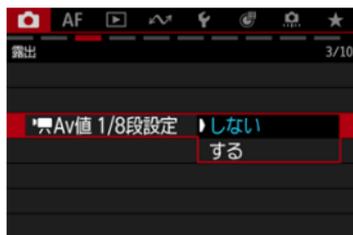
注意

- 高ISO感度、高温、長秒時露光の条件などで撮影すると、画像のノイズ（ザラつき感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

RFレンズを使用した動画撮影時に、絞り数値を1/8段刻みに設定することができます。この機能は、撮影モードが [M] [Av] [S&F M] [S&F Av] のときに設定できます（機能します）。

1. [📷: Av値 1/8段設定] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、[しない] 設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。この機能は、撮影モードが [P] [Av] のときに設定できます (機能します)。また、動画記録サイズのフレームレートが、59.94P、50.00P のときに機能します。

1. [カメラアイコン]: [オートスローシャッター] を選ぶ (🔍)
2. 項目を選ぶ



- **しない**

[する] 設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、[する] 設定時よりも映像が暗くなることがあります。

- **する**

暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒 (NTSC)、または1/25秒 (PAL) まで遅くして、[しない] 設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

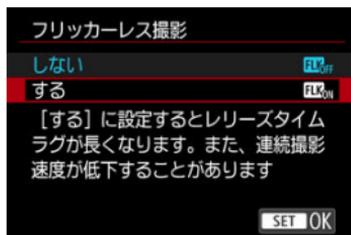
参考

- 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、[しない] に設定することをおすすめします。

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。フリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。

1. : フリッカーレス撮影] を選ぶ (🔗)

2. [する] を選ぶ



3. 撮影する

注意

- [する] 設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- 100Hz、120Hzの点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- [P] [Av] モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なることがあります。色あいの変化が気になるときは、[M] [Tv] モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- [する] に設定したときと、[しない] に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- AEロック撮影時を含む撮影開始時に、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

参考

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 光源の変化などにより、画面にちらつきが発生したときは、 を押して、[フリッカーレス撮影] を選び、 ボタンを押して、フリッカー検知動作を行ってください。
- かんたん撮影ゾーンのときは、フリッカーの低減処理は行われません。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

被写体の明るさの測り方（測光モード）を、4種類の中から選ぶことができます。通常は、評価測光をおすすめします。かんたん撮影ゾーンでは、評価測光に自動設定されます。

1. [📷: 測光モード] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



-  : 評価測光
逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。
-  : 部分測光
逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面に部分測光範囲が表示されます。
-  : スポット測光
被写体の特定の部分を測光するとき有効です。画面にスポット測光範囲が表示されます。
-  : 中央部重点平均測光
画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

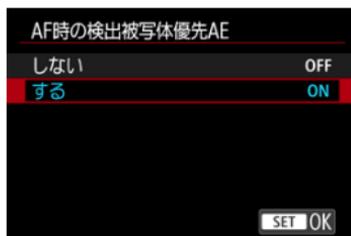
🚫 注意

-  (評価測光) は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定 (AEロック) されます ([ワンショットAF] 時)。 (部分測光) /  (スポット測光) /  (中央部重点平均測光) は、撮影する瞬間に露出が決まります (半押しによる露出値の固定なし)。

[AF: 検出する被写体] の設定で検出した被写体に合わせた測光を行います。

1. [📷: AF時の検出被写体優先AE] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 項目を選ぶ



- [する] を選ぶと、被写体を検出したAFフレームまたはAFエリアに合わせた測光を行います。
- [しない] を選ぶと、画面全体に合わせた測光を行います。

⚠ 注意

- 静止画撮影時では、[📷: 測光モード] が [評価測光] のときのみ [する] に設定できます。
- 手動ピント合わせ (MF) 時には機能しません。

📖 参考

- [AF: 検出する被写体] で [なし] を選んだときも、画面全体に合わせた測光を行います。

- [ピクチャースタイル](#)
- [カラーフィルター](#)
- [カスタムピクチャー](#)

動画または静止画の画像特性を、被写体や目的に合わせて、ピクチャースタイル、カラーフィルター、カスタムピクチャーのメニューから設定できます。

1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍, 🔍)
2. 項目を選ぶ



- [INFO] を選ぶと、各項目の設定メニューが表示されます。

ピクチャースタイル

ピクチャースタイルは、用意された項目を選ぶと効果的な画像特性が得られる機能です。

ピクチャースタイル		📷	📷	📷	📷	📷
📷 オート	4, 2, 3, 0, 0, 0					
📷 スタンダード	4, 2, 3, 0, 0, 0					
📷 ポートレート	3, 2, 4, 0, 0, 0					
📷 風景	5, 2, 3, 0, 0, 0					
📷 ティテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0					
📷 ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0					

INFO 詳細設定 SET OK

各スタイルの画像特性

● オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

参考

- [オート] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

● スタANDARD

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

● ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

[設定内容と効果](#)の【色あい】を変えると、肌色を調整することができます。

● 風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

● ディテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

● ニュートラル

パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

● 忠実設定

パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

● モノクロ

白黒写真になります。

注意

- [モノクロ] の設定で撮影したJPEG/HEIF画像を、カラー写真に戻すことはできません。

● **[設定] ユーザー設定1~3**

[ポートレート] や [風景]、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます (設定)。登録されていないときは、[オート] の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、[シャープネス] の [強さ] [細かさ] [しきい値] や、[コントラスト] などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。

ピクチャースタイル [設定] [設定] [設定] [設定]		ピクチャースタイル [設定] [設定] [設定] [設定]	
[設定] オート	4, 2, 3, 0, 0, 0	[設定] ティテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0
[設定] スタANDARD	4, 2, 3, 0, 0, 0	[設定] ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0
[設定] ポートレート	3, 2, 4, 0, 0, 0	[設定] 忠実設定	0, 2, 2, 0, 0, 0
[設定] 風景	5, 2, 3, 0, 0, 0	[設定] モノクロ	4, 2, 3, 0, N, N
[設定] ティテール重視	4, 1, 1, 0, 0, 0	[設定] ユーザー設定1	オート
[設定] ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0	[設定] ユーザー設定2	オート
INFO 詳細設定	SET OK	INFO 詳細設定	SET OK

①	シャープネス		
			強さ
			細かさ
			しきい値
②	コントラスト		
③	色の濃さ		
④	色あい		
⑤	フィルター効果 (モノクロ)		
⑥	調色 (モノクロ)		

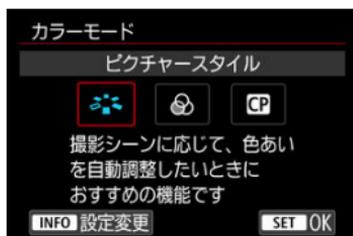
⚠ 注意

- 動画撮影時、[シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、「*、*」と表示されま
す。また、動画撮影時は [細かさ] [しきい値] は設定できません。

ピクチャースタイルの調整

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。[モノクロ]の調整については、[ピクチャースタイル モノクロの調整](#)を参照してください。

1. [📷: カラーモード] を選ぶ (📷, 📷)
2. [ピクチャースタイル] を選ぶ



- ピクチャースタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. スタイルを選ぶ



- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。

4. 項目を選ぶ



- 項目を選び、**<MENU>**を押します。
- 設定内容と効果については、[設定内容と効果](#)を参照してください。

5. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、**<MENU>**を押します。



- **<MENU>** ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

参考

- 動画撮影時は [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] の設定はできません (項目が表示されません)。
- 手順3で [初期設定] を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

設定内容と効果

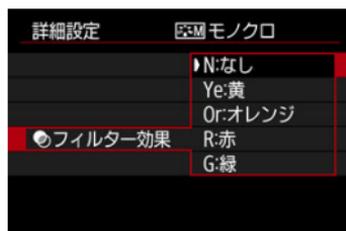
●	シャープネス			
	●	強さ	0 : 輪郭強調・控えめ	7 : 輪郭強調・強め
	●	細かさ ^{*1}	1 : 細かい	5 : 粗い
	●	しきい値 ^{*2}	1 : 小さい	5 : 大きい
●	コントラスト		-4 : 明暗差・弱	+4 : 明暗差・強
●	色の濃さ		-4 : 薄い	+4 : 濃い
●	色あい		-4 : 肌色が赤め	+4 : 肌色が黄色め

* 1 : 強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

* 2 : 「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

モノクロの調整

● フィルター効果



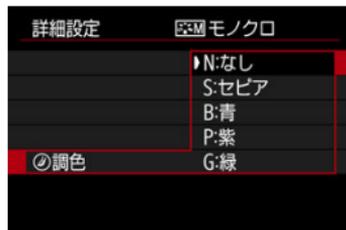
フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N:なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye:黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or:オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R:赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G:緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

参考

- [コントラスト] をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色



調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

ピクチャースタイルの登録

[ポートレート] や [風景] などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、[ユーザー設定1] から [ユーザー設定3] に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。

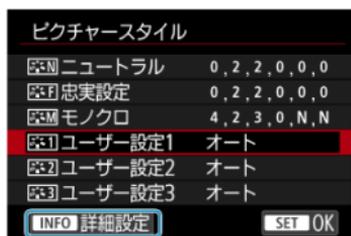
1. [📷: カラーモード] を選ぶ (📷, 📷)

2. [ピクチャースタイル] を選ぶ



- [ピクチャースタイル] を選び、〈INFO〉 ボタンを押します。

3. [ユーザー設定*] を選ぶ



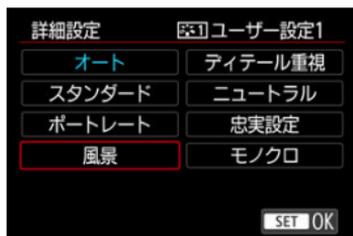
- [ユーザー設定*] を選び、〈INFO〉 ボタンを押します。

4. 〈SET〉 を押す



- [ピクチャースタイル] が選ばれた状態で 〈SET〉 を押します。

5. 基本にするスタイルを選ぶ



- 基本にするスタイルを選び、〈〉を押します。

6. 項目を選ぶ



- 項目を選び、〈〉を押します。

7. 効果の度合いを設定する



- 効果の度合いを設定し、**⏹**を押します。
- 詳しくは、[ピクチャースタイルの調整](#)を参照してください。

ピクチャースタイル	
Ⓜ ニュートラル	0, 2, 2, 0, 0, 0
Ⓜ 忠実設定	0, 2, 2, 0, 0, 0
Ⓜ モノクロ	4, 2, 3, 0, N, N
Ⓜ ユーザー設定1	風景
Ⓜ ユーザー設定2	オート
Ⓜ ユーザー設定3	オート

INFO 詳細設定 SET OK

- **⏹** ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- **[ユーザー設定*]** の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- **[ユーザー設定*]** に登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

⚠ 注意

- **[ユーザー設定*]** にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- **⏹ : カメラの初期化** で **[基本設定]** を選ぶと、**[ユーザー設定*]** に設定したスタイルと内容が初期化されます。

📖 参考

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した **[ユーザー設定*]** を選択してから撮影します。

カラーフィルター

用意されたフィルターを選んで、画像に効果を付けることができます。

1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [カラーフィルター] を選ぶ



3. カラーフィルターを選ぶ



フィルター名	フィルターの効果	推奨シーン
 StoryTeal&Orange	マットなトーンを基調として、暗部は青緑色、明部は橙色の効果をかける	日中でコントラストの強いシーン、ライティングされた部屋など明暗差のあるシーン
 StoryMagenta	マットなトーンを基調として、全体的に赤紫色の効果をかける	
 StoryBlue	マットなトーンを基調として、全体的に青色の効果をかける	
 PaleTeal&Orange	暗部は青緑色、明部は橙色の効果をかける	明暗差があり、橙色や黄色系統の色を含むシーン
 RetroGreen	彩度を低くし、全体的に緑色の効果をかける	古い建物、街並み
 Sepiatone	彩度を低くし、全体的にセピア調の効果をかける	
 AccentRed	赤系統以外の彩度を低くする	赤系統の色を含むシーン
 TastyWarm	彩度を高く、中間調を明るくして、全体的に暖色の効果をかける	暖色系の飲食物を含むシーン
 TastyCool	彩度を高く、中間調を明るくして、全体的に寒色の効果をかける	寒色系の飲食物を含むシーン
 BrightAmber	コントラストを低く、暗い雰囲気を保ちながら暗部を明るくして、暖色の効果をかける	暖色の光源で照らされた薄暗いシーン
 BrightWhite	コントラストを低く、暗い雰囲気を保ちながら暗部を明るくして、寒色の効果をかける	
 ClearLightBlue	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い青色の効果をかける	明るい夜の街並みや室内
 ClearPurple	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い紫色の効果をかける	
 ClearAmber	コントラストを低く、暗部を明るくして、全体的に薄い橙色の効果をかける	

⚠ 注意

- カラーフィルターによっては、グラデーションが滑らかに再現できなかったり、ノイズが発生することがあります。
- カメラの設定や被写体によっては、意図した色味にならないことがあります。



本カメラは、動画撮影時に色調を調整する設定項目（ガンマ/色空間、カラーマトリクス、Lookファイル）を組み合わせた、映像制作向けの画作りが可能な、「カスタムピクチャーファイル」が搭載されています。

- カスタムピクチャーファイルを選ぶことで、目的に合わせた画像特性で動画撮影することができます。
- カスタムピクチャーファイルを編集して、新規のカスタムピクチャーファイルを作成することができます。
- Lookファイルを登録することで、映像の色調を調整することができます。

⚠ 注意

- カスタムピクチャーを適用すると、適用前と測光値が異なる場合があります。

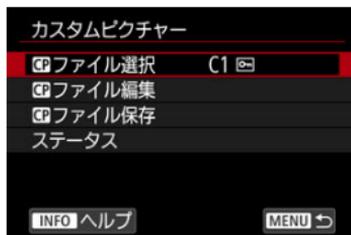
カスタムピクチャーファイルの選択

1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍)
2. [カスタムピクチャー] を選ぶ



- [カスタムピクチャー] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. [CPファイル選択] を選ぶ



4. カスタムピクチャーファイルを選ぶ



カスタムピクチャーファイル	ガンマ/色空間	Lookファイル	カラーマトリクス	概要
C1 : Canon 709	Canon 709 / BT.709	切	Neutral	BT.709 Standardより広いダイナミックレンジを実現 BT.709準拠モニターでの表示に適した設定 ポストプロダクション処理なしの場合にも適した設定
C2 : Canon Log 3	Canon Log 3 / C.Gamut	切	Neutral	ポストプロダクション処理を前提としたCanon Log 3ガンマを使用 Canon Logの特徴を残したままダイナミックレンジを拡大
C3 : PQ	PQ / BT.2020	切	Neutral	ITU-R BT.2100 (PQ)規格に準拠 (記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (PQ)規格相当) したHDR映像用ガンマを使用
C4 : HLG	HLG / BT.2020	切	Neutral	ITU-R BT.2100 (HLG)規格に準拠 (記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (HLG)規格相当) したHDR映像用ガンマを使用
C5 : BT.709 Standard	BT.709 Standard / BT.709	切	Video	BT.709準拠モニターでの表示に適した設定 ITU-R BT.709規格に準拠したガンマを使用
C6 : User06~ C20 : User20	Canon 709 / BT.709	切	Neutral	BT.709 Standardより広いダイナミックレンジを実現 BT.709準拠モニターでの表示に適した設定 ポストプロダクション処理なしの場合にも適した設定

カスタムピクチャーの編集

選択したカスタムピクチャーファイルの設定を編集することができます。

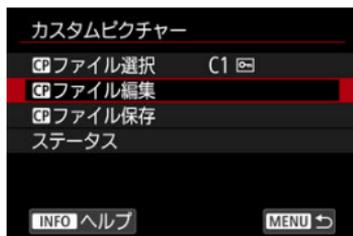
1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔗)

2. [カスタムピクチャー] を選ぶ

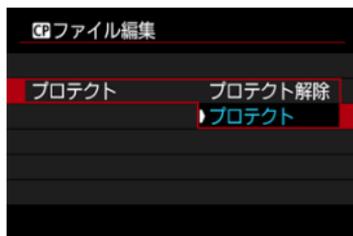


- [カスタムピクチャー] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. [CPファイル編集] を選ぶ



- [🔗] が表示されているカスタムピクチャーファイルを編集する場合は、[プロテクト] で [プロテクト解除] を選び、編集可能な状態にしておきます。

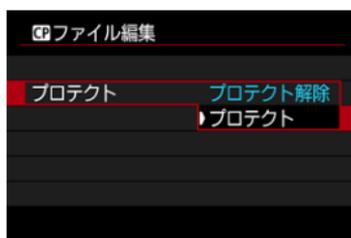


4. 設定を編集する



- 編集したい設定を選び、表示された画面で設定を変更します (ⓧ)。
- 編集したカスタムピクチャーファイルを新規名称で登録するときは、**[名称変更]** を選んで名称を入力します。
- 編集をリセットするときは、**[リセット]** を選んで対象のカスタムピクチャーファイルを選択します。
- Lookファイルについては、[Lookファイルの使用](#)を参照してください。

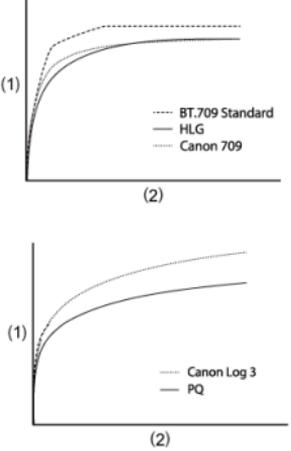
5. プロテクトする



- 編集が終わったら、**[プロテクト]** を選びます。

カスタムピクチャーの設定項目

【CPファイル編集】で設定できる項目について説明します。

設定項目	内容	
Gamma/Color Space ガンマと色空間の組み合わせを設定		
ガンマ	<p>(1) 出力 (2) 入力</p>  <p>Legend for top graph: BT.709 Standard — HLG - - - Canon 709</p> <p>Legend for bottom graph: Canon Log 3 — PQ</p>	
	Canon Log 3	Canon Logの特徴を残したまま、ダイナミックレンジを広くしたガンマ ポストプロダクション処理が前提
	PQ	ITU-R BT.2100(PQ)規格に準拠（記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (PQ)規格相当）したHDR映像用ガンマ
	HLG	ITU-R BT.2100(HLG)規格に準拠（記録信号形式が8 bitのときは、ITU-R BT.2100 (HLG)規格相当）したHDR映像用ガンマ
	BT.709 Standard	ITU-R BT.709規格に準拠したガンマ BT.709準拠モニターでの表示に適した設定
	Canon 709	広いダイナミックレンジを確保しつつ、ポストプロダクション処理なしでの使用にも適したガンマ BT.709準拠モニターで見るときに適した設定
色空間	C.Gamut	撮像素子の特性に基づいてキヤノンが開発した色空間で、BT.2020より広い色域をカバー ACES2065-1色空間に変換して使用する場合にも、C.Gamutの適用を推奨
	BT.2020	UHDTV（4K/8K）用に規定された、ITU-R BT.2020規格に準拠した色空間
	BT.709	sRGB規格に準拠した標準的な色空間

Color Matrix 色再現の設定		
	Neutral	忠実な色再現
	Production Camera	映画制作作用の色再現
	Video	TV放送に適した、コントラストのある色再現
Look File Lookファイルの使用		
	入	Lookファイルによる色調調整を有効にする
	切	Lookファイルによる色調調整を無効にする
Look File設定 Lookファイルの登録と消去		
	登録	Lookファイル (.cube形式) をカスタムピクチャーに登録する
	消去	カスタムピクチャーに登録したLookファイルを消去する
HLG Color HLG (Hybrid Log-Gamma) の色味を設定 【Gamma/Color Space】のガンマが【HLG】、色空間が【BT.2020】のときに設定可能		
	BT.2100	ITU-R BT.2100 相当の色味
	Vivid	ITU-R BT.2390 記載のTraditional Colour 相当の色味
Black 黒のレベルを調整 【Gamma/Color Space】のガンマが【Canon Log 3】のときは設定できない		
Master Pedestal	-50~+50	黒のレベルを調整する。値を高くするほど暗部が明るくなり、コントラストが弱くなる。マイナスの値にすると、黒が沈む
Master Black Red Master Black Master Green Master Black Blue	-50~+50	黒の色かぶりを、Red/Green/Blue個別で補正する

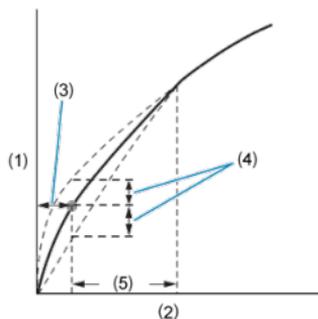
Black Gamma

低輝度部のガンマを補正

下図の範囲内で、Black（黒）側のガンマカーブを調整する

[Gamma/Color Space] のガンマが [BT.709 Standard] のときに調整可能

- (1) 出力
- (2) 入力
- (3) Point
- (4) Level
- (5) Range



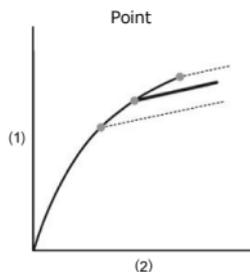
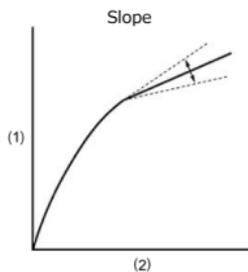
Level	-50~+50	基準ガンマからの高さを設定する
Range	-20~+50	Pointからの幅を設定する
Point		頂点の位置を設定する
Low Key Saturation 低輝度領域の色の濃さ、薄さを調整		
Activate	On, Off	[On] にすると調整が可能になる
Level	-50~+50	調整値を設定する

Knee

高輝度部分に圧縮をかけて、ハイライト部分の白とびを抑制

【Gamma/Color Space】のガンマが【BT.709 Standard】のときに設定可能

- (1) 出力
(2) 入力



Activate	On, Off	【On】にすると、各項目の調整が可能になる
Slope	-35~+50	Kneeの傾きを調整する
Point	50~109	Kneeポイントを調整する
Saturation	-10~+10	高輝度部分の色の濃さ、薄さを調整する

Sharpness シャープネスの調整		
Level	-10~+50	輪郭強調のレベルを調整する
Detail Frequency	-8~+8	輪郭強調の中心周波数を設定する 設定値を大きくするほど周波数が高くなり、輪郭強調は細くなる
Coring Level	-30~+50	周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するかのレベルを設定 設定値を大きくすると、微小な輪郭が強調されなくなり、ノイズが低減される
Limit	-50~+50	輪郭強調の大きさを制限するレベルを調整する
Noise Reduction ノイズの抑制		
Automatic	On, Off	[On] にすると、自動調整が行われる
Spatial Filter	Off, 1~12	画像全体がソフトフォーカスをかけたようになりノイズを除去する [Off] 以外に設定すると、残像は発生しないが、画面全体がソフトに表現される
Frame Correlation	Off, 1~3	数値を設定すると、前の画像（フィールド）と現在の画像を比較してノイズを除去する処理が行われる 解像感の低下は抑制されるが、動いている被写体では残像が発生することがある
Skin Detail 肌を美しく撮影するための設定 設定内容に従って肌色部分を検出し、ノイズを低減する処理を行う 検出した肌色部分は、画像上にゼブラパターンとして表示される		
Effect Level	Off, Low, Middle, High	肌を美しく演出するフィルターのレベルを設定（最高は [High]）する
Hue	-16~+16	検出する肌色の色相を設定する
Chroma		検出する肌色の彩度を設定する
Area	0~31	検出する肌色の色相の幅を設定する
Y Level		検出する肌色の輝度レベルを設定する
Color Matrix Tuning 映像の色調の微調整		
Gain	-50~+50	色の濃さを調整する
Phase	-18~+18	色相を調整する
R-G		シアンからグリーン、レッドからマゼンタの色調を調整する
R-B		シアンからブルー、レッドからイエローの色調を調整する
G-R		マゼンタからレッド、グリーンからシアンの色調を調整する
G-B	-50~+50	マゼンタからブルー、グリーンからイエローの色調を調整する
B-R		イエローからレッド、ブルーからシアンの色調を調整する
B-G		イエローからグリーン、ブルーからマゼンタの色調を調整する

Color Correction		
特定の範囲の色調を補正する設定 設定内容に従って補正する範囲を検出する 補正範囲の設定中、検出された範囲以外は、画像上に無彩色で表示される（[Area A Revision Level]、[Area B Revision Level]、[Area A Revision Phase]、[Area B Revision Phase]の調整中は除く）		
Select Area	Off, Area A, Area B, Area A&B	色を補正する範囲を、Aエリア、またはBエリアとして指定する [Area A] では、Aエリアで補正が行われる [Area B] では、Bエリアで補正が行われる [Area A&B] では、AエリアとBエリアで補正が行われる
Area A Setting Phase		Aエリアの色相を設定する
Area A Setting Chroma	0~31	Aエリアの彩度を設定する
Area A Setting Area		Aエリアの色相の幅を設定する
Area A Setting Y Level		Aエリアの輝度レベルを設定する
Area A Revision Level	-50~+50	Aエリアの色の濃さの補正量を設定する
Area A Revision Phase	-18~+18	Aエリアの色相の補正量を設定する
Area B Setting Phase		Bエリアの色相を設定する
Area B Setting Chroma	0~31	Bエリアの彩度を設定する
Area B Setting Area		Bエリアの色相の幅を設定する
Area B Setting Y Level		Bエリアの輝度レベルを設定する
Area B Revision Level	-50~+50	Bエリアの色の濃さの補正量を設定する
Area B Revision Phase	-18~+18	Bエリアの色相の補正量を設定する
Other Functions		
[Over 100%] では、100%を超える信号の出力方法を設定する		
[Gamma/Color Space] のガンマが [BT.709 Standard] のときに設定可能		
Over 100%	Through	信号をそのまま出力する
	Press	108%までの信号全体を100%に圧縮する
	Clip	100%を超える信号は使用しない

カスタムピクチャーの設定確認

カスタムピクチャーファイルの設定内容は、[カスタムピクチャー] 画面から確認できます。

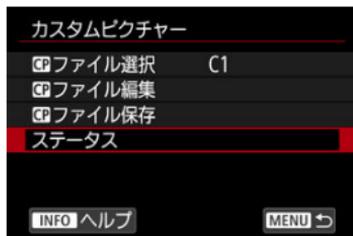
1. [📷: カラーモード] を選ぶ (🔍)

2. [カスタムピクチャー] を選ぶ



- [カスタムピクチャー] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. [カスタムピクチャー] 画面で [ステータス] を選ぶ



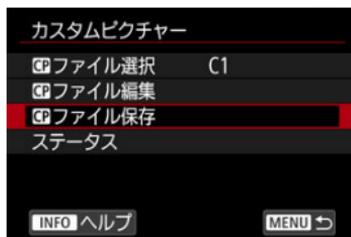
4. 設定内容を確認する



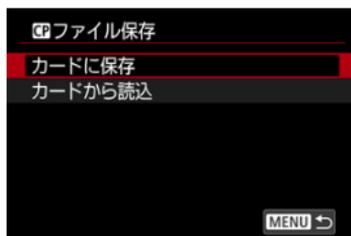
カスタムピクチャーファイルの保存と読込

編集したカスタムピクチャーファイルは、カードに保存して、同じ機種別のカメラで使用することができます。

1. 保存するカスタムピクチャーファイルを選ぶ (🔍)
2. [カスタムピクチャー] 画面で [CPファイル保存] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



- **カードに保存**
編集したカスタムピクチャーファイルを保存します。保存先を選び、[OK] を選びます。
20ファイルまで保存することができます。保存されているファイルが20ファイル未満のときは、保存するときに [新規ファイル] が表示されます。20ファイルが保存済のときは、新たに保存するファイルで上書きが行われます。
- **カードから読込**
カードに保存されたカスタムピクチャーファイルを読み込みます。読み込むファイルを選び、[OK] を選びます。

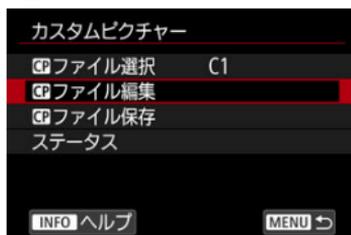
Lookファイルの使用

Blackmagic Design社のDaVinci Resolveで作成した、Lookファイル（.cube形式、17または33グリッドの3D LUTファイル）をカスタムピクチャーファイルに登録して、記録する映像の色調を調整することができます。

Lookファイルの登録

登録するLookファイルは、あらかじめカードにコピーしておきます。

1. カードをカメラに入れる
2. カスタムピクチャーファイルを選ぶ (📷)
3. [CPファイル編集] を選ぶ



- [📷] が表示されているカスタムピクチャーファイルを編集する場合は、[プロテクト] で [プロテクト解除] を選び、編集可能な状態にしておきます。
- カスタムピクチャーファイルの編集とLookファイルの登録を同時に行うときは、先にLookファイルの登録以外の作業を行います。

4. [Look File設定] を選ぶ



5. [登録] を選ぶ



- カード内のLookファイルが表示されます。

6. Lookファイルを選ぶ

7. Lookファイルを適用した後のガンマ/色空間を選ぶ

8. [OK] を選ぶ

⚠ 注意

- 以下のLookファイルは使用できません。
 - ヘッダー部の「LUT_3D_INPUT_RANGE」に、0~1以外の入力レンジが定義されている
 - ファイルサイズが2MB以上、またはファイル名が65文字（拡張子を含む）以上
 - ファイル名に使用可能な文字以外が使用されている
使用可能な文字：0~9、a~z、A~Z、「_」（アンダーバー）、「-」（ハイフン）、「.」（ドット）、「 」 （半角スペース）
 - データ部に0~1以外の値が含まれている
- 入力/出力のガンマ/色空間が適切でない場合は、映像の色調が正しく変換されません。
- Lookファイルを登録後に、[Gamma/Color Space]、[HLG Color]、[Over 100%] の設定を変更すると、登録したLookファイルの使用はできません。
- [Gamma/Color Space] のガンマが [BT.709 Standard] のときは、100%を超える信号、または0%未満の信号は使用されなくなります。100%を超える信号を使用するときは、[Over 100%] で [Press] を選んでから、Lookファイルを登録してください。

Lookファイルによる色調調整

登録したLookファイルを使用して色調調整を行うことができます。

1. [CPファイル編集] 画面で [Look File] を選ぶ

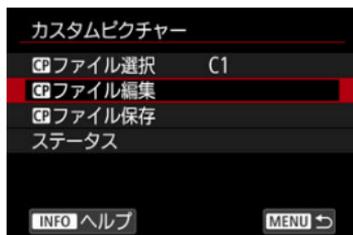
2. [入] を選ぶ

- Lookファイルによる色調調整を無効にするときは、[切] を選びます。

Lookファイルの消去

1. カスタムピクチャーファイルを選ぶ (📷)

2. [CPファイル編集] を選ぶ



3. [Look File設定] を選ぶ



4. [消去] を選ぶ

5. [OK] を選ぶ

Canon Logの画質

- Canon Log設定時は、空や白壁などのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、被写体条件や撮影条件によって露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。また、被写体の暗い部分で縞やノイズが目立つことがあります。
- コントラストなどを強くすると、ノイズが目立ちやすくなります。
- 事前にテスト撮影を行い、映像の状態を確認しておくことをおすすめします。
- ISO感度の変更や、撮影後のグレーディング処理などで画質が改善する場合があります。

⚠ 注意

- Canon Log撮影時は、通常の動画撮影時に比べ、低輝度下の被写体や、明暗差（コントラスト）の少ない被写体に対して、AFでピントが合いにくいことがあります。AFが合わない場合は、絞りを開放側に設定するか、明るいレンズを使用することでピントが合わせやすくなります。
- Canon Log設定時は、**[📷: レンズ光学補正]** の **[周辺光量補正]** を **[する]** に設定していると、映像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- **[📷: 📷⏪▶ HDR/C.Logビューアシスト]** で「入」の項目を選んでいるときのヒストグラムはビューアシスト表示によって変化するものではありません。ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。

画像エッジ部のコントラスト（明瞭度）を調整することができます。
マイナス側に設定するとソフトな印象になり、プラス側に設定するとくっきりした印象の画像になります。

1. [📷: 明瞭度] を選ぶ (🔍、🔍)

2. 効果の度合いを設定する



⚠ 注意

- 明瞭度を設定すると、明暗差が大きい場合に境界部の周辺が暗くなったり、または明るくなったりすることがあります。
- 設定内容は、静止画撮影時のモニター映像には反映されません。

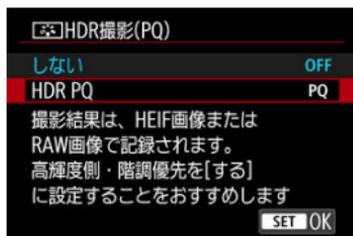
【HDR撮影(PQ)】では、ITU-R BT.2100およびSMPTE ST.2084で定義されたPQ (HDR画像を表示するための入力信号のガンマカーブ) 規格に準拠したHDR画像 (白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い画像) を撮影することができます。

参考

- HEIF画像またはRAW画像で記録されます。
- HDR対応ディスプレイの使用をおすすめします。
- 表示される画像は、モニター性能に依存します。

1. 【 : HDR撮影(PQ)】を選ぶ ()、()

2. 【HDR PQ】を選ぶ



- モニターに **VAssist** と **HDR PQ** のアイコンが表示されます。
- モニターの表示は、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が近づくように変換されます。

注意

- 【 : **動画記録形式**】が **[XF-AVC S YCC420 8bit]** のときは、**[HDR PQ]** の設定はできません。
- HDR非対応ディスプレイでの表示では、HDR対応ディスプレイ表示時と印象が異なることがあります。
- ヒストグラムでグレー表示されている領域は、使用されない信号値の目安になります。
- 【 : **表示フレームレート設定**】は **[なめらかさ優先]** に設定されます。

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。HDR撮影では、暗部の階調の再現性を高めるため、露出を変えて撮影した3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を合成して、暗部の領域を明るく補正したHDR画像を生成します。HDR画像はHEIFまたはJPEG画質で記録されます。

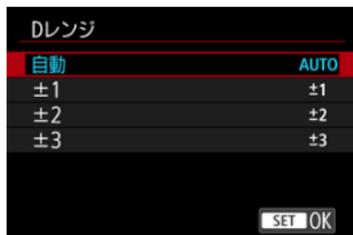
* HDRはHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。

1. :  HDRモード を選ぶ (🔖)

2. [する] を選ぶ



3. [Dレンジ] を設定する



- [自動] を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、手順2で [しない] を選びます。

4. [最大輝度レンジ制限] を設定する ([カメラ] : [HDR撮影(PQ)]) が [HDR PQ] のときのみ)



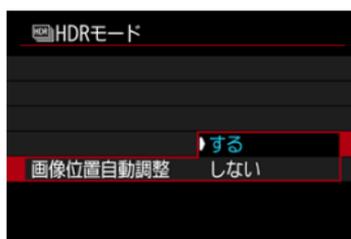
- [しない] を選んだときは、最大輝度レンジは制限されません。撮影画像を、1000nit以上の輝度表示が可能なモニターで確認するときにおすすめます。
- [1000nit] を選んだときは、最大輝度レンジが約1000nitに制限されます。

5. [HDR撮影の継続] を設定する



- [1回で終了] を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- [繰り返し] を選んだときは、手順2で [しない] を選ぶまでHDR撮影が続きます。

6. [画像位置自動調整] を設定する



- 手持ち撮影を行うときは [する]、三脚などを使用するときは [しない] を選びます。

7. 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

ⓘ 注意

- 拡張ISO感度 (H) でHDR撮影を行うことはできません。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- RAW画質は選択できません。
- HDR撮影はシャッタースピードなどを自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため [Tv] [M] モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードやISO感度が変わります。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。
- [画像位置自動調整] を [する] に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報 (📷)、およびダストデリットデータ (📷) は画像に付加されません。
- [画像位置自動調整] を [する] に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい (または暗い) 露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- [画像位置自動調整] を [しない] に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、フリッカーの影響によりHDR画像に色ムラや露出ムラなどが発生することがあります。[フリッカーレス撮影] を [する] にして撮影すると、フリッカーによる影響が軽減できる場合があります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はモニターに [BUSY] が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。

1.  : オートライティング最適マイザ を選ぶ ( , )
2. 補正内容を設定する



注意

- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティング最適マイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、**【弱め】** または **【しない】** に設定して撮影してください。
- **【しない】** 以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、**【しない】** に設定してください。

参考

- 手順2で **〈INFO〉** ボタンを押して **【M, Bulb時はOFF】** の **【✓】** を外すと、**【M】** **【B】** モードでも **【 : オートライティング最適マイザ】** が設定できるようになります。

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。

1.  : 高輝度側・階調優先] を選ぶ (🔍、🔍)
2. 内容を設定して撮影する



- [する] を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- [強] 設定時は、撮影シーンによって [する] 設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

⚠ 注意

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- [強] に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

📖 参考

- <COLOR> ボタンを押してチェックを入れると、 :  HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定したときに、 : 高輝度側・階調優先] が [する] に固定されます。
-  : HDR] HDRモード] が [する] のときは、 :  HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定しても  : 高輝度側・階調優先] は [しない] に設定されます。

- [ホワイトバランスについて](#)
- [\[AWB\] オートホワイトバランス](#)
- [\[白丸\] マニュアルホワイトバランス](#) 応用
- [\[K\] 色温度](#)

ホワイトバランス (WB) は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート [AWB] (雰囲気優先)、または [AWBW] (ホワイト優先) で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンの場合は、[AWB] (雰囲気優先) に自動設定されます。([P] モードのときは [AWBW] (ホワイト優先))

1.  [ホワイトバランス] を選ぶ (☑、☑)
2. 項目を選ぶ



-  を回してホワイトバランスの項目を選びます。

参考

- [AWB] [AWBW] の設定方法については、[\[AWB\] オートホワイトバランス](#)を参照してください。
- 色温度を [K1] [K2] [K3] [K4] に登録しておくことができます。[K1] ~ [K4] を選び、 を回して設定します。

(約)

表示	モード	色温度 (K : ケルビン)
	オート (雰囲気優先)	3000~7000
	オート (ホワイト優先)	
	太陽光	5200
	日陰	7000
	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
	白熱電球	3200
	白色蛍光灯	4000
	ストロボ使用	自動設定*
	マニュアル	2000~10000
	色温度	2500~10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。カメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

【AWB】オートホワイトバランス

【AWB】（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。

【AWBW】（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。

1. 【📷: ホワイトバランス】を選ぶ (🔍、🔍)

2. 【AWB】を選ぶ



- 【AWB】を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。

3. 項目を選ぶ



📢 注意

【AWBW】（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

マニュアルホワイトバランス (MWB) は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

カード内の画像から登録する場合

1. 白い被写体を撮影する



- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス) (🔍) に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。

⚠ 注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを【モノクロ】に設定して撮影した画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像、クリエイティブフィルター画像は、選択できません。

2. [📷: MWB画像選択] を選ぶ (🔍, 📷)

3. ホワイトバランスデータを取り込む



- 手順1で撮影した画像を〈◀〉〈▶〉で選び、〈⊕〉を押します。
- [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。

4. [📷: ホワイトバランス] を選ぶ (⏏、⏏)

5. [📷] を選ぶ



画像を撮影して登録する場合

1.  を押す
2. ホワイトバランスを選ぶ



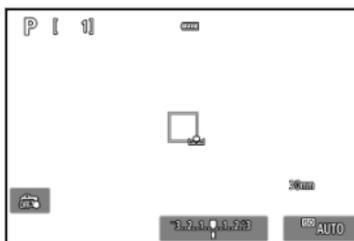
-   を押して選びます。

3. [画像を撮影して登録] を選ぶ



-  を回して  を選び、**〈MENU〉** ボタンを押します。

4. 白い被写体を撮影する



- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）（）に設定して、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- カメラにMWBデータが登録されます。

注意

- 撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。

参考

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

【K】色温度

ホワイトバランスの色温度を数値で設定することができます。

1. [📷: ホワイトバランス] を選ぶ (📷、📷)
2. 色温度を選ぶ



3. 色温度を設定する



- 〈📷〉を回して色温度を設定し、〈📷〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

📷 参考

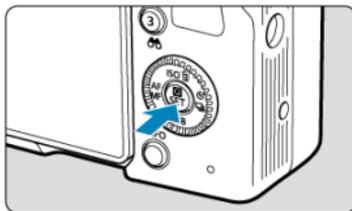
- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ/グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を【K】に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

ホワイトバランス補正

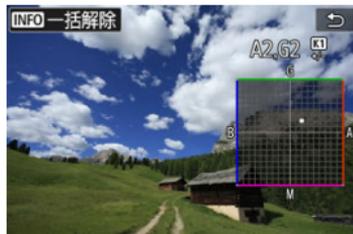
設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

ホワイトバランス補正

1.  : WB補正] を選ぶ (、)
2. ホワイトバランスを補正する



設定例：A2, G1



-  を押して画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンパー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上に、補正方向と補正量が表示されます。
-  ボタンを押すと、 : WB補正] の設定を一括解除することができます。
-  を押すと設定が終了します。

 参考

- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

- [周辺光量補正](#)
- [歪曲収差補正](#)
- [フォーカスブリージング補正](#)
- [デジタルレンズオプティマイザ](#)
- [色収差補正](#)
- [回折補正](#)

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。[**レンズ光学補正**]の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。

1. [: レンズ光学補正] を選ぶ (☞、☞)

2. 項目を選ぶ



3. 設定を選ぶ



- 装着しているレンズの名称と、[補正データあり]が表示されていることを確認します。
- [補正データなし]や[無]が表示されたときは、[デジタルレンズオフティマイザ](#)を参照してください。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

⚠ 注意

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

📖 参考

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

⚠ 注意

- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 画像の周辺部分がトリミングされる量は、静止画と動画で異なることがあります。

📖 参考

- RFレンズ使用時は、動画撮影時に歪曲収差補正を行うことができます。

フォーカスブリージング補正

動画撮影中にピント位置が変わることにより起こる画角の変動を軽減することができます。**[歪曲収差補正]**が**[する]**のときに設定できるようになります。

ⓘ 注意

- 静止画撮影時は、**[フォーカスブリージング補正]**は表示されません。
- フォーカスブリージング補正により画角が狭くなります。その量は撮影条件によって異なります。
- フォーカスブリージング補正をすると、画像処理により解像感・ノイズ感が劣化する場合があるので、確認の上ご使用ください。
- レンズ側にある撮影距離範囲切り換えスイッチの位置に応じて最適な補正がかかります（この機能はMF時にも適用されます）。撮影距離範囲切り換えスイッチの設定範囲外の撮影距離の場合は、その分の像倍率補正は適用されません。
- 動画記録中に撮影距離範囲切り換えスイッチを動かすと、画角が急に変わった動画が記録されます。
- 装着レンズや撮影条件によっては、補正残りが発生する場合があります。
- この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。

なお、[デジタルレンズオプティマイザ]で[補正データなし]や[無]が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

⚠ 注意

- [強め] 設定時は、画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- [強め] 設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。
- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くなる場合があります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、[デジタルレンズオプティマイザ]を[しない]に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、[デジタルレンズオプティマイザ]は表示されません（補正できません）。
- デジタルレンズオプティマイザの効果は、撮影時の画面では確認できません。

📖 参考

- [デジタルレンズオプティマイザ]を[標準]または[強め]に設定したときは、[色収差補正][回折補正]は表示されませんが、ともに[する]の設定で撮影されます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

参考

- [デジタルレンズオブティマイザ] を [標準] または [強め] に設定したときは、[色収差補正] は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

⚠ 注意

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[回折補正]** は表示されません（補正できません）。
- 回折補正の効果は、撮影時の画面では確認できません。

📖 参考

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- **[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[標準]** または **[強め]** に設定したときは、**[回折補正]** は表示されません。

⚠ 注意

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG/HEIF画像に、後からレンズ光学補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**[補正データあり]** と表示されていても、**[しない]** に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

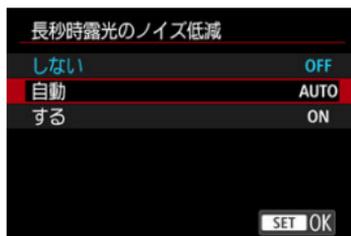
📖 参考

各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正 **[しない]** と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。

1. [📷: 長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ (🔗)
2. 低減内容を設定する



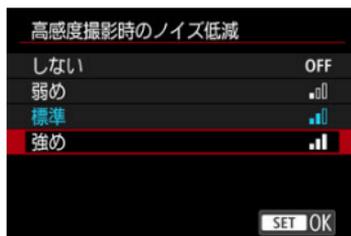
- **自動**
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。
- **する**
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。[自動] で検出できないノイズがあったときに [する] で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

⚠ 注意

- [自動] [する] 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となる場合があります。
- [しない] [自動] 設定時よりも [する] 設定時の方が、画像のザラつきが多くなる場合があります。
- ノイズ低減処理中は、[BUSY] が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。

1. [📷: 高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ (🔍、🔍)
2. レベルを設定する



- 弱め、標準、強め
設定の強さに応じて、ノイズ低減処理が行われます。

事前準備

ダストデリートデータの付加

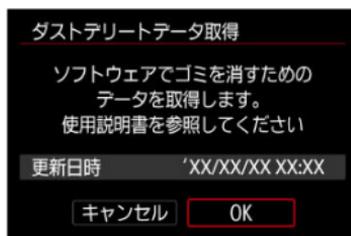
ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

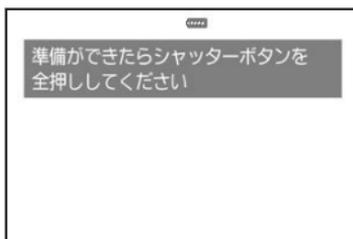
- RFレンズ/EFレンズを使用する。
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- 手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） に設定して、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

1. ：ダストデリートデータ取得] を選ぶ 

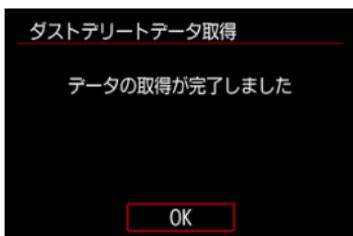
2. [OK] を選ぶ



3. 真っ白な無地の被写体を撮影する



- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入ってなくてもデータを取得することができます。



- 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。
- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。[事前準備](#)の内容を確認し、**[OK]**を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

取得したダストデリートデータは、その後に撮影されるすべての静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

⚠ 注意

- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われなかったことがあります。
- 以下の条件で撮影された画像には、ダストデリートデータは付加されません。
 - HDRモード撮影時
 - [📷: レンズ光学補正] の [歪曲収差補正] を [する] に設定しているとき



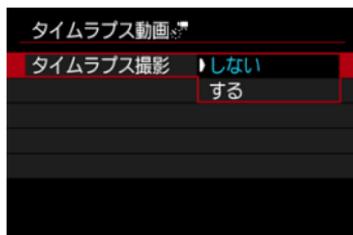
一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。なお、フレームレートは、[📷: システム周波数] の設定 (🔗) により自動的に切り換わります。

1. [📷: タイムラプス動画] を選ぶ (🔗)

2. [タイムラプス撮影] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



4. 撮影間隔を設定する



- [📷]：撮影所要時間 (1)、[▶]：再生時間 (2) を参考にして設定します。
- <⊕> を押して <⊖> の状態にします。
- <▲> <▼> で数値を設定し <⊕> を押します (<□> の状態に戻ります)。
- [OK] を選ぶと設定されます。

5. 撮影回数を設定する



- [🔴]：撮影所要時間 [▶]：再生時間を参考にして設定します。
- 項目（桁）を選びます。
- <Ⓢ>を押して<⏪>の状態にします。
- <▲><▼>で数値を設定し<Ⓢ>を押します（<□>の状態に戻ります）。
- [▶]：再生時間が赤く表示されていないことを確認します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

📖 参考

- タイムラプス動画が記録できるカード（要求カード性能）については、[記録時間](#)、[映像ビットレート](#)、[ファイルサイズの目安](#)、[要求カード性能](#)を参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。

6. 動画記録サイズを選ぶ

- 動画記録サイズを参照してください (📄)。

7. 動画記録形式を選ぶ

- 動画記録形式を参照してください (📄)。

8. [自動露出] を設定する



● 1枚目固定

1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

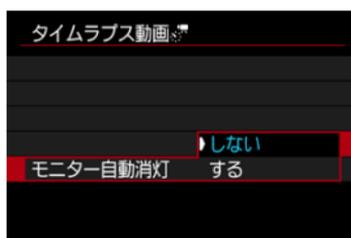
● 毎フレーム更新

2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、[オート] に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。

⚠ 注意

- [撮影間隔] が3秒以下で、[自動露出] が [毎フレーム更新] に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

9. [モニター自動消灯] を設定する



- **しない**
タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。
- **する**
撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

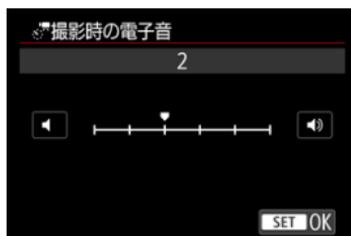
⚠ 注意

- [モニター自動消灯] を [しない] に設定しても、露光中はモニターが消灯します。また、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。

📖 参考

- タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。

10. [撮影時の電子音] を設定する



- [0] に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。

11. 設定内容を確認する



- **撮影所要時間 (1)**
撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えると、「***日」で表示されます。
- **再生時間 (2)**
動画として記録される時間です (= 動画再生に必要な時間)。

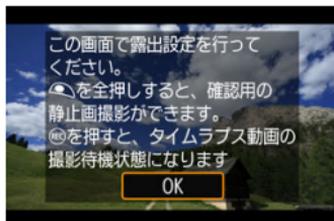
12. メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を消します。

13. テスト撮影する



- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間（1）」「撮影間隔（2）」を再確認します。
- 静止画撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、〈AF-ON〉ボタンを押してピントを合わせます。
- 動画撮影ボタンを押すと、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 以下の画面が表示されたら、撮影結果を確認して〔OK〕を選びます。

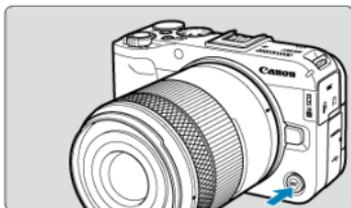


- もう一度テスト撮影するときには、この手順を繰り返します。

参考

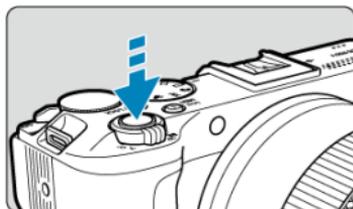
- テスト撮影画像は、JPEG  の画質で記録されます。
- [P] [Tv] [Av] モード、および [M] モード+ISOオートの設定時に、自動設定されるISO感度の上限を、[ISO感度に関する設定] の [ISOオートの上限] で設定することができます ()。
- [動画撮影時シャッターボタンの機能] の [半押し] が、[測光・動画サーボ] に設定されている状態で、タイムラプス動画撮影の設定を行うと、自動的に [測光・ワンショット] に切り換わります。

14. 動画撮影ボタン（前面）を押す



- タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順13に戻る時は、もう一度動画撮影ボタン（前面）を押します。

15. タイムラプス動画を撮影する



- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、「●」が表示されます。
- 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。
- タイムラプス動画撮影を解除するときは、[タイムラプス撮影]を[しない]に設定します。

参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前に手順13のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、動画撮影ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のおきも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき【再生時間】は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0 (8bit)、色空間は、フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

① 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、タイムラプス動画撮影はできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われなことがありません。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは **[Exp.SIM]** マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、**[: 動画撮影時シャッターボタンの機能]** の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始/終了することができます。
- **[撮影間隔]** が3秒以下で、**[自動露出]** が **[毎フレーム更新]** に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われなことがあります。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われなことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなる場合があります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、**[: タイムラプス動画]** を **[しない]** に設定してください。**[しない]** 以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ **[OFF]** などを行ったときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が **[しない]** になります。
- ストロボを使用しても発光しません。

- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が [しない] になります。
 - [カメラの初期化] の [基本設定] を選んだとき
 - モードダイヤルを回したとき
- 白い [0] (☑) が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い [0] が消えてから (カメラ内部の温度が下がってから) 撮影開始することをおすすめします。
- [自動露出] を [毎フレーム更新] に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報 (Exif情報) に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

参考

- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1 (別売) を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始/終了などを行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とペアリングを行ってください (☑)。
- テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態 (☑ 手順14の状態) にしたあと、BR-E1の撮影タイミング/動画撮影切り換えスイッチを、〈●〉即リリース (すぐに撮影)、または 〈2〉2秒後リリース (2秒後撮影) に設定してください。
- リモコンのスイッチが 〈P/A〉 に設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

カメラの状態/リモコン設定	〈●〉すぐに撮影 〈2〉2秒後撮影	〈P/A〉動画撮影
テスト撮影画面	テスト撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

映画のような画角とフレームレートでの動画撮影ができます。

1. [📷: シネマビュー] を選ぶ (🔗)

2. [入] を選ぶ



- 2.35 : 1のシネマスコープ画角で撮影されます。
- 16 : 9の画面の上下に黒い帯が表示された状態で記録されます。
- フレームレートは、23.98fps (NTSC) /25.00fps (PAL) に固定されます。

参考

- カラーフィルターを使用して、より映画のような雰囲気にすることができます (🔗)。

セルフタイマーを使って動画撮影を開始することができます。

1. [📷: 動画セルフタイマー] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



3. 撮影する

- 動画撮影ボタンを押すか、[●] にタッチすると、画面に撮影開始までの秒数が表示され、電子音が鳴ります。

📖 参考

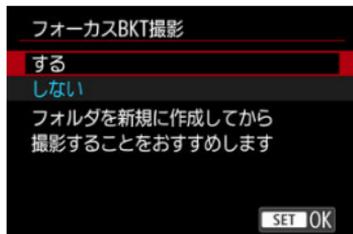
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、モニターにタッチするか、(🔍) を押します。

フォーカスBKT*1撮影は、1回のリリースで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成することができます。また、深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalなどを使用して画像を合成することもできます。

*1 「BKT」はBracketing（ブラケットिंग）の略です。

1. [📷: フォーカスBKT撮影] を選ぶ (🔗)

2. [フォーカスBKT撮影] を設定する



- [する] を選びます。

3. [撮影回数] を設定する



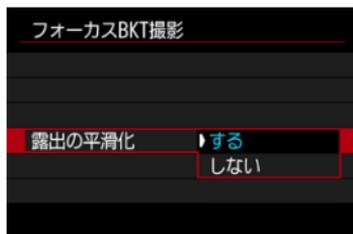
- 1度に撮影する回数（枚数）を設定します。
- [2] ～ [999] 回の範囲で設定することができます。

4. [ステップ幅] を設定する



- ピントを移動する幅を設定します。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。
なお、絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数の設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 設定が終わったら、〈〉を押します。

5. [露出の平滑化] を設定する



- [する] を選んだときは、カメラに表示される絞り数値と、ピント位置により変化する実際の絞り数値（実効FNo.）との差を調整して、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を補正することができます。
- [しない] を選んだときは、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を補正しません。撮影した画像をDPPなどでの深度合成以外に利用する際など、用途に合わせて選択してください。

6. [深度合成] を設定する

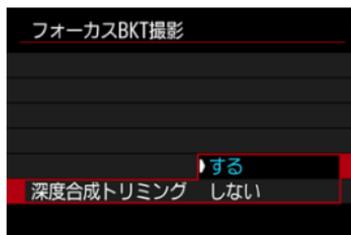


- [する] を選択すると、カメラで深度合成を行います。深度合成された画像が保存されます。
- [しない] を選択すると、深度合成を行いません。撮影した画像だけ保存されます。

ⓘ 注意

- 深度合成された画像はJPEGで保存されます。
- 記録画質に \blacksquare M/ \blacksquare M/ \blacksquare S1/ \blacksquare S1/S2 は設定できません。 \blacksquare M/ \blacksquare S1/S2 設定時は \blacksquare L、 \blacksquare M/ \blacksquare S1 設定時は \blacksquare L に設定が変更されます。

7. [深度合成トリミング] を設定する



- [する] を選択すると、合成処理の画像位置合わせ時に画角が不足していたときに、不足した画角をカットするように画像をクロップし、合成します。
- [しない] を選択すると、画像をクロップせずに合成します。その場合、画角が不足した領域については黒枠を付与して画像を保存します。必要に応じてトリミングなどを行ってください。

8. 撮影する

- 撮影した画像を新規フォルダに保存するときは、画面の [] をタッチし、[OK] を選びます。
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が開始されたら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影が行われます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影は終了します。
- 撮影を中止するときは、シャッターボタンを再度全押しします。

注意

- フォーカスブラケット撮影は、三脚を使用して、静止した被写体を撮影する機能です。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- この機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🔗)。
- 適切な [ステップ幅] は被写体により異なります。[ステップ幅] が適切でないときは、合成した画像ムラが生じたり、撮影枚数が多くなり撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行って [ステップ幅] の目安を確認しておくことをおすすめします。
- ストロボ撮影はできません。
- フリッカー光源下では、画像にムラが発生することがあります。そのときは、シャッタースピードを遅くすることで緩和されることがあります。
- 手動ピント合わせ (マニュアルフォーカス) (🔗) に設定しているときは、フォーカスブラケット機能は使用できません。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professionalで画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調な画像は、深度合成に失敗することがあります。
- 複数枚の画像を撮影する際、ピント合わせは手前から奥へ向かって順に行ってください。
- 複数枚の画像を撮影する際に、ピントの移動幅を大きくしすぎると、深度合成した画像にムラが発生したり、合成が失敗したりすることがあります。
- 深度合成は、静止した被写体の画像の合成を前提としています。そのため、動いている被写体を撮影した画像では、上手く合成できないことがあります。
- 画像内に複数の被写体がある場合、被写体間の距離が離れているなど、被写体の配置状態によっては深度合成が失敗することがあります。
- 深度合成は、撮影した画像の中から最適な画像を選択して合成を行います。撮影した画像がすべて合成されるわけではありません。

参考

- 三脚、ワイヤレスリモートコントローラー (別売/🔗) などの使用をおすすめします。
- 絞り数値を、F5.6~F11の範囲で設定して撮影することをおすすめします。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度などは1枚目の条件で固定されます。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、[📷: フォーカスBKT撮影] が [しない] になります。

メニューからドライブモードの項目が選べます。項目については「ドライブモードの選択」を参照してください (🔗)。

1. [📷: ドライブモード] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。

1. [📷: インターバルタイマー] を選ぶ (🔍)
2. [する] を選ぶ



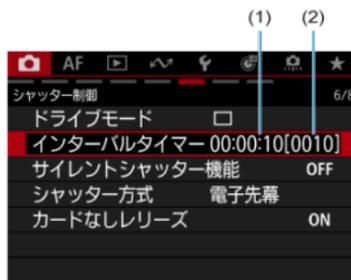
- [する] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3. 撮影間隔、撮影回数を設定する



- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈〉を押して [□] の状態にします。
- 数値を設定し 〈〉を押します ([□] の状態に戻ります)。
- **撮影間隔**
[00:00:01] ~ [99:59:59] の範囲で設定することができます。
- **撮影回数**
[0001] ~ [9999] の範囲で設定することができます。[回数制限なし] にチェックを入れたときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマー撮影を終了するまで撮影が継続します。

4. [OK] を選ぶ



- メニュー画面に設定した内容が表示されます。
(1) 撮影間隔
(2) 撮影回数

5. 撮影する

- 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- インターバルタイマー撮影中は、**[TIMER]** が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

参考

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。
- インターバルタイマー中は、**[🔋: 節電]** の **[オートパワーオフ]** が **[しない]** 以外に設定されているときは、約8秒間何も操作しないと、オートパワーオフが機能します。
- インターバルタイマー撮影を途中で終了するときは、**[しない]** に設定するか、電源スイッチを **[OFF]** にします。

ⓘ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- フォーカスモードが〈AF〉に設定されているときは、AFでピントが合わないとき撮影が行われません。マニュアルフォーカスに設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッタースピードが撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、インターバルタイマーが解除され、設定が[しない]になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影やEOS用外部ストロボによるリモートリリース撮影はできません。

カメラのシャッター音や操作音を制限し、ストロボなどの発光を禁止します。
サイレントシャッター機能では、以下の設定に固定されます。

- シャッター音、合焦音：ヘッドフォンにのみ出力する
- タッチ音、セルフタイマー音：出力しない
- フリックレス撮影：[しない]
- 長秒時露出のノイズ低減：[しない]
- シャッター方式：[電子シャッター $\left[\frac{E}{S}\right]$]
- AF補助光の投光：[しない]
- セルフタイマーランプ：点灯しない
- リモコンランプ：点灯しない

フォーカスプリセット機能を備えたレンズを使用するときは、フォーカスプリセットの電子音をオフに設定することをおすすめします。

1. ：サイレントシャッター機能] を選ぶ (🔍)

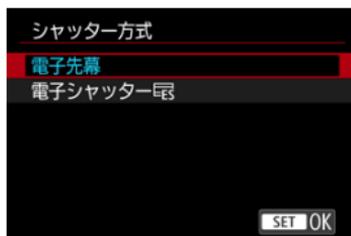
2. [入] を選ぶ



シャッター方式を選ぶことができます。

1. [📷: シャッター方式] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- 電子先幕

- 電子シャッター 

シャッター作動時の音や振動を、電子先幕よりも抑えることができます。

明るいレンズの絞りを開いて撮影するときを選ぶことをおすすめします。

最高シャッタースピードを電子先幕よりも速く設定できます。

- シャッターボタン全押し時に、画面内に白枠が点滅表示されます。
- シャッター作動時は電子音が鳴ります。なお、[🔊: 電子音] で電子音を切ることができます。

ⓘ 注意

- [電子先幕] 設定時に、高速シャッタースピード、絞り開放付近で撮影したときは、撮影条件によりボケ像が欠けて写ることがあります。なお、ボケ像の写り方が気になるときは、以下のいずれかの方法で撮影すると改善することがあります。
 - [電子シャッター] で撮影する
 - シャッタースピードを遅くする
 - 絞り数値を大きくする
- [📷: サイレントシャッター機能] を [入] に設定しているとき、シャッター方式は [電子シャッター] になります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、レンズによっては、F値が一定でも露出が変化することがあります。詳しくは、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。

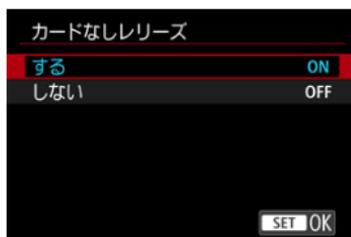
[電子シャッター] 設定時の注意事項

- 撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- [P] モード (プログラムAE)、[Tv] モード (シャッター優先AE) で絞り数値が変化する場合は、適正露出で撮影されないことがあります。
- 使用するレンズや撮影条件により、レンズのフォーカス駆動音や、絞りの駆動音がすることがあります。
- 電子シャッター撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下で電子シャッター撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- フリッカー光源下では、モニターに縞が見えることがあります。

[しない] に設定すると、カードを入れ忘れた状態での撮影を防ぐことができます。

1. [📷: カードなしリリース] を選ぶ (🔍)

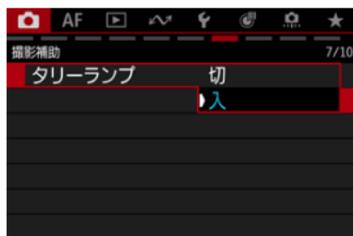
2. [しない] を選ぶ



タリーランプの点灯または点滅により、カメラの状態を確認することができます。

1. [📷: タリーランプ] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- [入] のときは、タリーランプが以下のように点灯または点滅します。

点灯時	動画撮影中
点滅時 (高速)	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリー残量の低下やカードの容量不足などにより、動画撮影ができない • 高温下や長時間の動画撮影などにより、カメラ内部の温度が上昇した
点滅時 (低速)	動画撮影可能な時間が6分未満になった

手ブレ補正機能（IS機能）を使用して、動画撮影時または静止画撮影時の手ブレを低減することができます。動画撮影時と静止画撮影時で、使用できる機能が異なります。

1. [📷: 手ブレ補正（IS機能）設定] を選ぶ (🔍, 📷)

2. 項目を選んで設定する



- IS機能（動画/静止画）
レンズの手ブレ補正機能を使用した手ブレ補正を行います。手ブレ補正スイッチのない手ブレ補正機能搭載レンズ使用時に表示されます。その他のレンズ使用時は表示されません。
手ブレ補正スイッチのある手ブレ補正機能搭載レンズ使用時は、手ブレ補正スイッチをONにします。
- 動画電子IS（動画）
電子式手ブレ補正機能を使用した手ブレ補正を行います。
[入] では手ブレ補正時に映像がやや拡大されます。
[強] では [入] よりも大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

⚠ 注意

- 手ブレ補正スイッチを搭載したレンズを使用したときは、[IS機能] は操作できません（静止画撮影時は [📷: 手ブレ補正 (IS機能) 設定] は操作できません）。レンズの手ブレ補正スイッチを操作してください。

動画電子IS

- 動画記録サイズの設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなる場合があります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は [切] に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

📖 参考

- 移動しながら人物と風景を交互に撮影するときなどは、[手ブレ補正動画] (📷) を使用することをおすすめします。

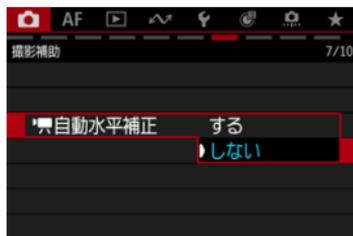
動画を撮影するときに、画面を水平に保つように補正します。

⚠ 注意

- [📷: 手ブレ補正 (IS機能) 設定] の [動画電子IS] を [切] に設定してください。

1. [📷: 自動水平補正] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ

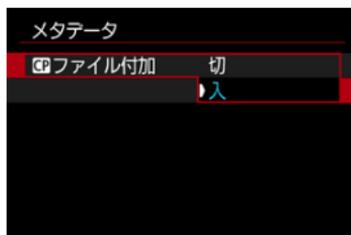


[カスタムピクチャーファイル付加](#)

[ : カスタムピクチャー] の [ 機能] が [入] のときは、[ ファイル付加] を [入] にすることで、動画ファイルにカスタムピクチャーファイルを付加することができます。

カスタムピクチャーファイル付加

1. [ : メタデータ] を選ぶ ()
2. 項目を選ぶ

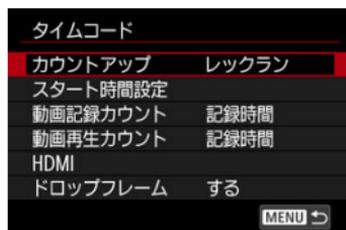




- [カウントアップ](#)
- [スタート時間設定](#)
- [動画記録カウント](#)
- [動画再生カウント](#)
- [HDMI](#)
- [ドロップフレーム](#)

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時/分/秒/フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときにご利用します。

[: タイムコード] でタイムコードを設定することができます。



注意

- 撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

カウントアップ

- **レックラン**

動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

- **フリーラン**

動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

! 注意

- [フリーラン] 設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると (☒)、タイムコードに影響が生じます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

- **手動入力設定**

「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

- **リセット**

[手動入力設定] [カメラ時間に設定] で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります (🔄)。

- **カメラ時間に設定**

カメラに設定されている「時：分：秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**

撮影待機状態では、撮影可能時間が表示されます。また、撮影状態では撮影開始からの経過時間が表示されます (1)。

- **タイムコード**

動画撮影時にタイムコードが表示されます (2)。



動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

- **記録時間**
動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。
- **タイムコード**
動画再生時にタイムコードが表示されます。



参考

- タイムコードは、[動画記録カウント] の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます。
- [📷: タイムコード] の [動画再生カウント] と [▶️: 動画再生カウント] は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

● タイムコード

HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

● 切

HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。

● 入

HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。[入] に設定すると、[記録コマンド] が表示されます。

● 記録コマンド

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始/停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

● 切

外部記録機器側で記録開始/停止を行います。

● 入

動画撮影開始/停止と外部記録機器の記録が同期します。

❗ 注意

- 使用する外部記録機器が [タイムコード] [記録コマンド] に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- [タイムコード] を [切] に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。

ドロップフレーム

フレームレートの設定が、**119.9P** (119.9fps)、**59.94P** (59.94fps)、**29.97P** (29.97fps) のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。[する] 設定時はこの差が自動的に補正されます。

- **する**

タイムコードを間引く補正が自動的に行われます (DF : ドロップフレーム)。

- **しない**

補正は行われません (NDF : ノンドロップフレーム)。

なお、タイムコードは次のように表示されます。

- **する (DF)**

00:00:00. (再生時 : 00:00:00.00)

- **しない (NDF)**

00:00:00: (再生時 : 00:00:00:00)



参考

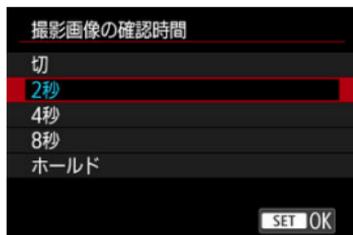
- フレームレートが**23.98P** (23.98fps) 設定時、および [**♫**: システム周波数] が [PAL] に設定されているときは、[ドロップフレーム] の項目は表示されません。



撮影直後に、撮影画像を表示したままにするときは【ホールド】、撮影画像を表示しないようにするときは【切】に設定します。

1. [📷: 撮影画像の確認時間] を選ぶ (🔗)

2. 時間を設定する



📖 参考

- 【ホールド】に設定すると、[🔋: 節電] の【モニターオフ】で設定した時間まで画像が表示されます。

シャッター方式を [電子先幕]、ドライブモードを [H] (高速連続撮影) で撮影するときに、撮影結果と映像を交互に表示する「高速表示」を選ぶことができます。

1. [カメラアイコン] : [H]高速表示 を選ぶ (☑)

2. 項目を選ぶ



- [する] を選ぶと、撮影中に撮影結果と映像を交互に表示します。

⚠ 注意

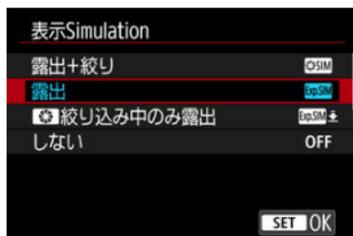
- 高速表示中は、像のゆれやちらつきが発生します。特に速いシャッタースピードでの撮影で発生しやすくなります。ただし、撮影結果への影響はありません。
- シャッタースピードが1/30秒より遅いとき、絞り数値がF11よりも大きいとき、AFでピントが合いにくいとき、ストロボ撮影時、高ISO感度時は高速表示は行われません。また、撮影中に高速表示が行われなくなることがあります。
- 以下の場合、高速表示は設定できません。

- [カメラアイコン] : 表示Simulation] が [しない] または [絞込み中のみ露出] のとき

表示Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさや、被写界深度をシミュレートして映像を表示する機能です。

1. [📷: 表示Simulation] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● 露出+絞り (ExpSIM)

実際の撮影結果（露出）に近い明るさと被写界深度で表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。また、絞り値を変えると被写界深度が変わります。

● 露出 (ExpSIM)

実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

● 絞り込み中のみ露出 (ExpSIM)

通常は、映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。絞り込み機能を割り当てたボタンを押している間は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示され、被写界深度を確認することができます。

● しない (OFF)

映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

 注意

【露出+絞り】について

- シャッタースピードの状態によっては、フリッカーが発生することがあります。
- EFレンズを使用しているときは、レリーズタイムラグが長くなることがあります。
- 表示される被写界深度は目安です。被写界深度をより正確に確認したいときは、絞り込み機能を割り当てたボタンを押してください (📷)。
- レンズによっては、【露出+絞り】の設定ができません。
- 露出、絞り込みの両方、またはいずれかのシミュレーションが行われていないときは、 SIM が点滅します。
- 露出、絞り込みの両方、またはいずれかのシミュレーションが停止しているときは、 SIM がグレーで表示されます。

[ビューアシスト表示の条件](#)

[ビューアシスト表示の設定](#)

[ :  **HDR撮影(PQ)**]でのHDR撮影 () や、カスタムピクチャー () を適用した撮影を行うときに、カメラのモニター、またはHDMI接続したHDR非対応ディスプレイでの表示を、HDR対応ディスプレイに表示された時の印象に近づけることができます。

⚠ 注意

- 動画撮影時は、表示された映像と記録された映像の状態が異なります。

ビューアシスト表示の条件

- [ :  **HDR撮影(PQ)**] で [**HDR PQ**] を設定したとき
- [ : **カスタムピクチャー**] で [**Gamma/Color Space**] を以下の設定にしたとき
 - Canon Log 3 / C.Gamut
 - PQ / BT.2020
 - HLG / BT.2020

* HLGはHybrid Log-Gammaの略です。
- [Lookファイルの登録](#)で、以下のガンマ/色空間を選んでから [**Look File**] を [**入**] にしたとき
 - HDR PQ(BT.2100)
 - HDR HLG(BT.2100)

1. [📷: 📺 HDR/C.Logビューアシスト] を選ぶ (🔍、🔍)

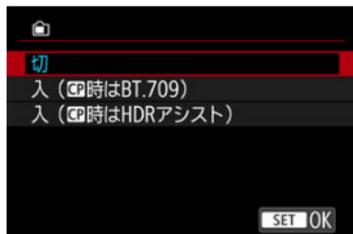
2. 表示先を選ぶ



- 📷
モニターでビューアシスト表示を行います。
- **HDMI**
HDMI接続されたHDR非対応ディスプレイで、ビューアシスト表示を行います。

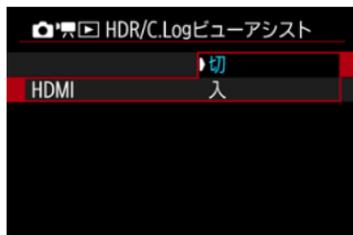
3. 項目を選ぶ

モニターの場合



- **入 (CP時はBT.709)**
[HDR PQ] の設定時は、HDR対応ディスプレイに表示された時と印象が近づくように変換された画像が表示されます。
カスタムピクチャーの適用時は、標準的なガンマ/色空間への簡易的な変換が行われた画像が表示されます。
- **入 (CP時はHDRアシスト)**
[HDR PQ] の設定時は、HDR対応ディスプレイに表示された時と印象が近づくように変換された画像が表示されます。
カスタムピクチャーの適用時は、中間輝度の被写体がHDR対応ディスプレイに表示された時と印象が近づくような変換が行われた画像が表示されます。

[HDMI] の場合



- [入] を選びます。

参考

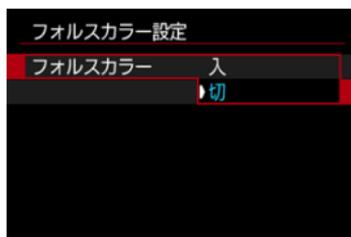
- ビューアシスト表示のときは、情報表示画面に [V.Assist] が表示されます。
- 拡大時もビューアシスト表示が行われます。
- ビューアシスト表示の設定は、記録される画像には影響しません。

[フォルスカラーの表示](#)

動画撮影モード時に、輝度レベルに応じて6つの色を割り当てた映像をモニターに表示します。露出を調整するときに役立ちます。

1. : フォルスカラー設定] を選ぶ (🔗)

2. [フォルスカラー] を選ぶ



- [入] を選びます。

3. 露出を補正する (🔗)

- [フォルスカラーの表示](#)を参考にして調整します。

フォルスカラーの表示

カメラのモニターの映像に対し、フォルスカラーの表示をすることができます。以下のような外部モニターには、実際の映像が表示されます。

- HDMI接続されている外部モニター
- Camera ConnectまたはEOS Utilityを使用している外部モニター

色	意味
赤	White clipping (白クリップ)
黄	Just below white clipping (白クリップの直ぐ下)
ピンク	One stop over 18% gray (18%グレイより1段高いグレイ)
緑	18% gray (18%グレイ)
青	Just above black clipping (黒クリップの直ぐ上)
紫	Black clipping (黒クリップ)
無彩色	上記以外の明るさ

⚠ 注意

- 撮影待機状態と動画撮影中で画面が切り換わる時や、撮影機能の設定によって、輝度レベルの色が変化することがあります。

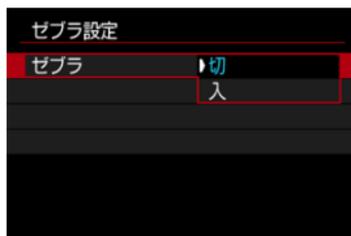
📖 参考

- フォルスカラー設定時は、以下の機能は使用できません。
 - カラーフィルター
 - シネマビュー
 - タイムラプス動画
 - オートライティングオブティマイザ
 - ゼブラ表示
 - HDR/Canon Log設定のビューアシスト
 - HDR動画モード
 - MFピーキング

動画記録中や動画モード待機中、設定輝度の箇所・周辺に、露出調整の目安となる縞模様を表示させることができます。

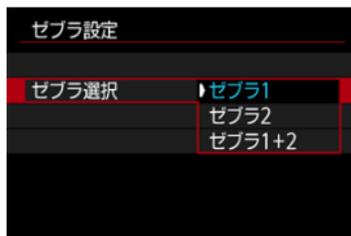
1. [📷: ゼブラ設定] を選ぶ (🔗)

2. [ゼブラ] を選ぶ



- [入] を選びます。

3. [ゼブラ選択] を選ぶ



- [ゼブラ1] を選ぶと、設定輝度値の周辺範囲を左上から右下への斜線で表示します。
- [ゼブラ2] を選ぶと、設定輝度値以上の範囲を左下から右上への斜線で表示します。
- [ゼブラ1+2] を選ぶと、[ゼブラ1]、[ゼブラ2] の両方を表示します。
[ゼブラ1] と [ゼブラ2] の表示領域が重なる場合は、[ゼブラ1] を優先して表示します。

4. レベルを設定する

ゼブラ1レベル



ゼブラ2レベル



- 〈▲〉〈▼〉で設定します。

参考

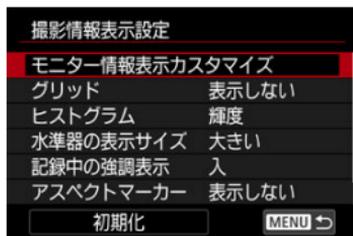
- HDR-PQ設定時、最大輝度値は100%にはなりません。なお、[📷：高輝度側・階調優先] や [📷：ピクチャースタイル] の設定により最大輝度値は異なります。
- [ゼブラ選択] を設定するとき、ゼブラ表示されるレベルを事前に確認することをおすすめします。

- [モニター情報表示カスタマイズ](#)
- [グリッド](#)
- [ヒストグラム](#)
- [水準器の表示サイズ](#)
- [カードの空き容量 \(%\) 表示](#)
- [レンズ情報表示設定](#)
- [記録中の強調表示](#)
- [アスペクトマーカー](#)
- [設定の初期化](#)

撮影時にモニターに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。

モニター情報表示カスタマイズ

1. : 撮影情報表示設定] を選ぶ (☑、☑)
2. [モニター情報表示カスタマイズ] を選ぶ



3. 画面を選ぶ



- 〈▲〉〈▼〉を押してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈⊗〉を押して [✓] を外します。
- 〈INFO〉 ボタンを押すと画面の編集ができます。

4. 画面を編集する

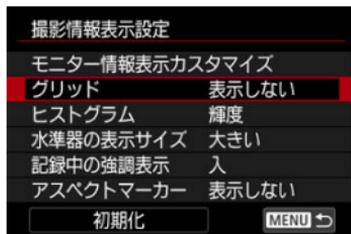


- 〈▲〉〈▼〉を押してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈⊗〉を押して [✓] を外します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

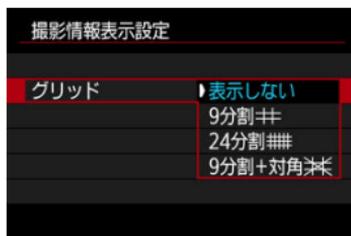
グリッド

モニターにグリッドを表示することができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [グリッド] を選ぶ



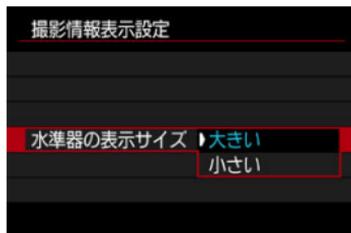
3. 項目を選ぶ



水準器の表示サイズ

水準器の表示サイズを選ぶことができます。

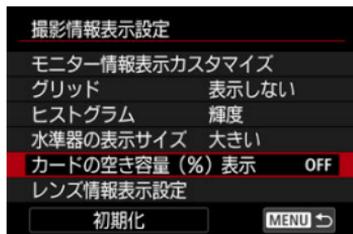
1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [水準器の表示サイズ] を選ぶ



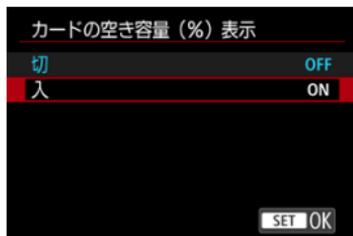
カードの空き容量 (%) 表示

カードの空き容量を画面上に表示することができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [カードの空き容量 (%) 表示] を選ぶ



3. [入] を選ぶ



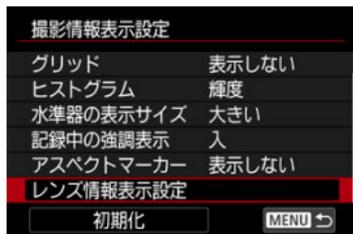
📖 参考

- 静止画撮影時およびカードへの書き込み時は、空き容量ではなく撮影可能枚数が表示されます。

レンズ情報表示設定

使用しているレンズの情報を表示することができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [レンズ情報表示設定] を選ぶ



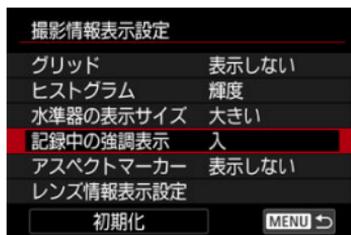
3. 項目を選ぶ



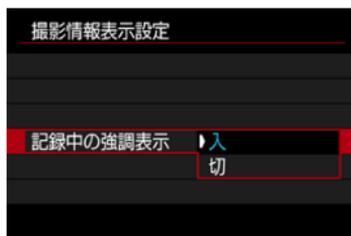
- **撮影距離表示設定**
RFレンズを使用しているときに、撮影距離を表示することができます。
撮影距離の表示は、タイミングと単位を選ぶことができます。
- **焦点距離表示**
使用しているレンズの焦点距離を表示することができます。
- **SA可変量表示**
球面収差 (SA) の可変機能を搭載したレンズを使用しているときに、設定した収差量を表示することができます。
* SAはSpherical Aberration (球面収差) の略です。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [記録中の強調表示] を選ぶ



3. 項目を選ぶ

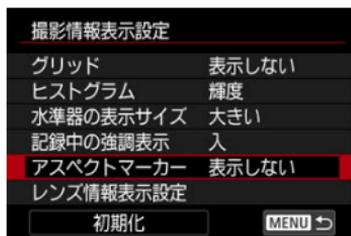


- 入
動画撮影中は、画面外周に赤色の強調枠が点灯します。
- 切
強調枠の表示は行われません。

アスペクトマーカー

動画撮影後の編集で画像のアスペクト比を変更する場合に、撮影時から編集後の画角を意識できるよう、動画撮影画面（撮影待機状態および動画撮影中）にアスペクトマーカーを表示させることができます。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)
2. [アスペクトマーカー] を選ぶ



3. 項目を選ぶ



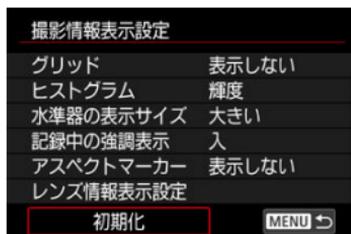
- 表示内容を選びます。

📖 参考

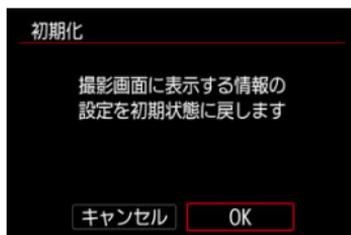
- 動画再生時には表示されません（撮影した動画にアスペクトマーカー情報は付加されません）。

1. [📷: 撮影情報表示設定] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [初期化] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ





動画撮影時、カメラを縦に構えたときにモニターに表示される情報表示を自動回転することができます。

1. [📷: 📺撮影情報表示の自動回転] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



動画撮影時にクイック設定画面 (📷) に表示する画面を変更することができます。

1. [📷: クイック設定画面] を選ぶ (📷)

2. 表示する画面を選ぶ



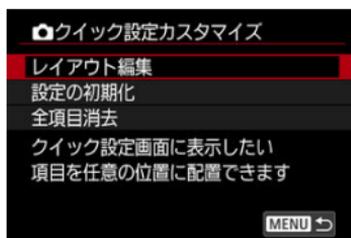
- 〈🔄〉を回してクイック設定画面に表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈🗑️〉を押して [✓] を外します。すべての項目の [✓] を外すことはできません。
- [[Q1] で〈INFO〉ボタンを押すと、クイック設定項目の表示位置を選ぶことができます。
- [[Q2] に [✓] を入れると、[📷: 📷クイック設定カスタマイズQ2] で、クイック設定画面のカスタマイズができます。
- [OK] を選ぶと設定されます。

[クイック設定画面の初期化/全項目消去](#)

クイック設定で表示する項目や並び順のカスタマイズができます。

1. : クイック設定カスタマイズ] を選ぶ (、)

2. [レイアウト編集] を選ぶ

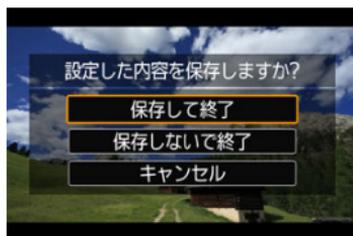


3. 削除する項目を選ぶ



-  または  で、削除する項目を選び、 を押します。
- クイック設定に表示されている項目にはチェックが付いています。チェックが付いていない項目が削除対象です。

6. [保存して終了] を選ぶ

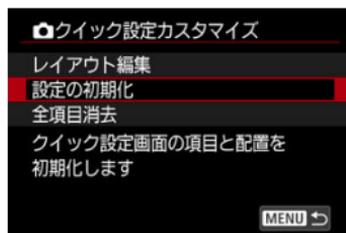


7. 確認する



- 〈〉を押して設定した内容を確認します。

クイック設定画面の初期化／全項目消去

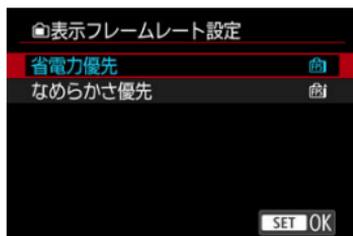


- [設定の初期化] を選ぶと、クイック設定画面の項目と配置が初期状態に戻ります。
- [全項目消去] を選ぶと、配置されている項目がすべて削除され、〈〉を押してもクイック設定画面が表示されなくなります。

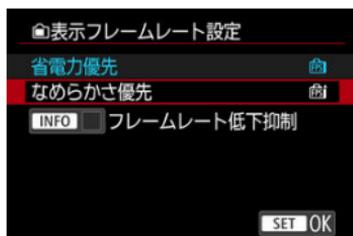
静止画撮影時の撮影画面について、表示フレームレートを設定することができます。省電力を優先するか、高フレームレートを優先するかを選びます。

1. [📷: 📷表示フレームレート設定] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



[なめらかさ優先] 設定時



- <INFO> ボタンを押してチェックを付けると、暗い場所でもフレームレートの低下を抑えた撮影画面を表示することができます。

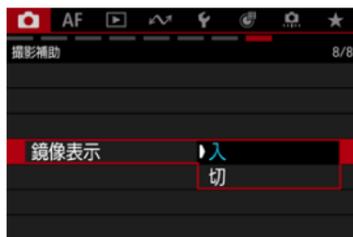
! 注意

- [フレームレート低下抑制] で撮影画面表示を行う場合、暗い場所で以下の現象が発生することがあります。
 - バッテリーが早く消耗する
 - 撮影可能枚数が少なくなる
 - 表示される画像の輝度が低くなる
 - AFが合いにくくなる
 - 測光の精度が低下する
 - フリッカー検知の精度が低下する
 - 被写体検出の精度が低下する

モニターを被写体側（レンズ側）に向けて撮影を行う際に、映像を鏡像表示（左右反転）させることができます。

1. [📷: 鏡像表示] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [入] を選ぶ

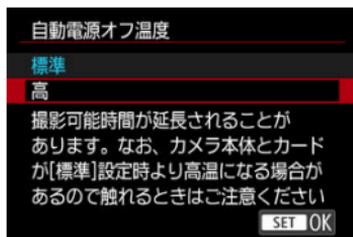


- [切] を選ぶと、モニターを被写体側に向けても鏡像表示は行われません。

カメラ本体が高温になったときに自動でカメラの電源オフを行う温度上限を設定することができます。標準より高く設定すると、動作制限を一部解除して撮影可能時間を延長できます。

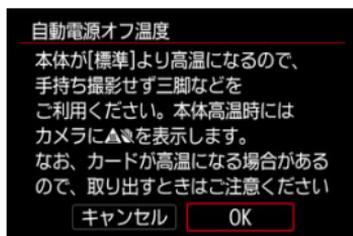
1. [📷: 自動電源オフ温度] を選ぶ (🔍、🔍)

2. [高] を選ぶ



- [高] にすると、温度上限が標準よりも高く設定されます。

3. [OK] を選ぶ



 注意

- [📷: 自動電源オフ温度] を [高] に設定すると、カメラ本体、およびカードがより高温になることがあります。
 - カメラ本体が高温になると、画面に [⚠️] が表示されます。
 - 低温やけどなどの原因になる可能性がありますので、手持ちで撮影することは避けて、三脚などのご使用をおすすめします。
 - 撮影直後はカードに触れないでください。カードが高温になり、やけどの原因となる場合があります。温度が下がってからカードを取り出してください。

[入] にすると消費電力を抑え、撮影待機状態のカメラ内部の温度上昇を抑えます。これにより動画の撮影時間が長くなることがあります。

1. [📷: 温度上昇緩和] を選ぶ (🔗)
2. 項目を選ぶ



⚠ 注意

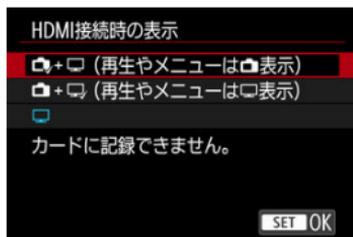
- 撮影待機状態と動画撮影中の画面で、画質の差がでることがあります。
- 動画撮影を開始したときに、映像が一瞬更新されない（フレームストップ）ことがあります。
- デジタルズームを [入] に設定すると、温度上昇緩和は [切] に固定されます (🔗)。

外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。[動画記録サイズ]の設定に応じて出力されます。

なお、初期状態では[]に設定されています。

1. [: HDMI接続時の表示] を選ぶ (☑)

2. 項目を選ぶ



-  映像はカメラとHDMI出力先に表示されます。再生画像やメニューはカメラに表示されます。
-  映像はカメラとHDMI出力先に表示されます。再生画像やメニューはHDMI出力先に表示されます。
-  映像、再生画像、メニューはHDMI出力先に表示されます。カメラのモニターは消灯します。HDMI出力先に表示された状態が記録されますので、映像のみを記録する場合は、〈INFO〉ボタンを押して映像のみの表示にしてください。

⚠ 注意

- [HDMI接続時の表示] を [📷+📺] に設定した場合、カードに記録できません。なお、メニューや再生した画像はHDMI接続先の画面にのみ表示されます。
- HDMI出力時の解像度、フレームレートは動画記録サイズに連動して変わります。
- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇 (🔥) などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。
- HDMI出力中に、動画記録サイズやフレームレートを切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- HDMI出力映像に情報が表示されることがあるため、外部記録機器で映像を記録しているときは、操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

📖 参考

- 30分以上連続してHDMI出力を行うときは、[📷+📺] または [📷+📺] を選び、[🔋: 節電] の [オートパワーオフ] を [しない] に設定してください (🔘)。
- <INFO> ボタンを押すと、表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます (🔘)。
- HDMI出力時に音声も出力されます ([録音: しない] 設定時を除く)。

HDMI接続で外部出力する映像信号の出力レンジを設定することができます。

1. [📷: Canon LogのHDMI出力レンジ] を選ぶ (🔗)

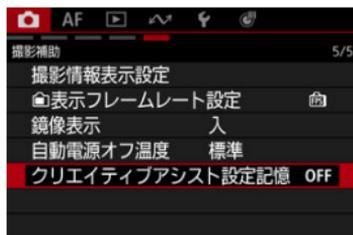
2. 項目を選ぶ



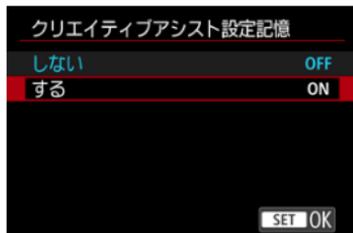
- **Full Range優先**
フルレンジでの出力を優先させます。なお、ディスプレイの仕様によっては、出力レンジが自動的に変更されます。
- **Narrow Range**
ナローレンジ（ビデオレンジ）で出力されます。

[A+] モード時に使用したクリエイティブアシストの設定を記憶させておき、次回の撮影でプリセットから効果を選ぶ手順を省略できます。

1. [📷: クリエイティブアシスト設定記憶] を選ぶ



2. [する] を選ぶ



☑ [撮影中のインジケータ表示](#)

☑ [動画撮影全般の注意事項](#)

撮影中のインジケータ表示

動画および静止画の撮影中にカメラ内部の温度が上昇し始めると、10段階のインジケータ(1)が表示されます。



さらにカメラ内部の温度が上昇すると、目盛が右に増えていきます。目盛が増える時間は撮影状況によって異なります。1~7番目の目盛は白色で表示されますが、8番目から色が変わります。



9番目のオレンジ色の目盛まで達した状態で撮影を続けると、[10] が赤色で点滅します。アイコンの点滅表示は、まもなくカメラの電源が自動的に切れることを意味しています。



アイコンが点滅している状態で撮影を続けると、メッセージが表示され、カメラの電源が自動的に切れます。

● 撮影を続けるときは

設定を変更せずに撮影を続けるときは、いったんカメラの電源を切り、カメラ内部の温度が下がるまでお待ちください。ただし、このときは撮影を再開するとカメラの温度は再度上昇します。

① 注意

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- **[AWB]** **[AWBW]** の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、レンズ光学補正が正しく適用されなかったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイクを指などでふさがないようにしてください。
- 動画撮影中にHDMIケーブルの接続や取り外しを行うと、動画撮影が終了します。
- 必要に応じて **静止画撮影全般の注意事項** もお読みください。
- Wi-Fi接続した状態で動画撮影すると、カメラの温度が上昇することがあります。手持ち撮影せず、三脚を使用するなどしてください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒くつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件で撮影すると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、(XF-HEVC/XF-AVC形式に対応していても)再生できないことがあります。

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケータが表示されることがあります。インジケータは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケータ（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。



- 書き込み速度が速いカードは、インジケータが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケータがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声は正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケータが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

参考

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は約100%です。
- [🔊：動画撮影時シャッターボタンの機能] の [全押し] を [動画撮影の開始/終了] に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始/終了することができます (🔊)。
- ミニジャック (Φ3.5mm) に対応したマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- 外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。
- 2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

[静止画撮影時の情報表示](#)

[静止画撮影全般の注意事項](#)

静止画撮影時の情報表示

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、[情報表示](#)を参照してください。

参考

- **[Exp.SIM]** が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- **[Exp.SIM]** が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、表示シミュレーションが行われないことがあります。そのときは **[Exp.SIM]** とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは **[📷: 表示Simulation]** () が **[しない]** または **[🌀 絞り込み中のみ露出]** 設定時には表示されません。

⚠ 注意

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う白い【0】の表示

- カメラ内部の温度が上昇すると、白い【0】が表示されます。白い【0】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い【0】が表示されていない場合でも、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

カメラの温度上昇に伴う、インジケータ表示について

- カメラの温度が上昇し始めると、【0|||||||||】が表示されます。インジケータの動作については、[撮影中のインジケータ表示](#)を参照してください。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。拡大表示の状態では撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態でも撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で **[☺：モニターの明るさ]** を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強かかっていることが見えます。

レンズについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消費して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。



参考

- 映像の視野率は約100%（記録画質JPEG  設定時）です。
- カメラを操作しない状態が続くと、**[☺：節電]** の **[モニターオフ]** の設定時間で画面が消え、**[オートパワーオフ]** の設定時間で電源が切れます 。
- 市販のHDMIケーブルを使用すると、映像をテレビに表示することができます 。ただし、音声は出力されません。

- [EOS用EL/EXスピードライト](#)
- [EL/EX以外のキャノン製スピードライト](#)
- [汎用ストロボ](#)
- [クイックストロボグループ制御](#)
- [FEメモリー機能](#)

EOS用EL/EXスピードライト

このカメラは、EL/EXシリーズスピードライト（別売）の機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL/EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

● ストロボ調光補正

ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます（）。

● FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体を画面の中央に配置してFEロック機能を割り当てたボタンを押すとFEロックされます。その後に構図を決めて撮影します。

注意

- 本カメラでマルチアクセサリシューに非対応のアクセサリを使用するときは、別売のマルチアクセサリシューアダプター AD-E1が必要です。
-  : オートライティングオフティマイザ（）が、[しない] 以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

参考

-  : 外部ストロボ制御 の [ストロボ機能設定]（）で調光補正を行うこともできます。
- このカメラは、カメラの電源と、ストロボの電源を連動させる機能に対応しています。詳しくは、この機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

EL/EX以外のキヤノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
カメラの撮影モードを [Av] [M] モードに設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

● 同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。

スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

⚠ 注意

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをマルチアクセサリシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

クイックストロボグループ制御

[ : 撮影時ボタン カスタマイズ] で [クイックストロボグループ制御] を割り当てたボタンを押すことで、ワイヤレス多灯撮影時に撮影画面を見ながら発光グループごとの設定をすることができます。ここでは〈1〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します ()。

1. ストロボの発光モードを〈Gr〉(個別グループ制御)に設定し、ワイヤレス多灯撮影の状態にする

- 詳しくは、ワイヤレス多灯撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

2. 撮影待機中に〈1〉ボタンを押す



- 発光グループごとの設定画面が表示されます。
- 〈〉を回して設定する発光グループ (A、B、C、D、E) を選びます。
- 〈INFO〉ボタンを押して発光モードを設定します。
- 〈〉を回して発光量または調光補正量を設定します。

参考

- [P] [Tv] [Av] [M] モードのときに [クイックストロボグループ制御] の設定画面を表示することができます。
- ストロボが〈Gr〉(個別グループ制御) 以外の発光モードに設定されているとき、〈1〉ボタンを押すと [ストロボ機能設定] の画面が表示されます。

[ : 撮影時ボタン カスタマイズ] で [ETTL ↔ M] を割り当てたボタンを押すことで、ストロボの発光モード [ETTL] で撮影した発光量を、発光モード [M] の発光量として設定できます。ここでは〈1〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します ()。

1. ストロボカスタム機能の [FEメモリー] の設定を [2:入 (MODE ETTL ↔ M)] に設定する ()

- ストロボでの設定手順は、FEメモリーに対応したストロボ (EL-1を除く) の使用説明書を参照してください。

2. ストロボの発光モードを [ETTL] にして撮影する

- シャッターボタンを全押しして撮影を行います。

3. 撮影待機中に〈1〉ボタンを押す

- 発光モードが [M] に切り換わり、手順2で撮影した発光量が表示されます。
- 発光モード [M] で撮影後、再度〈1〉ボタンを押すと、発光モードが [ETTL] に切り換わり調光補正量が表示されます。
- 発光量または調光補正量を変更するときは、ストロボで操作を行うか、または [ストロボ機能設定] () で設定します。

参考

- [P] [Tv] [Av] [M] [B] モードのときにFEメモリー機能を使用することができます。
- ストロボが [ETTL] と [M] 以外の発光モードに設定されているとき、〈1〉ボタンを押しても発光モードは変わりません。

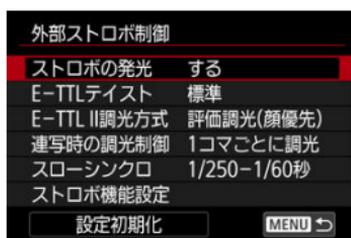
- [ストロボの発光](#)
- [E-TTLテスト](#)
- [E-TTL II調光方式](#)
- [連写時の調光制御](#)
- [スローシンクロ](#)
- [ストロボ機能設定](#)
- [ストロボカスタム機能設定](#)
- [ストロボ機能設定初期化/ストロボカスタム機能一括解除](#)

ストロボ機能設定に対応したEL/EXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定することができます。設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。

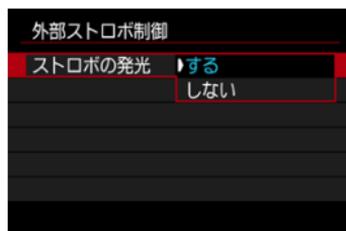
なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

1. : 外部ストロボ制御 を選ぶ ()

2. 項目を選ぶ

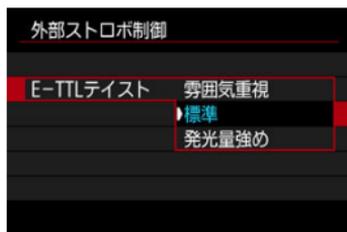


ストロボの発光



ストロボ撮影を行うときは、**【する】** に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、**【しない】** に設定します。

E-TTLテスト



好みに応じてストロボ写真の仕上がり（テスト）を設定することができます。設定によって、環境光とストロボ光の光量比を変更することができます。

- **【雰囲気重視】** は、ストロボ光の比率を下げ、環境光を活かした、より自然な雰囲気を重視したライティングを想定したテストです。とくに、室内などの暗いシーンでの撮影に効果的です。[P] [Av] モードに設定の上、[📷 : 外部ストロボ制御] の [スローシンクロ] を [1/250-30秒自動] に設定し、スローシンクロ撮影することをおすすめします。
- **【発光量強め】** は、ストロボ光主体のテストです。環境光による被写体や背景の影などを軽減したいときに有効です。

⚠ 注意

- **【雰囲気重視】** 設定時、シーンによっては **【標準】** 設定時との撮影結果に効果の差が得られないことがあります。

E-TTL II調光方式



- [評価調光(顔優先)] に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。
- [評価調光] に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
- [平均調光] に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

参考

- 状況に応じてストロボ調光補正が必要です。

注意

- [評価調光(顔優先)] に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

連写時の調光制御



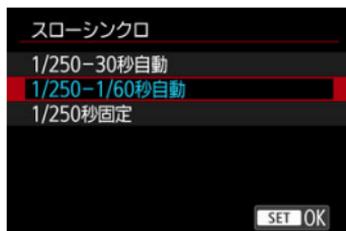
- [1コマごとに調光] に設定すると、撮影するごとに調光を行います。
- [1コマ目で固定] に設定すると、連続撮影する前に1度だけ調光を行います。1枚目の発光量で2枚目以降も撮影されます。構図を変えずに、連続撮影速度を優先して撮影したいときに有効です。

⚠ 注意

- 連続撮影中に被写体が動くと、露出が合わない場合があります。

スローシンクロ

[P] [Av] モードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。なお、ストロボ同調速度の上限値は、1/250秒になります。



● 1/250-30秒自動

明るさに応じてシャッタースピードが1/250～30秒の範囲で自動設定されます。ハイスピードシンクロを行うこともできます。

● 1/250-1/60秒自動

明るさに応じてシャッタースピードが1/250～1/60秒の範囲で自動設定されるため、暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● 1/250秒固定

シャッタースピードが1/250秒に固定されるため、[1/250-1/60秒自動] よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では[1/250-1/60秒自動] よりも被写体の背景が暗くなります。

⚠ 注意

- [1/250秒固定] 設定時は、[P] [Av] モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例



- (1) 発光モード
- (2) ワイヤレス機能/
光量比制御 (RATIO) 機能
- (3) ズーム (照射角)
- (4) シンクロ設定
- (5) 調光補正
- (6) FEB

⚠ 注意

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



- **[E-TTL II]** は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL/EXスピードライトの標準的なモードです。
- **[マニュアル発光]** は、ストロボの**[発光量]** を自分で決めて撮影するモードです。
- その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

ワイヤレス機能



電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

光量比制御機能 (RATIO)



マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

ズーム (照射角)



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する **[先幕シンクロ]** に設定します。
[後幕シンクロ] に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。
[ハイスピード] に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、**[Av]** モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

注意

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/30秒以下の遅い速度に設定してください。1/40秒以上の速い速度のときは、**[後幕シンクロ]** に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

調光補正

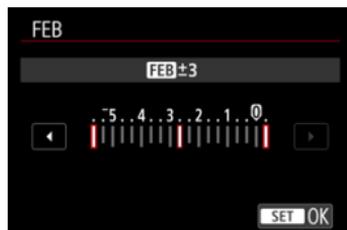


露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。

参考

- ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

FEB

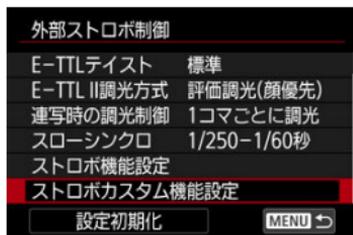


FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

1. [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ



2. 機能を設定する



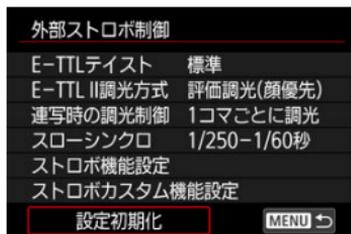
- 番号を選びます。
- 項目を選びます。

注意

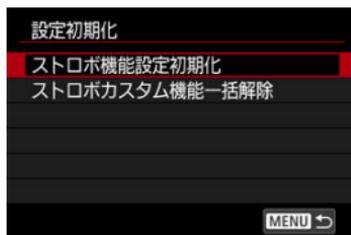
- EL/EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の[調光方式]を[1:TTL] (自動調光)に設定したときは、常時フル発光します。
- [外部ストロボ制御]の画面から、外部ストロボのパーソナル機能(P.Fn)の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除

1. [設定初期化] を選ぶ



2. 初期化する内容を選ぶ



- [ストロボ機能設定初期化] [ストロボカスタム機能一括解除] のいずれかを選びます。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはストロボカスタム機能がすべて解除されます。

AF/ドライブ

この章では、AF、ドライブモードに関する内容や、メニュー機能の「**AF**: AFタブ」に含まれる項目などについて説明しています。

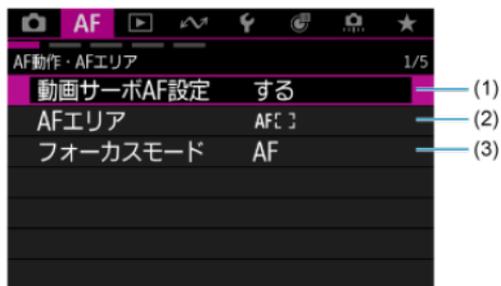
タイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

参考

- **<AF>** はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。
<MF> はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。
- [メニュー目次：AFタブ（動画撮影）](#)
- [メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）](#)
- [AF動作](#) **応用**
- [動画サーボAF](#)
- [AFエリアの選択](#) **応用**
- [手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス）](#)
- [登録人物優先](#)
- [AF機能のカスタマイズ](#) **応用**
- [ドライブモードの選択](#)
- [セルフタイマー撮影](#)
- [リモコン撮影](#)
- [操作をカスタマイズする](#) **応用**

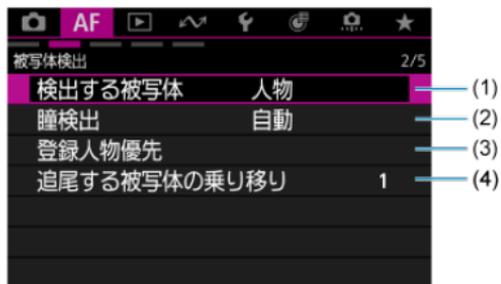
メニュー目次：AFタブ（動画撮影）

● AF動作・AFエリア



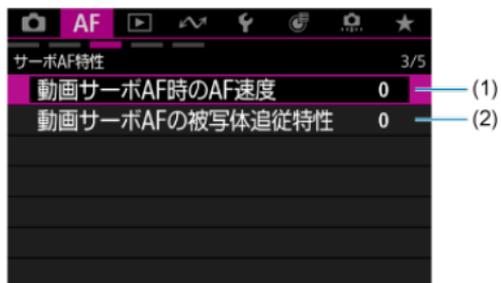
- (1) [動画サーボAF設定](#)
- (2) [AFエリア](#) **応用**
- (3) [フォーカスモード](#) **応用**

● 被写体検出



- (1) [検出する被写体](#) **応用**
- (2) [瞳検出](#)
- (3) [登録人物優先](#)
- (4) [追尾する被写体の乗り移り](#) **応用**

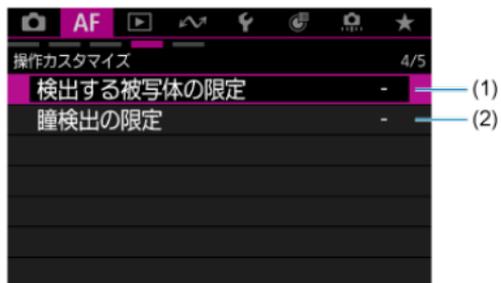
● サーボAF特性



(1) [動画サーボAF時のAF速度](#) **応用**

(2) [動画サーボAFの被写体追従特性](#) **応用**

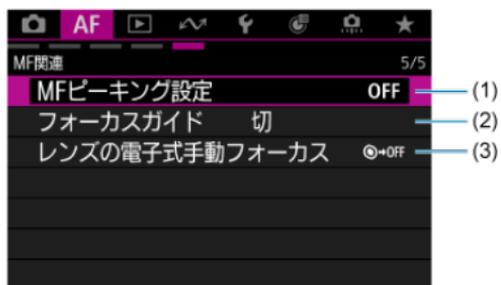
● 操作カスタマイズ



(1) [検出する被写体の限定](#) **応用**

(2) [瞳検出の限定](#) **応用**

● MF関連



- (1) [MFピーキング設定](#) 応用
- (2) [フォーカスガイド](#)
- (3) [レンズの電子式手動フォーカス](#) 応用

メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）

● AF動作・AFエリア



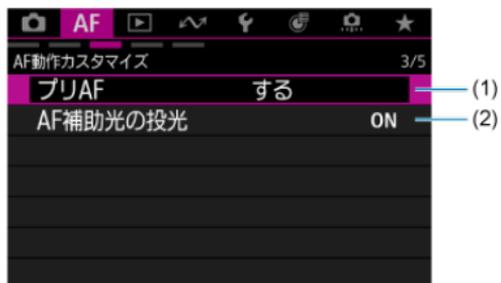
- (1) [AF動作](#) **応用**
- (2) [AFエリア](#) **応用**
- (3) [サーボAF中の全域トラッキング](#) **応用**
- (4) [フォーカスモード](#) **応用**

● 被写体検出



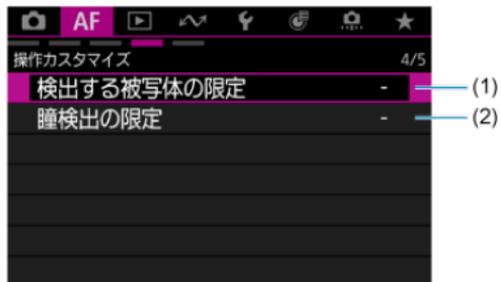
- (1) [検出する被写体](#) **応用**
- (2) [瞳検出](#)
- (3) [登録人物優先](#)
- (4) [追尾する被写体の乗り移り](#) **応用**

● AF動作カスタマイズ



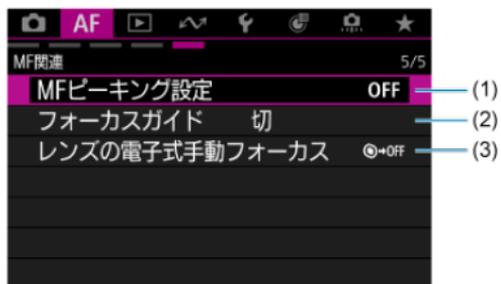
- (1) [プリAF](#)
- (2) [AF補助光の投光](#)

● 操作カスタマイズ



- (1) [検出する被写体の限定](#) **応用**
- (2) [瞳検出の限定](#) **応用**

● MF関連



- (1) [MFピーキング設定](#) 応用
- (2) [フォーカスガイド](#)
- (3) [レンズの電子式手動フォーカス](#) 応用

- [止まっている被写体を撮る：ワンショットAF](#)
- [動いている被写体を撮る：サーボAF](#)
- [AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF](#)

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。

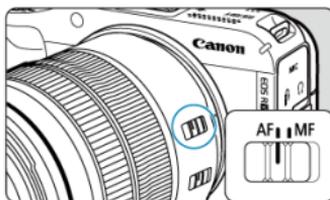
1. フォーカスモードをAFに設定する

- フォーカスモードスイッチのないRFレンズ装着時
[AF：フォーカスモード] を [AF] に設定します。



参考

- 撮影画面で  を押し、[AF] [MF] を選択することもできます。
- フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時
レンズのフォーカスモードスイッチを  に設定します。



2. [AF : AF動作] を選ぶ (🔗)

3. 項目を選ぶ



📖 参考

- ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。ワンショットAF時は、構図を変えて再度ピント合わせを行うか、ピントが合いにくい撮影条件を参照してください (🔗)。
- サーボAF時はピントが合わない場合も撮影されます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

参考

- [🔊：電子音] を [切] に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。
- 電子式手動フォーカス機能を備えたレンズ使用時は、[レンズの電子式手動フォーカス](#)を参照してください。

フォーカスロック撮影

固定したAFフレームでワンショットAFを行い、ピント位置を保持した状態で構図を変えて行う撮影を「フォーカスロック撮影」といいます。シャッターボタンの半押しでピント合わせを行う場合の操作は下記の通りです。

1. 固定したAFフレームを、ピントを合わせたい被写体に向けてシャッターボタンを半押しする



2. 合焦してAFフレームが緑色で表示されたら、シャッターボタンを半押ししたまま構図を調整する



3. シャッターボタンを全押しして撮影する

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。ピントが合っても電子音は鳴りません。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

⚠ 注意

- 絞り数値が大きい場合や使用するレンズ、被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。
- 止まっている被写体に対して、サーボAFの動作が不安定な場合は、ワンショットAFで撮影することをおすすめします。

AFモードを自動的に切り換える：AIフォーカスAF

シャッターボタンを半押ししている間や、連続撮影している間、被写体の状態に応じて、カメラがAFモードを自動的に【ワンショットAF】から【サーボAF】へと切り換えます。

[被写体検出AF](#)

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。

1. モードダイヤルを〈**AF**〉〈**A+**〉〈**SCN**〉〈**S&F**〉にする
2. [**AF: 動画サーボAF**] を選ぶ



3. [する] を選ぶ



● する

- 初期状態では〈AF-ON〉ボタンを押すと、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。
- 初期状態では、シャッターボタンを半押しすると、測光が行われます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の【SERVO AF】をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。



- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AFエリアを変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

● しない

- 初期状態では〈AF-ON〉ボタンを押すと、設定されているAFエリアでピント合わせが行われます。
- 初期状態では、シャッターボタンを半押しすると、測光が行われます。

注意

【動画サーボAF：する】設定時の注意事項

- CanonLog撮影時または100fps以上の動画撮影時、低輝度下の被写体や明暗差（コントラスト）の少ない被写体に対して、AFでピントが合いにくいことがあります。AFが合わない場合は、絞りを開放側に設定するか、明るいレンズを使用することでピントが合わせやすくなります。
- **ピントが合いにくい撮影条件**
 - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
 - 近距離で動いている被写体
 - 絞り数値が大きいとき
 - ピントが合いにくい撮影条件も参照してください (🔗)。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間が短くなります。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

被写体検出AF

【AF：検出する被写体】(🔗) で設定した被写体が検出されないときに、動画サーボAFを行うかどうかを設定することができます。



● 検出優先

【AF：AFエリア】(🔗) で設定した範囲内で、カメラが自動選択した被写体に対して動画サーボAFを行います。

自動選択する被写体は、【AF：検出する被写体】で設定した被写体を優先します。

- **検出限定**

[AF: 検出する被写体] で設定した被写体に対してのみ動画サーボAFを行います。被写体が検出されないときは、動画サーボAFを停止します。

AFエリアの選択

- [AFエリア](#) **応用**
- [AFエリアの選択](#) **応用**
- [サーボAF中の全域トラッキング](#) **応用**
- [検出する被写体](#) **応用**
- [瞳検出](#)
- [追尾する被写体の乗り移り](#) **応用**
- [ボタンでトラッキング](#) **応用**
- [フォーカスモード](#) **応用**
- [AFフレームを任意設定する](#) **応用**
- [拡大表示](#)
- [AF撮影のヒント](#)
- [ピントが合いにくい撮影条件](#)
- [AF範囲](#)

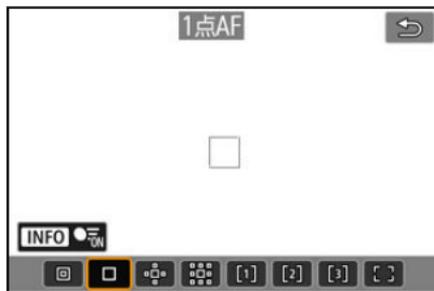
ここではAFエリアの動作について説明します。ここでの表示画面は、: 撮影時ボタン カスタマイズ] で [AFエリア] を割り当てたボタンを押したときに表示されます。

: スポット1点AF



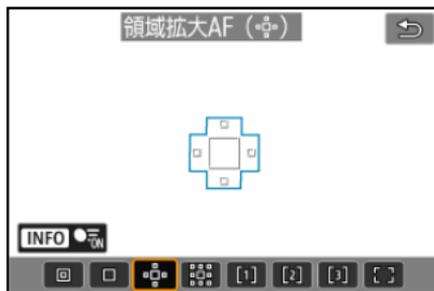
1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。

: 1点AF



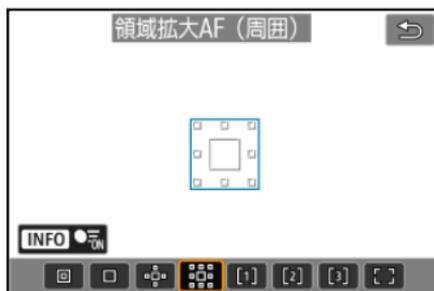
1つのAFフレーム  でピント合わせを行います。

☒ : 領域拡大AF (☒)



1つのAFフレーム [☒] を含む、青枠で囲んだAFエリアでピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。フレキシブルゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性を持っています。サーボAFのときは、初めにAFフレーム [☒] で被写体を捉えます。

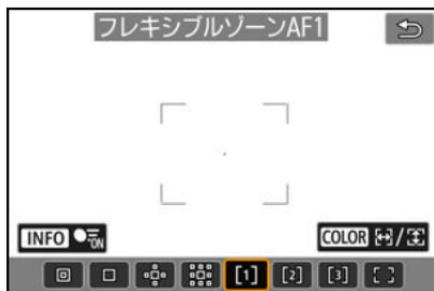
☒☒ : 領域拡大AF (周囲)



1つのAFフレーム [☒] を含む、青枠で囲んだAFエリアでピント合わせを行うため、領域拡大AF (☒) より、動きのある被写体を捉えやすくなります。サーボAFのときは、初めにAFフレーム [☒] で被写体を捉えます。

[1]: フレキシブルゾーンAF1

初期状態では、正方形のゾーンAFフレームが設定されています。



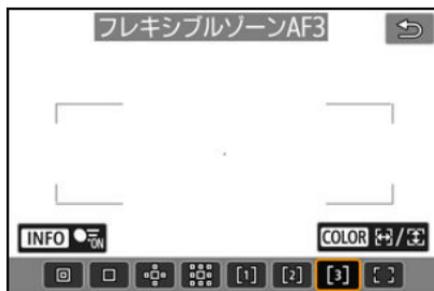
[2]: フレキシブルゾーンAF2

初期状態では、縦長のゾーンAFフレームが設定されています。



[3]: フレキシブルゾーンAF3

初期状態では、横長のゾーンAFフレームが設定されています。



フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、フレキシブルゾーンAF3では、ゾーンAFフレームのサイズを自由に設定できます (🔍)。

領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときには有効です。最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。

シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは [□] で表示されます。

[]: 全域AF



フレキシブルゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い「全域AFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AF、領域拡大AF、フレキシブルゾーンAFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときには有効です。

最も近距離の被写体に限らず、動いている被写体や人の顔、動物の顔、乗り物、被写体距離などのさまざまな条件によってピント合わせの領域を決定します。

シャッターボタンを半押しすると、ピントが合ったAFフレームは [□] で表示されます。

撮影状況や被写体にあわせて、AFエリアを選ぶことができます。

1. [AF: AFエリア] を選ぶ (📷、📷)

2. AFエリアを選ぶ



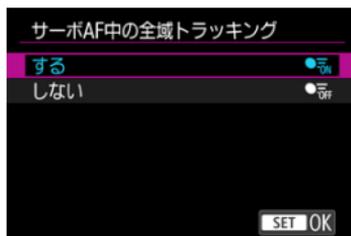
📖 参考

- 〈📷〉を押したあと 〈📷〉でAFエリアを選択し、〈🔧〉〈◀〉〈▶〉を押すことでAFエリアを設定することもできます。

サーボAFを行ったとき（[AF: AF動作]が[サーボAF]設定時にシャッターボタンを半押ししたとき）に、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わるかどうかを設定することができます。

1. [AF: サーボAF中の全域トラッキング] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **する**
シャッターボタンを半押しすると、AFエリアが全域AFとなり、画面全域で被写体を追尾する動作に切り換わります。
- **しない**
シャッターボタンを半押し/全押ししたときに、AFフレーム内でのみ被写体を追尾します。

追尾による主被写体の自動選択条件を設定することができます。

[なし] 以外に設定すると、検出した被写体の中で、主被写体に追尾フレーム [] が表示されます。被写体が動くと追尾フレームも動いて被写体を追尾します。

[AF: 瞳検出] を [しない] 以外に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます ()。



● 自動

カメラが人物、動物、乗り物から追尾する主被写体を自動で選択します。

● 人物

人物の顔・頭部を追尾する主被写体として優先します。

人物の顔・頭部を検出できなくなった場合は、人物の胴体を検出し追尾を行います。人物の胴体も検出できない場合は、人物の体の一部で追尾する場合があります。

● 動物優先

動物（犬、猫、鳥、馬）および人物を検出し、追尾する主被写体として動物の検出結果を優先します。

動物は顔または全身が検出され、顔が検出されれば顔に追尾フレームが表示されます。動物の顔または全身を検出できない場合は、動物の体の一部で追尾する場合があります。

● 乗り物優先

乗り物（モータースポーツカー・バイク、飛行機、鉄道）および人物を検出し、追尾する主被写体として乗り物の検出結果を優先します。

乗り物は重要部位または全体（鉄道では先頭）が検出され、重要部位が検出されれば重要部位に追尾フレームが表示されます。

乗り物の重要部位または全体が検出できない場合は、乗り物の車体の一部で追尾する場合があります。

〈INFO〉ボタンを押すと、乗り物の重要部位を検出するかどうかを設定できます（スポット検出）。

● なし

被写体検出を行わず、構図からカメラが主被写体を自動選択します。

追尾フレームは表示されません。

ⓘ 注意

- 次のような場合は、被写体を検出できないことがあります。
 - 被写体が極端に小さい／大きい
 - 被写体が明るすぎる／暗すぎる
 - 被写体の一部が隠れている
 - 被写体と背景の見分けがつきにくい
 - 雨や雪、土埃などにより被写体が不鮮明
- 人物の姿勢やウェアの色や形状によっては検出できないことがあります。また、人物以外の被写体に追尾フレームが表示される場合があります。
- 犬、猫、鳥、馬の種類や色、形状や姿勢によっては検出できないことがあります。また、類似した動物や、動物以外に追尾フレームが表示される場合があります。
- 四輪車、二輪車、飛行機、鉄道の種類や色、形状や姿勢によっては検出できないことがあります。また、類似した乗り物や、乗り物以外に追尾フレームが表示される場合があります。

📖 参考

- シャッターボタンを半押しして被写体を選択するときは、下記の被写体を選択できます。該当する被写体がない場合は、**[検出する被写体]**の設定に関わらず、物体を追尾します。
 - **自動**
人物、動物、乗り物
 - **人物**
人物、動物、乗り物
(動物、乗り物が検出されるのはトラッキング中のみです。)
 - **動物優先**
動物、人物
 - **乗り物優先**
乗り物、人物
- **[AF: 検出する被写体の限定]**で検出項目を使用するものだけに限定することができます。
- 「自動」で人物/動物/乗り物を撮影する際に、狙った被写体が検出されにくいと感じた場合には、それぞれに適した設定に変更すると改善する場合があります。
- 設定したAFエリアのみでAFを行いたい場合は、**[AF: サーボAF中の全域トラッキング]**を**[しない]**かつ**[AF: 検出する被写体]**を**[なし]**に設定してください。

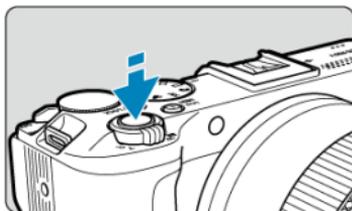
ピントを合わせる被写体を任意で選択する

1. 追尾フレームを確認する



- カメラを被写体に向けます。[AF:AFエリア]で[全域AF]以外を選んでいるときは画面にAFフレーム（またはゾーンAFフレーム）が表示されます。その場合は、AFフレームを被写体に合わせます。
- 被写体を検知すると、追尾フレーム [] が表示されます。
- 追尾フレーム [] は、AFフレームと離れているときは、灰色で表示されます（状況によっては、離れているときでも灰色表示にならない場合もあります）。
- 現在追尾している被写体がAFフレームに近づくと、AFフレームの外でも追尾フレームが白色（アクティブフレーム）に変わり、被写体として選ぶことができます。
- 動画撮影時は、追尾フレーム [] の灰色表示はされません。

2. ピントを合わせて撮影する



- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った追尾フレーム（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）が表示され、「ピピッ」と電子音が鳴ります（ワンショットAF時のみ）。ピントが合わないときは、追尾フレームがオレンジ色で表示されます。

参考

- [AF: AFエリア] を [全域AF] に設定時、画面をタッチして被写体を任意選択したときは、追尾フレームが [] に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面全域で被写体を追尾します。
- 追尾のロックを解除したいときは、[OFF] をタッチします。
- AFフレームが追尾フレーム [] に重なっていない状態で、シャッターボタンを半押しすると、AFフレームでピント合わせが行われます。
- ピント合わせを行う [] が、被写体の全体ではなく一部分に表示されることがあります。
- 追尾フレームは被写体により大きさが変化します。
- [撮影時ボタン カスタマイズ] で [検出した被写体でAF] を割り当てたボタンを押すことで、任意のAFエリアを選択している状態でも、[全域AF] に変わり被写体を検出しAFを行うことができます。

ⓘ 注意

- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、[ワンショットAF]でピント合わせが行われます。
- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから (📷)、AFを行ってください。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFできないことがあります。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

人の目、動物の目にピントが合うように撮影することができます。

1. 「AF：瞳検出」を選ぶ (☑、☑)

2. 項目を選ぶ



- **しない**
瞳検出を行いません。
- **自動**
瞳検出し、カメラが自動的にAFを行う瞳を選択します。
- **右目優先／左目優先**
瞳検出し、被写体の右目／左目を優先してAFを行います。優先した側の瞳が検出されていない場合、もう一方の瞳にAFを行います。

3. 被写体にカメラを向ける



- 目の周囲に追尾フレームが表示されます。
- **[AF: AFエリア]** が **[全域AF]** のときに画面をタッチするか、**<⬠>** を操作してピントを合わせたい目を選ぶことができます。**<⬠>** を操作すると、さらに追尾フレームが **[⬠]** に変わります。
- **[AF: AFエリア]** で **[全域AF]** を設定したとき、またはトラッキング中のとき、画面をタッチして目を選ぶこともできます。
- 選んだ目が検出できなくなった場合は、ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。

4. 撮影する

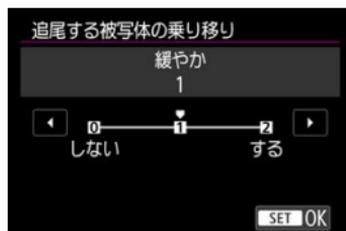
⚠ 注意

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことや、右目/左目の優先が正しく行われなかったりすることがあります。
- **[AF: 検出する被写体]** を **[なし]** にしたときは、目は検出されません。

📖 参考

- **[AF: 瞳検出の限定]** で検出項目を使用するものだけに限定することができます。

追尾する被写体への測距点の乗り移りやすさを設定することができます。



- **しない**
最初にAF対象とした被写体を、できる限り追尾し続けます。
- **緩やか**
最初にAF対象とした被写体を、できる限り追尾し続けます。追尾している被写体が主被写体と判定できなくなった場合、他の被写体に移ります。
- **する**
状況に応じて、追尾対象が他の被写体に移ります。

⚠ 注意

[しない] 設定時の注意事項

- 被写体の条件によっては、被写体を追尾し続けられない場合があります。
 - 被写体の動きが激しい場合
 - 被写体の向きや姿勢が変わった場合
 - 追尾フレームが被写体から外れたり、または被写体が障害物に隠れたりして、被写体を見失った場合
- タッチ操作で被写体を選択したときは、**[AF: 検出する被写体]** の設定にかかわらず、選択した被写体をできる限り追尾し続けます。

📖 参考

- 主被写体が決まっていて、継続して主被写体にピントを合わせ続けたい場合は、**[しない]** または **[緩やか]** がおすすめです。
- 構図に応じてピントを合わせる対象を速やかに切り換えたい場合は、**[する]** がおすすめです。

[ : 撮影時ボタン カスタマイズ] で [全域トラッキングの開始/停止] および [AFフレーム選択] を割り当てたボタンを押すことで被写体を追尾フレーム [] で追尾することができます。ここでは [全域トラッキングの開始/停止] を 〈ISO〉 ボタンに、[AFフレーム選択] を 〈3〉 ボタンに割り当てた場合を例に説明します ()。

1. 追尾フレームを確認する



- カメラを被写体に向けると、追尾フレームが表示されます。
[AF: AFエリア] で [全域AF] 以外を選んでいるときは、AFフレームを被写体に合わせます。
- 領域拡大AF ()、領域拡大AF (周囲) のときは、隣接するAFフレームも表示されます。
- フレキシブルゾーンAFのときは、設定されているゾーンAFフレームが表示されます。

2. 〈ISO〉 ボタンを押す



- 追尾フレームが [] に変わり、その被写体を追尾対象としてロックし、画面内で被写体が動いても追尾します。もう一度 〈ISO〉 ボタンを押すと、追尾を解除できます。
- 検出可能な対象が複数あるときは、〈3〉 ボタンを押すと追尾フレームが [] に変わり、〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい被写体を選ぶことができます。
- トラッキングを開始すると、設定しているAFエリアによらず画面全域で追尾が行われます。

3. 撮影する

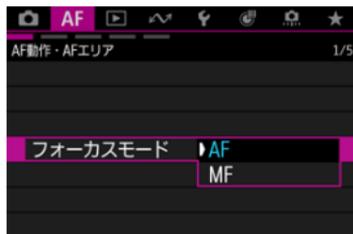
参考

- 撮影待機中にトラッキングを停止すると、AFエリアとAFフレームの位置はトラッキングする前の状態に戻ります。
- シャッターボタンを半押し/全押ししているときにトラッキングを停止すると、AFエリアはトラッキングする前の状態に戻りますが、AFフレームの位置は停止時の追尾フレームの中心になります ([サーボAF] 時)。

ピント合わせの方法を設定することができます。

1. [AF: フォーカスモード] を選ぶ (📷、📷)

2. 項目を選ぶ



- **AF**
オートフォーカスで動作します。
- **MF**
マニュアルフォーカスで動作します。

📖 参考

- 撮影画面で ◀ を押して [AF] [MF] を切り換えることもできます。

⚠ 注意

- [MF] に設定した場合は、基本情報表示でAFフレームが非表示になり、MFアイコンが表示されます。

[ : 撮影時ボタン カスタマイズ] で [AFフレーム選択] を割り当てたボタンを押すことで、AFフレームを任意設定することができます。ここでは〈3〉ボタンに割り当てた場合を例に説明します。

1. AFフレームを確認する



(1)

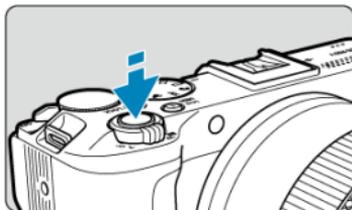
- AFフレーム (1) が表示されます。

2. AFフレームを移動する



- 〈3〉ボタンを押したあと〈〉を操作して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。ピントを合わせたい位置にタッチして、AFフレームを移動することもできます。
- 〈MENU〉ボタンを押すとAFフレームが画面中央に戻ります。

3. ピントを合わせて撮影する



- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



- ピントが合うとAFフレームの色が変わり（ワンショットAF時：緑色、サーボAF時：青色）、「ピピッ」と電子音が鳴ります（ワンショットAF時のみ）。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

注意

- フレキシブルゾーンAFで、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム [□] が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。
- 画面にタッチしてピント合わせを行うときは、AF動作の設定にかかわらず、[ワンショットAF] でピント合わせが行われます。



画面の [Q] をタッチすると、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

- 被写体を検出時で追尾フレームが白色（アクティブフレーム）のときは、追尾フレームを中心に拡大表示されます。
被写体を検出時で追尾フレームが灰色のとき、または被写体を検出できないときは、AFフレーム（画面中央）を中心に拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままAFが行われます。
- サーボAFまたはAIフォーカスAF設定時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

ⓘ 注意

- 拡大表示の状態ではピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態ではAFを行ったあとに拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態では異なります。
- 拡大表示中、プリAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。



- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください (Ⓜ)。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム/ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。



- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合



使用するレンズやアスペクト比、動画記録サイズ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

[MFピーキング設定（輪郭強調）](#)

[フォーカスガイド](#)

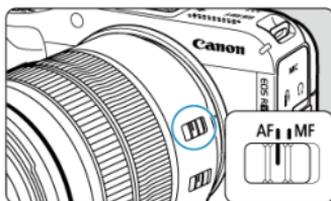
AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。

1. フォーカスモードを〈MF〉に設定する

- フォーカスモードスイッチのないRFLレンズ装着時
[AF: フォーカスモード] を [MF] に設定します。



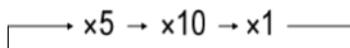
- フォーカスモードスイッチのあるRFレンズ装着時
レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉に設定します。



2. 映像を拡大する



- [Q] にタッチすると、次のように画面が切り換わります。



3. 拡大位置を移動する



- 画面をドラッグして、ピントを合わせたい位置に移動します。
- [Q] にタッチすると、拡大位置が画面中央に戻ります。

4. 手動でピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、[Q] にタッチして通常表示にします。

参考

- 拡大表示中は露出が固定されます。
- 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。

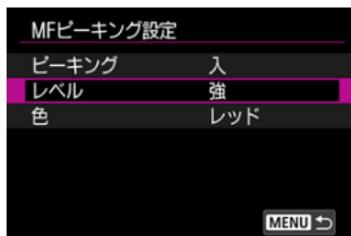
1. [AF: MFピーキング設定] を選ぶ (📷、📷)

2. [ピーキング] を選ぶ



- [入] を選びます。

3. [レベル]、[色] を設定する



- 必要に応じて設定します。

⚠ 注意

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- HDMI出力時、HDMI出力先にピーキング表示は行われません。なお、[📷: HDMI接続時の表示] で [📺] 以外を設定しているときは、カメラの画面にはピーキングが表示されます。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[ピーキング] を [切] に設定してください。

 参考

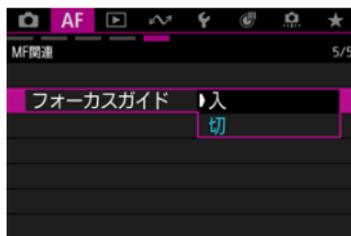
- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。

フォーカスガイド

[AF: フォーカスガイド] を [入] にすると、現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量が、ガイド枠で視覚的に表示されます。

1. [AF: フォーカスガイド] を選ぶ (📷、📷)

2. [入] を選ぶ



- [AF: 検出する被写体] を [なし] 以外に設定しているときに、人物の顔を検出したときは、主被写体と判断した人物の顔にガイド枠が表示されます。さらに、[AF: 瞳検出] を [しない] 以外に設定しているときに、人物の目を検出したときは、主被写体と判断した顔の目の付近にガイド枠が表示されます。
- [AFフレーム選択] を割り当てたボタンを押して、〈◀▶〉を操作すると、押した方向にガイド枠を移動することができます。
- 〈◀▶〉を操作してガイド枠を移動した場合は、〈📷〉を押すと、ガイド枠が設定されます。
- 画面にタッチして、ガイド枠を移動、設定することもできます。
- [📷] にタッチするとガイド枠が画面中央に戻ります。

ガイド枠の意味（現在のフォーカス位置、調整量）は以下のとおりです。



⚠ 注意

- AFでピントが合いにくい撮影条件 (ⓧ) では、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- 絞り数値が大きいほど、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- ガイド枠の表示中は、AFフレームは表示されません。
- 以下のときは、ガイド枠は表示されません。
 - カメラまたはレンズのフォーカスモードが〈AF〉に設定されているとき
 - 拡大表示時
 - デジタルズーム設定時
- TS-レンズを使用してシフトやティルトを行っているときは、ガイド枠が正しく表示されません。

📖 参考

- 電子式フォーカスリングを備えたレンズで、ピント合わせを行っているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されます。



- [人物の顔の登録](#)
- [登録人物の優先度変更・削除](#)
- [登録人物の顔を検出する](#)
- [すべての登録人物の削除](#)
- [登録データの保存・読込](#)

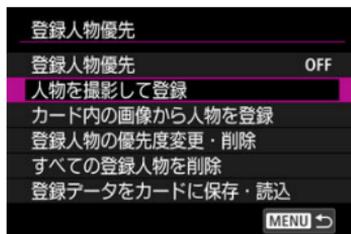
カメラに登録した人物の顔を検出して、ほかの人よりも優先的なピント合わせ、明るさ、色あいで撮影できます。顔の登録は、その場で撮影した画像、またはカード内の画像を使用していきます。

注意

- 本機能で登録した顔の画像や情報は、カメラに記録されます。カメラを譲渡や廃棄するときは、すべての登録情報を削除してください。
- 本機能を使用する際には、個人情報保護の観点で十分に配慮し、登録前に本人の同意を得ておくなど適用法令を遵守のうえご使用ください。本機能の使用に伴う個人情報に関する問題に関しては、キヤノンはいかなる責任も負いません。

撮影して登録

1. [AF: 登録人物優先] を選ぶ (☑)
2. [人物を撮影して登録] を選ぶ

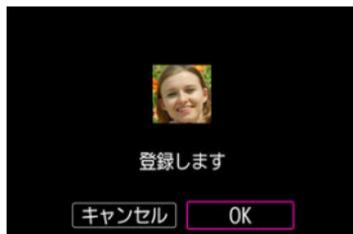


3. 登録する人物の顔を枠内に入れて撮影する



- 明るい場所で、正面を向いた状態で撮影します。
- 自然な表情になっている状態で撮影することをおすすめします。
- 帽子、マスク、サングラスなどは外した状態で撮影することをおすすめします。
- 撮影する直前に顔の登録を行うと、検出精度が向上する場合があります。
- 以下のような条件での撮影では、検出精度が低下したり、登録ができないことがあります。
 - 枠に対して顔が小さい
 - 顔の一部に影がある
 - 顔の一部が隠れている
 - パソコンやスマートフォンに表示された顔

4. [OK] を選ぶ



- 手順3で設定した範囲と、表示される画像が異なる場合がありますが、検出精度への影響はありません。

カード内の画像で登録

JPEG画像、HEIF画像が使用できます。RAW画像はJPEG画像に現像してカードに記録しておきます。

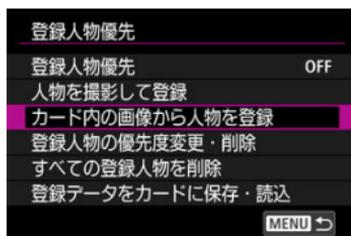
⚠ 注意

- 以下のような状態の画像では、検出精度が低下したり、登録ができないことがあります。
 - 顔の一部が隠れている
 - 顔の一部に影がある
 - パソコンやスマートフォンに表示された顔

📖 参考

- 顔が以下のような状態になっている画像の使用をおすすめします。
 - 明るい場所で、正面を向いている
 - 帽子、マスク、サングラスなどを外している
 - 自然な表情になっている
 - 顔が画面に対して小さすぎたり、大きすぎたりしない

1. [カード内の画像から人物を登録] を選ぶ

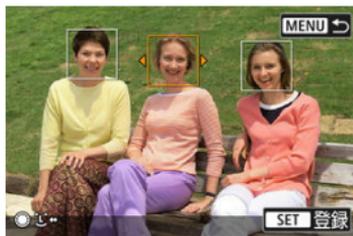


2. 画像を再生する



- 〈〉を押します。

3. 顔を選ぶ



- 複数の人物が写っているときは、〈〉〈〉〈〉で登録する人物の顔にオレンジ色の枠が表示されるようにします。
- 〈〉を押します。

4. [OK] を選ぶ



- 以下の画面が表示されるときは、続けて別の人物の顔を登録することができます。



顔検出時の表示について

撮影画面内で登録した顔を検出すると、顔の部分に白枠と [👤] が表示されます。なお、ワンショットAF時およびサーボAF時は [👤] は表示されません。

⚠ 注意

- 以下の場合、検出精度が低下することがあります。
 - 顔が正面を向いていないとき
 - 顔が明るすぎるか、暗すぎる時
 - 顔が画面に対して小さすぎるか、大きすぎる時
 - 表情の変化が大きいとき
 - 人物の動きが大きいとき
 - 帽子、マスク、サングラスなどで顔が隠れているとき
 - 登録時の顔の画像と、撮影時の顔の状態が大きく異なる時
- 顔の特徴が似ている別の人物を検出することがあります。
- 登録した人物の顔が検出されないときや、検出の精度が低いときは、登録情報を削除してから、再度登録を行ってください。

 参考

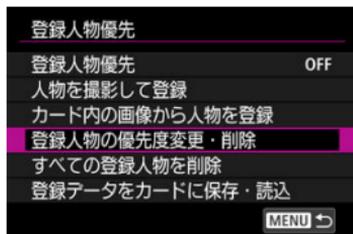
- [AF: 検出する被写体] が [人物] 以外に設定されているときは、設定された被写体を優先して検出します。

登録人物の優先度変更・削除

登録順序を並べ変えて、検出の優先度を変更することができます。また、登録人物を削除することもできます。

優先度の変更

1. [登録人物の優先度変更・削除] を選ぶ



2. 登録人物の顔を選ぶ



- ◀(⊙)▶(⬠) で選び、(Ⓞ) を押します。

3. 優先度を変更する



- <⌚> <⬇️> で移動して、<⌚> を押します。
- 変更を終了するときは、<MENU> ボタンを押します。

登録人物の削除

1. 登録人物の顔を選ぶ



- <⌚> <⬇️> で選び、<⌚> を押します。

2. <削除> ボタンを押す



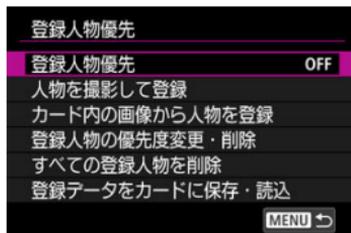
3. [OK] を選ぶ



- 〈MENU〉 ボタンを押して終了します。

登録人物の顔を検出する

1. [登録人物優先] を選ぶ



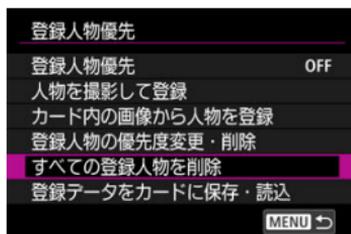
2. [する] を選ぶ



すべての登録人物の削除

カメラを譲渡や廃棄するときは、すべての登録情報を削除してください。

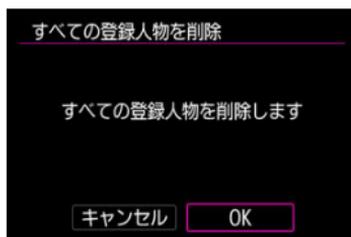
1. [すべての登録人物を削除] を選ぶ



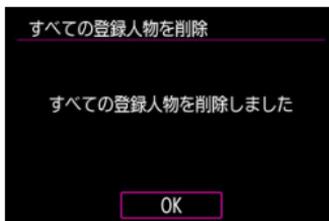
2. を押す



3. [OK] を選ぶ



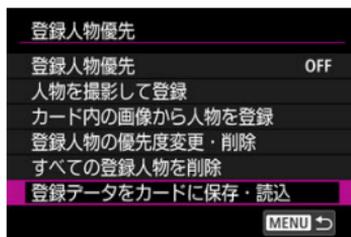
- 〈〉を押します。



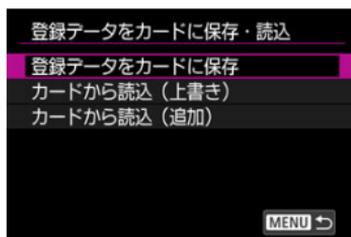
登録データの保存・読込

人物の顔の登録データは、カードへ書き出して保存することができます。また、EOS R50 Vで保存した登録データをカードから読み込むことができます。

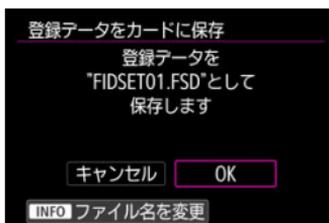
1. 【登録データをカードに保存・読込】を選ぶ



2. [登録データをカードに保存] を選ぶ



- [登録データをカードに保存] を選ぶと、カメラ内の登録データがカードに保存されます。
- 以下の画面で〈INFO〉ボタンを押すと、登録データのファイル名を変更してカードに保存することができます。



- [カードから読込 (上書き)] を選ぶと、カード内の登録データがカメラ内に上書き保存されます。カメラ内の既存登録データは削除されます。
- [カードから読込 (追加)] を選ぶと、カード内の登録データがカメラ内に追加保存されます。カメラ内の既存登録データは削除されません。
 - 登録データの読み込みは、優先度が高い人物から順に行われます。
 - カメラ内の登録データがいっぱいになるとそれ以降のデータは読み込まれません。

AF機能のカスタマイズ

☑ [\[サーボAF特性\] \(動画撮影時\)](#) 応用

☑ [\[AF動作カスタマイズ\]](#)

☑ [\[操作カスタマイズ\]](#) 応用

☑ [\[MF関連\]](#) 応用

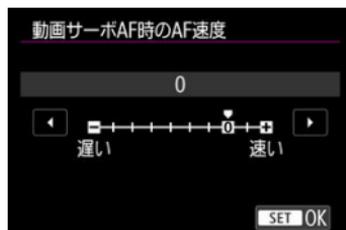
撮影スタイルや被写体に応じて、AFに関連する機能を細かく設定することができます。

[サーボAF特性] (動画撮影時)

📷 🗨️ 応用

動画サーボAF時のAF速度

動画サーボAFのAF速度を設定することができます。この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。



作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（-1～-7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

*「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください (🔗)。

⚠️ 注意

- 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

動画サーボAFの被写体追従特性

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、被写体がAFフレームから外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。

この機能は**[AF：動画サーボAF]**が**[する]**のときに設定することができます。



- **粘る：-3/-2/-1**

被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

- **敏感：+1/+2/+3**

AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

参考

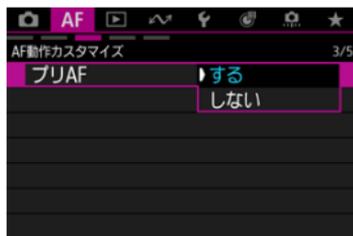
- 機能しないときは、**[0]** に設定したときと同じ動作になります。

プリAF

常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。

1. [AF:プリAF] を選ぶ (🔗)

2. [する] を選ぶ



⚠ 注意

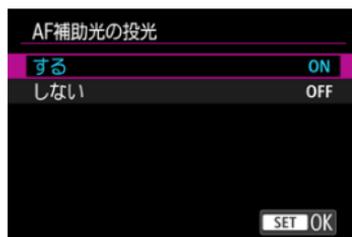
- [する] 設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

AF補助光の投光

カメラ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

1. [AF:AF補助光の投光] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **[ON] する**
必要に応じてAF補助光が投光されます。
- **[OFF] しない**
AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。

⚠ 注意

- 外部ストロボのカスタム機能の [**AF**: AF補助光の投光] が [**しない**] に設定されているときは、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

検出する被写体の限定

[AF: 検出する被写体] の選択項目を、使用する項目だけに限定することができます。使用しない項目を選び、〈〉を押して [✓] を外します。[OK] を選ぶと設定されます。



⚠️ 注意

- すべての項目の [✓] を外すことはできません。

📖 参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、[AF: 検出する被写体の限定] の右端に「*」が表示されます。

瞳検出の限定

[AF: 瞳検出] の選択項目を、使用する項目だけに限定することができます。使用しない項目を選び、〈〉を押して [✓] を外します。[OK] を選ぶと設定されます。



⚠ 注意

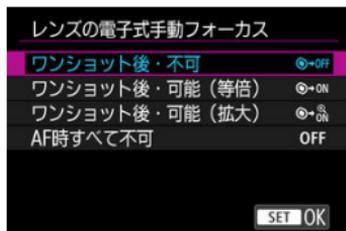
- すべての項目の [✓] を外すことはできません。

📖 参考

- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、[AF: 瞳検出の限定] の右端に「*」が表示されます。

レンズの電子式手動フォーカス

電子式の手動フォーカス機能を備えたレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。



- **[OFF] ワンショット後・不可**
AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **[ON] ワンショット後・可能 (等倍)**
AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。
- **[ON] ワンショット後・可能 (拡大)**
AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。レンズのフォーカスリングを回すと、ピント位置が拡大され、手動でピント調整ができます。
- **[OFF] AF時すべて不可**
カメラまたはレンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント調整を禁止します。

注意

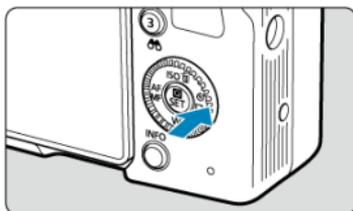
- **[ワンショット後・可能 (拡大)]** 設定時、撮影後、すぐにシャッターボタンを半押ししたときは、レンズのフォーカスリングを回しても拡大表示されないことがあります。そのときは、シャッターボタンから一旦指を離し、画面に〔Q〕が表示されたから、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回すと拡大表示されます。

 参考

- お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。

1. 〈▶〉を押す (📷)



- 画面に映像が表示された状態で、〈▶〉を押します。

2. ドライブモードの項目を選ぶ



- 〈📷〉を回して、ドライブモードの項目を選びます。

● [📷] 1枚撮影

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

● [📷+] 高速連続撮影+

シャッターボタンを全押しすると、押している間、[📷：シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [電子先幕] のとき：最高約12コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約15コマ/秒

● [C/H] 高速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、[C/H : シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [電子先幕] のとき：最高約7.6コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約15コマ/秒

● [C/L] 低速連続撮影

シャッターボタンを全押しすると、押している間、[C/L : シャッター方式] の設定に応じて以下の連続撮影を行うことができます。

- [電子先幕] のとき：最高約3.0コマ/秒
- [電子シャッター] のとき：最高約5.0コマ/秒

● [C/10] セルフタイマー：10秒 (☑)

● [C/2] セルフタイマー：2秒 (☑)

● [C/C] セルフタイマー：連続撮影 (☑)

ⓘ 注意

- [電子先幕] で [Q₄] に設定したときに、連続撮影速度が約12コマ/秒となる条件は以下の通りです。
 - 常温 (+23°C)
 - 以下のいずれかの電源を使用
 - フル充電したLP-E17 (劣化したバッテリーでは、連続撮影速度が低下することがあります)
 - 家庭用電源アクセサリ (別売)
 - USB電源アダプター (別売)
 - シャッタースピード: 1/1000秒以上
 - フリッカー低減処理: なし
- [電子シャッター] が [Q₄] または [QH] に設定されたときに、連続撮影速度が約15コマ/秒となる条件は以下の通りです。
 - シャッタースピード: 1/250秒以上なお、以下の設定または連続撮影中の操作によっては、連続撮影速度が約15コマ/秒以下となることがあります。
 - 撮影モードが [P] [Tv] モードで絞り数値が変化する設定の場合
 - ズーム操作を行った場合
 - 手動でピント合わせを行った場合
 - サーボAFによりフォーカス位置が変化した場合
- サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、連続撮影速度が低下することがあります。
- 最高連続撮影速度に対応するレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください (🌐)。
- フリッカー光源下で撮影を行うと、[電子シャッター] 時は連続撮影速度が遅くなります。また、[電子先幕] 時は連続撮影速度が遅くなることがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため (🌐)、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

1. <▶>を押す (6)

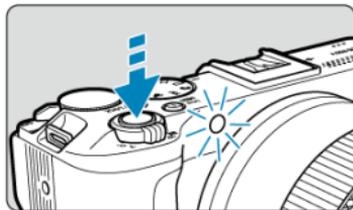
- 画面に映像が表示された状態で、<▶>を押します。

2. ドライブモードの項目を選ぶ



- <☰>を回して、セルフタイマーを選びます。
 - ☰₁₀ : 10秒後に撮影
 - ☰₂ : 2秒後に撮影
 - ☰_C : 10秒後に設定枚数を連続撮影*
- * <INFO> ボタンを押し、<◀><▶>で連続撮影枚数を設定します。

3. 撮影する



- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、モニターに表示される秒数の減算表示で動作を確認することができます。
- 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。

ⓘ 注意

- [📷] のときは、記録画質や外部ストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。
- [📷: サイレントシャッター機能] を [入] に設定した場合は、セルフタイマーランプの点滅と電子音の動作はありません。

📖 参考

- [📷₂] は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して (🔍)、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します (🔒)。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターをタッチするか、(🔍) を押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

[ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1](#)

「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売／Bluetooth接続）を使用したリモコン撮影を行うことができます。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。
最初にカメラとBR-E1のペアリングを行ってください 。
操作方法については、BR-E1の使用説明書を参照してください。

参考

- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 動画撮影時にBR-E1を使用することもできます。

[ゾーンAFフレームのサイズを変更する](#)

AFをカスタマイズする方法を紹介します。それぞれの設定を組み合わせることで使えます。

ゾーンAFフレームのサイズを変更する

フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、およびフレキシブルゾーンAF3で表示される、ゾーンAFフレームのサイズを変更します。

1. 撮影画面で を押す



2. フレキシブルゾーンAF1、フレキシブルゾーンAF2、またはフレキシブルゾーンAF3のいずれかを選ぶ



3. 〈COLOR〉ボタンを押す



4. ゾーンAFフレームのサイズを変更する

- 〈〉で、ゾーンAFフレームのサイズを変更し、〈〉を押します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと、初期設定に戻ります。

再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

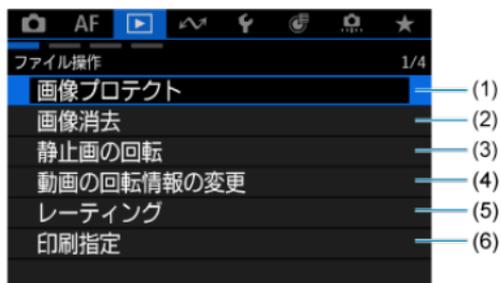
⚠ 注意

- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生機能に使用できない画像が表示されることがあります。

- [メニュー目次：再生タブ](#)
- [画像の再生](#)
- [画像の拡大表示](#)
- [インデックス表示（複数画像表示）](#)
- [動画の再生](#)
- [動画の前後部分のカット](#)
- [4K動画からのフレームの切り出し](#)
- [テレビで見る](#)
- [画像プロテクト](#)
- [画像消去](#)
- [静止画の回転](#)
- [動画の回転情報の変更](#)
- [レーティング](#)
- [印刷指定／DPOF](#)
- [クリエイティブアシスト](#)
- [JPEG/HEIF画像のリサイズ](#)
- [JPEG/HEIF画像のトリミング](#)
- [HEIF画像をJPEG画像に変換](#) **応用**
- [スライドショー](#)
- [画像検索の条件設定](#)
- [前回の画像から再生](#)
- [再生する情報の設定](#)
- [AFフレーム表示](#)
- [再生時のグリッド](#)
- [動画再生カウント](#)

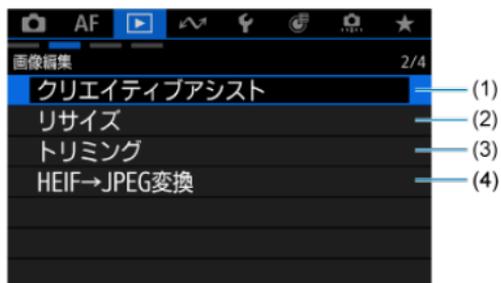
メニュー目次：再生タブ

● ファイル操作



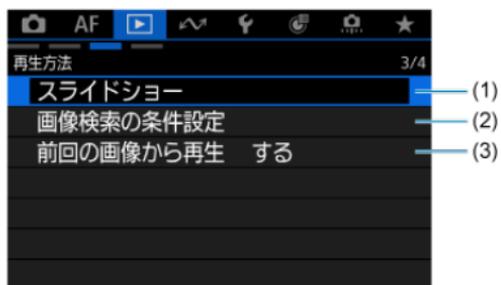
- (1) [画像プロテクト](#)
- (2) [画像消去](#)
- (3) [静止画の回転](#)
- (4) [動画の回転情報の変更](#)
- (5) [レーティング](#)
- (6) [印刷指定](#)

● 画像編集



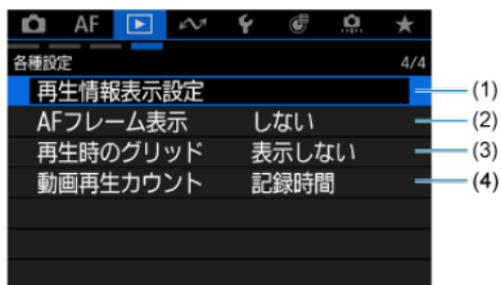
- (1) [クリエイティブアシスト](#)
- (2) [リサイズ](#)
- (3) [トリミング](#)
- (4) [HEIF→JPEG変換](#) **応用**

● 再生方法



- (1) [スライドショー](#)
- (2) [画像検索の条件設定](#)
- (3) [前回の画像から再生](#)

● 各種設定



- (1) [再生情報表示設定](#)
- (2) [AFフレーム表示](#)
- (3) [再生時のグリッド](#)
- (4) [動画再生カウント](#)

画像の再生

- ☑ [1枚表示](#)
- ☑ [撮影情報表示](#)
- ☑ [タッチ再生](#)

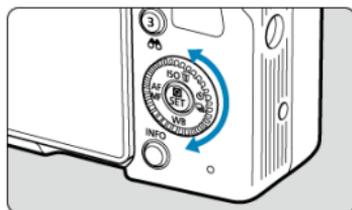
1枚表示

1. 画像を再生する

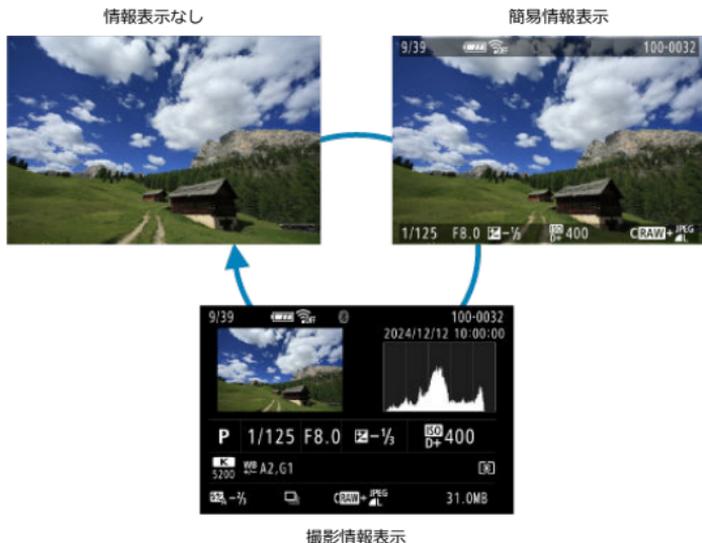


- 〈▶〉 ボタンを押します。
- 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2. 画像を選ぶ



- 〈0〉を回すと画像が切り換わります。撮影の順番にかかわらず、動画または静止画は続けて表示されます。
- 〈◀▶〉 ボタンを押すと、最後に撮影した動画、または最も大きいフォルダ番号内の最も大きいファイル番号の静止画が表示されます。
- 〈INFO〉 ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



3. 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

参考

- [📷: 静止画アスペクト比] を [1:1] [4:3] [16:9] に設定して (📷) 撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- [▶: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (📷)、絞り込まれた画像だけが表示されます。

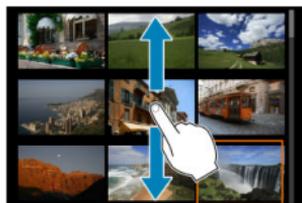
撮影情報表示

撮影情報表示の画面 (📷) が表示されている状態で〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、[▶ : 再生情報表示設定] で任意に設定することができます (📷)。

タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

画像送り



ジャンプ表示



インデックス表示



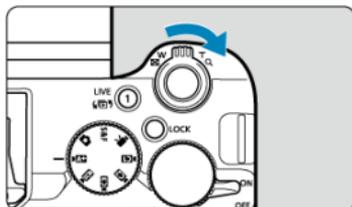
拡大表示



参考

- 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

1. 画像を拡大する



- 画像を再生した状態でズームレバーを〈Q〉側に押しします。



(1)

- 拡大表示になります。画面右下に拡大位置 (1) が表示されます。
- ズームレバーを〈Q〉側に押すたびに拡大します。
- ズームレバーを〈Q〉側に押すと縮小します。さらにズームレバーを〈Q〉側に押すと、インデックス表示 (Z) になります。
- [画像消去] を選ぶと、表示中の画像を消去できます (Z)。

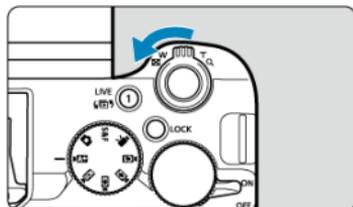
2. 表示位置を移動する



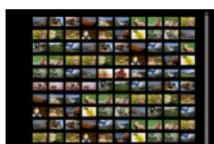
- 〈〉を押した方向に表示位置が移動します。
- 〈〉ボタンを押すか、[MENU ] をタッチすると、拡大表示が終了します。

インデックス表示（複数画像表示）

1. インデックス表示にする



- 画像を再生した状態でズームレバーを〈〉側に押します。
- 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。さらにズームレバーを〈〉側に押すと、9枚→36枚→100枚表示になります。ズームレバーを〈Q〉側に押すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

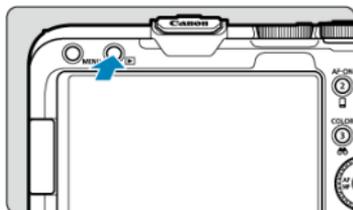


2. 画像を選ぶ



- 〈◀▶〉を押してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で〈Ⓜ〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

1. 画像を再生する



- 〈▶〉 ボタンを押します。

2. 動画を選ぶ



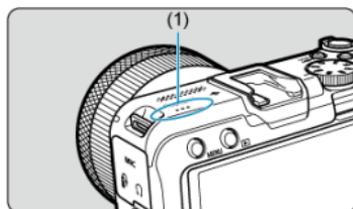
- 〈○〉 を回して再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に [SET] が表示されている画像が動画です。



- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈○〉 を押して1枚表示にします。

3. 1枚表示の状態で を押す

4. を選ぶ



- 動画再生が始まります。音がスピーカー（1）から再生されます。
- 再生中に  を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
-   を押すと、再生中でも音量を調整することができます。

動画再生パネル



項目	再生内容
◀ 前スキップ	〈◀〉を押すたびに約1秒戻します。〈◀〉を押し続けると早戻しします。
◀◀ フレーム戻し	〈◻〉を左に回すたびに1コマ戻します。
▶ 再生	〈◻〉を押すたびに再生/一時停止を繰り返します。
▶▶ フレーム送り	〈◻〉を右に回すたびに1コマ送ります。
▶▶ 次スキップ	〈▶▶〉を押すたびに約1秒送ります。〈▶▶〉を押し続けると早送りします。
▬	再生位置
hh:mm:ss	再生時間 (hh : 時、mm : 分、ss : 秒 / 【動画再生カウント : 記録時間】 設定時)
hh:mm:ss.ff (DF) hh:mm:ss:ff (NDF)	タイムコード (hh : 時、mm : 分、ss : 秒、ff : フレーム / 【動画再生カウント : タイムコード】 設定時)
🔊 音量	〈▲〉〈▼〉を押すと、スピーカー (🔊) の音量を調整することができます。
COLOR 🎨	〈COLOR〉ボタンを押すと、次の画面に進みます (🔊)。
MENU ↶	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示に戻ります。



前の画面と異なる項目のみ説明します。

項目	再生内容
編集	編集画面を表示します (🔗)。
スロー再生	を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの割合が表示されます。
フレーム切り出し	4K動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画 (JPEG画像/HEIF画像) として保存することができます (🔗)。
	ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

注意

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは (🔗)、テレビ側で音量の調整を行ってください (◀▶) (▲▼) を押しても音量は変わりません。
- カードの読み取り速度が遅いとき、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

動画の前後部分のカット

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

1. 動画を再生して一時停止させる



- 動画再生パネルが表示されます。

2. 〈COLOR〉ボタンを押して、[9<] を選ぶ



3. 削除する範囲を指定する



- [] (前部を削除) か、[] (後部を削除) を選びます。



- <◀> <▶> を押すと、フレームが送られます。◂ を回すと1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、◂ を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。

4. 編集内容を確認する



- [▶] を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、<MENU> ボタンを押します。

5. 保存する



- [] (1) を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは **[新規保存]**、編集前の動画を残さないときは **[上書き保存]** を選びます。
[] (2) が表示されるときは、圧縮して別のファイルとして保存できます。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

⚠ 注意

- 約1秒単位（画面下部に [✂] が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- 4GBを超えて分割された動画では、前後部分のカットはできません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- バッテリーの残量が少ない場合は、動画の圧縮が行われないことがあります。バッテリーを充電するか、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 長時間の動画を編集するときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。

4K動画からのフレームの切り出し

4K動画から任意のフレームを選び、静止画（JPEG画像、HEIF画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し」といいます。

1. 4K動画を選ぶ



- 〈〉を回して選びます。
- 撮影情報表示の画面（）で [**4k**] と表示されている画像が4K動画です。
- インデックス表示のときは、〈〉を押して1枚表示にします。

2. 1枚表示の状態で〈〉を押す

3. [] を選ぶ



- 動画再生が始まります。

4. 〈〉を押して、動画を一時停止させる

- 動画再生パネルが表示されます。

5. 切り出すフレームを選ぶ



- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法は、[動画再生パネル](#)を参照してください。

6. 〈COLOR〉ボタンを押して、を選ぶ



7. 保存する



- [OK] を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画 (JPEG画像) として保存されます。
[📷] : [HDR]HDR撮影(PQ)] を [HDR PQ] に設定して撮影した動画からフレームを切り出した場合は、HEIF画像で保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。

8. 表示する画像を選ぶ

- [元の動画] または [切り出した静止画] を選びます。

⚠ 注意

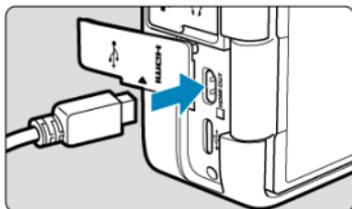
- 下記の4K動画からは、フレームを切り出すことはできません。
 - 他のカメラで撮影した動画
- カメラとパソコンを接続しているときはフレーム切り出しできません。

テレビで見る

カメラとテレビを市販のHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。

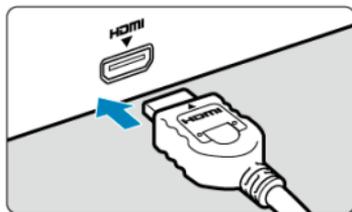
なお、テレビに映像が表示されないときは、[Ψ :システム周波数]の[59.94Hz:NTSC][50.00Hz:PAL]の設定を確認してください(テレビが対応している方式に合わせてください)。

1. HDMIケーブルをカメラに接続する



- HDMIケーブルを、カメラの〈HDMI OUT〉端子に差し込みます。

2. テレビにHDMIケーブルを接続する

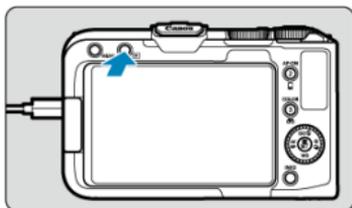


- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3. テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4. カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

5. <▶> ボタンを押す



- 画像がテレビに表示されます (カメラのモニターには何も表示されません)。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

⚠ 注意

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け/取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの <HDMI OUT> 端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

📖 参考

- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは [📺 : HDMI出力解像度] を [自動] 以外に設定してください (🔗)。なお、撮影時の設定が異なる動画がカード内に混在している場合は、映像が表示されるまでに時間がかかることがあります。

画像プロテクト

- [1枚ずつプロテクト](#)
- [範囲を指定してプロテクト](#)
- [フォルダ内/カード内全画像プロテクト](#)

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクト（保護）することができます。

注意

- カードを初期化すると 、プロテクトされた画像も消去されます。

参考

- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去 を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

1枚ずつプロテクト

1. : 画像プロテクト] を選ぶ
2. [画像を選択] を選ぶ



3. プロテクトする画像を選ぶ

- 〈〉を回してプロテクトする画像を選びます。

4. プロテクトする



- 〈〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に [] (1) が表示されます。
- もう一度 〈〉を押すと、プロテクトが解除され [] が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

参考

- 画像再生時に 〈〉を押して、クイック設定画面から画像をプロテクトすることができます。

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。

1. [範囲指定] を選ぶ



- [] : [Image Protect] の [Range Selection] を選びます。

2. 範囲を指定する



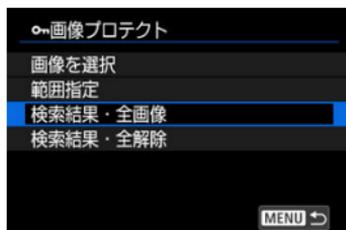
- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、[] が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



- [▶]: 画像プロテクト] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
- 解除するときは [フォルダ内・全解除] または [カード内・全解除] を選びます。
- [▶]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (☑)、表示される内容が [検索結果・全画像] [検索結果・全解除] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
- [検索結果・全解除] を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

画像消去

- [1枚ずつ消去](#)
- [チェック \[✓\] を付けてまとめて消去](#)
- [範囲を指定して消去](#)
- [フォルダ内/カード内全画像消去](#)

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト (🔒) をかけた画像は消去されません。

⚠ 注意

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

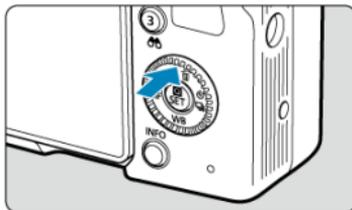
1枚ずつ消去

1.  ボタンを押す

2. 消去する画像を選ぶ

-  を回して消去する画像を選びます。

3.  ボタンを押す



4. 消去する

JPEG画像／HEIF画像／RAW画像／動画



- 「消去」を選びます。

RAW+JPEG画像／RAW+HEIF画像



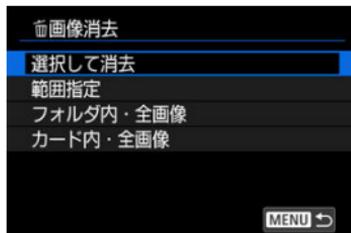
- 項目を選びます。
- ドライブモードを [連]、[連H] [連] に設定して撮影した画像を再生しているときは、「この画像を含む連写画像全てを消去」を選ぶと連続撮影された画像がまとめて消去されます。

チェック [✓] を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

1. [] : 画像消去] を選ぶ ()

2. [選択して消去] を選ぶ

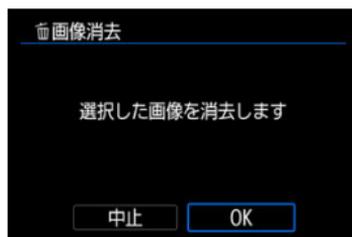


3. 画像を選ぶ



- 〈) 〉を回して消去する画像を選び、〈) 〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

4. 消去する



- [OK] を選びます。

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

1. [範囲指定] を選ぶ



- [] : 画像消去] の [範囲指定] を選びます。

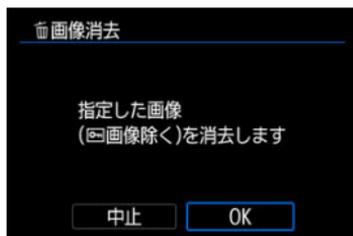
2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. <MENU> ボタンを押す

4. 消去する



- [OK] を選びます。

フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



- []: 画像消去] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。
- []: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (🔍)、表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

📖 参考

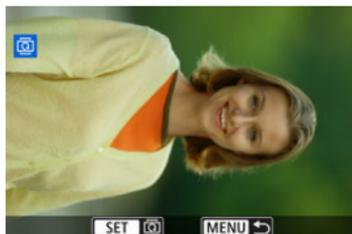
- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います (🔄)。

静止画の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で回転させることができます。

1. [] : 静止画の回転] を選ぶ ()

2. 回転させる画像を選ぶ



- 〈 〉 を回して画像を選びます。

3. 回転させる



- 〈 〉 を押すたびに、時計方向に回転 (90°→270°→0°) します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

参考

- [] : 縦位置画像回転表示] を [する] () に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が再生時に回転した向きで表示されないときは、[] : 縦位置画像回転表示] を [する] に設定します。
- 動画は回転できません。

動画の回転情報の変更

動画再生時の回転情報（上の向きの情報）を手動で書き換えることができます。

1. [▶] : 動画の回転情報の変更] を選ぶ (Ⓢ)

2. 動画を選ぶ



- を回して回転情報を変更する動画を選びます。

3. 回転情報を変更する



- 画面左上に表示されるカメラと▲を見ながら、 を押して、上の向きを設定します。 を押すたびに [⏏] → [📷] → [📷] の順に動画の回転情報が書き換わります。

⚠ 注意

- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、[📷] : 縦位置情報の付加 (Ⓢ) の設定に関わらず、横位置で再生されます。
- 他のカメラで撮影した動画は、動画の回転情報の書き換えはできません。

レーティング

- ☑ [1枚ずつレーティング](#)
- ☑ [範囲を指定してレーティング](#)
- ☑ [フォルダ内/カード内全画像レーティング](#)

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク ([★]/[☆]/[☆☆]/[☆☆☆]/[☆☆☆☆]) を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

1枚ずつレーティング

1. [] : レーティング] を選ぶ ()
2. [画像を選択] を選ぶ



3. レーティングする画像を選ぶ



- () を回してレーティングする画像を選びます。

4. レーティングを設定する

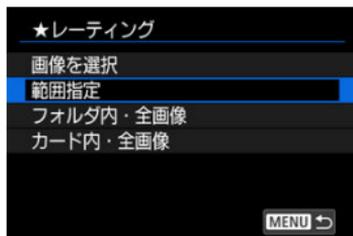


- 〈〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈〉〈〉でお気に入りマークを選び、〈〉を押します。
- お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。

1. 「範囲指定」を選ぶ



- []: 「レーティング」の「範囲指定」を選びます。

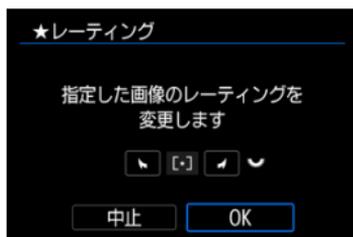
2. 範囲を指定する



- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈MENU〉 ボタンを押す

4. レーティングを設定する



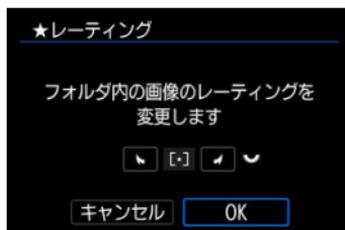
- お気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内／カード内全画像レーティング

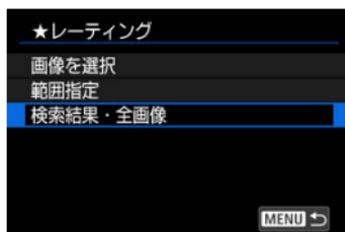
フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



- [] : レーティング] で [フォルダ内・全画像] または [カード内・全画像] を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



- () でレーティングを選び、[OK] を選びます。
- レーティングを行わないときや、解除するときは [OFF] を選びます。
- [] : 画像検索の条件設定] で検索条件が設定されているときは (), 表示される内容が [検索結果・全画像] に変わります。



- [検索結果・全画像] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

 参考

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると「###」と表示されます。
- ：画像検索の条件設定 ：での画像送りで、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

印刷指定／DPOF

[印刷内容の設定](#)

[印刷する画像の指定](#)

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF (Digital Print Order Format) 機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容の設定

1.  : 印刷指定] を選ぶ (☑)
2. [設定] を選ぶ

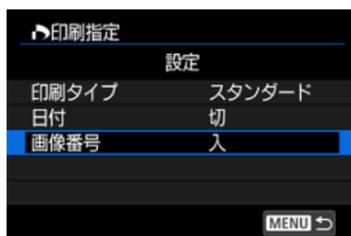


3. 項目の内容を設定する

- [印刷タイプ] [日付] [画像番号] の内容を設定します。

印刷タイプ		スタンダード	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	入	[入] にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	入	[入] にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		

4. 設定を終了する

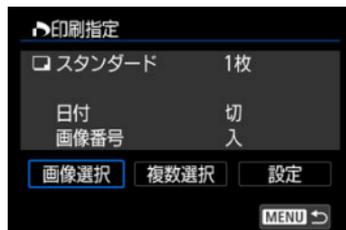


- 〈MENU〉 ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の [画像選択] [複数選択] で、印刷する画像を指定します。

ⓘ 注意

- 画像サイズが大きい画像を [インデックス] [両方] の設定で印刷すると (☑)、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから (☑) インデックス印刷を行ってください。
- [日付] [画像番号] を [入] にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] を同時に [入] にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

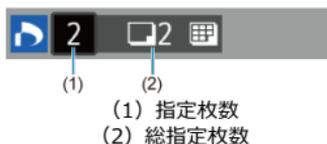
画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。

〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● スタンダード／両方



- (1) 指定枚数
(2) 総指定枚数

〈〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈▲〉〈▼〉を押すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

● インデックス

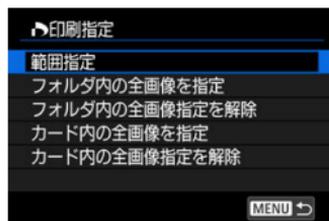


- (3) チェックマーク
(4) インデックスマーク

〈〉を押して [✓] を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

複数選択

● 範囲指定



[**複数選択**] の [**範囲指定**] を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● フォルダ内の全画像

[**フォルダ内の全画像を指定**] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[**フォルダ内の全画像指定を解除**] を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● カード内の全画像

[**カード内の全画像を指定**] を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[**カード内の全画像指定を解除**] を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

[**▶**] : **画像検索の条件設定** で検索条件が設定されているときは (☑)、[**複数選択**] を選んだときに、表示される内容が [**検索結果の全画像を指定**] [**検索結果の全画像の指定解除**] に変わります。

● 検索結果の全画像

[**検索結果の全画像を指定**] を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

[**検索結果の全画像の指定解除**] を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

⚠ 注意

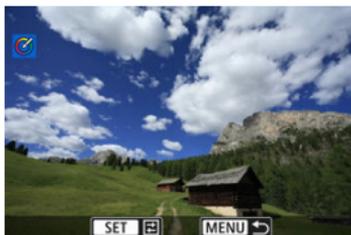
- RAW/HEIF画像と動画は印刷指定できません。また、[**複数選択**] でまとめて印刷指定を行っても、RAW/HEIF画像と動画は指定されません。

クリエイティブアシスト

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。

1. [] : クリエイティブアシスト] を選ぶ ()

2. 画像を選ぶ



● () を回して現像する画像を選び、() を押します。

3. 効果を選ぶ



- 〈〉で効果を選びます。



- [プリセット] を選んで 〈〉を押すと、[VIVID] や [SOFT] など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1] [AUTO2] [AUTO3] は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。



- [明るさ] [コントラスト] などは、〈〉を押して 〈〉で効果を選びます。
- 調整が終了したら 〈〉を押します。



- 〈COLOR〉ボタンを押すと、確認画面が表示され、[OK] を選ぶと設定内容がリセットされます。
- 〈AF-ON〉ボタンを押して効果を確定します。

4. [OK] を選んで保存する



JPEG/HEIF画像のリサイズ

撮影したJPEG画像、HEIF画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、**S2**以外の**L**、**M**、**S1**のJPEG/HEIF（RAW+JPEG/RAW+HEIFも含む）で撮影した画像で行うことができます。**S2**、RAWで撮影した画像や4K動画から切り出した画像は、リサイズできません。

1. [] : リサイズ] を選ぶ ()

2. 画像を選ぶ



- () を回してリサイズする画像を選びます。

3. 画像サイズを選ぶ



(1)

- () を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ (1) を選びます。

4. 保存する



- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2~4を繰り返します。

JPEG/HEIF画像のトリミング

撮影したJPEG画像、HEIF画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。RAWで撮影した画像や、4K動画から切り出した画像は、トリミングできません。

1. [] : トリミング] を選ぶ ()

2. 画像を選ぶ



- <) を回してトリミングする画像を選びます。
- <) を押すと、トリミング枠が表示されます。

3. トリミング枠の設定を行う



- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。
- **枠の大きさを変える**
ズームレバーを操作すると、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。
- **傾きを補正する**
±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈⊙〉を回して [⏏] を選び、〈⊕〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈⊙〉を回す (0.1°単位)、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして (0.5°単位)、傾きを補正します。補正が終わったら 〈⊕〉を押します。
- **枠のアスペクト比と縦横を変える**
〈⊙〉を回して [[⏏]] を選びます。〈⊕〉を押すたびに、枠のアスペクト比が変わります。
- **枠を移動する**
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉を押すと、枠が上下左右に移動します。

4. トリミング範囲を確認する



- 〈⊙〉を回して [[⏏]] を選び、〈⊕〉を押します。トリミングされる範囲が表示されます。

5. 保存する



- $\langle \text{OK} \rangle$ を回して $[\text{OK}]$ を選び、 $\langle \text{OK} \rangle$ を押します。
- $[\text{OK}]$ を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して $[\text{OK}]$ を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

⚠ 注意

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報 (AF) 、ダストデリートデータ (DD) は付加されません。

HDR設定で撮影したHEIF画像を、JPEG画像に変換して保存することができます。

[1枚ずつ変換](#)

[範囲を指定して変換](#)

⚠ 注意

- シーンによっては、元画像と変換した画像を比べたときに、印象が異なることがあります。
- トリミング保存した画像、4K動画からフレーム切り出した画像は変換できません。

📖 参考

- JPEGに変換したことがあるHEIF画像は、**[JPEG↓]**が表示されます。

1枚ずつ変換

1. **[▶ : HEIF→JPEG変換]** を選ぶ (🔗)
2. **[画像を選択]** を選ぶ



3. 画像を選ぶ



- 〈〉を回してHEIF画像を選び、〈〉を押します。
- 他に指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、JPEGに変換処理されます。

4. 保存する



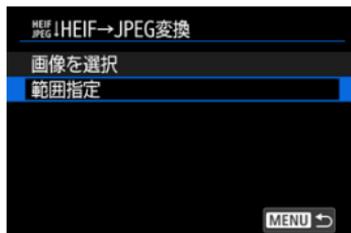
- [OK] を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に交換したい画像があるときは [はい] を選びます。

5. 表示する画像を選択する



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

1. [範囲指定] を選ぶ



2. 範囲を指定する



- 最初の画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 他に指定したい画像があるときは、手順2を繰り返します。

3. 〈MENU〉 ボタンを押す

4. 保存する



- [OK] を選ぶと、JPEG画像が保存されます。
- 他に交換したい画像があるときは [はい] を選びます。

5. 表示する画像を選択する



- [もとの画像] または [保存した画像] を選びます。
- 選択した画像が表示されます。

スライドショー

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1. 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、**[▶:画像検索の条件設定]** で絞り込みます (🔍)。

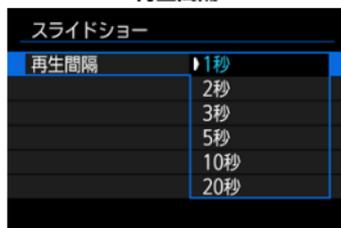
2. **[▶:スライドショー]** を選ぶ (🔍)

3. 再生内容を設定する

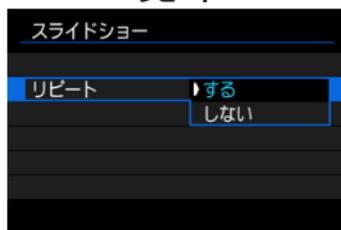


- [設定] を選びます。

再生間隔



リピート



- 静止画の [再生間隔] と [リピート] (繰り返し再生) を設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

4. スライドショーを開始する



- [スタート] を選びます。
- [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。
- 動画がまとめて再生された後、静止画がまとめて再生されます。

5. スライドショーを終了する

- 〈MENU〉 ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

参考

- 一時停止したいときは〈⏸〉を押します。一時停止中は画面左上に [||] が表示されます。再度〈⏸〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます (📄)。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉を押すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈⏪〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

画像検索の条件設定

検索条件の解除

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。

1. [▶] : 画像検索の条件設定] を選ぶ (🔍)
2. 検索条件を設定する



(1)

- <🕒> を回して項目を選びます。
- <🔍> を回して内容を設定します。
- 項目の左端に [✓] (1) が付きます (検索条件として指定されます)。
- 項目を選び <INFO> ボタンを押すと、[✓] が消えます (指定が解除されます)。
- 設定が終わったら、<🏠> を押します。

項目	内容
★ レーティング	選択した (レーティング) 条件の画像を表示します。
🕒 日付	選択した撮影日の画像を表示します。
📁 フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔒 プロテクト	選択した (プロテクト) 条件の画像を表示します。
📁 ファイルの種類1	選択した種類の画像ファイルを表示します。
📁 ファイルの種類2	選択した種類の画像ファイルを表示します。

3. 検索条件を確定する



- 表示されるメッセージを確認し、[OK] を選びます。検索条件が設定されます。

4. 検索した画像を表示する



- <[▶]> ボタンを押します。
検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠 (2) が付きます。

⚠ 注意

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順2で <[⏏]> は押せません。
- 動画の場合は、XFVCフォルダ内のファイルが検索可能です。DCIMフォルダ内の動画ファイルは、検索できません。

参考

- 電源やカード、画像編集、画像の追加や削除などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
-  : **画像検索の条件設定** の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

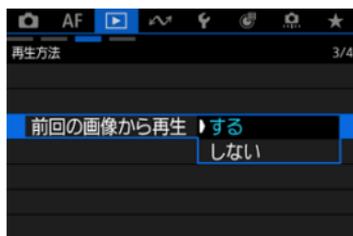
検索条件の解除

手順2の画面で〈AF-ON〉ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

前回の画像から再生

1. [▶: 前回の画像から再生] を選ぶ (📷)

2. 項目を選ぶ



- [する] を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- [しない] を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

再生する情報の設定

[ヒストグラム](#)

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。

1.  : 再生情報表示設定] を選ぶ ()

2. 表示する画面の番号に [✓] を付ける



-  を回して番号を選びます。
-  を押すと [✓] が外れます。もう一度押すと、[✓] が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に [✓] を付け、[OK] を選びます。
- 画像を再生して、 ボタンを押したときに、設定した内容が表示されます。

ヒストグラム



ヒストグラムは、各階調の信号量を表示するものです。露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[▶]:再生情報表示設定]の画面の左下に[INFO]が表示されているときに、〈INFO〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

● 【輝度】 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



明るい成分が多い

● 【RGB】 表示

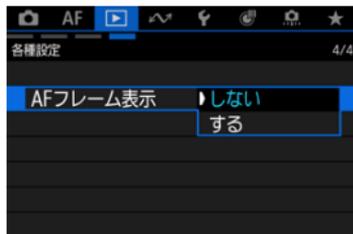
このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

AFフレーム表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。

1. [▶: AFフレーム表示] を選ぶ (🔗)

2. [する] を選ぶ

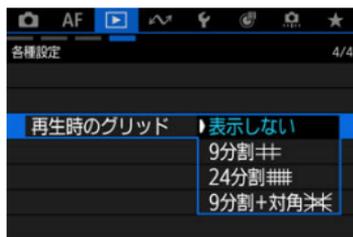


再生時のグリッド

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

1. [再生時のグリッド] を選ぶ (☑)

2. 項目を選ぶ



参考

- パノラマ画像を表示するとき、[再生時のグリッド] を [表示しない] 以外に設定している場合は、水平線1本と垂直線1本のグリッドを表示します。

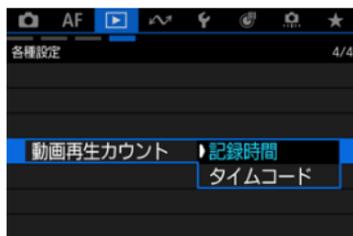


動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

1. [▶: 動画再生カウント] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



● 記録時間

動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。



● タイムコード

動画再生時にタイムコードが表示されます。



参考

- タイムコードは、[動画記録カウント] の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます。
- [📷: タイムコード] の [動画再生カウント] と [▶: 動画再生カウント] は、設定が連動して切り換わります。
- 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

この章では、通信機能を使用した画像の送信や、リモート撮影などを行う方法について説明しています。

⚠ 注意

必ずお読みください

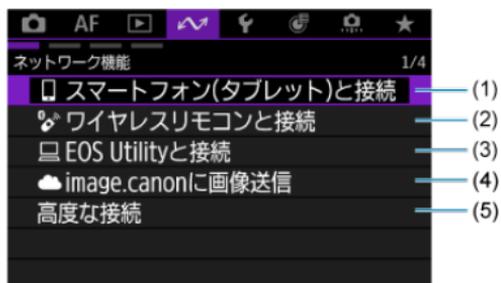
- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断が必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。本機をインターネットに接続する場合は、必ずルーター等を経由し接続してください。

- [メニュー目次：通信機能タブ](#)
- [スマートフォン（タブレット）と接続](#)
- [ワイヤレスリモコンと接続](#)
- [EOS Utilityと接続](#)
- [image.canonに画像送信](#)
- [高度な接続](#)
- [USB\(UVC/UAC\)接続で配信](#)
- [HDMI 接続で配信](#)
- [Camera Connectで配信](#)
- [Live Switcher Mobileで配信](#)
- [通信機能の基本設定](#)
- [2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)
- [機内モード](#)
- [Wi-Fi設定](#)
- [Bluetooth設定](#)
- [カメラの名前](#)
- [GPSの設定](#)
- [エラー内容の表示](#)
- [エラー表示の対応](#)
- [USB接続アプリの選択](#)
- [通信の設定初期化](#)
- [仮想キーボードの操作方法](#)
- [無線通信機能での注意事項](#)

- [セキュリティーについて](#)
- [ネットワークの設定を確認する](#)
- [無線通信機能の接続状態](#)

メニュー目次：通信機能タブ

● ネットワーク通信



- (1) [スマートフォン\(タブレット\)と接続](#)
- (2) [ワイヤレスリモコンと接続](#)
- (3) [EOS Utilityと接続](#)
- (4) [image.canonに画像送信](#)
- (5) [高度な接続](#)

● ライブ配信



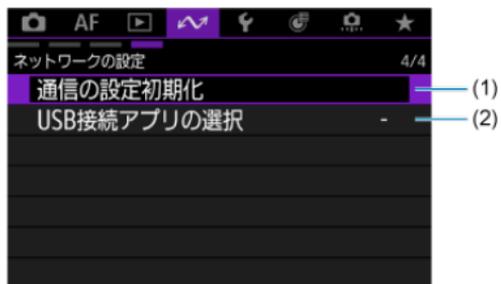
- (1) [USB\(UVC/UAC\)接続で配信](#)
- (2) [HDMI接続で配信](#)
- (3) [Camera Connectで配信](#)
- (4) [Live Switcher Mobileで配信](#)

● ネットワーク機能



- (1) [機内モード](#)
- (2) [Wi-Fi設定](#)
- (3) [Bluetooth設定](#)
- (4) [カメラの名前](#)
- (5) [GPSの設定](#)
- (6) [エラー内容の表示](#)

● ネットワークの設定



- (1) [通信の設定初期化](#)
- (2) [USB接続アプリの選択](#)

⚠ 注意

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、設定できないメニュー項目があります。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カード/バッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

スマートフォン（タブレット）と接続

- [スマートフォンの準備](#)
- [Bluetooth機能を使ってスマートフォンとWi-Fi接続する](#)
- [Camera Connectの主な機能](#)
- [電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続](#)
- [接続機器の編集／削除](#)
- [接続情報を使って再接続する](#)
- [撮影時にスマートフォンへ自動転送](#)
- [カメラからスマートフォンへ画像を送信](#)

カメラとスマートフォンを接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続 (🔗)
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続 (🔗)
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加 (🔗)
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作 (🔗)

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存 (🔗)
- スマートフォンでのカメラのリモート操作 (🔗)
- カメラからスマートフォンへの画像の送信 (🔗)

参考

- Bluetoothを使わず、スマートフォンと高度なWi-Fi接続をすることもできます (🔗)

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

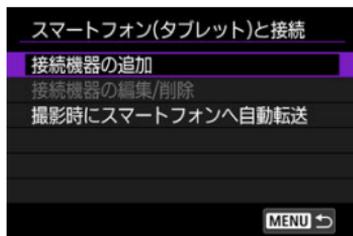
- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

参考

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

Bluetooth機能を使ってスマートフォンとWi-Fi接続する

1. [√: スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (☑)
2. [接続機器の追加] を選ぶ



- 撮影時にスマートフォンへ画像を自動転送するときは、[撮影時にスマートフォンへ自動転送] を設定します (☑)。

3. [OK] を選ぶ

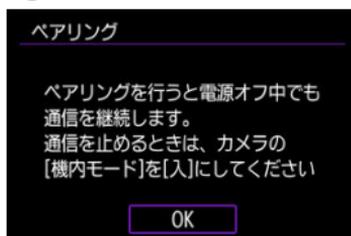


- すでに [Wi-Fi設定] および [Bluetooth設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

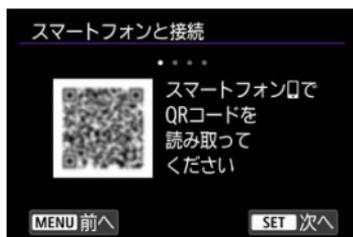


- すでに他の機器とBluetooth接続されているときは、メッセージが表示されます。[OK] を選ぶと、現在のBluetooth接続が切断されます。

4. <Ⓢ> を押す



5. ペアリングを開始する

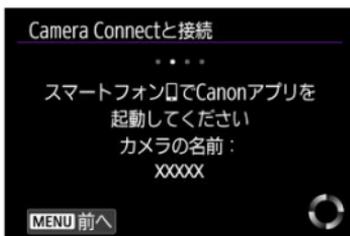


- 〈〉を押してペアリングを開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈〉を押してペアリングを開始します。

6. Camera Connectを起動する

- アプリケーションの指示に従って、ペアリングするカメラを選びます。

7. Bluetooth接続を確立する



- スマートフォンにメッセージが表示されたら、スマートフォンを操作します。

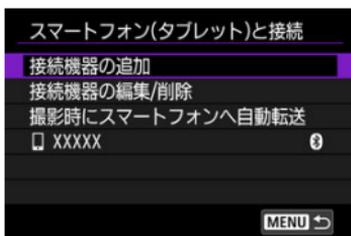


- 〈〉を押します。

8. 接続を完了する



- 〈〉を押します。



- 接続した機器の名前が表示されます。

⚠ 注意

- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、[2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラの電源を切った状態、あるいはオートパワーオフの状態でもバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

ペアリングできないとき

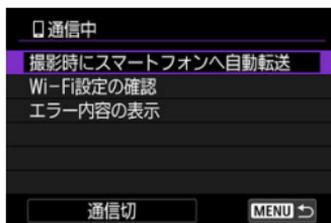
- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

9. Camera Connectの機能をタッチする

- Camera Connectの機能については[Camera Connectの主な機能](#)を参照してください。
- Camera Connectの機能をタッチすると、Wi-Fi接続が開始されます。

10. Wi-Fi接続完了を確認する

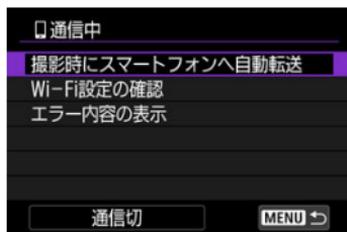
- Wi-Fi接続が完了すると、カメラの画面が撮影待機状態に切り換わります。
- [Wi-Fi接続]メニューから [Wi-Fi設定] を選ぶと、カメラのモニターに [通信中] 画面が表示されます (図)。



これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了するときは、[通信中] 画面で [通信切] を選びます。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再接続するときは、Camera Connectを起動し、使用したい機能をタッチします。

【通信中】画面について



- **撮影時にスマートフォンへ自動転送**
撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます (📷)。
- **Wi-Fi設定の確認**
設定内容を確認できます。
- **エラー内容の表示**
Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔌)。
- **通信切**
Wi-Fi接続を終了します。

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。
- RAW画像に効果を付けてスマートフォンに保存することができます。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影画像の自動送信時 (☑) のカメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

カメラファームウェアのアップデート

- カメラのファームウェアをアップデートすることができます。

参考

- ほかの機能については、Camera Connectのメイン画面から確認することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源が切れている状態でも、スマートフォンを操作し、カメラ内の画像の閲覧などができます。

電源オフ中にカメラとのWi-Fi/Bluetooth接続を行いたくないときは、[ : 機内モード] を [入] に設定するか、[ : Bluetooth設定] を [使わない] に設定してください。



注意

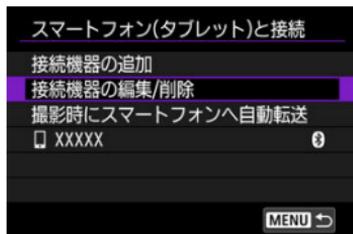
- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

接続機器の編集／削除

接続機器の編集や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

1. [☰: ☐スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (☑)

2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



3. 接続先を選ぶ



4. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

接続情報の削除

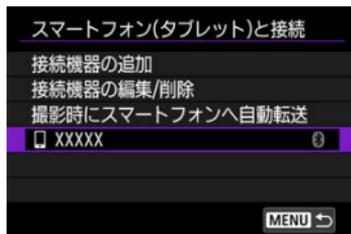
接続情報を削除することができます。

接続情報を使って再接続する

接続情報を使って再接続できます。

1. [📶: 📱スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (🔗)

2. 接続する機器を選ぶ



- 表示された履歴から、接続する項目を選びます。

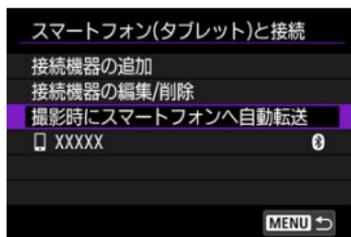
3. 画面の指示に従ってカメラと機器を接続する

撮影時にスマートフォンへ自動転送

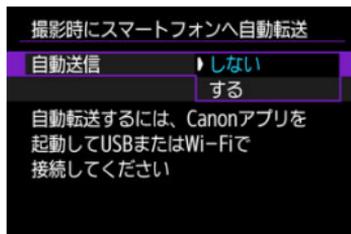
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。カメラとスマートフォンのWi-Fi接続を終了してから行います。

1. [📶: ☐スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (🔗)

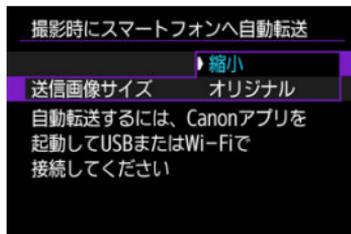
2. [撮影時にスマートフォンへ自動転送] を選ぶ



3. [自動送信] で [する] を選ぶ



4. [送信画像サイズ] を設定する



カメラからスマートフォンへ画像を送信

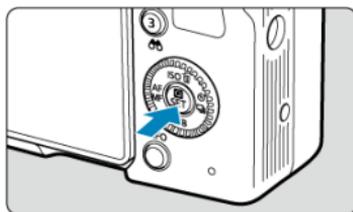
カメラとスマートフォンがWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。

メニューを表示する

1. 画像を再生する



2. <M>を押す



3. [スマートフォンへ画像を送信] を選ぶ



- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、Wi-Fi接続を促すメッセージが表示されます。<M>を押した後、Camera Connectの機能をタッチしてWi-Fi接続された状態にしてから、もう一度手順1からやり直してください。

4. 画像を選ぶ



- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。
- タッチ再生で、インデックス表示にして選ぶことができます ()。

5. 〈〉を押す

- メニューが表示されます。



送信動画の画質を設定する

1. [送信動画の画質] を選ぶ



- 送信する動画の画質を選ぶことができます。

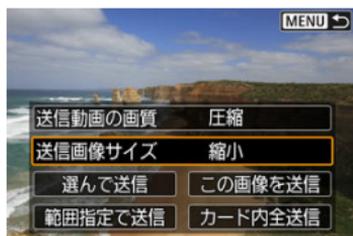


参考

- 複数動画を送信するときは、送信前の確認画面でも[送信動画の画質]を変更できます。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。ただし、下記の動画は圧縮されません。
 - 動画記録サイズが **FHD 29.97P** (NTSC) / **FHD 25.00P** (PAL) / **FHD 23.98P** (NTSC) の動画

送信画像のサイズを設定する

1. [送信画像サイズ] を選ぶ



- 送信する画像サイズを選ぶことができます。



参考

- 複数画像を送信するときは、送信前の確認画面でも [送信画像サイズ] を変更できます。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。ただし、S2サイズの静止画は縮小されません。

表示中の画像を送信する

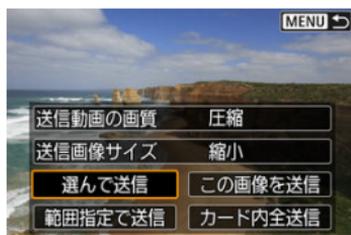
1. 「この画像を送信」を選ぶ



- 「この画像を送信」を選んだ状態で〈〉を押すと、すぐに画像が送信されます。

画像を選んで送信する

1. 「選んで送信」を選ぶ

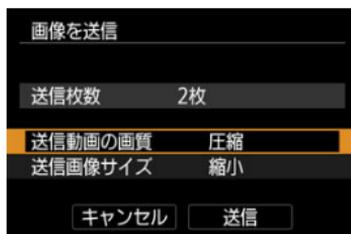


2. 送信する画像を選ぶ



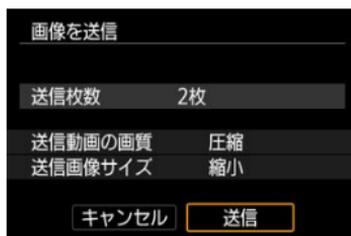
- 〈〉を回して送信する画像を選び、〈〉を押します。
- ズームレバーを〈〉側に押すと3枚表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときはズームレバーを〈〉側に押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。
- メッセージが表示されたら、[OK] を選択します。

3. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] () および [送信画像サイズ] () を変更することができます。

4. 【送信】を選ぶ



範囲を選んで送信する

1. 「範囲指定で送信」を選ぶ



2. 範囲を指定する

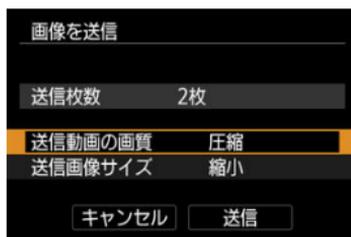


- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- ズームレバーを〈Q〉側または〈〉側に押すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

3. 〈MENU〉 ボタンを押す

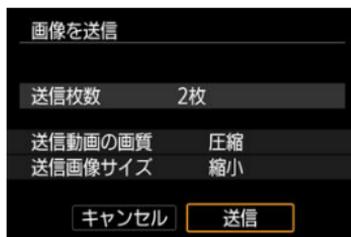
- メッセージが表示されたら、[OK] を選びます。

4. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] (📷) および [送信画像サイズ] (📷) を変更することができます。

5. [送信] を選ぶ

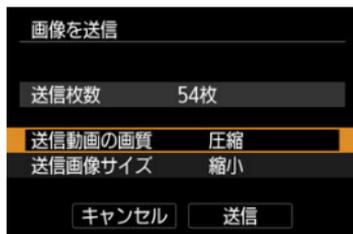


カード内の画像をすべて送信する

1. [カード内全送信] を選ぶ

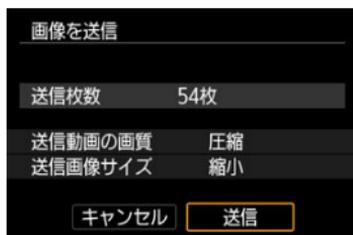


2. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] (☑) および [送信画像サイズ] (☑) を変更することができます。

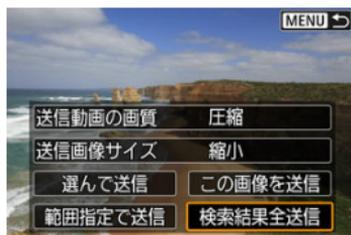
3. [送信] を選ぶ



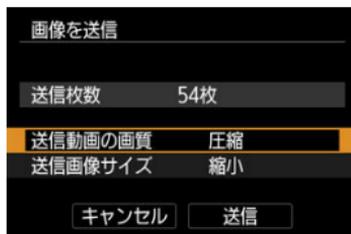
検索された画像を送信する

[▶]: 画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。[▶]: 画像検索の条件設定] については、[画像検索の条件設定](#)を参照してください。

1. [検索結果全送信] を選ぶ

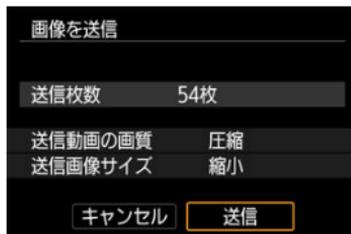


2. 項目を選ぶ



- [送信動画の画質] (🔍) および [送信画像サイズ] (🔍) を変更することができます。

3. [送信] を選ぶ



画像の送信の終了



- 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは、[通信中]画面で[通信切]を選びます。

⚠ 注意

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

📖 参考

- 画像の送信中に[キャンセル]を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

ワイヤレスリモコンと接続

[接続情報の削除](#)

[接続情報を使って再接続する](#)

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売/)とBluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。

1. [ : ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ ()

2. [接続機器の追加] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ

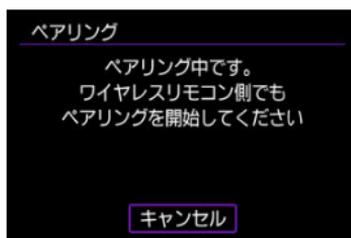


- すでにBluetooth設定が【使う】になっているときは、この画面は表示されません。



- すでに他の機器とBluetooth接続されているときは、メッセージが表示されます。【OK】を選ぶと、現在のBluetooth接続が切断されます。

4. ペアリングする



- 上記の画面が表示されたら、BR-E1の〈W〉ボタンと〈T〉ボタンを同時に3秒以上押します。
- 「**** (BR-E1の個別名称) と接続しました」が表示されたら、〈Ⓜ〉を押します。

5. リモコン撮影できるように設定する

- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。

注意

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

参考

- Bluetooth機能を使わないときは、[ : Bluetooth設定] を [使わない] に設定することをおすすめします (🔒)。

接続情報の削除

接続情報を削除することができます。Bluetooth接続中のBR-E1はペアリングが解除されま
す。

1. [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ (🔗)
2. [接続情報の削除] を選ぶ



3. [OK] を選ぶ



接続情報を使って再接続する

他の機器とBluetooth接続しているとき、接続情報を使って再接続できます。

1. [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ (Ⓜ)
2. 機器を選ぶ



3. <Ⓜ> を押す



EOS Utilityと接続

☑ [EOS Utilityでカメラを操作](#)

☑ [接続機器の編集／削除](#)

☑ [接続情報を使って再接続する](#)

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください (🔗)。

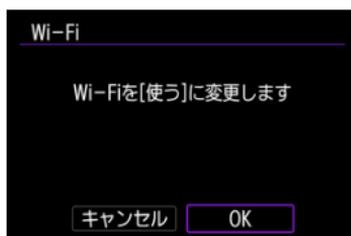
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作-1

1. [🔗 : 📷EOS Utilityと接続] を選ぶ (🔗)
2. [OK] を選ぶ

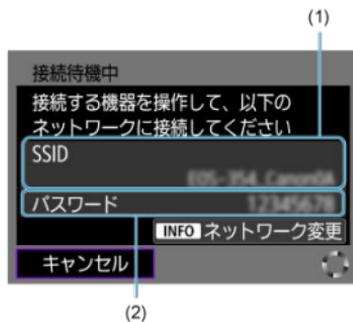


- すでにWi-Fi設定が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続機器の追加] を選ぶ



4. SSID (ネットワーク名) とパスワードを確認する



- カメラのモニターに表示されているSSID (1) とパスワード (2) を確認します。
- ネットワークを変更する場合は、〈INFO〉ボタンを押します。通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

パソコン側の操作-1

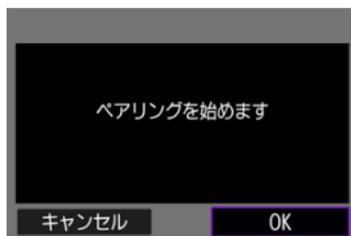
5. SSIDを選んでパスワードを入力する

パソコンの画面例



- パソコンのネットワークの設定画面から、[カメラ側の操作-1](#)の手順4で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、[カメラ側の操作-1](#)の手順4で確認したパスワードを入力します。

6. [OK] を選ぶ



- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「*****」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



パソコン側の操作-2

7. EOS Utilityを起動する

8. EOS Utilityの [Wi-Fi/LAN接続ペアリング] をクリックする



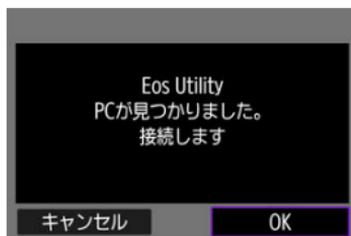
- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、[はい] を選びます。

9. [接続] をクリックする



- 接続するカメラを選んで、[接続] をクリックします。

10. Wi-Fi接続を確立する



- [OK] を選びます。
- カメラのモニターに [通信中] 画面が表示されます ()。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、[2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続](#)を参照してください。

【通信中】画面について



- **Wi-Fi設定の確認**
Wi-Fi接続の設定内容を確認できます (🔗)。
- **エラー内容の表示**
 - Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔗)。
- **通信切**
Wi-Fi接続を終了します。

⚠ 注意

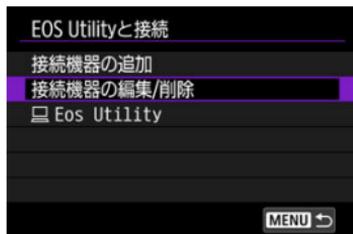
- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
 - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
 - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなる場合があります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェーススケールでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

接続機器の編集／削除

接続機器の編集や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

1. [☰ : Eos Utilityと接続] を選ぶ (☑)

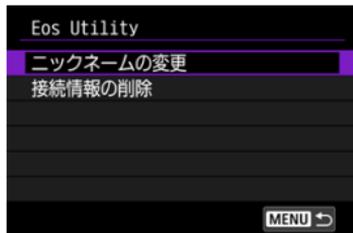
2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



3. 接続先を選ぶ



4. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

接続情報の削除

接続情報を削除することができます。

接続情報を使って再接続する

接続情報を使って再接続できます。

1. [☰ : ☰EOS Utilityと接続] を選ぶ (☑)
2. 接続する機器を選ぶ



- 表示された履歴から、接続する項目を選びます。

3. 画面の指示に従ってカメラと機器を接続する

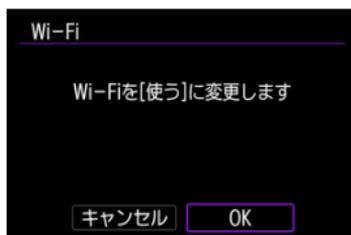
image.canonに画像送信

カメラをimage.canonに接続して、カメラから直接画像を送信します。

- インターネットに接続できるスマートフォンおよびブラウザが必要です。
- image.canonのサービスの使い方、対応している国/地域などは image.canon サイト (<https://image.canon/>) を確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

1. [Wi-Fi] : image.canonに画像送信 を選ぶ (Wi-Fi)

2. [OK] を選ぶ



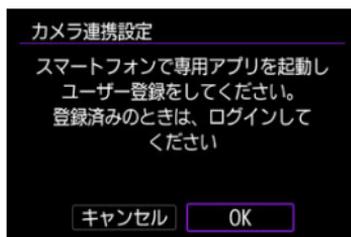
- すでに [Wi-Fi設定] が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [接続] を選ぶ



- 専用アプリのインストールが済んでいない場合は、[インストール] を選んでください。

4. [OK] を選ぶ

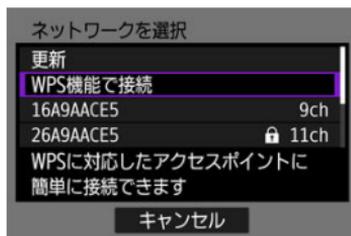


5. 専用アプリでQRコードを読み込む



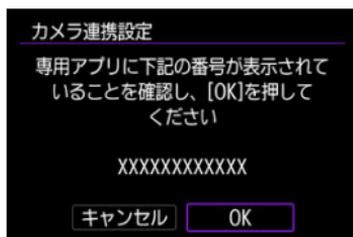
- [OK] を選びます。

6. Wi-Fi接続する



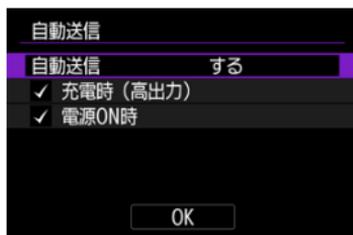
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

7. 専用アプリに番号が表示されていることを確認する



- [OK] を選びます。

8. 自動送信を設定する



- [充電時 (高出力)] は、カメラの電源がオフの状態ですべてのUSB接続をして充電を行うとき、自動送信を開始します。なお、バッテリーの残量が少なければ、しばらく充電した後、自動送信を開始します。
- [電源ON時] は、カメラの電源を入れたとき、自動送信を開始します。
- [OK] を選択し、 を押します。

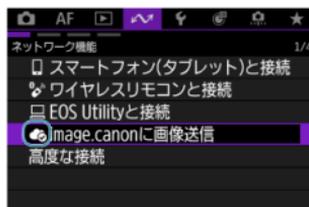
9. 設定を完了する



- 設定メニューが表示されます (☑)。

参考

- [☁] が [☁] になります。



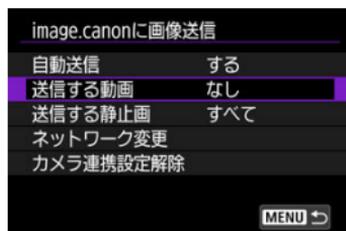
10. 専用アプリを確認する

- 専用アプリに機種名が登録されていることを確認します。

参考

- 送信された画像は、オリジナルの画像サイズで30日間、容量無制限でimage.canonに保管されます。

[image.canonに画像送信] 画面について



- **自動送信**
自動送信の設定を変更できます。
- **送信する動画**
送信する動画の対象を選ぶことができます。
- **送信する静止画**
送信する静止画の対象を選ぶことができます。
- **ネットワーク変更**
Wi-Fi接続の設定を変更できます。
- **カメラ連携設定解除**
カメラ連携の設定を解除できます。

高度な接続

- [スマートフォン\(タブレット\)と接続](#)
- [Camera Control API \(CCAPI\)](#)

スマートフォン(タブレット)と接続

カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続して、Camera Connectでカメラを操作することができます。

1. [Wi-Fi : 高度な接続] を選ぶ (☑)
2. [OK] を選ぶ

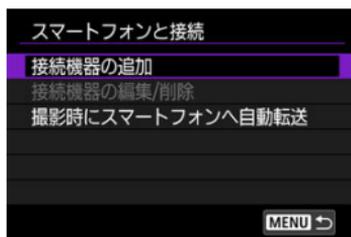


- すでにWi-Fi設定が「使う」になっているときは、この画面は表示されません。

3. [スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ

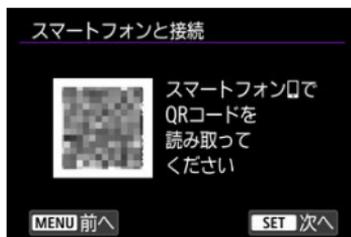


4. [接続機器の追加] を選ぶ



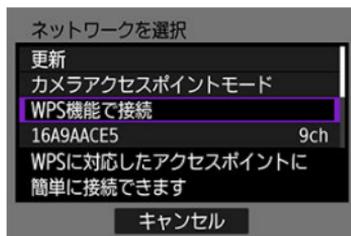
- 撮影時にスマートフォンへ画像を自動転送するときは、[撮影時にスマートフォンへ自動転送]を設定します (🔗)。

5. アクセスポイントの検索を開始する



- スマートフォンにCamera Connectをインストール済みのときは、〈🔗〉を押して検索を開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈🔗〉を押して検索を開始します。

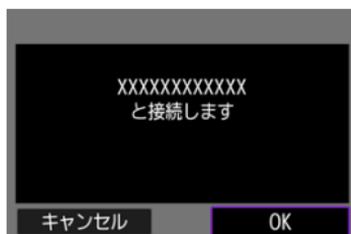
6. Wi-Fi接続する



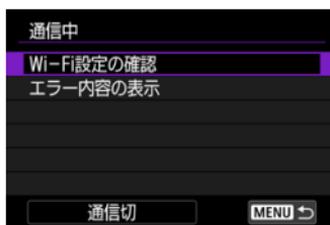
- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

7. Camera Connectを起動して、カメラ名をタッチする

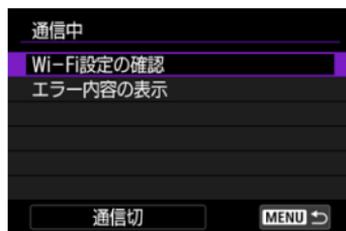
8. [OK] を選ぶ



- カメラのモニターに [通信中] 画面が表示されます (📺)。



【通信中】画面について



- **Wi-Fi設定の確認**
設定内容を確認できます。
- **エラー内容の表示**
Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔗)。
- **通信切**
Wi-Fi接続を終了します。

Camera Control API (CCAPI)

CCAPI (Camera Control API *) を使用したアプリケーションなどを使うときは、スマートフォン (タブレットを含む) またはパソコンをカメラに接続し、CCAPIで操作できるようにします。

* Camera Control APIとは、ネットワーク経由でキヤノンカメラを制御するHTTPベースのAPIです。

設定画面を開く

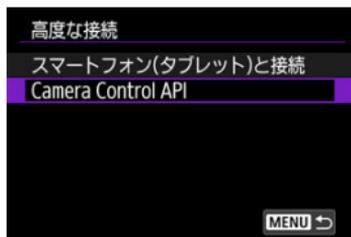
1. [高度な接続] を選ぶ (☑)

2. [OK] を選ぶ



- すでにWi-Fi設定が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

3. [Camera Control API] を選ぶ



- [このカメラにニックネーム(識別用の名称)を登録してください。Wi-FiやBluetooth接続時に、ニックネームを利用して接続します] というメッセージが表示されたときには、カメラの名前を登録してください。

ポート番号を設定する

1. 項目を選ぶ



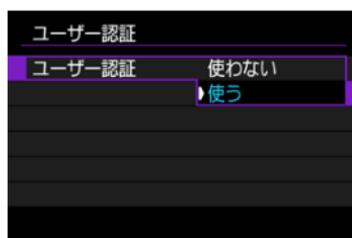
- **ポート番号(HTTP)**
HTTPのポート番号を変更することができます。
- **ポート番号(HTTPS)**
HTTPSのポート番号を変更することができます。
- **HTTPS**
HTTPを使うときは、**[使わない]** に設定します。

ユーザー認証を設定する

1. [ユーザー認証] を選ぶ



2. ユーザー認証のを選ぶ

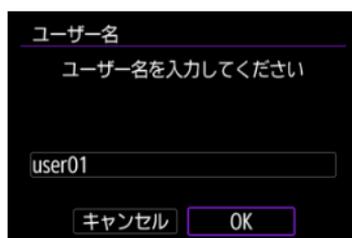


- [使う] を選んだときは、[アカウント編集] で [ユーザー名] と [パスワード] を設定します。

3. [アカウント編集] を選ぶ

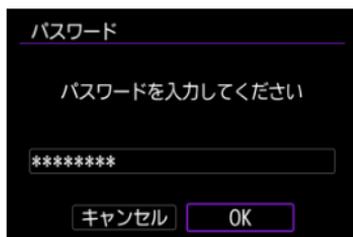


4. ユーザー名を設定する



- を押して仮想キーボード () を表示し、ユーザー名を入力します。
- 入力したら [OK] を選びます。

5. パスワードを設定する



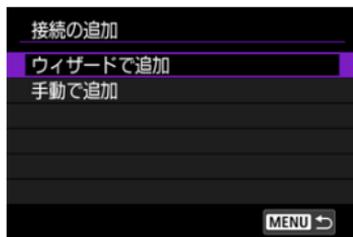
-  を押して仮想キーボード  を表示し、パスワードを入力します。
- 入力したら **[OK]** を選びます。

接続を設定する

1. [接続] を選ぶ

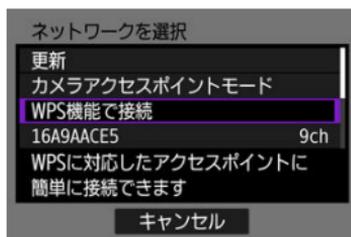


2. [ウィザードで追加] を選ぶ



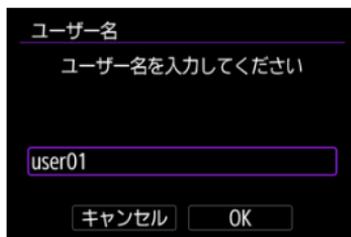
- 詳細な接続の設定をするときは、**[手動で追加]** を選びます。

3. Wi-Fi接続する



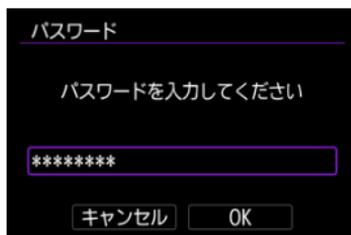
- アクセスポイントとWi-Fi接続します。通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

4. ユーザー名を設定する



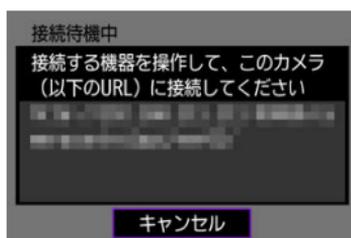
- <Ⓜ>を押して仮想キーボード(□)を表示し、ユーザー名を入力します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

5. パスワードを設定する



- <Ⓜ>を押して仮想キーボード(□)を表示し、パスワードを入力します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

6. Wi-Fi接続を確立させる



- カメラのモニターに上の画面が表示されたら、スマートフォンやパソコンなどで作成したアプリケーションから、表示されているURLにアクセスします。



- カメラのモニターに上の画面が表示されたら接続は完了です。
- 接続を終了するときは [通信切] を選びます。

【通信中】画面について

【通信中】の画面から、次の操作を行うことができます。



- **Wi-Fi設定の確認**
設定内容を確認できます。
- **エラー内容の表示**
Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます (🔗)。
- **通信切**
接続を終了します。

設定を変更する

接続を終了した状態で、設定を変更することができます。

接続設定の確認/編集

接続先の設定の確認や変更ができます。

1. 【接続設定の確認/編集】を選ぶ



2. 接続先を選ぶ



3. 確認や変更する項目を選ぶ



- **無線LAN**
無線LANに設定されているときは、SSID（ネットワーク名）と詳細設定（接続方法、セキュリティ、暗号方式など）を変更することができます。
- **TCP/IPv4**
TCP/IPv4設定を変更できます。
- **TCP/IPv6**
TCP/IPv6設定を変更できます。
- **接続設定の確認**
接続設定を確認することができます。
- **接続設定の消去**
接続設定を削除することができます。

自動接続

[する] を選んで、カメラの電源を切ると、次にカメラの電源を入れたときから、自動的に接続されます。

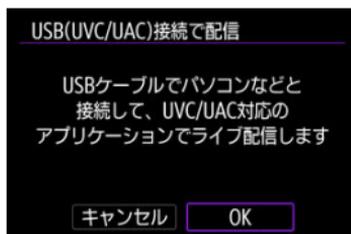


USB(UVC/UAC)接続で配信

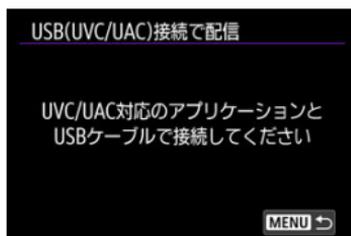
- [USB給電を有効にする](#)
- [動画配信サイズを設定する](#)
- [レビュー用AFを設定する](#)

USB ケーブルでパソコンなどと接続し、UVC/UAC 対応のアプリケーションを使用するときに選びます。

1. 動画撮影にする (📷)
2. [📷 : 🖥️ USB(UVC/UAC)接続で配信] を選ぶ (📷)
3. [OK] を選ぶ



4. カメラと機器をUSB ケーブルで接続する



- メッセージが表示されたら、カメラと機器をUSB ケーブルで接続します。

5. 機器のアプリケーションを起動する

- 接続した機器で、映像の入力を確認してください。
- アプリケーションに映像が表示されると、撮影画面の表示が **[LIVE]** になります。

ⓘ 注意

- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- **[📷 : オーディオ形式]** が **[LPCM/24bit/4CH]** に設定されていても、出力は LPCM/16bit/2CH (CH1/CH2) となります。

USB給電を有効にする

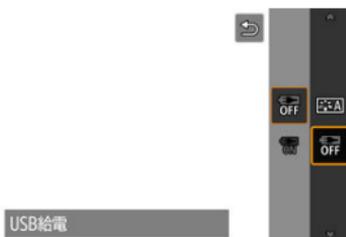
USB給電を有効にすると、パソコンなどからカメラに給電することができます。USB接続の状態から設定します。

1. 撮影画面の [Q] にタッチする



- メニューが表示されます。

2. [USB給電] を選ぶ



3. [する] を選ぶ



⚠ 注意

- 撮影画面の表示が **[LIVE]** の状態では設定できません。
- **[動画記録サイズ]** で **[4K 60FPS]** または **[4K Crop 60FPS]** が選択されているときは、**[する]** を選択できません。
- 出力DC 5V 1.5A以上のUSB Power Delivery規格に対応した機器に接続してください。
- USB Power Delivery規格に対応したUSBケーブルを使用してください。キヤノン純正品（インターフェースケーブル IFC-100U）の使用をおすすめします。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。

動画配信サイズを設定する

動画配信サイズを設定することができます。USB接続の状態から設定します。

1. 撮影画面で [Q] にタッチする



- メニューが表示されます。

2. [動画配信サイズ] を選ぶ



3. [⊞] を選ぶ



- メニューが表示されます。
- [動画配信サイズ] を選びます。

4. 設定を変更する

- [OK] を選ぶとメッセージが表示されるので、USBケーブルをカメラから抜いて、[メニュー] : [USB(UVC/UAC)接続で配信] の設定をやり直してください (🔗)。

⚠ 注意

- 配信中の状態では設定できません。
- [USB給電] で [する] が選択されているとき、または [撮影モード] で [美肌動画] が選択されているときは、[4K 60FPS] および [4K Crop 60FPS] を選択できません。

レビュー用AFを設定する

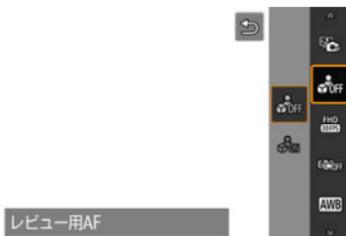
【レビュー用AF】を【入】にすると、カメラに近い被写体にピントが合いますので、カメラの前に顔があれば、顔にピントを合わせた撮影ができます。なお、追尾フレームは表示されません。USB接続の状態から設定します。

1. 撮影画面で [Q] にタッチする



- メニューが表示されます。

2. 【レビュー用AF】を選ぶ



3. 【入】を選ぶ



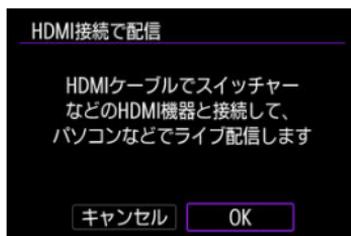
⚠ 注意

- AFフレームは表示されません。
- 被写体を選択することはできません。

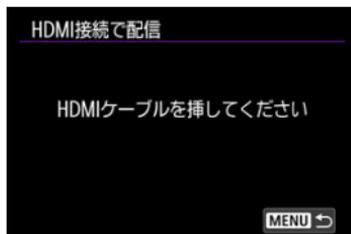
HDMI 接続で配信

HDMI ケーブルでHDMI 対応機器と接続し、ライブ配信するときに選びます。

1. 動画撮影にする (📷)
2. [📺: 📺HDMI接続で配信] を選ぶ (📺)
3. [OK] を選ぶ



4. カメラと機器をHDMI ケーブルで接続する



5. 機器のアプリケーションを起動する

- 接続した機器で、映像の入力を確認してください。

 注意

- [📷: オーディオ形式] が [LPCM/24bit/4CH] に設定されていても、出力は LPCM/16bit/2CH (CH1/CH2) となります。
- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ (別売) の使用をおすすめします。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。

Camera Connectで配信

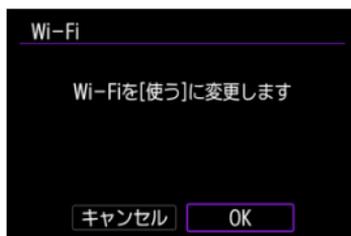
- [カメラとスマートフォンをBluetooth 接続する](#)
- [ライブ配信の設定](#)
- [接続機器の編集/削除](#)
- [接続情報を使って再接続する](#)

スマートフォンとBluetooth接続し、Camera Connectを使ってライブ配信するときを選びます。

あらかじめ、配信先のサービスの、ライブ配信に必要な要件や利用規約を確認してください。

カメラとスマートフォンをBluetooth 接続する

1. 動画撮影にする (📷)
2. [📶] : [📷Camera Connectで配信] を選ぶ (📷)
3. [OK] を選ぶ



- すでにWi-Fi設定が [使う] になっているときは、この画面は表示されません。

4. [OK] を選ぶ



5. <Ⓢ> を押す

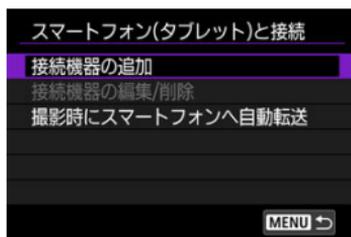


6. [OK] を選ぶ



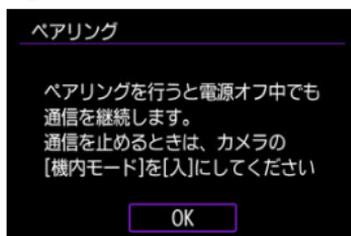
- すでにBluetooth設定が【使う】になっているときは、この画面は表示されません。

7. [接続機器の追加] を選ぶ



- If you are already connected to another device via Bluetooth, a message will be displayed. Selecting [OK] will terminate the current Bluetooth connection.

8. <Ⓜ> を押す



9. ペアリングを開始する



- 〈〉を押してペアリングを開始します。
- Camera Connectのインストールが済んでいないときは、画面のQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp StoreにアクセスしてCamera Connectをインストールしてから、〈〉を押してペアリングを開始します。

10. Camera Connectを起動する

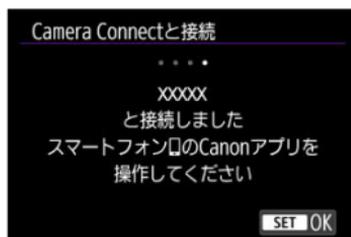
- アプリケーションの指示に従って、ペアリングするカメラを選びます。

11. Bluetooth接続を確立する

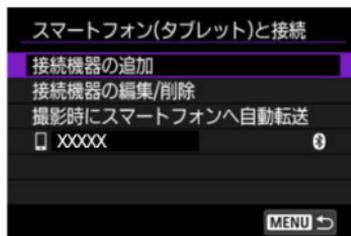


- 〈〉を押します。

12. 接続を完了する



- 〈〉を押します。
- スマートフォンにメッセージが表示されたら、スマートフォンを操作します。

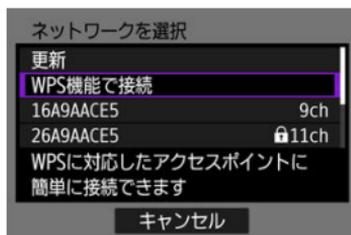


- 接続した機器の名前が表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

1. [カメラアイコン] : [Camera Connectで配信] を選ぶ (📷)
2. [OK] を選ぶ

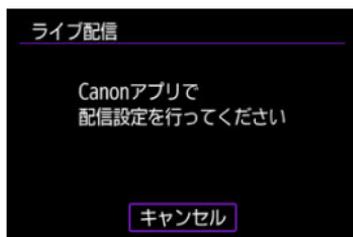


3. 通信機能を設定する



- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

4. Camera Connectで配信設定を行う



- 利用したいライブ配信プラットフォームを選択し、設定します。
- 配信先を選択する画面で、配信先のURLを入力することができます。
- 通信環境に応じて、配信画質を設定します。

5. 配信する

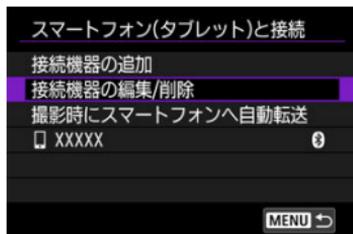
- 撮影待機画面に、[STBY] が表示されます。
- ライブ配信の開始と終了は、Camera Connectで行います。カメラの動画撮影ボタンでも配信を開始または終了することができます。

ⓘ 注意

- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- ライブ配信のときは、通信環境によって映像および音声にノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像および音声を確認してから撮影することをおすすめします。
- 映像及び音声にノイズや途切れが発生する場合、以下をお試しください。改善することがあります。
 - カメラとアクセスポイント（無線ルーター、テザリングスマートフォンなど）の距離を近づける、配置を変更する、人や遮蔽物が間に入らないよう設置する
 - 室内で使用する場合、アクセスポイントとカメラは同じ部屋に設置する
 - 2.4GHz帯の周波数を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器から離して設置する
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- Camera Connectで、3.5Mbpsの配信画質を選択すると、通信環境によっては6Mbpsより安定した動画配信ができますが、画質は低下します。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- 第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- [無線通信機能での注意事項](#)をお読みください。

1. [☰: ☑スマートフォン(タブレット)と接続] を選ぶ (☑)

2. [接続機器の編集/削除] を選ぶ



3. 接続機器を選ぶ



4. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

接続情報の削除

接続情報を削除することができます。

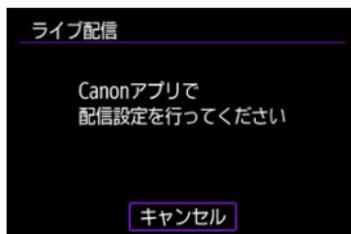
接続情報を使って再接続する

接続情報を使って再接続できます。

1. [🔗: Camera Connectで配信] を選ぶ (🔗)
2. [OK] を選ぶ



3. Camera Connectで配信設定を行う



Live Switcher Mobileで配信

[カメラとスマートフォンをWi-Fi 接続する](#)

[接続機器の編集／削除](#)

[接続情報を使って再接続する](#)

スマートフォンとWi-Fi接続し、Live Switcher Mobileを使ってライブ配信するときを選びます。

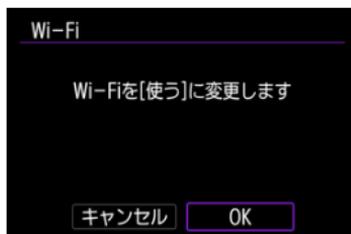
あらかじめ、配信先のサービスの、ライブ配信に必要な要件や利用規約を確認してください。

カメラとスマートフォンをWi-Fi 接続する

1. 動画撮影にする (📷)

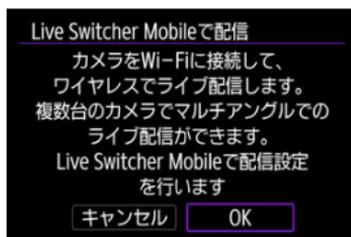
2. [📷] : [📺Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (📷)

3. [OK] を選ぶ



- すでにネットワーク設定が【使う】になっているときは、この画面は表示されません。

4. [OK] を選ぶ



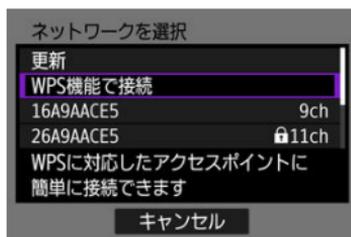
5. [接続] を選ぶ



6. [接続機器の追加] を選ぶ

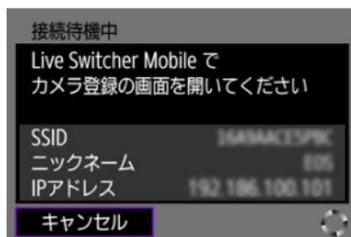


7. 通信機能を設定する



- 通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。
- スマートフォンと接続中のときは、この画面は表示されません。

8. SSIDを確認する



- Live Switcher Mobileで、接続するカメラを選択します。

9. [OK] を選ぶ



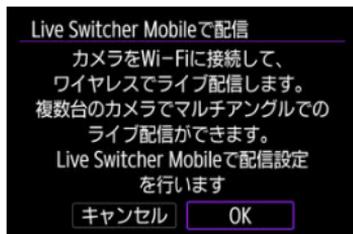
10. Live Switcher Mobileで配信設定を行う

ⓘ 注意

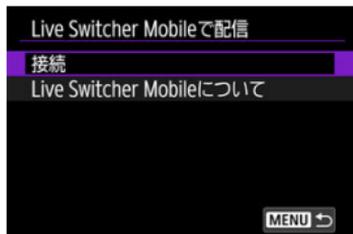
- 長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- ライブ配信のときは、通信環境によって映像および音声にノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像および音声を確認してから撮影することをおすすめします。
- 映像及び音声にノイズや途切れが発生する場合、以下をお試しください。改善することがあります。
 - カメラとアクセスポイント（無線ルーター、テザリングスマートフォンなど）の距離を近づける、配置を変更する、人や遮蔽物が間に入らないよう設置する
 - 室内で使用する場合、アクセスポイントとカメラは同じ部屋に設置する
 - 2.4GHz帯の周波数を使用する電子レンジやコードレス電話機などの機器から離して設置する
- 外部マイク使用時にノイズが気になるときは、外部マイクを外部マイク入力端子側に配置して、できるだけカメラから遠ざけてください。
- ライブ配信のときは、カメラが高温になります。手持ち撮影せず、スタンドや三脚を使用するなどしてください。
- ライブ配信のときは、カードに映像は記録されません。
- 第三者が提供するサービスについて、キヤノンはいかなる責任も負いかねます。あらかじめご了承ください。
- ライブ配信のときは、事前にテスト配信を行い、映像の表示方向や傾きを確認して、カメラの姿勢を調整してください。
- [無線通信機能での注意事項](#)をお読みください。

1. [メニュー] : [Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (Ⓜ)

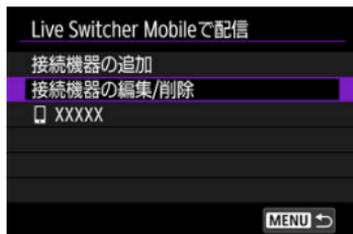
2. [OK] を選ぶ



3. [接続] を選ぶ



4. [接続機器の編集／削除] を選ぶ



5. 接続機器を選ぶ



6. 項目を選ぶ



ニックネームの変更

ニックネーム（接続機器の名前）を変更することができます。

接続情報の削除

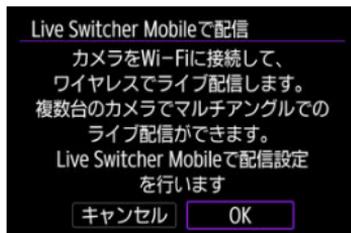
接続情報を削除することができます。

接続情報を使って再接続する

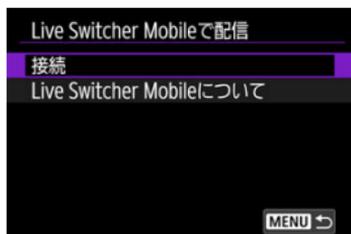
接続情報を使って再接続できます。

1. [📷: 📺Live Switcher Mobileで配信] を選ぶ (🔗)

2. [OK] を選ぶ



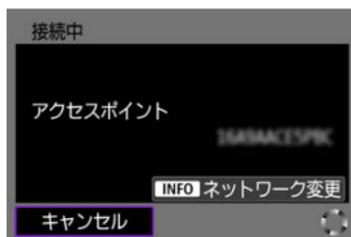
3. [接続] を選ぶ



4. 機器を選ぶ



5. アクセスポイントを確認する



- ネットワークを変更する場合は、〈INFO〉ボタンを押します。通信機能の設定については、[通信機能の基本設定](#)を参照してください。

6. Live Switcher Mobileを起動する

通信機能の基本設定

- [アクセスポイントの種類を確認する](#)
- [WPS（PBC方式）で接続する場合](#)
- [WPS（PIN方式）で接続する場合](#)
- [検出したネットワークに手動で接続する場合](#)
- [ネットワークに手動で接続する場合](#)
- [カメラアクセスポイントモードで接続する場合](#)
- [IPアドレスを設定する](#)

アクセスポイントの種類を確認する

アクセスポイントを使用して接続するときは、お使いのアクセスポイントが、Wi-Fi機器同士を簡単に接続することができるWPS*に対応しているか確認してください。お使いのアクセスポイントがWPSに対応しているか分からないときは、アクセスポイントの使用説明書などを参照して確認してください。

* Wi-Fi Protected Setup (ワイファイ プロテクトド セットアップ) の略

● WPSに対応している場合

下記の2種類の接続方法が選択できます。WPS (PBC方式)の方が簡単に接続できます。

- WPS (PBC方式) で接続する場合 (🔗)
- WPS (PIN方式) で接続する場合 (🔗)

● WPSに対応していない場合

- 検出したネットワークに手動で接続する場合 (🔗)
- ネットワークに手動で接続する場合 (🔗)

アクセスポイントの暗号化について

認証方式と暗号方式については[認証方式とデータ暗号化方式](#)を参照してください。

⚠ 注意

- アクセスポイントのステルス機能を有効にしていると、接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。
- ネットワーク管理者がいるネットワークに接続するときは、ネットワーク管理者に設定の詳細をお問い合わせください。

📖 参考

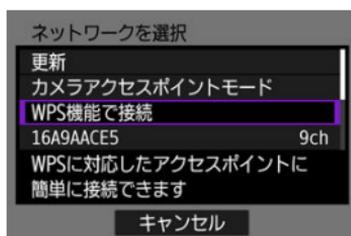
- お使いのネットワークでMACアドレスのフィルタリングをしているときは、アクセスポイントに本機のMACアドレスを登録してください。MACアドレスは[MACアドレス]画面で確認できます (🔗)。

WPS (PBC方式) で接続する場合

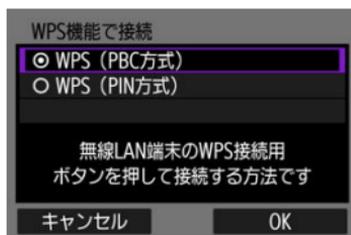
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PBC方式（プッシュボタン接続方式）では、アクセスポイントのWPS用ボタンを押すことで、カメラとアクセスポイントを簡単に接続することができます。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼働していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、**[WPS (PIN方式)]** で接続してください。
- アクセスポイントに付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. [ネットワークを選択] 画面で [WPS機能で接続] を選ぶ

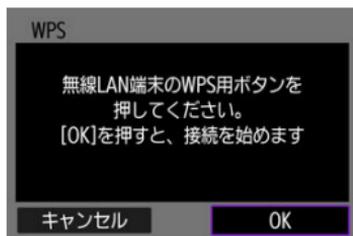


2. [WPS (PBC方式)] を選ぶ



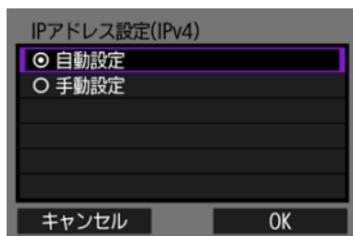
- **[OK]** を選びます。

3. アクセスポイントに接続する



- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

4. IPアドレスを設定する



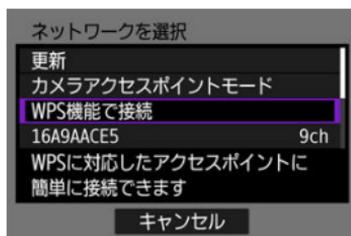
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

WPS（PIN方式）で接続する場合

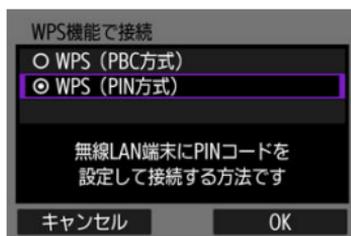
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PIN方式（ピンコード接続方式）では、カメラが指定する8桁の識別番号をアクセスポイントに設定して接続します。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼動している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1. [ネットワークを選択] 画面で [WPS機能で接続] を選ぶ

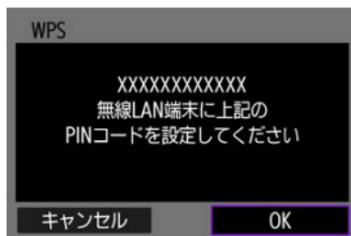


2. [WPS（PIN方式）] を選ぶ



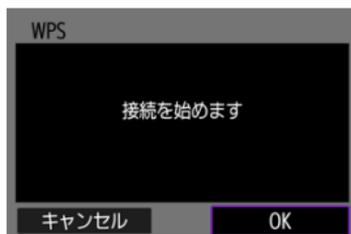
- [OK] を選びます。

3. PINコードを設定する



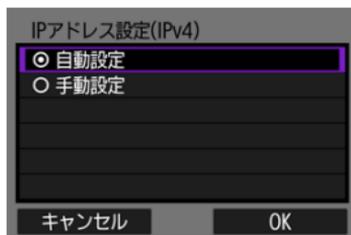
- カメラのモニターに表示される8桁のPINコードをアクセスポイントに設定します。
- アクセスポイントへのPINコードの入力方法は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- PINコードを設定したら [OK] を選びます。

4. アクセスポイントに接続する



- [OK] を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

5. IPアドレスを設定する



- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

検出したネットワークに手動で接続する場合

この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
近くで稼働中のアクセスポイントの一覧から、接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を選んで接続します。

アクセスポイントを選ぶ

1. [ネットワークを選択] 画面でアクセスポイントを選ぶ



(1) SSIDを表示

(2) アクセスポイントが暗号化されているときはアイコンを表示

(3) 使用しているチャンネルを表示

- 〈▲〉〈▼〉で、アクセスポイントの一覧から接続するアクセスポイントを選びます。

参考

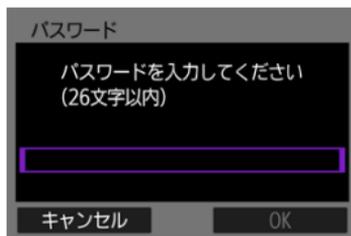
[更新] について

- [更新] は、手順1の画面をスクロールすると表示されます。
- [更新] を選ぶと、アクセスポイントを再検索します。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

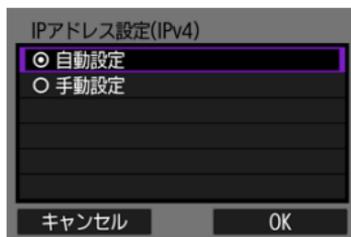
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- **[IPアドレス設定]** 画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

2. 暗号キーを入力する



- を押して仮想キーボード ()を表示し、暗号キーを入力します。
- **[OK]** を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

3. IPアドレスを設定する



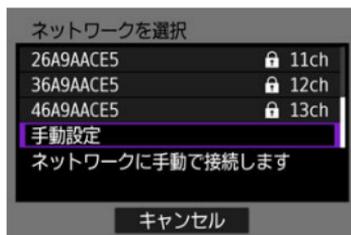
- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

ネットワークに手動で接続する場合

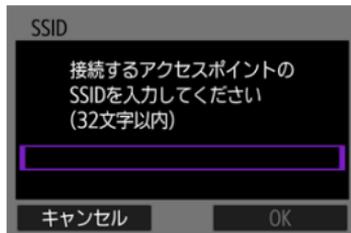
この項では、[アクセスポイントの種類を確認する](#)からの続きを説明しています。
接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を入力して接続します。

SSIDを入力する

1. [ネットワークを選択] 画面で [手動設定] を選ぶ



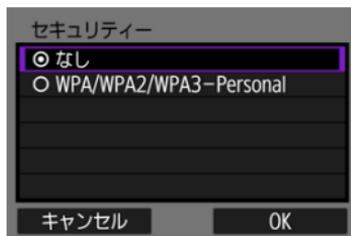
2. SSID (ネットワーク名) を入力する



- **Ⓜ** を押して仮想キーボード **Ⓜ** を表示し、暗号キーを入力します。
- **[OK]** を選びます。

アクセスポイントの認証方式を設定する

3. セキュリティーを選ぶ

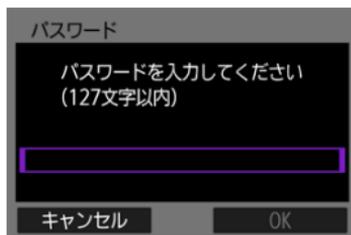


- 項目を選んで **[OK]** を選ぶと、次の画面に進みます。

アクセスポイントの暗号キーを入力する

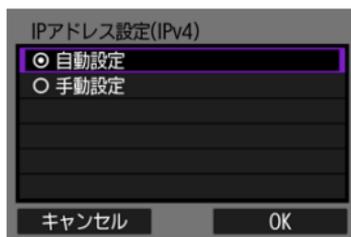
- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- **[IPアドレス設定]** 画面が表示されたときは、[IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

4. 暗号キーを入力する



- **<Ⓜ>** を押して仮想キーボード (**Ⓜ**) を表示し、暗号キーを入力します。
- **[OK]** を選ぶと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- アクセスポイントとの接続が完了すると、次の画面に進みます。

5. IPアドレスを設定する



- [IPアドレスを設定する](#)に進んでください。

カメラアクセスポイントモードで接続する場合

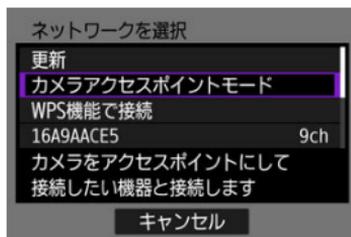
カメラアクセスポイントモードは、アクセスポイントを使用せず、カメラと各機器を直接Wi-Fiで接続する接続方法です。以下の2種類の接続方法が選択できます。

簡単接続で接続

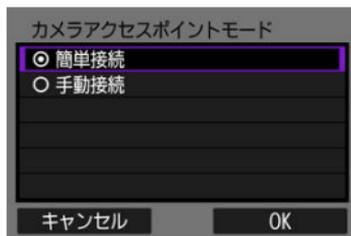
カメラアクセスポイントモードのネットワーク設定を自動で行います。

- 接続する機器の操作については、各機器の使用説明書を参照してください。

1. [ネットワークを選択] 画面で [カメラアクセスポイントモード] を選ぶ



2. [簡単接続] を選ぶ



- [OK] を選びます。

3. 接続する機器を操作してカメラに接続する



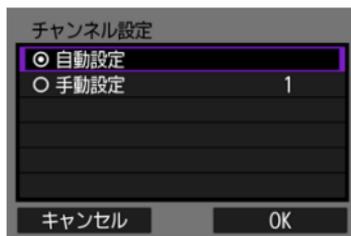
(1) SSID（ネットワーク名）

(2) 暗号キー（パスワード）

- 接続する機器のWi-Fi機能で、カメラのモニターに表示された内容に従って、SSID（ネットワーク名）を選び、パスワードを入力します。

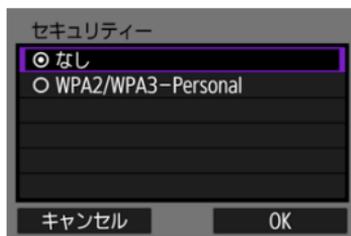
4. 接続先の機器に応じて接続設定を行う

3. チャンネル設定を選ぶ



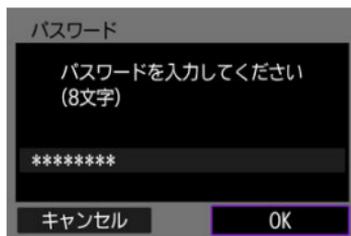
- 手動で設定するときは、[手動設定] を選び、 で設定します。
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

4. セキュリティーを選ぶ



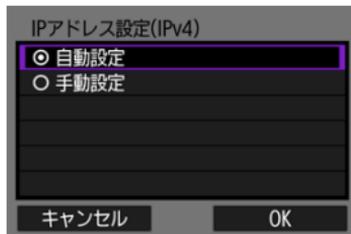
- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- [なし] を選択したときは、[IPアドレス設定(IPv4)] 画面が表示されます (📄)。
- 接続先とカメラで、同じ暗号方式を設定してください。認証方式と暗号方式については[認証方式とデータ暗号化方式](#)を参照してください。

5. パスワードを入力する



-  を押して仮想キーボード  を表示し、パスワードを入力します。

6. [自動設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください 。

7. 接続する機器を操作してカメラに接続する



(1) SSID (ネットワーク名)

(2) 暗号キー (パスワード)

8. 通信機能に応じて接続設定を行う

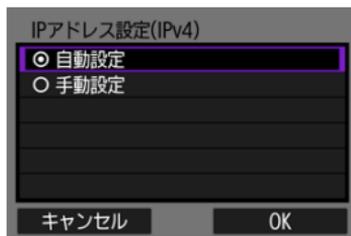
IPアドレスを設定する

IPアドレスの設定方法を選択し、カメラにIPアドレスを設定します。IPv6を使用するときは、IPv6のみで接続します。IPv4での接続はできません。

IPアドレスを自動で設定する場合

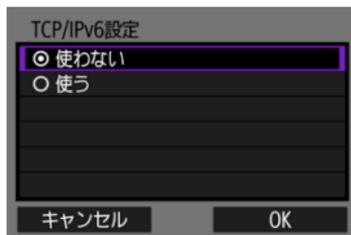
IPアドレス設定を自動で行います。

1. [自動設定] を選ぶ



- [OK] を選びます。
- [自動設定] でエラーが表示されたときは、IPアドレスを手動で設定してください (📧)。

2. IPv6設定を選ぶ



- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPv6を使う場合は、[使う] を選びます。

3. 接続先の機器に応じて接続設定を行う

IPアドレスを手動で設定する場合

IPアドレス設定を手動で行います。なお、表示される項目は通信機能によって異なります。

1. [手動設定] を選ぶ

IPアドレス設定(IPv4)

自動設定

手動設定

キャンセル OK

- [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。

2. 設定する項目を選ぶ

IPアドレス設定(IPv4)

IPアドレス 192.168.1.2

サブネットマスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 使わない

DNSアドレス 0.0.0.0

キャンセル OK

- 表示される項目は通信機能によって異なります。
- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。

ゲートウェイ

使う

使わない

アドレス

0.0.0.0

キャンセル OK

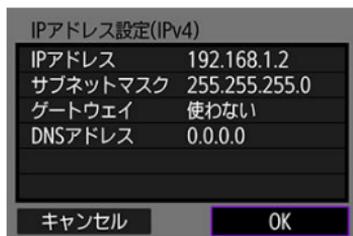
- ゲートウェイを使う場合は、[使う] を選んでから [アドレス] を選びます。

3. 数値を入力する



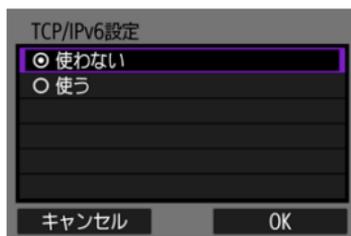
- 〈〉で上側の入力場所を選び、〈◀〉〈▶〉で入力する数値を選びます。〈〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- [◀] を選ぶと、直前に入力した数値が削除されます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

4. [OK] を選ぶ



- 必要な項目の設定が完了したら [OK] を選びます。次の画面に進みます。
- 設定する内容が分からない場合は、[ネットワークの設定を確認する](#)を参照するか、ネットワーク管理者などに問い合わせてください。

5. IPv6設定を選ぶ



- 項目を選んで [OK] を選ぶと、次の画面に進みます。
- IPv6を使う場合は、[使う] を選びます。

6. 接続先の機器に応じて接続設定を行う

2回目以降のWi-Fi/Bluetooth接続

一度Wi-Fi接続またはBluetooth接続した機器は、接続設定がカメラに登録されます。登録された接続設定を利用して、同じ機器に再接続することができます。

1. 項目を選ぶ



- 通信中の画面や、他の機器と接続中のメッセージが表示されたときは、現在の接続を切断します。

2. 接続する機器を選ぶ



- 表示された履歴から、接続する項目を選びます。

参考

- 通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。

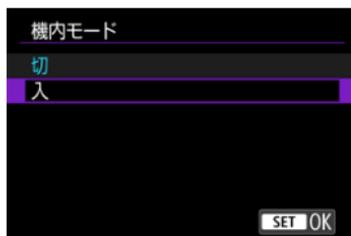
3. 画面の指示に従ってカメラと機器を接続する

機内モード

Wi-Fi機能、Bluetooth機能を一時的にオフにすることができます。

1. [機内モード] を選ぶ (📶)

2. [入] に設定する



- 画面に [↑] が表示されます。

参考

- 静止画撮影時や動画撮影時、再生時は、表示設定によって [↑] が表示されないこともあります。表示されないときは、〈INFO〉ボタンを何度か押して詳細情報表示の画面にします。

1. [🏠 : Wi-Fi設定] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- **Wi-Fi**
飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**【使わない】** に設定してください。
- **MACアドレス**
カメラのMACアドレスの確認ができます。



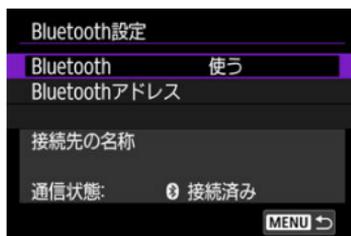
⚠ 注意

動画の転送について

- 動画は1ファイルあたりの容量が大きく、Wi-Fiでは大容量ファイルの送信に時間がかかります。[無線通信機能での注意事項](#)の記載内容を参考にして、各機器がアクセスポイントや本機と安定して通信できる環境を構築しておいてください。

1. [Bluetooth設定] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



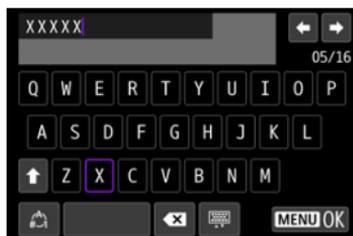
- **Bluetooth**
Bluetooth機能を使わないときは [使わない] を選びます。
- **Bluetoothアドレス**
カメラのBluetoothアドレスを確認できます。
- **接続先の名称**
ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。

カメラの名前

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラの名前を変更することができます。

1. [カメラの名前] を選ぶ (📷)

2. カメラの名前を変更する



- 仮想キーボード (📷) を操作し、カメラの名前を入力します。

3. <MENU> ボタンを押して [OK] を選ぶ

GPSの設定

[スマートフォン連携](#)

[GPS情報の表示](#)

スマートフォン連携

スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。
スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール (📎) してから設定を行ってください。

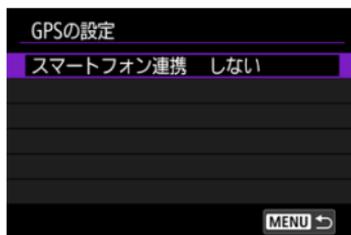
1. スマートフォンの位置情報機能をオンにする

2. Bluetooth接続する

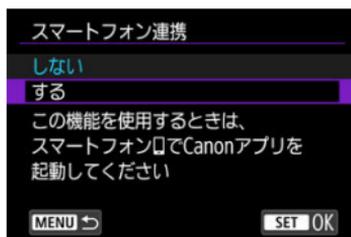
- Camera Connectを起動して、カメラとスマートフォンをBluetooth接続してください。

3. [🏠 : GPSの設定] を選ぶ (📎)

4. [スマートフォン連携] を選ぶ



5. 「する」を選ぶ



6. 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS情報の表示

静止画撮影画面 (📷) または動画撮影画面 (📹) のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面 (📷) で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



- (1) 緯度
- (2) 経度
- (3) 標高
- (4) 協定世界時

注意

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
 - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
 - カメラの電源を切る
 - Camera Connectを終了する
 - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
 - カメラの電源が切れる
 - Bluetooth接続が終了する
 - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

参考

- 協定世界時 (UTC: Coordinated Universal Time) は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

エラー内容の表示

カメラに発生している無線通信機能のエラー内容を表示することができます。

1. [⌵: エラー内容の表示] を選ぶ (☑)

- 発生しているエラーの内容が表示されます。
- エラーの詳細については、[エラー表示の対応](#)を参照してください。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- [ : エラー内容の表示] を選ぶ。
- [通信中] 画面の [エラー内容の表示] を選ぶ。

下記のエラー番号をクリックすると該当の項目にジャンプします。

11	12						
21	22	23					
61	64	65					
91							
121	125	127					
130	131	132	133	134	135	136	137
161							
171	172	173					

参考

- エラーが発生したときは、 [ : エラー内容の表示] の右側に [Err**] と表示されます。カメラの電源を〈OFF〉にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- [スマートフォン(タブレット)と接続] の場合、アプリケーションは起動していますか？
 - アプリケーションから接続操作を行ってください (☑)。
- [EOS Utilityと接続] の場合、EOS Utilityは起動していますか？
 - EOS Utilityを起動して、再度接続操作を行ってください (☑)。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
 - 暗号化されているアクセスポイントを利用する設定で、暗号キーを間違えると、このエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーをカメラに設定してください (☑)。

12：接続先が見つかりません

- 接続先の機器やアクセスポイントの電源は入っていますか？
 - 接続先の機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- カメラの設定がIPアドレス [自動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
 - DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス [手動設定] にして設定を行ってください (☑)。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
 - DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
 - DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
 - DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
 - DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (📷、📷)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

22 : DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - 使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください (📷、📷)。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
 - DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
 - DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
 - DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください (📷、📷)。
 - カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23 : ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

- **カメラと同じネットワークに接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していないですか？**
 - カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
 - DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス [手動設定] の設定になっているときは、IPアドレス [自動設定] の設定にしてください (🔗)。

参考

エラー20番台の対応について

- エラー21～23が表示された場合は、以下の確認も行ってください。**カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**
 - 暗号化されているアクセスポイントを利用する設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください (🔗)。

61 : 同じSSIDの無線LANネットワークが見つかりません

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。

カメラの確認内容

- **カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？**
 - アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください (🔗)。

アクセスポイントの確認内容

- **アクセスポイントの電源は入っていますか？**
 - アクセスポイントの電源を入れてください。
- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔗)。

64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - カメラで設定できる暗号化方式については、主な仕様を参照してください (🔗)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [MACアドレス] 画面で確認できます (🔗)。

65：無線LANの接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
 - アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください。
- 何らかの理由で、無線LANの接続が切れ、再接続できない状態になっています。
 - アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合 (IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯))、雨天や高温湿度などの影響が考えられます。

91：その他のエラー

- エラー11～65以外の異常が発生しました。
 - カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- 送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。
 - Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
 - ネットワークの接続状態を確認してください。

127：エラーが発生しました

- Webサービスの接続中に、エラー121～126以外の異常が発生しました。
 - WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

**130 : サーバーが混みあっています
しばらくたってからもう一度実行してください**

- **Webサービスに一時的に負荷が集中しています。**
 - しばらくしてからWebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

131 : もう一度実行してください

- **WebサービスのWi-Fi接続でエラーが発生しました。**
 - WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

**132 : サーバーでエラーが発生しました
しばらくしてから実行してください**

- **Webサービスがメンテナンス中です。**
 - しばらくしてからWebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

133 : Webサービスにログインできません

- **Webサービスのログインでエラーが発生しました。**
 - Webサービスの設定を確認してください。
 - しばらくしてからWebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

134 : 日付/時刻を正しく設定してください

- **日付/時刻/エリアが正しく設定されていません。**
 - [📍 : 日付/時刻/エリア] の設定を確認してください。

135 : Webサービスの設定が変更されています

- **Webサービスの設定が変更されています。**
 - Webサービスの設定を確認してください。

136 : カメラに表示されたQRコードを専用アプリで正しく読み取れませんでした。カメラ連携設定をやり直してください

- **スマートフォンでQRコードが正しく読み取れていません。**
 - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

137:カメラに表示されたQRコードの有効期限が切れました。カメラ連携設定をやり直してください

- **表示されたQRコードの有効期限が切れています。**
 - カメラ連携設定をやり直し、新しくカメラに表示されるQRコードを読み取ってください。

161 : エラーが発生しました

- **ライブ配信時にエラーが発生しました。**
 - ライブ配信の配信設定を見直してください。
 - ライブ配信をやり直してください。

171 : エラーが発生しました

- **Live Switcher Mobile配信時にエラーが発生しました。**
 - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
 - Live Switcher Mobileをやり直してください。

172 : エラーが発生しました

- **Live Switcher Mobile接続時にエラーが発生しました。**
 - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
 - Live Switcher Mobileをやり直してください。

173 : エラーが発生しました

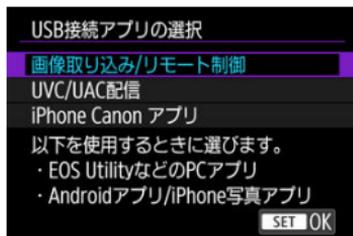
- **Live Switcher Mobile送信時にエラーが発生しました。**
 - Live Switcher Mobileの配信設定を見直してください。
 - Live Switcher Mobileをやり直してください。

USB接続アプリの選択

カメラとスマートフォンやパソコンをインターフェースケーブルで接続し、画像を転送したり、スマートフォンやパソコンに取り込むことができます。

1. [MENU : USB接続アプリの選択] を選ぶ (☞)

2. 項目を選ぶ



● 画像取り込み/リモート制御

パソコンと接続してEOS Utilityを使用するとき、Android版アプリケーションやiOSの写真アプリケーションを使用するときを選びます。

● UVC/UAC配信

パソコンと接続して、UVC/UAC対応のアプリケーションを使用するときを選びます。

[UVC/UAC配信] を選んだあと、インターフェースケーブルでパソコンと接続し、アプリケーションを起動します。

[カメラアイコン : オーディオ形式] が [LPCM/24bit/4CH] に設定されていても、出力はLPCM/16bit/2CH (CH1/CH2) となります。

● iPhone Canon アプリ

iPhoneのアプリケーションを使用するときを選びます。

カメラとスマートフォンの接続に必要なケーブルについては、キヤノンのホームページを参照してください (☞)。

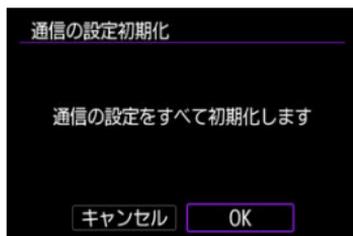
⚠ 注意

- [UVC/UAC配信] で長時間カメラを使用するときは、USB給電または家庭用電源アクセサリ（別売）の使用をおすすめします。
- [UVC/UAC配信] を選択したときは、動画配信サイズを設定することができます (☞)。

通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。

1. [🔒: 通信の設定初期化] を選ぶ (🔒)
2. [OK] を選ぶ



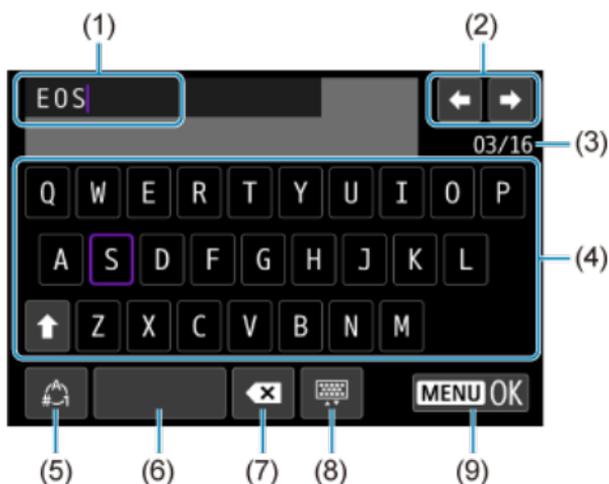
⚠ 注意

- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

📖 参考

- [🔒: カメラの初期化] の [基本以外の設定] [通信の設定] で無線通信の設定をすべて削除できます。

仮想キーボードの操作方法



(1) 文字を入力するエリア（入力エリア）

(2) 入力エリアでのカーソルの移動

(3) 入力した文字数／入力できる文字数

(4) キーボード

(5) 入力モードの切り換え

(6) スペース

(7) 入力エリアでの文字の削除

(8) キーボードの種類の変更

(9) 入力の終了

- (1) は  で移動します。
- (2)、(4) ~ (8) は  で移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは  を押します。

無線通信機能での注意事項

- ☑ [カメラとスマートフォンとの距離について](#)
- ☑ [アクセスポイントの設置場所について](#)
- ☑ [近くにある電子機器について](#)
- ☑ [カメラを複数使うときの注意](#)

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n (2.4GHz帯) のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

セキュリティーについて

カメラをネットワークに接続する際は、セキュリティーで保護されたネットワーク環境でご利用ください。

カメラの設定は初期状態のまま使用することをおすすめします。

カメラをネットワークに接続する際は、意図しない第三者からの不正アクセスやサイバー攻撃のリスクがあります。外部ネットワークからのアクセスが不要な場合は、物理的・論理的に遮断し、特定のデバイスのみがアクセスできるように設定してください。また、Wi-Fi（無線LAN）は、悪意ある第三者が電波を傍受することで、通信内容を盗み見られる恐れがあります。

外部ネットワークへのアクセスが必要な場合は、外部からのアクセスを遮断できるVPN（仮想プライベートネットワーク）の利用など、安全に通信できる方法を導入することが重要です。Wi-Fiは、セキュリティーで保護された環境でご利用ください。暗号化はAESの利用をおすすめします。

特に、下記機能ではカメラとの通信においてプロトコル暗号化に対応していないため、セキュリティーで保護されたネットワーク環境でご利用ください。

- Content Transfer Professional
- Camera Connect
- EOS Utility

⚠ 注意

- ネットワークのセキュリティー上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。
- カメラは電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続することができません。カメラをインターネットに接続する場合は、必ずルーターなどを経由して接続してください。

ネットワークの設定を確認する

Windowsの場合

Windowsの [コマンドプロンプト] を開き、`ipconfig /all` と入力して〈Enter〉キーを押します。

パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

macOSの場合

macOSの [ターミナル] を開き、`ifconfig -a` と入力して〈Return〉キーを押します。[enX] (Xは数字) 項目 [inet] の `***.***.***.***` がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

[ターミナル] については、macOSのヘルプを参照してください。

なお、[IPアドレスの手動設定](#)でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例) 192.168.1.10

無線通信機能の接続状態

モニターで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。



- (1)Wi-Fi機能
- (2)電波強度
- (3)Bluetooth機能

通信状態		モニター	
		Wi-Fi機能	電波強度
未接続	Wi-Fi：使わない	Wi-Fi OFF	非表示
	Wi-Fi：使う	Wi-Fi ON	
接続開始		Wi-Fi (点滅)	電波強度 1
接続中		Wi-Fi	電波強度 2
送信中		Wi-Fi	電波強度 3
接続エラー		Wi-Fi (点滅)	電波強度 1

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター
[使わない] 以外	Bluetooth接続中	
	Bluetooth未接続	
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示

機能設定

この章では、メニュー機能の「🔧：機能設定タブ」の項目について説明しています。
タイトル右の **応用** は、応用撮影限定の機能であることを示しています。

- [メニュー目次：機能設定タブ](#)
- [フォルダの設定](#)
- [静止画画像番号](#)
- [動画クリップ番号](#)
- [ファイル名の設定](#)
- [カード初期化](#)
- [縦位置画像回転表示](#)
- [動画縦位置情報の付加](#)
- [日付／時刻／エリア](#)
- [言語](#)
- [システム周波数](#)
- [機能ガイド](#)
- [電子音](#)
- [音量](#)
- [音声モニター](#)
- [モニターの明るさ](#)
- [メニュー画面の拡大](#)
- [HDMI出力解像度](#)
- [パスワードの管理](#)
- [節電](#)
- [カメラの初期化](#) **応用**
- [カスタム撮影モード \(C1-C3\)](#) **応用**
- [バッテリー情報](#)
- [著作権情報](#) **応用**
- [その他の情報](#)

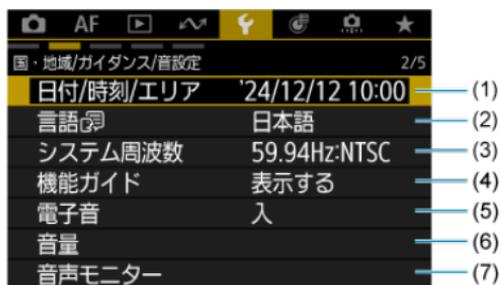
メニュー目次：機能設定タブ

● ファイル・カード設定



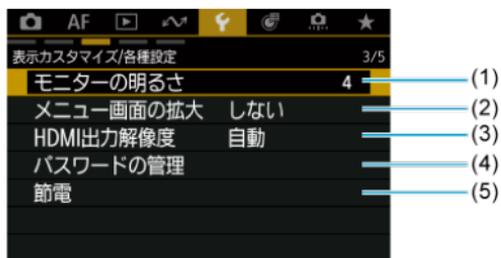
- (1) [フォルダ選択](#)
- (2) [画像番号](#)
- (3) [クリップ番号](#)
- (4) [ファイル名の設定](#)
- (5) [カード初期化](#)
- (6) [縦位置画像回転表示](#)
- (7) [縦位置情報の付加](#)

● 国・地域/ガイダンス/音設定



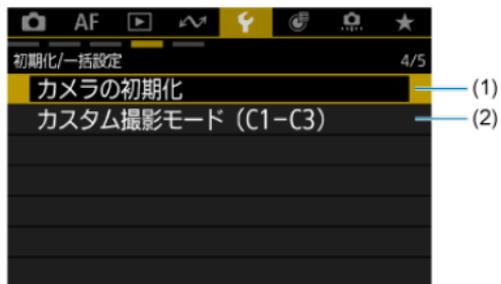
- (1) [日付/時刻/エリア](#)
- (2) [言語](#)
- (3) [システム周波数](#)
- (4) [機能ガイド](#)
- (5) [電子音](#)
- (6) [音量](#)
- (7) [音声モニター](#)

● 表示カスタマイズ/各種設定



- (1) [モニターの明るさ](#)
- (2) [メニュー画面の拡大](#)
- (3) [HDMI出力解像度](#)
- (4) [パスワードの管理](#)
- (5) [節電](#)

● 初期化/一括設定



- (1) [カメラの初期化](#) **応用**
- (2) [カスタム撮影モード \(C1-C3\)](#) **応用**

● 各種情報



- (1) [バッテリー情報](#)
- (2) [著作権情報](#) **応用**
- (3) [ログの表示](#)
- (4) [使用説明書・ソフトウェア URL](#)
- (5) [認証マーク表示](#) **応用**
- (6) [ファームウェア](#)

フォルダの設定

- [フォルダの作成](#)
- [フォルダ名の変更](#)
- [フォルダの選択](#)

静止画を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。またフォルダ名を変更することもできます。

参考

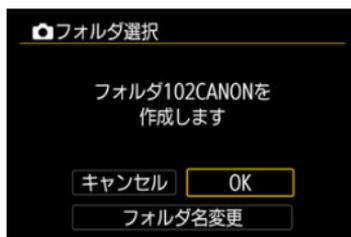
- 動画ファイルは、以下のフォルダに保存されます（****はリール番号）。
 - XF-HEVC S/XF-AVC S動画ファイル (.MP4) : 「XFVC」フォルダ内の「REEL_****」フォルダ（最大999ファイル）
- 新しいカードを入れると、**[F:ファイル名の設定]**の**[動画]**の**[リール番号]**で設定したリール番号でフォルダが作成されます。フォルダの新規作成やフォルダ名の変更はできません。

フォルダの作成

1. **[F:フォルダ選択]** を選ぶ (F)
2. **[フォルダ作成]** を選ぶ

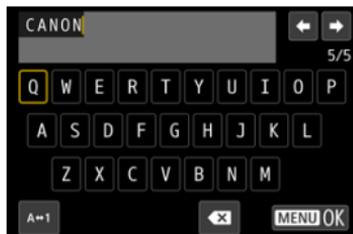


3. [OK] を選ぶ

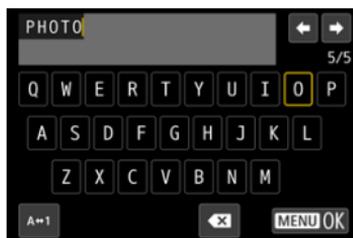


- フォルダ名を変更したいときは [フォルダ名変更] を選びます。

1. 任意の英数字を入力する



- 5文字入力できます。
- [A⇄1] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [✕] を選ぶと、1文字消去されます。



- <⦿> <⚡> を操作して文字を選び、<Ⓜ> を押すと入力されます。

2. 設定を終了する

- <MENU> ボタンを押して [OK] を選びます。

フォルダの選択



- (1) フォルダ内画像数
- (2) 最小番号画像
- (3) フォルダ名
- (4) 最大番号画像

- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

参考

フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット (☑) を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「DCIM」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダが必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「100ABC_D」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

静止画画像番号

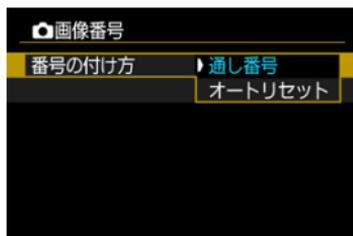
- [通し番号](#)
- [オートリセット](#)
- [強制リセット](#)

撮影した静止画画像には0001~9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

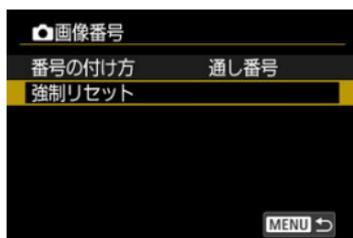
(例)
IMG_0001.JPG
|
(1)
(1) 画像番号

1. [: 画像番号] を選ぶ (☑)

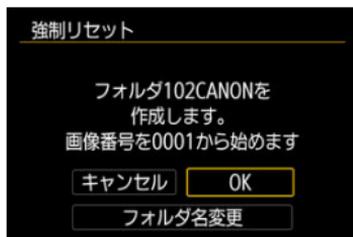
2. 項目を設定する



- [番号の付け方] を選びます。
- [通し番号] [オートリセット] のいずれかを選びます。



- 画像番号をリセットしたいときは、[強制リセット] を選びます (🔗)。



- [OK] を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

⚠ 注意

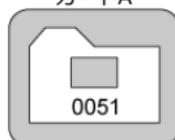
- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

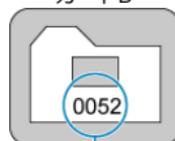
カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

カードA



カードB

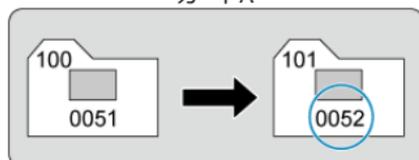


(1)

(1) 続きの画像番号

フォルダを作成した場合

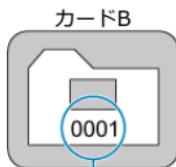
カードA



カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

カードを交換した場合

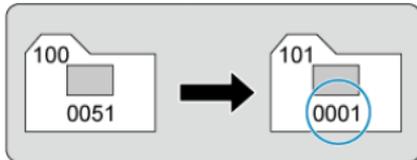


(1)

(1) 画像番号リセット

フォルダを作成した場合

カードA



任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

動画クリップ番号

[通し番号](#)

[オートリセット](#)

撮影した動画には001~999の順でクリップ番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。クリップ番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

(例)

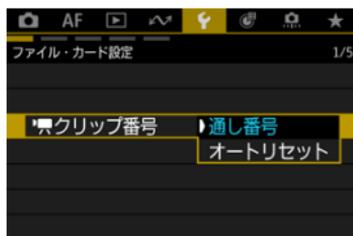
A_0001**C001**Ayymmdd_hhmmssXX_CANON

(1)

(1) クリップ番号

1. [**📁**: クリップ番号] を選ぶ (🔍)

2. 項目を設定する



- [通し番号] [オートリセット] のいずれかを選びます。

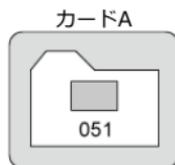
参考

- XFVCフォルダには、999ファイルまで保存できます。[**🔍**: 画像検索の条件設定] (🔍) で、動画ファイル数を確認することができます。すでに999ファイルを保存しているときは、動画を削除するか、別のカードに交換するか、保存するカードを変更してください。

カード交換を行っても連番で保存したいとき

カード交換を行っても、クリップ番号999の動画ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカードにまたがった001~999までの動画を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードにすでに動画が入っているときは、その動画に付けられた番号の続き番号になることがあります。動画を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



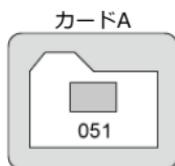
(1)

(1) 続きのクリップ番号

カード交換で、クリップ番号を001にしたいとき

カード交換を行うと、クリップ番号001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位で動画を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードにすでに動画が入っているときは、その動画に付けられた番号の続き番号になることがあります。001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



(1)

(1) クリップ番号リセット

ファイル名の設定

☑ [静止画ファイル名の登録・変更](#)

☑ [動画ファイル名の設定](#)

静止画ファイル名の登録・変更

ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号 (☑)、拡張子で構成されています。先頭4文字の初期設定は、工場出荷時に決められた、カメラ固有の英数字になっています、これを任意に変更することができます。

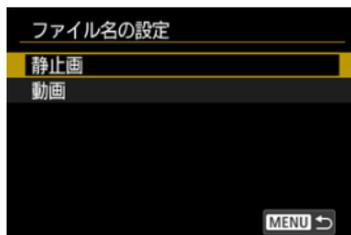
ユーザー設定1は、任意の4文字を登録することができます。ユーザー設定2は、任意の3文字を登録して撮影すると、先頭から4文字目に画像サイズが自動的に付加されます。

(例)

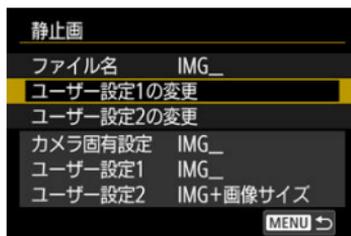
IMG_0001.JPG

1. [🔍: ファイル名の設定] を選ぶ (☑)

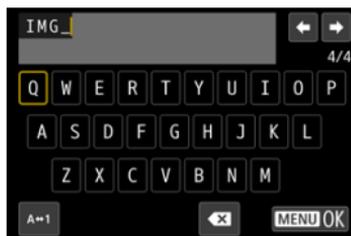
2. [静止画] を選ぶ



3. [ユーザー設定*の変更] を選ぶ



4. 任意の英数字を入力する



- ユーザー設定1は4文字、ユーザー設定2は3文字入力します。
- [A⇨1] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [X] を選ぶと、1文字消去されます。

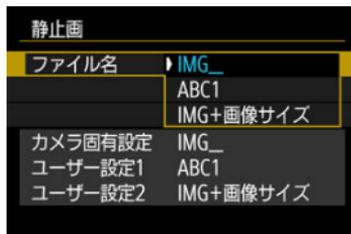


- <⊙> <◇> を操作して文字を選び、<Ⓚ> を押すと入力されます。

5. 設定を終了する

- <MENU> ボタンを押して [OK] を選びます。

6. 登録したファイル名を選ぶ



- [ファイル名] を選び、登録したファイル名を選びます。

注意

- 「_」(アンダーバー)を1文字目に指定することはできません。

参考

【ユーザー設定2】について

- ユーザー設定2で登録した「***+画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた画像サイズ(1文字)が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。付加される文字の意味は次のとおりです。

「***L」=  /  / RAW

「***M」=  /  M

「***S」=  S1 /  S1

「***T」= S2

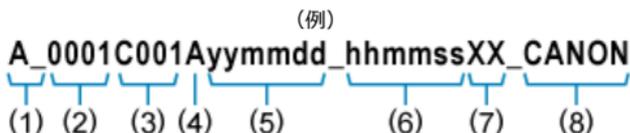
「***C」= **CRAW**

パソコンに画像を取り込んだときに、自動付加された4文字目を読み取ることで、画像を開かずに画像サイズを判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像、HEIF画像は、拡張子から判別することができます。

動画ファイル名の設定

動画ファイル（クリップ）のファイル名の付け方を設定します。

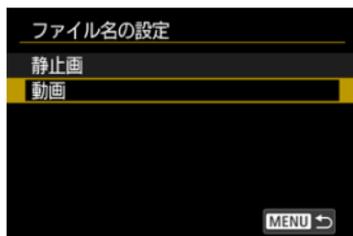
動画ファイル名の構成



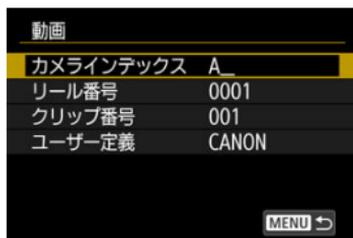
	項目	内容
(1)	カメラインデックス	A～Zからなる2文字です。2文字目は「_」も選択可能です。カメラごとに異なる文字を設定します。
(2)	リール番号	0001～9999の4桁の数字です。カードごとに異なる番号が自動的に振られます。任意の初期値を指定できます。新しいカード*に交換すると、初回の記録時に番号が1つ繰り上がります。 * 購入または初期化直後のカード
(3)	クリップ番号	001～999の3桁の数字で、先頭に「C」が付いてC001～C999となります。C999の次は「D」が先頭に付きます。クリップ番号はクリップ（動画ファイル）ごとに自動的に振られます。任意の初期値を設定できます。
(4)	コーデック種別	メイン動画のコーデック種別がH.264の場合は「A」、HEVCの場合は「H」が自動的に設定されます。
(5)	撮影開始日	撮影を開始した年月日が自動的に設定されます。
(6)	撮影開始時刻	撮影を開始した時分秒が自動的に設定されます。
(7)	ランダムID	クリップ（動画ファイル）ごとにランダムに設定される、A～Z、0～9からなる2文字です。
(8)	ユーザー定義	A～Z、0～9からなる5文字です。デフォルトはCANON。

動画ファイル名を設定する

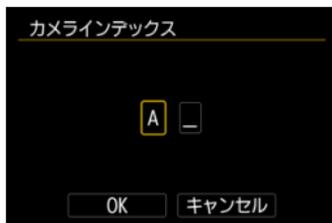
1. [P: ファイル名の設定] を選ぶ (P)
2. [動画] を選ぶ



3. 動画ファイル名を設定する



- カメラインテックス
任意の2文字を設定します。



- 必要に応じて、[リール番号] や [クリップ番号] の初期値を設定します。

● ユーザー定義

任意の英数字を入力します。



- 5文字入力できます。
- [**A↔1**] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [**X**] を選ぶと、1文字消去されます。



- **(○)** **(◀▶)** を操作して文字を選び、**(Ⓜ)** を押すと入力されます。

カード初期化

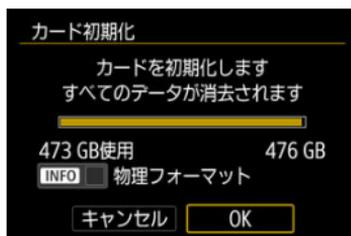
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

❗ 注意

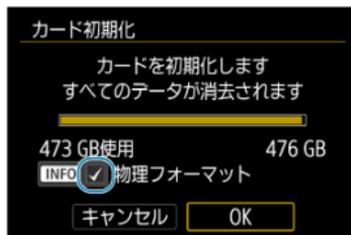
- カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1. [🔍 : カード初期化] を選ぶ (🔍)

2. 初期化する



- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈INFO〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に [✓] が付いた状態で [OK] を選びます。

☀ カードの初期化が必要な場合

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき
- 画像やデータでカードがいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき (🔍)

物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み/読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に「キャンセル」を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

カード初期化時のファイルフォーマットについて

- SDカードはFAT12形式またはFAT16形式、SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、(ファイルが分割されず) 1つの動画ファイルに記録されます (4GBを超える動画ファイルが作成されます)。

⚠ 注意

- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

📖 参考

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器はMicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

縦位置画像回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。

1. [📷: 縦位置画像回転表示] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **する** 📷 🖥️
カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **する** 🖥️
パソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **しない**
自動回転しません。

🚫 注意

- [しない] で撮影した画像は、[する] に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

 参考

- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われなかったりすることがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

動画縦位置情報の付加

カメラを縦位置にして撮影した動画を、スマートフォンなどで再生したときに、動画が撮影したときと同じ向き（縦位置）で再生されるように、撮影時に回転情報（上の向きの情報）を自動付加するかどうかを設定できます。

1. [📷: 縦位置情報の付加] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **する**
スマートフォンなどで動画を再生したときに、撮影したときと同じ向きで再生されます。
- **しない**
スマートフォンなどで動画を再生したときは、撮影したときの向きに関わらず、横位置で再生されます。

📢 注意

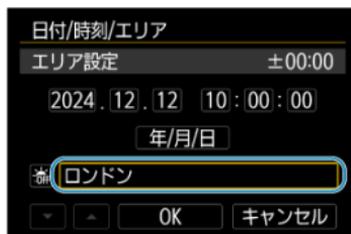
- カメラ、HDMI映像出力先で動画を再生したときは、設定に関わらず、横位置で再生されます。

日付／時刻／エリア

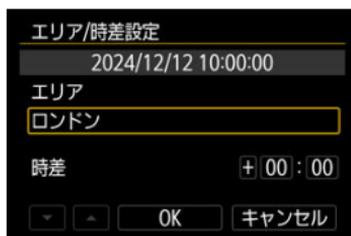
初めて電源を入れたときや、日付／時刻／エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。
エリアから設定しておく、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付／時刻に変更されます。
撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

1. [📍: 日付/時刻/エリア] を選ぶ (📍)

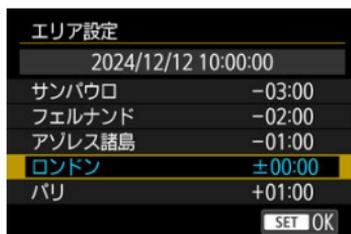
2. エリアを設定する



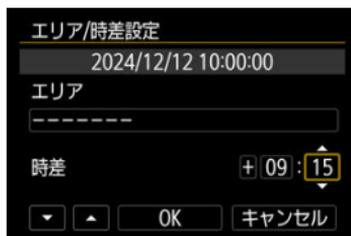
- <📍> で [エリア設定] を選び、<📍> を押します。



- <📍> を押します。



- <▲><▼> でエリアを選び、<⊗> を押します。
- 該当するエリアがないときは、<MENU> ボタンを押して [時差] (協定世界時との時差) で設定します。



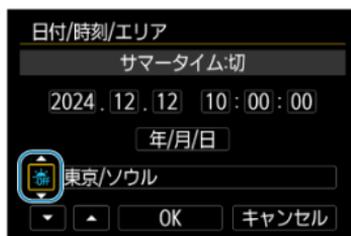
- <◀><▶> で [時差] の項目 (+-/時/分) を選び、<⊗> を押します。
- <▲><▼> で設定し、<⊗> を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、[OK] を選びます。

3. 日付/時刻を設定する



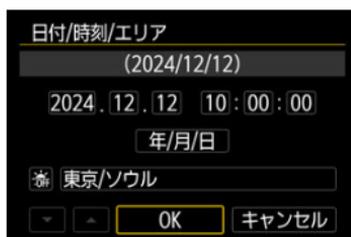
- <◀><▶> で項目を選び、<⊗> を押します。
- <▲><▼> で設定し、<⊗> を押します。

4. サマータイムを設定する



- 必要に応じて設定します。
- [サマータイム:オン] または [サマータイム:オフ] を選び、(Enter) を押します。
- サマータイムを [サマータイム:オン] にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。[サマータイム:オフ] にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

5. 設定を終了する



- [OK] を選びます。

注意

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- [エリア/時差設定] の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

参考

- [日付/時刻/エリア] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

1. [F: 言語] を選ぶ (F)
2. 言語を設定する

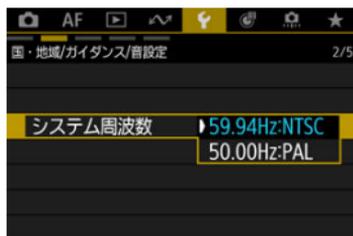


システム周波数

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

1. [🔧: システム周波数] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **59.94Hz:NTSC**

テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。

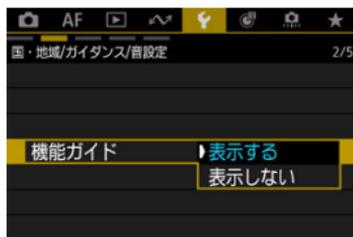
- **50.00Hz:PAL**

テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

機能ガイド

撮影モード設定時、クイック設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。

1. [👉：機能ガイド] を選ぶ (📌)
2. 項目を選ぶ



画面例



(1) 機能ガイド

📌 参考

- 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

1. [🔔: 電子音] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



- 入
合焦時、タッチ操作時などに電子音を出します。
- 切
電子音を消します。

📄 参考

- タッチ音の初期設定は音量 [0] に設定されています (🔗)。

音量

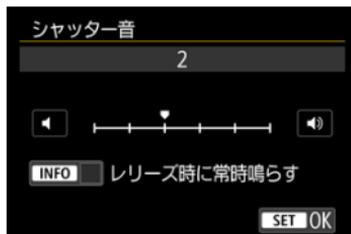
カメラの各種動作音の音量を変えられます。

1. [🔊: 音量] を選ぶ (🔊)

2. 項目を選ぶ



3. 音量を調整する



- <◀> <▶> で音量を調節し、<🔊> を押します。

音声モニター

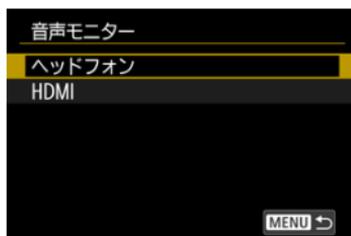
[ヘッドフォン](#)

[HDMI](#)

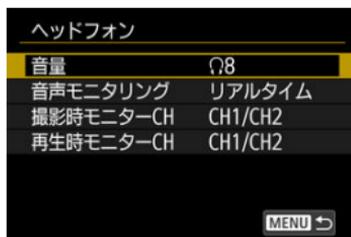
ヘッドフォン

音量を調整する

1. [🔊: 音声モニター] を選ぶ (🔍)
2. [ヘッドフォン] を選ぶ



3. [音量] を選ぶ



4. 音量を調節する



- 〈〉を回して音量を調節し、〈〉を押します。

⚠ 注意

- カメラにヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。

📖 参考

- [📷: 録音] が [する] のときは、内蔵マイクまたは外部マイクからの音をヘッドフォンで確認することができます。

音声モニタリング

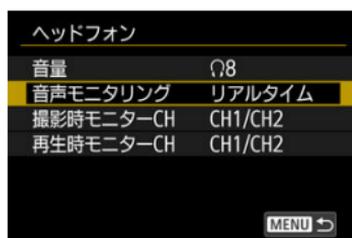
動画記録時に、ヘッドフォンから出力される音声を選択できます。記録される音声のノイズを低減するには、[音声ノイズ低減] () を設定してください。

1. [🔊: 音声モニター] を選ぶ ()

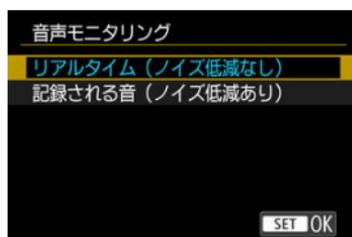
2. [ヘッドフォン] を選ぶ



3. [音声モニタリング] を選ぶ



4. 項目を選ぶ



- **リアルタイム (ノイズ低減なし)**
ノイズ低減処理をせず音声が出力されます。
- **記録される音 (ノイズ低減あり)**
ノイズ低減処理をして音声が出力されます。

⚠ 注意

- [記録される音 (ノイズ低減あり)] を選択したときは、映像に対して音声若干遅延して出力されます。ただし、記録される動画に音声の遅延はありません。

ヘッドフォン端子の出力チャンネルを選択する

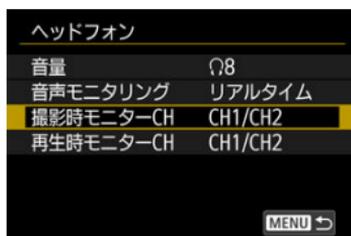
撮影時または再生時に、ヘッドフォン端子から出力されるチャンネルの組み合わせを選択できます。スピーカー (🔊) から音声を出力するときも、この設定が適用されます。

1. [🔊: 音声モニター] を選ぶ (🔊)

2. [ヘッドフォン] を選ぶ



3. [撮影時モニターCH] または [再生時モニターCH] を選ぶ

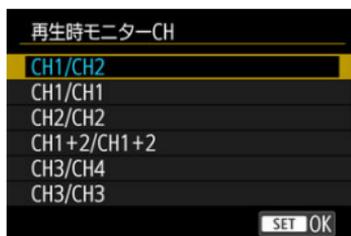


4. 出力音声 (L/R) の組み合わせを選ぶ

撮影時モニターCH



再生時モニターCH



- 「CH1+2」はCH1とCH2のミックスした信号であることを示します。「CH1+3」、「CH3+4」なども同様です。

注意

- [📷:オーディオ形式] (🔊) を [AAC/16bit/2CH] に設定して撮影した場合は、CH3およびCH4には音声記録されないため、[再生時モニターCH] のCH3およびCH4からは音が出ません。

参考

- 動画撮影画面に表示される録音レベルメーター (🔊) には、[撮影時モニターCH] で選択したチャンネルが表示されます。
- [📷:オーディオ形式] (🔊) を [AAC/16bit/2CH] に設定したときは、[撮影時モニターCH] でCH3またはCH4を含む項目は選択できません。

HDMI出力端子の出力チャンネルを選ぶ

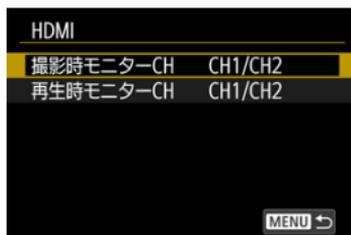
撮影時または再生時に、HDMI出力端子から出力されるチャンネルの組み合わせを選択できます。

1. [🔊 : 音声モニター] を選ぶ (🔊)

2. [HDMI] を選ぶ

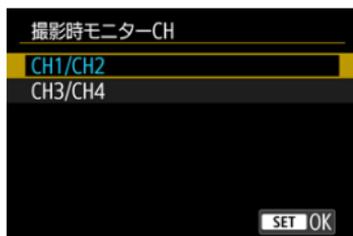


3. [撮影時モニターCH] または [再生時モニターCH] を選ぶ

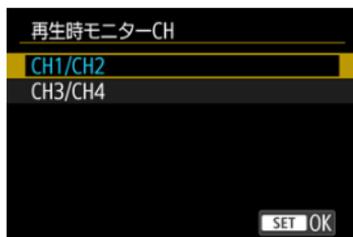


4. [CH1/CH2] または [CH3/CH4] を選ぶ

撮影時モニターCH



再生時モニターCH



⚠ 注意

- [📷: オーディオ形式] (🔊) を [AAC/16bit/2CH] に設定して撮影した動画を再生するとき、[再生時モニターCH] を [CH3/CH4] に設定すると音が出ません。

モニターの明るさ

1. [☑: モニターの明るさ] を選ぶ (☑)
2. 調整する



- グレーチャートを参考にして〈◀〉〈▶〉でモニターの明るさを調整し、〈☑〉を押します。効果はモニターで確認してください。

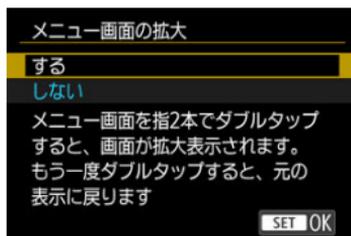
参考

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム (☑) で確認することをおすすめします。

メニュー画面の拡大

指2本で、メニュー画面をダブルタップすると、メニュー画面を拡大して表示することができます。再度、ダブルタップすると元の表示サイズに戻ります。

1. [🔍:メニュー画面の拡大] を選ぶ (🔍)
2. [する] を選ぶ



⚠ 注意

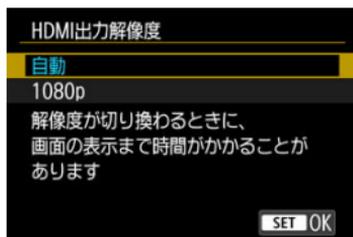
- 拡大表示した状態で、メニュー機能の設定を行うときは操作部材で操作してください。タッチして操作することはできません。

HDMI出力解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。

1. [F : HDMI出力解像度] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ

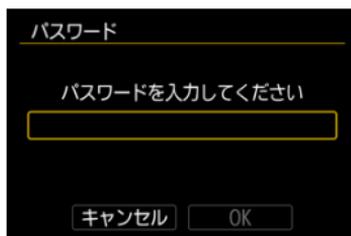


- **自動**
接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- **1080p**
1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わる時の表示や時間が気になるときに選びます。

📖 参考

- 撮影時の設定が異なる動画がカード内に混在している場合は、映像が表示されるまでに時間がかかることがあります。

3. 初回起動時に設定したパスワードを入力する



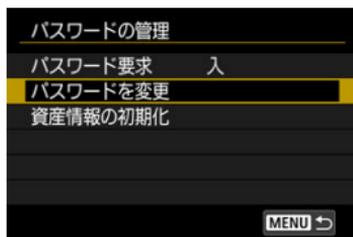
4. 項目を選ぶ



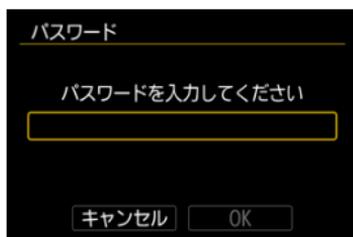
パスワードを変更する

カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフから復帰したときに入力するパスワードを変更します。

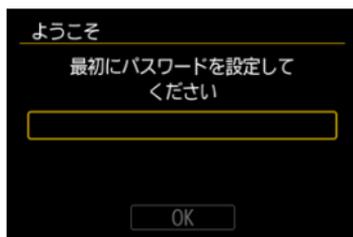
1. [パスワードを変更] を選ぶ



2. 初回起動時に設定したパスワードを入力する

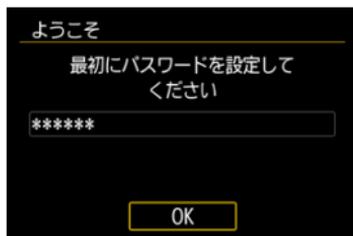


3. 新しいパスワードを入力する

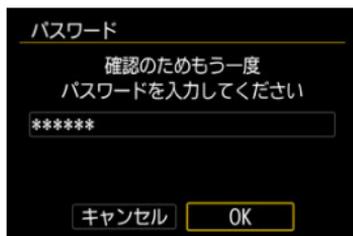


- 6桁の数字を入力し、[OK] を押します。

4. [OK] を選ぶ



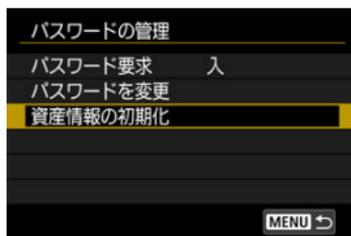
5. もう一度パスワードを入力し、[OK] を選ぶ



資産情報を初期化する

カメラの資産情報とパスワードを初期化します。

1. [資産情報の初期化] を選ぶ



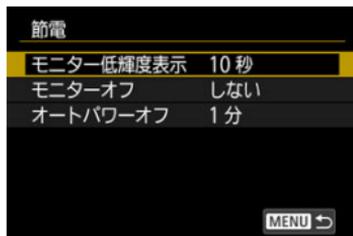
2. [OK] を選ぶ

節電

カメラを操作しない状態でモニターが暗くなるまでの時間（モニター低輝度表示）、モニターが暗くなってから画面が消えるまでの時間（モニターオフ）、カメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）を変えることができます。

1. [⚡: 節電] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



📖 参考

- [モニター低輝度表示] と [モニターオフ] は撮影画面の表示時に機能します。メニューや再生画面の表示時は機能しません。
- メニューや再生画面の表示時は、[モニター低輝度表示] [モニターオフ] [オートパワーオフ] の設定時間後にカメラの電源が切れます。
- [モニターオフ] と [オートパワーオフ] を [しない] に設定していても、カメラを操作しない状態が約30分続くと、液晶を保護するため、画面の表示が消えます（カメラの電源は切れません）。
- 静止画撮影待機時、低輝度表示になると、モニターに表示される映像のフレームレートは低下します。

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1. [📷: カメラの初期化] を選ぶ (🔍)

2. 項目を選ぶ



- **基本設定**
カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定内容を初期状態に戻します。
- **基本以外の設定**
選択した項目の設定内容を初期化することができます。

3. 初期化する

- 確認画面で **[OK]** を選びます。

❗ 注意

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。そのときは、**[基本設定]** を選んだ状態で、① <▶> を押しながら <MENU> ボタンを押すか、② <📷> を押して **[OK]** を選ぶと、輝点の発生が改善することがあります (②のときはカメラの設定が初期状態になります)。

カスタム撮影モード（C1-C3）

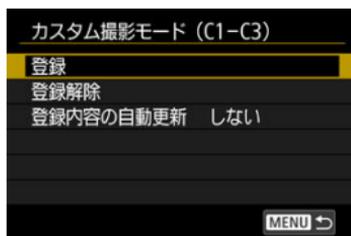
[登録内容の自動更新](#)

[カスタム撮影モードの登録解除](#)

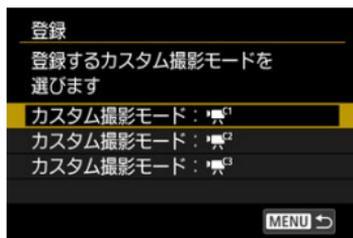
〈〉モードのとき、撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、撮影モードの【C1】～【C3】にカスタム撮影モードとして登録することができます。

1. [ : カスタム撮影モード（C1-C3）] を選ぶ (🔍)

2. 【登録】を選ぶ



3. 登録する



- 登録するカスタム撮影モードを選び、[登録]の画面で[OK]を選びます。
- カメラの設定内容がカスタム撮影モードのC*に登録されます。
- メニュー項目によっては、他の撮影モードで変更した設定内容がカスタム撮影モードの設定に引き継がれない場合があります。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で【登録内容の自動更新】を【する】に設定します。

⚠ 注意

- USB(UVC/UAC)接続 (🔗) している場合、登録内容は自動更新されません。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で【登録解除】を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

参考

- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

バッテリー情報

使用しているバッテリーの状態を画面で確認することができます。

1. [🔋: バッテリー情報] を選ぶ (🔋)



- (1) 使用しているバッテリー、または家庭用電源の型式が表示されます。
- (2) バッテリー残量 (🔋) が表示されます。
- (3) バッテリーの劣化状態が3段階で表示されます。

■ ■ ■ (緑) : 劣化していません

■ ■ □ (緑) : 少し劣化しています

■ □ □ (赤) : バッテリーの買い換えをおすすめします

🚫 注意

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E17のご使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

📖 参考

- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

☑ [著作権情報の確認](#)

☑ [著作権情報の消去](#)

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

⚠ 注意

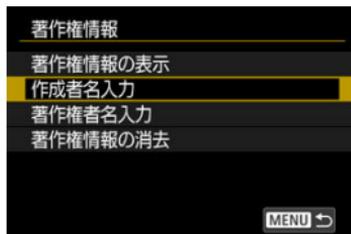
- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、**[著作権情報の表示]**を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

📖 参考

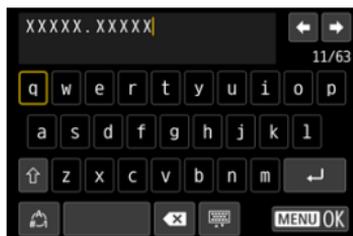
- EOS用ソフトウェアのEOS Utility (🔗) から、著作権情報を設定・確認することもできます。

1. [🔗: 著作権情報] を選ぶ (🔗)

2. 項目を選ぶ



3. 文字を入力する



- 〈〉で文字を選び、〈〉を押すと入力されます。
- [] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [] を選ぶと、1文字消去されます。

4. 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

著作権情報の確認



手順2で [著作権情報の表示] を選ぶと、入力した [作成者] [著作権者] の情報を確認することができます。

著作権情報の消去

手順2で **著作権情報の消去** を選ぶと、**作成者** **著作権者** の情報が消去されます。

その他の情報

● ログの表示

[🔍: ログの表示] を選ぶと、パスワード変更やネットワーク情報変更などの履歴を確認できます。

● 使用説明書・ソフトウェア URL

[🔍: 使用説明書・ソフトウェア URL] を選んで (📄)、表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

● 認証マーク表示

[🔍: 認証マーク表示] を選ぶと (📄)、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、カメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● ファームウェア

このカメラまたは使用中のレンズなどの対応アクセサリーのファームウェアをアップデートするとき 사용합니다。

[📄 image.canon に画像送信] などインターネットに接続する機能が設定されていて、インターネットに接続可能なとき、キヤノンのサーバーに最新ファームウェアがあれば、🔍アイコンおよび [🔍: ファームウェア] に「*」マークが表示されます。[🔍: ファームウェア] を選び、画面の指示に従って、ファームウェアをアップデートすることができます。[🏠: Wi-Fi設定] の [Wi-Fi] を [使わない] にしたとき、または接続先を切り換えたときは「*」マークは消えます。

なお、カメラのファームウェアのアップデートは、Camera Connectからもできます (📄)。

操作カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。

- [メニュー目次：操作カスタマイズタブ](#)
- [操作カスタマイズで変更できる内容](#)

メニュー目次：操作カスタマイズタブ

● 撮影時 操作カスタマイズ（動画撮影）

撮影時 操作カスタマイズ	1/3
撮影時ボタン カスタマイズ	- (1)
動画撮影時シャッターボタンの機能	(2)
ダイヤル/リング カスタマイズ	- (3)
マルチ電子ロック	- (4)
フォーカス/コントロールリング	FOCUS (5)
カメラ/光学ズーム速度	(6)
レンズ操作 光学ズーム速度	(7)

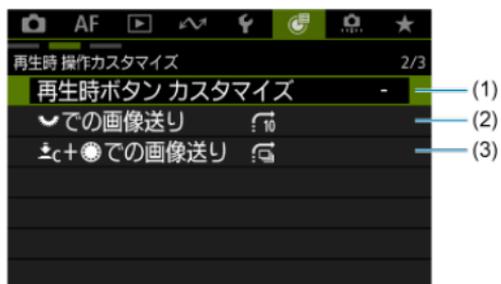
- (1) [撮影時ボタン カスタマイズ](#) 応用
- (2) [動画撮影時シャッターボタンの機能](#)
- (3) [ダイヤル/リング カスタマイズ](#) 応用
- (4) [マルチ電子ロック](#)
- (5) [フォーカス/コントロールリング](#) 応用
- (6) [カメラ/光学ズーム速度](#) 応用
- (7) [レンズ操作 光学ズーム速度](#) 応用

● 撮影時 操作カスタマイズ（静止画撮影）

撮影時 操作カスタマイズ	1/3
撮影時ボタン カスタマイズ	- (1)
ダイヤル/リング カスタマイズ	- (2)
タッチシャッター	しない (3)
マルチ電子ロック	- (4)
フォーカス/コントロールリング	FOCUS (5)
カメラ/光学ズーム速度	(6)
レンズ操作 光学ズーム速度	(7)

- (1) [撮影時ボタン カスタマイズ](#) 応用
- (2) [ダイヤル/リング カスタマイズ](#) 応用
- (3) [タッチシャッター](#)
- (4) [マルチ電子ロック](#)
- (5) [フォーカス/コントロールリング](#) 応用
- (6) [カメラ/光学ズーム速度](#) 応用
- (7) [レンズ操作 光学ズーム速度](#) 応用

● 再生時 操作カスタマイズ



(1) [再生時ボタン カスタマイズ](#) 応用

(2) [▼での画像送り](#)

(3) [⏮+⏪での画像送り](#) 応用

● 操作カスタマイズ/初期化

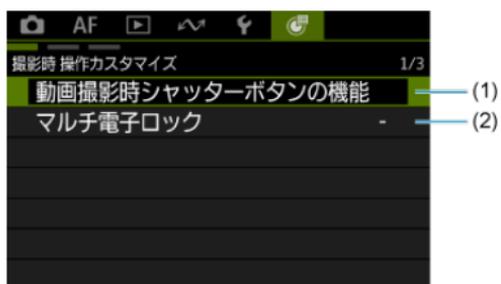


(1) [タッチ操作](#)

(2) [操作カスタマイズ一括解除](#) 応用

かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。

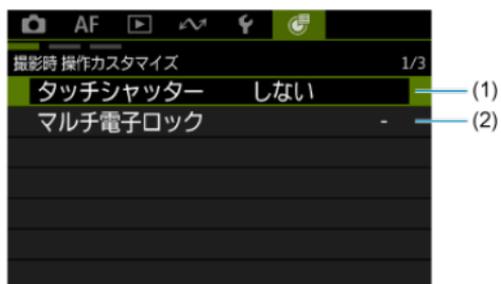
● 撮影時 操作カスタマイズ（動画撮影）



(1) [動画撮影時シャッターボタンの機能](#)

(2) [マルチ電子ロック](#)

● 撮影時 操作カスタマイズ（静止画撮影）



(1) [タッチシャッター](#)

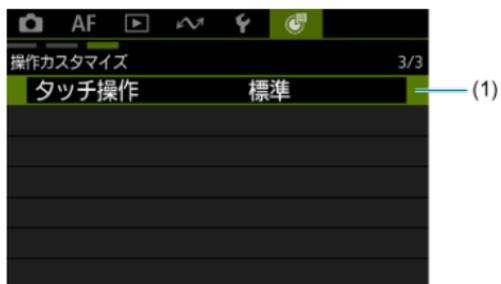
(2) [マルチ電子ロック](#)

● 再生時 操作カスタマイズ



(1) [での画像送り](#)

● 操作カスタマイズ



(1) [タッチ操作](#)

操作カスタマイズで変更できる内容

- ☑ [\[撮影時 操作カスタマイズ\]](#)
- ☑ [\[再生時 操作カスタマイズ\]](#)
- ☑ [\[操作カスタマイズ/初期化\]](#)

撮影スタイルに応じて、[\[📷\]](#) タブでカメラの機能を細かく設定することができます。

[撮影時 操作カスタマイズ]

撮影時ボタン カスタマイズ

撮影時によく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。また、静止画撮影時と動画撮影時で、同じボタンに別の機能を割り当てることができます。

1. [\[📷: 撮影時ボタン カスタマイズ\]](#) を選ぶ (☑)
2. 操作部材を選ぶ



- <INFO> ボタンを押すと、[\[📷: 再生時ボタン カスタマイズ\]](#) に切り換わります (☑)。

3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈〉を押すと設定されます。
- 画面左下に〔**INFO**〕が表示される機能は、〈**INFO**〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- 〔**L-Fn**〕は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」または「レンズファンクションボタン」を表しています。
- 〔〕は、外部ストロボに装備されている「メニューダイレクト」を表しています。
- 〔〕〔〕に任意で機能割り当てできるのは静止画撮影の設定のみです。
- 〔〕：**撮影時ボタン カスタマイズ**〕で設定した内容を解除するときは、〔〕：**操作カスタマイズ一括解除**〕を選んでください。

割り当て可能な機能一覧

AF

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

	1	2	3	▲	◀	▶	▼	SET	L-Fn	☰
AF : 測光・AF開始	● ^{*1}	○	●	○	-	-	-	-	-	○
AF-OFF : AF停止	-	○	○	○	-	-	-	-	-	●
AFフレーム選択	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
AFフレームダイレクト選択	-	-	-	-	○	○	○	○	-	-
AFフレーム中央戻し	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
全域トラッキングの開始/停止	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
AF□ : AFエリア	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
検出する被写体ダイレクト選択 ^{*1}	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
<small>ONE SHOT SERVO</small> ワンショットAF サーボAF ^{*1}	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
AF : 検出した被写体でAF ^{*1}	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○
AF : 瞳AF ^{*1}	-	○	○	○	-	-	-	-	-	○
瞳検出	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-
スポット検出	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-

 : 登録人物優先										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
<small>AF</small> <small>MF</small> ** : フォーカスモード										
-	○	○	○	○	●	○	○	○	○	-
PEAK : ピーキング										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
 : フォーカスガイド										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
 : ドライブモード*1										
-	○	○	○	○	○	●	○	○	○	-

* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

露出

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

	1	2	3	▲	◀	▶	▼	SET	L-Fn	
*AF-OFF : AEOロック・AF停止										
-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
☉ : 測光開始* ¹										
○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
* : AEOロック										
-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
* : AEOロック(押ししている間)* ¹										
○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
AEL : AEOロック/FEロック* ¹										
-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
☒ : 露出補正 (押しながら)										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
ISO : ISO感度										
-	○	○	○	●	○	○	○	○	○	-
ISO : ISO感度設定 (押しながら)										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
⚡ : ストロボの発光* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
: ETTL M* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
FEL : FEロック* ¹										
-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-

* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

画像

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

	1	2	3	▲	◀	▶	▼	SET	L-Fn	📷
📷 : サイレントシャッター機能* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🔍 : 記録画質選択* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
RAW Jpeg : ワンタッチ記録画質切換* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
RAW Jpeg H : ワンタッチ記録画質切換 (ホールド)* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
[] : 静止画アスペクト比* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
[] : デジタルテレコン* ¹										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📷 : オートライティング最適マイザ										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📷 : フリック検知* ^{2*3}										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
WB : ホワイトバランス選択										
-	○	○	○	○	○	○	○	●	○	-
📷 : 色温度切り換え										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
WB : WB補正										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
COLOR : カラーモード										
-	○	○	●	○	○	○	○	○	○	-

🖼️ : ピクチャースタイル選択										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🎨 : カラーフィルター										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📁 : フォルダ選択										
-	○	-	○	○	○	○	○	-	-	-

- * 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。
- * 2 : 静止画撮影の設定では割り当てできません。
- * 3 : 動画撮影中には動作しません。

動画

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

	1	2	3	▲	◀	▶	▼	SET	L-Fn	📷
👁️ : フォルスカラー*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🎚️ : ゼブラ*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🎥 : 動画撮影*2										
-	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-
🛑 : 動画サーボAF一時停止*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🎵 : オーディオステータス*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📷 : 被写体検出AF*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🔍 : デジタルズーム*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🎮 : カスタムピクチャー*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📷 : 動画電子IS*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📺 : シネマビュー*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🕒 : 動画セルフタイマー*2										
-	○	○	○	○	○	●	○	○	○	-
🌡️ : 温度上昇緩和*2										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
LIVE : ライブ配信*2										
-	●	○	○	○	○	○	○	○	○	-

* 2 : 静止画撮影の設定では割り当てできません。

操作

● : 初期値 ○ : 機能割り当て可能

	1	2	3	▲	◀	▶	▼	SET	L-Fn	☰
☰ : ストロボ機能設定 ^{*1}										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
Gr : クイックストロボグループ制御 ^{*1}										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
☰↑ : モニターを一時的に明るくする										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🔌 : パワーオフ										
-	○	○	○	-	-	-	-	-	○	-
☰ ² : モニターオフ										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🔍 : フォーカス/コントロールリング切換										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🌀 : 絞り込み ^{*1}										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📺 : クイック設定画面										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	●	-
🔍 : 拡大/縮小										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
▶ : 画像の再生										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
🔍☰ : 再生画像の拡大										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
MENU : メニュー表示										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
👉 : タッチシャッター ^{*1}										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

🏠: 🖥️表示フレームレート設定*1										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📶: Wi-Fi/Bluetooth接続										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
📁: フォルダ作成*1										
-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
OFF : 無効										
-	●*4	○	○	○	○	○	○	○	○	○*1

* 1 : 動画撮影の設定では割り当てできません。

* 4 : 静止画撮影時の初期値

動画撮影時シャッターボタンの機能

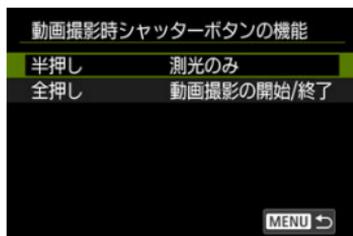
動画撮影時にシャッターボタンを半押し/全押ししたときの動作を設定することができます。

❗ 注意

- [📷: 撮影時ボタン カスタマイズ] でシャッターボタンに機能が割り当てられていても、動画撮影時は [📷: 動画撮影時シャッターボタンの機能] の設定が優先されます。

1. [📷: 動画撮影時シャッターボタンの機能] を選ぶ (🔍)

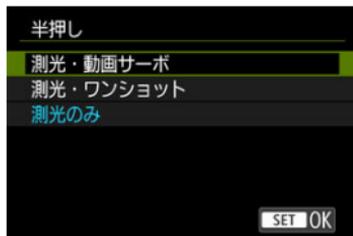
2. 項目を選ぶ



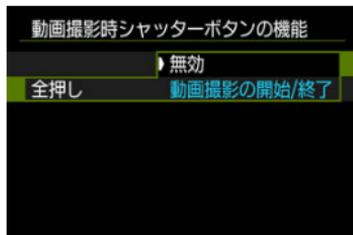
- **半押し**
シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。
- **全押し**
シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。

3. 項目を選ぶ

[半押し] 選択時



[全押し] 選択時



- [全押し] を [動画撮影の開始/終了] に設定すると、動画撮影ボタンのほか、シャッターボタンの全押し、または別売のリモートスイッチで、動画撮影を開始/終了することができます。

ダイヤル/リング カスタマイズ

〈〉 〈〉 〈〉 に、よく使う機能を割り当てることができます。

1. [ : ダイヤル/リング カスタマイズ] を選ぶ ()

2. 操作部材を選ぶ



3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈〉 を押すと設定されます。

参考

- [ : ダイヤル/リング カスタマイズ] で設定した内容を解除するときは、[ : 操作カスタマイズ一括解除] を選んでください。

各ダイヤルに割り当てできる機能の一覧

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能名			
Tv  ：Tv値変更(測光するボタン押しながら)	-	-	○
Av  ：Av値変更(測光するボタン押しながら)	-	-	○
ISO  ：ISO感度設定(測光するボタン押しながら)	-	-	○
  ：露出補正(測光するボタン押しながら)	-	-	●
  ：調光補正/発光量(測光するボタン押しながら)	-	-	○
AF  ：AFエリア選択(測光するボタン押しながら)	-	-	○
  ：ピクチャースタイル選択(測光するボタン押しながら)	-	-	○
WB  ：ホワイトバランス選択(測光するボタン押しながら)	-	-	○
  ：色温度選択(測光するボタン押しながら)	-	-	○
Tv ：Tv値変更	-	-	○
Av ：Av値変更	-	-	○
Tv ：Mモード時、シャッタースピード変更	●	○	-
Av ：Mモード時、絞り数値変更	○	●	-
ISO ：ISO感度設定	-	○	○
 ：露出補正	-	○	○
AF  ：AFエリア選択	-	○	○
  ：ピクチャースタイル選択	-	○	○
WB ：ホワイトバランス選択	-	○	○
 ：色温度選択	-	○	○
OFF ：無効	○	○	○

参考

-  は、RFレンズとマウントアダプターに装備されている「コントロールリング」を表しています。

タッチシャッター

タッチシャッター機能を設定することができます。[する] にすると、撮影画面左下の [設定] が [ON] になり、タッチシャッター機能が有効になります。タッチシャッター機能の使いかたについては、[タッチシャッターで撮影する](#)を参照してください。

マルチ電子ロック

マルチ電子ロック機能をオンにしたときに操作を禁止する操作部材を設定します。不用意な操作による設定変更を防止することができます。

1. [🔒: マルチ電子ロック] を選ぶ (🔒)
2. 操作を禁止する操作部材を選ぶ



- 操作部材を選んで (🔒) を押すと、[✓] が表示されます。

3. [OK] を選ぶ

- マルチ電子ロックボタンを押すと、[✓] をつけた操作部材がロックされます。

📖 参考

- 初期状態から設定が変更されているときは、[🔒: マルチ電子ロック] の右端に「*」が表示されます。

フォーカス/コントロールリング

本メニューでは、レンズの「フォーカス/コントロールリング」の機能設定ができます。

フォーカス/コントロールリング切換えスイッチが非搭載のレンズ

- **FOCUS : フォーカスリングとして使用**
フォーカス/コントロールリングは、フォーカスリングとして動作します。
- **CONTROL : コントロールリングとして使用**
フォーカス/コントロールリングは、コントロールリングとして動作します。なお、**[AF : フォーカスモード]** を **[AF]** で固定するときは、**〈COLOR〉** ボタンを押して **[コントロールリングとして使用するときは、AF固定]** に **[✓]** を付けてください。

フォーカスリングとコントロールリングの両方を搭載し、本メニューが表示されるレンズ

- **FOCUS : フォーカスリングとして使用**
フォーカスリング、コントロールリングの動作は変わりません。
- **CONTROL : コントロールリングとして使用**
フォーカスリングは、コントロールリングとして動作します。コントロールリングは機能しなくなります。

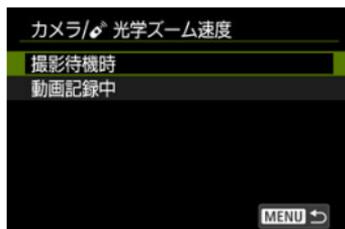
参考

- フォーカス/コントロールリング切換えスイッチを搭載したレンズでは、本メニューは表示されません。フォーカス/コントロールリングの機能設定はレンズ側で行ってください。
- フォーカスリングとコントロールリングの両方を搭載し、本メニューが表示されるレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- **[📷 : クイック設定カスタマイズ]** でカスタマイズすると、クイック設定画面からも設定できます (🔗)。

カメラ/光学ズーム速度設定

ズームレバーおよびワイヤレスリモートコントローラーによる光学ズームの速さを設定することができます。

撮影待機状態、動画記録中のそれぞれに設定することができます。



● ズームスピード

ズームの速さを設定します。

速い：撮影待機時のズーム操作に適しています。

遅い：動画撮影中など、ゆっくりとしたズーム操作に適しています。

● スピードレベル

ズーム操作する部材の移動量ごとに、ズームスピードに応じたズームの速さを変化させることができます。

ズームスピードの[速い]および[遅い]に対して、1~15の値でズームスピードを設定することができます。

参考

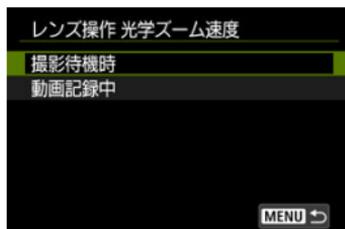
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売）によるズーム操作は、[ZOOM]の設定値でのズームスピードになります。

レンズ操作 光学ズーム速度設定

パワーズーム内蔵レンズ装着時に設定できます。

レンズのズームリングを回す角度で、光学ズームの速さを設定することができます。

撮影待機状態、動画記録中のそれぞれに設定することができます。



- **ズームスピード**

ズームの速さを設定します。

速い：撮影待機時のズーム操作に適しています。

遅い：動画撮影中など、ゆっくりとしたズーム操作に適しています。

- **スピードレベル**

ズームリングの移動量ごとに、ズームスピードに応じたズームの速さを変化させることができます。

ズームスピードの【速い】および【遅い】に対して、1～15の値でズームスピードを設定することができます。

[再生時 操作カスタマイズ]

再生時ボタン カスタマイズ

再生時によく使う機能を、自分が操作しやすいボタンに割り当てることができます。

1. [再生時ボタン カスタマイズ] を選ぶ

2. 操作部材を選ぶ



- 〈INFO〉ボタンを押すと、[撮影時ボタン カスタマイズ] に切り換わります。

3. 割り当てる機能を選ぶ



- 〈再生〉を押すと設定されます。
- 画面左下に [INFO] が表示される機能は、〈INFO〉ボタンを押すと、さらに詳細設定を行うことができます。

参考

- [再生時ボタン カスタマイズ] で設定した内容を解除するときは、[操作カスタマイズ一括解除] を選んでください。

割り当て可能な機能一覧

●：初期値 ○：機能割り当て可能

機能名	2	3
🔒：プロテクト	○	○
★：レーティング	○	○
🗑️：画像消去	○	○
🔒/📱：プロテクト(📱+📱での画像送り)	○	○
★/📱：レーティング(📱+📱での画像送り)	○	○
✂️：トリミング	○	○
🔍：画像の検索	○	●
🔍：拡大/縮小	○	○
📱：スマートフォンへ画像を送信	●	○
OFF：無効	○	○

での画像送り

1枚表示の再生画面で〈 〉を回してジャンプ表示する際の、ジャンプ方法を設定することができます。



参考

- [指定した枚数ごとに画像を表示] を選んだときは、〈 〉でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示] を選んだときは、〈 〉でレーティング () を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

⌘C+⌘の画像送り

1枚表示の再生画面で [★/📄] [On/📄] 機能を割り当てたボタンを押しながら (⌘) を回してジャンプ表示する際の、ジャンプ方法を設定することができます。



📄 参考

- [指定した枚数ごとに画像を表示] を選んだときは、(📄) でジャンプする枚数を設定します。
- [指定したレーティングの画像を表示] を選んだときは、(📄) でレーティング (📄) を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。

タッチ操作



- [敏感] に設定すると、[標準] に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、[しない] を選びます。

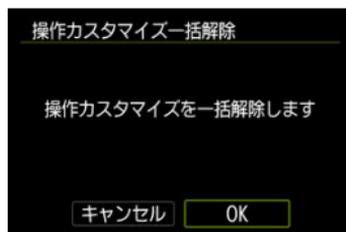
⚠ 注意

タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなる場合があります。
- [敏感] 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

操作カスタマイズ一括解除

[: 操作カスタマイズ一括解除] を選ぶと、操作カスタマイズの設定を一括で解除することができます。



カスタム機能／マイメニュー

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

- [メニュー目次：カスタム機能タブ](#)
- [カスタム機能で変更できる内容](#)
- [メニュー目次：マイメニュータブ](#)
- [マイメニューの登録](#)

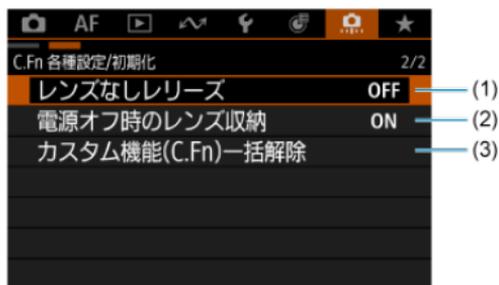
メニュー目次：カスタム機能タブ

● C.Fn 露出



- (1) [ISO感度拡張](#)
- (2) [セーフティシフト](#)

● C.Fn 各種設定/初期化



- (1) [レンズなしリリース](#)
- (2) [電源オフ時のレンズ収納](#)
- (3) [カスタム機能\(C.Fn\)一括解除](#)

[**点**：カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

カスタム機能で変更できる内容

[C.Fn 露出](#)

[C.Fn 各種設定/初期化](#)

撮影スタイルに応じて、[,] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

ISO感度拡張

ISO感度を設定するときに、静止画撮影時は「H」（ISO51200相当）、動画撮影時は「H」（ISO25600相当）が選択できるようになります。なお、[📷：高輝度側・階調優先]を[する] [強] に設定したときは、「H」は選択できません。

- OFF：しない
- ON：する

セーフティシフト

[Tv] [Av] モードで任意に設定したシャッタースピードや絞り数値で標準露出が得られないときは、カメラが自動的にシャッタースピードや絞り数値を変更して、標準露出で撮影することができます。

- OFF：しない
- ON：する

C.Fn 各種設定/初期化

レンズなしリリース

レンズを取り付けていないときに、静止画撮影や動画撮影を許可するかどうかを設定することができます。

- OFF : しない
- ON : する

電源オフ時のレンズ収納

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、ギアタイプのSTMレンズ（例：RF35mm F1.8 Macro IS STM）の繰り出している部分の自動収納を設定することができます。

- ON : する
- OFF : しない

注意

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

参考

- [する]設定時は、カメラまたはレンズのフォーカスモードスイッチの設定(AF/MF)に関わらず機能します。

カスタム機能(C.Fn)一括解除

[ : カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、カスタム機能の設定を一括で解除することができます。

メニュー目次：マイメニュータブ



- (1) [マイメニュータブの追加](#)
- (2) [マイメニュータブの全削除](#)
- (3) [全項目削除](#)
- (4) [メニュー表示](#)

マイメニューの登録

- [マイメニュータブの追加（作成）](#)
- [マイメニュータブに項目を登録](#)
- [マイメニュータブの設定](#)
- [マイメニュータブの全削除／全項目削除](#)
- [メニュー表示の設定](#)

設定変更の頻度の高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

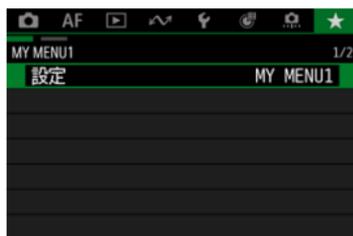
マイメニュータブの追加（作成）

1. [マイメニュータブの追加] を選ぶ (🔗)
2. [OK] を選ぶ



- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

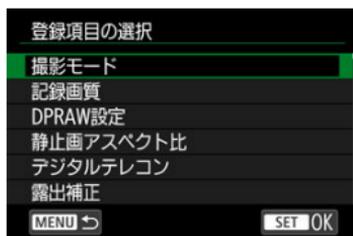
1. [MY MENU* : 設定] を選ぶ



2. [登録項目の選択] を選ぶ



3. 項目を登録する



- 項目を選び〈MENU〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

登録した項目の並び順を変えることができます。[登録項目の並べ替え]を選び、並び順を変える項目を選んで〈Ⓑ〉を押します。[◆]が表示された状態で〈▲〉〈▼〉を押して並び順を変え、〈Ⓑ〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

登録した項目を削除することができます。[選択して削除]を選ぶと1項目ずつ削除、[タブ内の全項目削除]を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

- **タブの削除**

現在設定しているタブを削除することができます。[タブの削除]を選ぶと、[MY MENU *]のタブが削除されます。

- **タブ名の変更**

タブの名称を [MY MENU*] から任意の名称に変更することができます。

1. [タブ名の変更] を選ぶ

2. 文字を入力する

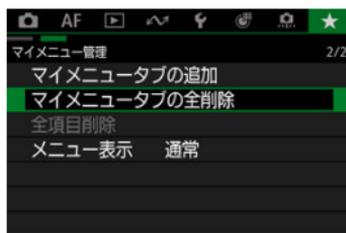


- 〈◀〉で文字を選び、〈⏎〉を押すと入力されます。
- [⏎] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [◀x] を選ぶと、1文字消去されます。

3. 入力を確定する

- 〈MENU〉 ボタンを押して [OK] を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

作成したタブをすべて削除することができます。[マイメニュータブの全削除]を選ぶと、[MY MENU1]～[MY MENU5]のタブがすべて削除され、[★]タブが初期状態に戻ります。

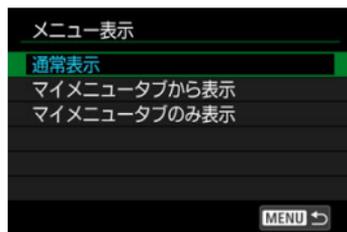
- **全項目削除**

[MY MENU1]～[MY MENU5]タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。

! 注意

- [タブの削除] [マイメニュータブの全削除] を行うと、[タブ名の変更] で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



[メニュー表示] を選ぶと、〈MENU〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**

前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- **マイメニュータブから表示**

[★] タブの画面から表示されます。

- **マイメニュータブのみ表示**

[★] タブの画面だけが表示されます ([カメラ] [AF] [▶] [W] [Y] [📷] [🔍] タブは表示されません。)

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

- [パソコンへの画像の取り込み](#)
- [スマートフォンへの画像の取り込み](#)
- [USB電源アダプターを使って充電/給電する](#)
- [故障かな?と思ったら](#)
- [エラー表示](#)
- [情報表示](#)
- [主な仕様](#)

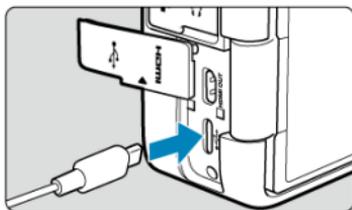
パソコンへの画像の取り込み

- [カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する](#)
- [カードリーダーを使う](#)
- [カメラとパソコンをWi-Fi接続する](#)

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。

カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する

1. EOS Utilityをインストールする (☞)
2. [☞ : USB接続アプリの選択] で [画像取り込み/リモート制御] を選ぶ (☞)
3. カメラとパソコンを接続する



- インターフェースケーブルを使用します。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

4. EOS Utilityを使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

 注意

- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダーを使う

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1. Digital Photo Professionalをインストールする (📄)
2. カードリーダーにカードを差し込む
3. Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

参考

- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内のフォルダ（DCIM、XFVC）をパソコンにコピーしてください。

カメラとパソコンをWi-Fi接続する

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます (📷)。

スマートフォンへの画像の取り込み

[準備](#)

[Camera Connectを使用する場合](#)

[スマートフォンの機能を使用する場合](#)

マルチアクセサリ―シュースmartフォンリンクアダプター AD-P1（別売／Androidスマートフォンのみ）またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続して、カメラで撮影した画像をスマートフォンに取り込むことができます。

準備

1. [☑: USB接続アプリの選択] で項目を選ぶ (🔗)

- Androidスマートフォンと接続するとき、またはiOSスマートフォンと接続して写真アプリを使用するときは、**[画像取り込み/リモート制御]** を選びます。
- iOSスマートフォンと接続して、Camera Connectを使用するときは **[iPhone Canon アプリ]** を選びます。
- 設定が終了したら、カメラの電源を切ります。

2. AD-P1またはUSBケーブルでカメラとスマートフォンを接続する

- AD-P1を使用する場合は、AD-P1に同梱の使用説明書を参照してください。
- Androidスマートフォンと接続するUSBケーブルは、キヤノン純正品（インターフェースケーブル IFC-100UまたはIFC-400U）の使用をおすすめします。
- iOSスマートフォンと接続するUSBケーブルについては、キヤノンのホームページを参照してください。

1. スマートフォンにインストールしたCamera Connectを起動する

- Camera Connectのインストールについては、『スマートフォンにCamera Connectをインストールする』を参照してください (🔗)。

2. カメラの電源を入れる

3. [カメラ内の画像一覧] をタップする

- 表示された画像を選んで、スマートフォンに取り込みます。

1. カメラの電源を入れる

2. スマートフォンを操作して画像を取り込む

- Androidスマートフォンの場合は、Camera Connectを使って画像を取り込みます (📷)。
- iOSスマートフォンの場合は、写真アプリを起動して、カード内の画像を取り込みます。

給電

カメラの電源スイッチを〈ON〉にすると給電のみを行い、充電はされません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。

給電中は、バッテリー残量表示がグレーになります。

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にすると給電から充電に切り換わります。

❗ 注意

- カメラ内にバッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量がないときは、充電が行われません。給電は行われません。
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。
- 充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていくます。
- 充電を開始したときにランプが点灯しないときや、充電中に異常が発生（アクセスランプが緑色に点滅）したときは、電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下では、充電時間が長くなります。
- 給電中もバッテリー残量が減ることがあります。撮影中にバッテリー残量が不足しないよう、フル充電したバッテリーを使用してください。
- USB電源アダプターの取り外しは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから行ってください。

📖 参考

- USB電源アダプター PD-E1（別売）も使用できます。

故障かな？と思ったら

- ☑ [電源関連](#)
- ☑ [撮影関連](#)
- ☑ [無線通信機能関連](#)
- ☑ [操作関連](#)
- ☑ [表示関連](#)
- ☑ [再生関連](#)
- ☑ [パソコン接続関連](#)
- ☑ [マルチアクセサリシュー関連](#)

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

充電器でバッテリーが充電できない

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- 充電、または充電器に関する不具合は、[バッテリーを充電する](#)を参照してください。

充電器のランプが点滅する

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

USB電源アダプター（別売）で充電できない

- カメラの電源スイッチが〈ON〉のときは充電は行われません。ただし、オートパワーオフ中は充電が行われます。
- 充電中にカメラを操作すると、充電は中断されます。

USB電源アダプターでの充電中にアクセスランプが点滅する

- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し/取り付けを行ってから、2~3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。
- バッテリーの内部温度が高い、または低い場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。このときは、バッテリーを周囲の温度になじませてから、再度充電してください。

USB電源アダプターでの充電でアクセスランプが点灯しない

- USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。

USB電源アダプターで給電できない

- バッテリー収納部を確認してください。バッテリーパックがない状態では、給電は行われません。
- バッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは、充電が行われます。給電は行われません。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください (🔍)。
- カード/バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください (🔍)。
- バッテリーを充電してください (🔍)。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯/点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯/点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

【バッテリー通信エラー ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか?】と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E17を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください (🔋)。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください (🔋)。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。[🔋: バッテリー情報] でバッテリーの劣化状態を確認してください (🔋)。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
 - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
 - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
 - 手ブレ補正機能を使う
 - 無線通信機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、[🔋: 節電] の [オートパワーオフ] を [しない] にしてください (🔋)。
- [オートパワーオフ] を [しない] に設定していても、[モニターオフ] で設定した時間放置すると、モニターの表示が消えます (カメラの電源は切れません)。

レンズが装着できない

- EFレンズ、EF-Sレンズを装着するにはマウントアダプターが必要です。なお、EF-MLレンズは使用できません (🔒)。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください (🔒)。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください (🔒)。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください (🔒、🔒)。
- ピントを合わせたときに、AFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください (🔒、🔒)。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、[バッテリーとカードを入れる/取り出す](#)、[エラー内容の表示](#)を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケている/ブレている

- フォーカスモードを [AF] にしてください (🔒)。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください (🔒)。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなる場合があります。シャッタースピードを速くする (🔒)、ISO感度を上げる (🔒)、ストロボを使用する (🔒)、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- [手ブレしにくい撮影のしかた](#)を参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください (🔒)。サーボAFのときは、フォーカスロック撮影はできません (🔒)。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フラッシュ光源、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などにより低下することがあります (📷、📷)。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、[静止画・ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#)に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても (例：高速タイプのカードを使用しても)、表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、[静止画・ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数](#)の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています (書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります)。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

高速連続撮影時に高速表示が行われない

- [高速表示](#)を参照して、高速表示が行われる条件を確認してください。

静止画撮影時にISO100に設定できない

- [📷：高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [ : ISO感度拡張] を [する] に設定してください ()。
- [ : ISO感度に関する設定] で [ISO感度] の設定を確認してください。
- [ : 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、[ : ISO感度拡張] を [する] に設定しても、H (拡張ISO感度) は選択できません。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- [ : オートライティングオプティマイザ] を [しない] に設定してください ()。
[弱め] [標準] [強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出+ISOオート時に露出補正ができない

- [M : マニュアル露出](#) を参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- [デジタルレンズオプティマイザ] が [標準] または [強め] に設定されているときは、[色収差補正] [回折補正] は表示されませんが、ともに [する] の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に [デジタルレンズオプティマイザ] [回折補正] の項目は表示されません。

[Av] [P] モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- [ : ストロボ制御] の [スローシンクロ] を、[1/250-1/60秒自動] または [1/250秒固定] に設定してください ()。

外部ストロボが発光しない

- カメラに外部ストロボがしっかり取り付けられているかどうか確認してください。

外部ストロボがいつもフル発光する

- EL/EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します (🔗)。
- 外部ストロボカスタム機能の「調光方式」が「1:TTL」(自動調光)に設定されていると、常時フル発光します (🔗)。

外部ストロボ調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除(ゼロに設定)すると、カメラで設定できるようになります。

[Av] モードでハイスピードシンクロができない

- [📷: ストロボ制御] の「スローシンクロ」を、「1/250秒固定」以外に設定してください (🔗)。

リモコン撮影ができない

- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、「リモコン撮影」または「ワイヤレスリモコンと接続」を参照してください (🔗、🔗)。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、タイムラプス動画を参照してください (🔗)。

動画撮影時に白い [🔋] または赤い [🔥] が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。詳細は、動画撮影中のインジケーター表示 (🔗) を参照してください。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、[記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能](#)を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- カードへの書き込み/読み取り速度が遅くなったときは、物理フォーマットでカードを初期化してください (🔗)。
- 動画撮影を開始してから1回の撮影上限時間を経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが [P] [Tv] [Av] [M] (A+) (SCN) のときはISO感度が自動設定されます。[M] モードのときはISO感度を任意に設定することができます (☑)。
- [☑ : 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。

動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- [☑ : ISO感度拡張] を [する] に設定してください (☑)。
- [☑ : ISO感度に関する設定] で [ISO感度] の設定を確認してください。
- [☑ : 高輝度側・階調優先] が [する] [強] に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。[M] モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画に音声記録されない

- S&F記録時は、音声は記録されません。

タイムコードが付加されない

- HDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません (🔒)。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールしてください (📄)。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください (📄)。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください (📄)。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

静止画撮影から動画撮影、または動画撮影から静止画撮影に変更すると、設定した内容が変更される

- 設定内容は、静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに記憶されます。

タッチ操作ができない

- [🔘：タッチ操作] が [標準] または [敏感] に設定されているか確認してください (🔘)。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は [🔘：動画撮影時シャッターボタンの機能] の設定を確認してください (🔘)。
- [🔘：撮影時ボタン カスタマイズ]、[🔘：ダイヤル/リング カスタマイズ] の設定内容を確認してください (🔘、🔘)。

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。

【★】マイメニュータブから表示される／【★】タブしか表示されない

- 【★】タブの【メニュー表示】が【マイメニュータブから表示】または【マイメニュータブのみ表示】に設定されています。【通常表示】に設定してください (🔗)。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります (🔗)。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付／時刻が正しく設定されているか確認してください (🔗)。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください (🔗)。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付／時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するとき、その情報を利用して用紙に日付／時刻を入れることができます (🔗)。

【###】が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると【###】と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

画像に赤い枠が表示される

- [▶] : AFフレーム表示] が [する] に設定されています (🔗)。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
 - トリミングを行った画像
 - HDR撮影で [画像位置自動調整 : する] に設定して撮影した画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません (🔗)。

画像 (静止画 / 動画) が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- [▶] : 画像検索の条件設定] で再生する画像の絞り込みが行われています (🔗)。検索条件を解除してください。

動画を再生すると作動音や操作音がする

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。その場合、出力プラグを備えた外部マイクを、カメラやレンズから遠ざけて使用することで、これらの音を低減できることがあります。

動画再生が勝手に終了する

- 動画再生を長時間行ったり、高温下で動画再生を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、動画再生が自動的に終了することがあります。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、再生ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、[M]モードで撮影してください (📷)。

テレビに映像が表示されない

- [📺: システム周波数] の [59.94Hz:NTSC] [50.00Hz:PAL] の設定を確認してください (テレビが対応している方式に合わせてください)。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください (📷)。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます (📷)。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility (📷) を使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズ／トリミングできない

- JPEGのS2、RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでリサイズできません (📷)。
- RAW画像、4K動画からフレーム切り出しを行い静止画として保存した画像は、カメラでトリミングできません (📷)。

パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください (🔗)。
- EOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認してください。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。
- アプリケーションのバージョンを確認してください。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、[📷: タイムラプス動画] を [しない] に設定してください (🔗)。

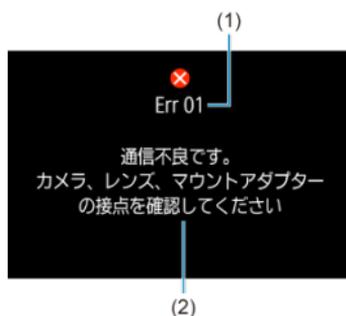
アクセサリーを取り付けると、モニターにメッセージが表示される

- **「通信エラーが発生しました アクセサリーを付けなおしてください」**と表示されたときは、アクセサリーを取り付け直してください。再度取り付けて同じメッセージが表示される場合は、マルチアクセサリースイッチまたはアクセサリーの端子にごみや水滴などが付着していないかを確認してください。なお、ごみや水滴などが除去できないときは、修理受付窓口にお申し付けください。
- **「アクセサリーが使用できない状態です」**と表示されたときは、マルチアクセサリースイッチまたはアクセサリーの端子を確認するか、アクセサリーが故障していないかを確認してください。

マルチアクセサリースイッチスマートフォンリンクアダプター AD-P1を使用時に、本体側のUSBが使用できない

- マルチアクセサリースイッチスマートフォンリンクアダプター AD-P1を使用してUSB接続する場合、本体側のUSBは使用できません。本体側のUSBを使用する場合は、AD-P1を取り外してください。

エラー表示



- (1) エラー番号
- (2) 原因・対処方法

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

問題が解決しないときは、エラー番号（Err xx）を控えて、修理をご依頼ください。

情報表示

- [静止画撮影画面](#)
- [動画撮影画面](#)
- [シーン判別アイコン](#)
- [再生画面](#)

静止画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



-
- (1) 連続撮影可能枚数
 - (2) 撮影可能枚数/セルフタイマー撮影秒数
 - (3) 撮影モード
 - (4) AFエリア
 - (5) AF動作
 - (6) 検出する被写体
 - (7) 記録画質
 - (8) 静止画アスペクト比
 - (9) 水準器
 - (10) AFフレーム (1点AF)
 - (11) バッテリー残量
 - (12) クイック設定ボタン
 - (13) フリックレス撮影
 - (14) ホワイトバランス/ホワイトバランス補正
 - (15) ピクチャースタイル
 - (16) 測光モード
 - (17) GPS
 - (18) 露出シミュレーション
 - (19) ヒストグラム (輝度/RGB)
-



- (20) ドライブモード
 (21) タッチシャッター
 (22) シャッタースピード
 (23) 絞り数値
 (24) Wi-Fi機能
 (25) Wi-Fi電波強度
 (26) Bluetooth機能
 (27) ISO感度
 (28) 高輝度側・階調優先
 (29) 露出補正

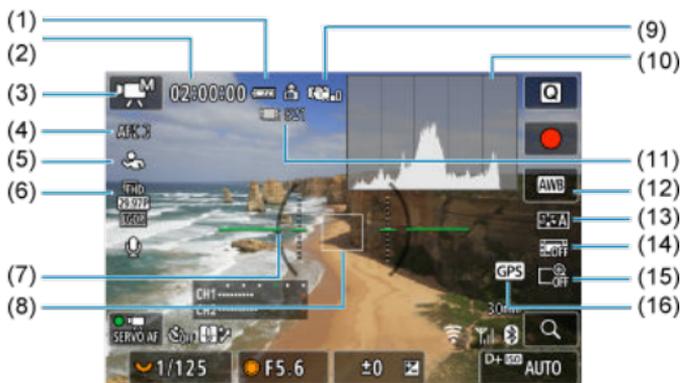
参考

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (🔗)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

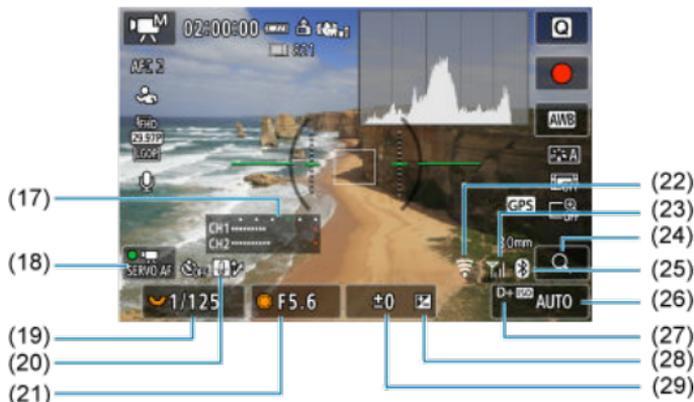
動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



- (1) バッテリー残量
- (2) 動画撮影可能時間／撮影経過時間
- (3) 撮影モード
- (4) AFエリア
- (5) 検出する被写体
- (6) 動画記録サイズ
- (7) 水準器
- (8) AFフレーム（1点AF）
- (9) 手ブレ補正（IS機能）設定
- (10) ヒストグラム（輝度／RGB）
- (11) 動画撮影可能回数
- (12) ホワイトバランス／WB補正
- (13) ピクチャースタイル
- (14) シネマビュー
- (15) デジタルズーム
- (16) GPS



(17) 録音レベルメーター

(18) 動画サーボAF

(19) シャッタースピード

(20) 温度上昇緩和

(21) 絞り数値

(22) Wi-Fi機能

(23) Wi-Fi電波強度

(24) 拡大ボタン

(25) Bluetooth機能

(26) ISO感度

(27) 高輝度側・階調優先

(28) 露出補正

(29) 露出レベル表示（測光値）

❗ 注意

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (ℹ️)。
- カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中にグリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

📖 参考

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン

撮影モードが [A+] のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

背景	被写体	人物		人物以外の被写体			背景色
		動いているとき*1	自然や屋外シーン	動いているとき*1	近いとき*2		
明るい							灰色
青空を含む							水色
夕景		*3				*3	オレンジ色
スポットライト							紺色
暗い							
三脚使用時*1	*4*5	*3			*3		

* 1：動画撮影中は表示されません。

* 2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

* 3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

* 4：下記の条件が揃ったときに表示されます。

「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」

* 5：下記のレンズを使用したときに表示されます。

- EF300mm F2.8L IS II USM
- EF400mm F2.8L IS II USM
- EF500mm F4L IS II USM
- EF600mm F4L IS II USM
- 2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ

* *4 と *5 の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

参考

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

静止画の簡易情報表示

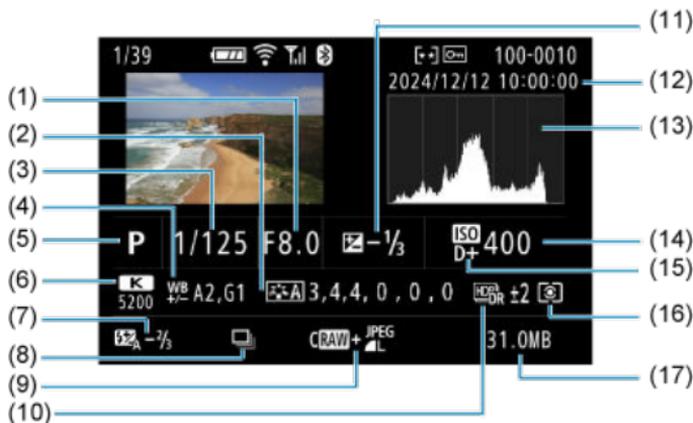


- | | |
|------|----------------------------|
| (1) | Bluetooth機能 |
| (2) | Wi-Fi電波強度 |
| (3) | Wi-Fi機能 |
| (4) | バッテリー残量 |
| (5) | 再生番号／総記録画像数／検索結果画像数 |
| (6) | シャッタースピード |
| (7) | 絞り数値 |
| (8) | 露出補正量 |
| (9) | レーティング |
| (10) | 画像プロテクト |
| (11) | フォルダ番号 - 画像番号 |
| (12) | 記録画質／画像加工済み／トリミング／フレーム切り出し |
| (13) | ISO感度 |
| (14) | 高輝度側・階調優先 |

⚠ 注意

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

静止画の詳細情報表示1



- | | |
|------|-------------------|
| (1) | 絞り数値 |
| (2) | ピクチャースタイル/設定内容 |
| (3) | シャッタースピード |
| (4) | WB補正 |
| (5) | 撮影モード/フレーム切り出し |
| (6) | ホワイトバランス |
| (7) | ストロボ調光補正量/バウンス |
| (8) | 連写したシーンの先頭画像 |
| (9) | 記録画質/画像加工済み/トリミング |
| (10) | HDR撮影 |
| (11) | 露出補正量 |
| (12) | 撮影日時 |
| (13) | ヒストグラム (輝度/RGB) |
| (14) | ISO感度 |
| (15) | 高輝度側・階調優先 |
| (16) | 測光モード |
| (17) | ファイルサイズ |

* 記載のない項目は**静止画の簡易情報表示**と共通のため、説明を省いています。

* RAW+JPEG/HEIFで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。

* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は、、撮影範囲が線で表示されます。

* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、が表示されます。

* バウンス撮影を行った画像は、が表示されます。

* HDR撮影を行った画像は、ダイナミックレンジの調整幅が表示されます。

* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、が表示されます。

* リサイズ処理、トリミング、フレーム切り出しを行って保存した画像は、が表示されます。

* トリミングを行って保存した画像は、が表示されます。

* JPEGに変換したことがあるHEIF画像は、が表示されます。

静止画の詳細情報表示2



(1) オートライティング最適マイザ

* 記載のない項目は[静止画の簡易情報表示](#)、[静止画の詳細情報表示1](#)と共通のため、説明を省いています。

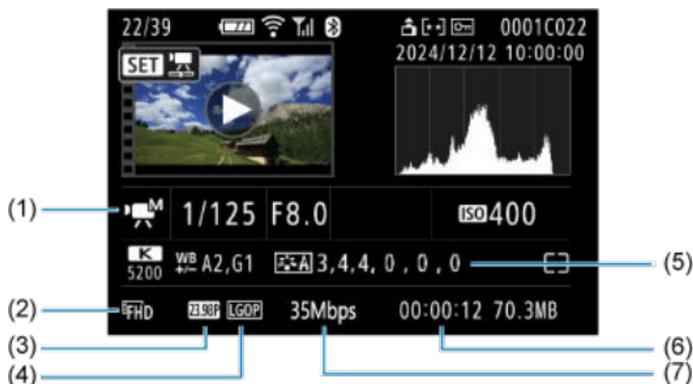
動画の簡易情報表示



- (1) 動画再生
- (2) 動画の縦情報表示
- (3) リール番号 + クリップ番号
- (4) 記録時間 / タイムコード

* 記載のない項目は[静止面の簡易情報表示](#)と共通のため、説明を省いています。

動画の詳細情報表示1



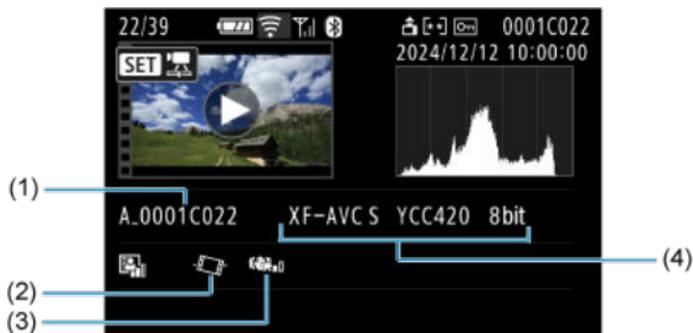
- (1) 動画撮影モード
- (2) 動画記録サイズ
- (3) フレームレート
- (4) 圧縮方式
- (5) ピクチャースタイル (画像特性、設定内容) / カラーフィルター / カスタムピクチャー
- (6) 記録時間 / タイムコード
- (7) ビットレート

* 記載のない項目は静止画の簡易情報表示、静止画の詳細情報表示1、動画の簡易情報表示と共通のため、説明を省いています。

参考

- 動画再生時、[ピクチャースタイル] の [シャープネス] の [細かさ] [しきい値] は、「*、*」と表示されます。

動画の詳細情報表示2



-
- (1) 動画ファイル名
 - (2) 動画自動水平補正
 - (3) 手ブレ補正 (動画電子IS)
 - (4) 動画記録形式
-

* 記載のない項目は[静止画の簡易情報表示](#)、[静止画の詳細情報表示1](#)、[動画の簡易情報表示](#)、[動画の詳細情報表示1](#)と共通のため、説明を省いています。

主な仕様

形式

型式：デジタル一眼ノンレフレックスAF・AEカメラ

レンズマウント：キヤノンRFマウント

使用レンズ：キヤノンRFレンズ群（RF-Sレンズを含む）

* マウントアダプターEF-EOS R使用時：キヤノンEF / EF-Sレンズ使用可能（EF-Mレンズを除く）

レンズ焦点距離：レンズ表記焦点距離の約1.6倍に相当

撮像素子

型式：APS-CサイズCMOSセンサー

カメラ部有効画素数*1,*2	最大約2420万画素
総画素数*1	約2550万画素
画面サイズ	約22.3 × 14.9 mm
デュアルピクセルCMOS AF	対応

* 1：1万の位を四捨五入

* 2：RF / EFレンズ使用時

使用するレンズまたは画像処理により有効画素が減少することがある

記録方式

記録画像形式：DCF2.0、Exif2.31*1に準拠

* 1：時差情報に対応

記録画像タイプ/記録形式/拡張子

記録画像タイプ/記録形式		拡張子
静止画	JPEG	.JPG
	HEIF	.HIF
	RAW	.CR3
	C-RAW	
動画*1	XF-HEVC S YCC422 10bit XF-HEVC S YCC420 10bit XF-AVC S YCC422 10bit XF-AVC S YCC420 8bit	.MP4

* 1：[カスタムピクチャー]設定時に、[CPファイル付加：入]の設定で動画を撮影したときは、「.CPF」ファイルが作成される

記録メディア

記録媒体

シングルスロット：SDXC / SDHC / SDメモリーカード

* UHS-II / UHS-I / UHSスピードクラス/SDスピードクラス対応

静止画記録

記録画素数

画像サイズ		記録画素数 (画素)			
		静止画アスペクト比			
		3 : 2	4 : 3	16 : 9	1 : 1
JPEG/ HEIF	L	2400万 (6000×4000)	約2130万*1 (5328×4000)	約2020万*1 (6000×3368)	1600万 (4000×4000)
	M	約1060万 (3984×2656)	約950万 (3552×2664)	約890万*1 (3984×2240)	約710万 (2656×2656)
	S1	約590万 (2976×1984)	約530万 (2656×1992)	約500万*1 (2976×1680)	約390万 (1984×1984)
	S2	約380万 (2400×1600)	約340万*1 (2112×1600)	約320万*1 (2400×1344)	約260万 (1600×1600)
RAW	RAW / CRAW	2400万 (6000×4000)			

* 記録画素数は、1万の位を四捨五入した値

* RAW / C-Rawは「3 : 2」の画像を生成し、設定したアスペクト比情報を画像に付加

* JPEG / HEIFは設定したアスペクト比の画像を生成

* リサイズ処理時も、上記アスペクト比と画素数が適用される

* 1 : この画像サイズは、正確な比率にならない

静止画・ファイルサイズ/撮影可能枚数/連続撮影可能枚数

記録画質		ファイルサイズ [約・MB]	撮影可能枚数 [約・枚] *1	連続撮影可能枚数 [約・枚] *1	
				電子先幕	電子シャッター
JPEG*2		8.7	14040	140	95
		4.6	26460	140	95
		4.7	25740	140	95
		2.6	45600	140	95
		3.1	39020	140	95
		1.8	64490	140	95
		1.8	65020	140	95
HEIF*3		9.0	13470	130	91
		6.8	17550	130	91
		5.2	22540	130	91
		4.1	28670	130	91
		3.5	32870	130	91
		2.9	40400	130	91
		1.9	56440	130	91
RAW*2		27.0	4570	59	36
		14.0	8920	120	79
RAW+JPEG*2		27.0 + 8.7	3440	36	27
		14.0 + 8.7	5450	110	66
RAW+HEIF*3		29.9 + 9.0	3140	23	22
		16.9 + 9.0	4730	49	47

* 1 : 連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準UHS-II対応128 GBのカード使用時の枚数

* 2 : [HDR撮影(PQ) : しない] 設定時

* 3 : [HDR撮影(PQ) : HDR PQ] 設定時

* 連続撮影可能枚数は、キヤノン試験基準（ワンショットAF、高速連続撮影+、ISO 100、ピクチャースタイル：スタンダード、常温：+23℃）で測定

* ファイルサイズは、撮影条件（静止画アスペクト比、被写体、ISO 感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる

* 撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、撮影条件（静止画アスペクト比、被写体、メモリーカードの銘柄、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能など）により異なる

動画記録

動画記録形式

動画記録形式	ビデオコーデック	カラーサンプリング方式	ビット深度	ファイル拡張子
XF-HEVC S YCC422 10bit	H.265 / HEVC	YCbCr 4:2:2	10 bit	MP4
XF-HEVC S YCC420 10bit	H.265 / HEVC	YCbCr 4:2:0	10 bit	MP4
XF-AVC S YCC422 10bit	H.264 / MPEG-4 AVC	YCbCr 4:2:2	10 bit	MP4
XF-AVC S YCC420 8bit	H.264 / MPEG-4 AVC	YCbCr 4:2:0	8 bit	MP4

動画記録サイズ

記録形式	圧縮方式	解像度	フレームレート						
			119.88	100.00	59.94	50.00	29.97	25.00	23.98
XF-HEVC S YCC422 10bit XF-HEVC S YCC420 10bit XF-AVC S YCC422 10bit XF-AVC S YCC420 8bit	標準 LGOP	4K					○	○	○
		4K Crop			○	○			
		フルHD	○*1*2	○*1*2	○	○	○	○	○

* 1 : S&F動画撮影以外に設定した時は、音声記録され、動画再生時は等倍速で再生される。S&F動画撮影時は、音声は記録されず、上限：59.94fps (NTSC) / 50.00fps (PAL) で再生される。
exFATでフォーマットされたカードのみ記録可能 (FAT32カードへの記録不可)

* 2 : 暗い環境下やコントラストの低い被写体を撮影したときに、AF でピントが合いにくくなる。特定の動画撮影では絞り数値を小絞り側にした場合にAF が合わないことがある。AF が合わない場合の回避方法としては以下の通りである

- ・絞りを開放側にする
- ・F ナンバーの小さい (明るい) レンズに変更する

動画撮影画角

解像度	撮影画角（約・％）	
	水平	垂直
4K	100	84.4
4K Crop	64.0	54.0
フルHD	100	84.3

* 静止画画角（JPEG / HEIF）を100%とする

内蔵マイク：ステレオマイク

外部マイク（外部マイク入力端子）：Φ 3.5mm ステレオミニジャック（3 極）

* プラグインパワーの機能を使用するときは、ステレオマイクrohonDM-E100 を使用すること

記録時間、映像ビットレート、ファイルサイズの目安、要求カード性能

4K

記録形式	圧縮方式	フレームレート (fps)	カードごとの総記録時間 (約)			映像ビットレート (約・Mbps)	ファイルサイズ (約・MB/分)	要求カード性能
			64GB	128GB	512GB			
XF-HEVC S YCC422 10bit	標準 LGOP	29.97	1時間3分	2時間6分	8時間24分	135	968	UHSスピードクラス3以上
		25.00						
		23.98						
XF-HEVC S YCC420 10bit	標準 LGOP	29.97	1時間25分	2時間50分	11時間20分	100	718	UHSスピードクラス3以上
		25.00						
		23.98						
XF-AVC S YCC422 10bit	標準 LGOP	29.97	56分	1時間53分	7時間34分	150	1075	UHSスピードクラス3以上
		25.00						
		23.98						
XF-AVC S YCC420 8bit	標準 LGOP	29.97	1時間25分	2時間50分	11時間20分	100	718	UHSスピードクラス3以上
		25.00						
		23.98						

* 映像ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない

* [オーディオ形式：AAC/16bit/2CH] 設定時

* 1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する

4K Crop

記録形式	圧縮方式	フレームレート (fps)	カードごとの総記録時間 (約)			映像ビットレート (約・Mbps)	ファイルサイズ (約・MB/分)	要求カード性能
			64GB	128GB	512GB			
XF-HEVC S YCC422 10bit	標準 LGOP	59.94	37分	1時間15分	5時間3分	225	1612	ビデオス ピードク ラスV60 以上
		50.00						
XF-HEVC S YCC420 10bit	標準 LGOP	59.94	56分	1時間53分	7時間34分	150	1075	UHSスピ ードク ラス3以上
		50.00						
XF-AVC S YCC422 10bit	標準 LGOP	59.94	34分	1時間8分	4時間32分	250	1791	ビデオス ピードク ラスV60 以上
		50.00						
XF-AVC S YCC420 8bit	標準 LGOP	59.94	56分	1時間53分	7時間34分	150	1075	UHSスピ ードク ラス3以上
		50.00						

* 映像ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない

* [オーディオ形式：AAC/16bit/2CH] 設定時

* 1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する

フルHD

記録形式	圧縮方式	フレームレート (fps)	カードごとの総記録時間 (約)			映像ビットレート (約・Mbps)	ファイルサイズ (約・MB/分)	要求カード性能
			64GB	128GB	512GB			
XF-HEVC S YCC422 10bit	標準 LGOP	119.88	1時間25分	2時間50分	11時間20分	100	718	UHSスピードクラス3以上
		100.00						
		59.94	2時間49分	5時間39分	22時間38分	50	360	SDスピードクラス10以上
		50.00						
		29.97						
		25.00						
23.98								
XF-HEVC S YCC420 10bit	標準 LGOP	119.88	2時間1分	4時間2分	16時間11分	70	503	SDスピードクラス10以上
		100.00						
		59.94	4時間2分	8時間4分	32時間15分	35	253	SDスピードクラス6以上
		50.00						
		29.97						
		25.00						
23.98								
XF-AVC S YCC422 10bit	標準 LGOP	119.88	1時間25分	2時間50分	11時間20分	100	718	UHSスピードクラス3以上
		100.00						
		59.94	2時間49分	5時間39分	22時間38分	50	360	SDスピードクラス10以上
		50.00						
		29.97						
		25.00						
23.98								
XF-AVC S YCC420 8bit	標準 LGOP	119.88	2時間1分	4時間2分	16時間11分	70	503	SDスピードクラス10以上
		100.00						
		59.94	4時間2分	8時間4分	32時間15分	35	253	SDスピードクラス6以上
		50.00						
		29.97						
		25.00						
23.98								

* 映像ビットレートの数値は、映像のみで、音声、メタデータは含まない

* [オーディオ形式：AAC/16bit/2CH] 設定時

* 1回の上限時間を超えた場合、動画記録が停止する

動画撮影の自動停止

1回の撮影上限時間

通常動画

100.00 fps以上	最大1時間
59.94 fps以下	最大2時間

* 1回に撮影できる最長時間

* 発熱、電源、エラーなどの要因による動画記録停止を除く

S&F動画 (NTSC)

 fps	 fps	記録時間
59.94	120	最大1時間
	60 / 30 / 12 / 6 / 3 / 2 / 1	最大2時間
29.97	120	最大30分
	60	最大1時間
	30 / 12 / 6 / 3 / 2 / 1	最大2時間
23.98	120	最大24分
	60	最大48分
	30	最大1時間36分
	12 / 6 / 3 / 2 / 1	最大2時間

S&F動画 (PAL)

 fps	 fps	記録時間
50.00	100	最大1時間
	50 / 25 / 12 / 6 / 3 / 2 / 1	最大2時間
25.00	100	最大30分
	50	最大1時間
	25 / 12 / 6 / 3 / 2 / 1	最大2時間

* 1回に撮影できる最長時間

* 発熱、電源、エラーなどの要因による動画記録停止を除く

オートフォーカス (AF)

フォーカス方式：デュアルピクセルCMOS AF

測距輝度範囲

静止画撮影時：EV -5.0～20

(F1.2レンズ*・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100時)

* DS (Defocus Smoothing) コーティングを採用したRFレンズを除く

動画撮影時

4K 30p：EV -2.5～20

フルHD 30p：EV -3.0～20

(F1.2レンズ*・中央測距点・ワンショットAF・常温・ISO 100・29.97 / 25.00 fps時)

* DS (Defocus Smoothing) コーティングを採用したRFレンズを除く

フォーカス動作

	静止画撮影	動画撮影
AF動作	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	ワンショットAF 動画サーボAF
手動ピント合わせ (MF)	対応	対応

* AIフォーカスAF設定時は、被写体の動きに応じて、ワンショットAFからサーボAFに自動的に切り替わる (連写中を含む)

* 静止画撮影のかんたん撮影ゾーン設定時は [AIフォーカスAF] に自動設定

フォーカスモード：AF / MF

* フォーカスモードスイッチ非搭載のRF / RF-Sレンズ使用時に有効

* フォーカスモードスイッチ搭載レンズ使用時は、レンズ側の設定が優先される

測距エリアごとのレンズ対応：キヤノンのホームページを参照 (🔗)

自動選択時AFエリア分割数

測距エリア		横：約100%、縦：約100%
分割数	静止画	最大651分割 (31×21)
	動画	最大527分割 (31×17)

* 設定により異なることがある

AFフレーム選択可能ポジション

測距エリア		横：約90%、縦：約100%
ポジション数	静止画	最大4235ポジション (77×55)
	動画	最大3465ポジション (77×45)

* 1点AF、十字キーによる選択時

* AFフレーム選択可能ポジションは、AF性能を示す値ではない

モニター

型式：TFT式カラー液晶モニター

画面サイズ：3.0型（画面比率3：2）

ドット数：約104万ドット

視野角：上下/左右ともに約150°

視野率：上下/左右とも約100%（画像サイズL、アスペクト比3:2）

タッチパネル：静電容量方式

HDMI出力

出力端子：HDMIマイクロ出力端子（タイプD）

* HDMI CEC非対応

露出制御

各撮影状態の測光機能

項目		静止画撮影	動画撮影
測光センサー		撮像素子の出力信号による 384分割（24×16）測光	
測光モード	評価測光	○	○
	部分測光	○ *画面中央の約5.8% ^{*2}	
	スポット測光 ^{*1}	○ *画面中央の約2.9% ^{*2}	
	中央部重点平均測光	○	
測光輝度範囲（常温・ISO 100）		EV -2～20	EV 0～20

* 1：マルチスポット測光不可（非対応）

* 2：デジタルテレコン設定時は数値が異なる

静止画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

（静止画）ISO感度の手動設定

	ISO感度
常用ISO感度	ISO 100～32000（1/3段ステップ）
拡張ISO感度*1	H（ISO 51200相当）

* 1：C.Fn [ISO感度拡張：する] 設定時に、拡張ISO感度設定可能

* [高輝度側・階調優先] 設定時の手動設定範囲は、ISO 200～32000

* [HDRモード] [HDR撮影(PQ)：HDR PQ] 設定時は、拡張ISO感度設定不可

（静止画）ISO感度の手動設定範囲：非対応

（静止画）オートの上限

オートの上限	ISO 400 / 800 / 1600 / 3200 / 6400 / 12800 / 25600 / 32000
--------	------------------------------------------------------------

（静止画）ISOオート詳細

撮影モード		ストロボなし	ストロボ使用時	
			E-TTL ISOオート上限可変制御対応レンズ使用時	E-TTL ISOオート上限可変制御非対応レンズ使用時
応用撮影	P / Tv / Av / M	ISO 100*1～32000*2	ISO 100*1～6400*2	ISO 100*1～1600*2
	B	ISO 400*3	ISO 400*3	
かんたん撮影		ISO 100～6400	ISO 100～6400	ISO 100～1600
	 以外	撮影モードにより異なる		

* 1：[高輝度側・階調優先：する/強] 設定時はISO 200

* 2：[オートの上限] の設定による

* 3：設定範囲外の場合はISO 400に最も近い値に変更

E-TTL ISOオート上限可変制御：対応

動画撮影時のISO感度（推奨露光指数）

ISO感度の手動設定（Mモード設定時）

	カスタムピクチャー	ISO感度
常用ISO感度	切 ^{*1}	ISO 100～12800
	Canon 709 / PQ / HLG / Canon Log 3 ^{*2}	ISO 400～12800
	BT.709 Standard ^{*2}	ISO 160～12800
拡張ISO感度	切 ^{*3*4}	H (ISO 16000 / 20000 / 25600相当)
	Canon 709 / PQ / HLG / Canon Log 3 ^{*2}	L (ISO 100 / 125 / 160 / 200 / 250 / 320相当) H (ISO 16000 / 20000 / 25600相当)
	BT.709 Standard ^{*2}	L (ISO 100 / 125相当) H (ISO 16000 / 20000 / 25600相当)

* 1 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、低感度側がISO 200～となる

* 2 : カスタムピクチャー設定時は、[高輝度側・階調優先] 設定不可

* 3 : [HDR撮影(PQ) : HDR PQ] 設定時は、拡張ISO感度不可

* 4 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、拡張ISO感度不可

ISO感度自動設定（P / Tv / Av / C1 / C2 / C3 / S&Fモード、Mモード+ ISOオート設定時）

	カスタムピクチャー	ISO感度
常用ISO感度	切 ^{*1}	ISO 100～12800
	Canon 709 / PQ / HLG / Canon Log 3 ^{*2}	ISO 400～12800
	BT.709 Standard ^{*2}	ISO 160～12800
拡張ISO感度	切 ^{*3*4}	H (ISO 16000 / 20000 / 25600相当)
	Canon 709 / PQ / HLG / Canon Log 3 ^{*2}	
	BT.709 Standard ^{*2}	

* 1 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、低感度側がISO 200～となる

* 2 : カスタムピクチャー設定時は、[高輝度側・階調優先] 設定不可

* 3 : [HDR撮影(PQ) : HDR PQ] 設定時は、拡張ISO感度不可

* 4 : [高輝度側・階調優先] 設定時は、拡張ISO感度不可

* ISO感度自動設定時の最高ISO感度は、[オートの上限] の設定による

ISO感度自動設定（かんたん撮影（動画）ゾーン設定時）

常用ISO感度：ISO 100～12800

* 拡張ISO感度は設定不可

* かんたん撮影（動画）ゾーン設定時は、[カスタムピクチャー] [高輝度側・階調優先]

[HDR撮影(PQ)] 設定不可

ISO感度の手動設定範囲の制限：非対応

ISOオートの上限定

ISOオートの上限	ISO 6400 / 12800 / H (ISO 25600相当) *1
-----------	---------------------------------------

* 1 : C.Fn [ISO感度拡張：する] 設定時

タイムラプス動画のISOオートの上限定

ISOオートの上限	ISO 400 / 800 / 1600 / 3200 / 6400 / 12800
-----------	--------------------------------------------

シャッター

静止画撮影

型式：

電子制御式フォーカルプレーンシャッター
撮像素子によるローリングシャッター

シャッター方式

シャッター方式	ストロボ撮影
電子先幕	可能
電子シャッター	不可

シャッタースピード

シャッター方式	設定範囲
電子先幕	1/4000~30秒、バルブ
電子シャッター	1/8000~30秒、バルブ

ストロボ同調速度

	EL /EX スピードライト	汎用ストロボ
電子先幕	1/250秒	1/250秒

動画撮影

型式：撮像素子によるローリングシャッター

シャッタースピード：1/4000~1/8秒

* 撮影モードやフレームレートにより下限値が変化する

ドライブ

ドライブモードと連続撮影速度

[最高・約]

ドライブモード	AF動作	電子先幕	電子シャッター
1枚撮影		○	○
高速連続撮影+	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	12コマ/秒	15コマ/秒
高速連続撮影	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	7.6コマ/秒	15コマ/秒
低速連続撮影	ワンショットAF AIフォーカスAF サーボAF	3.0コマ/秒	5.0コマ/秒
セルフタイマー：10秒		○	○
セルフタイマー：2秒		○	○
セルフタイマー：連続撮影		○	○

外部ストロボ

マルチアクセサリシュー用接点：21ピン

調光補正：±3段（1/3段ステップ）

4K動画のフレーム切り出し

本機で撮影した4K / 4K Crop動画の1フレームを、約830万画素（3840×2160）の静止画（JPEG / HEIF）として保存可能

* 通常動画はJPEG画像、HDR撮影（PQ）動画はHEIF画像として保存される

* 切り出した静止画は、カメラ内でのリサイズ、トリミング、（再生時）クリエイティブアシスト不可

* **[CP機能：入]** で撮影した動画から静止画のフレーム切り出しはできない

印刷指定（DPOF）

DPOF Version 1.1準拠

外部インターフェース

デジタル端子

端子形状	USB Type-C™
通信	USB 10 Gbps (SuperSpeed Plus USB / USB 3.2 Gen 2) 相当
用途	PC / スマートフォン通信用 USB充電/給電用

HDMI出力端子 : HDMI端子 (タイプD)

* 解像度自動切り換え

外部マイク入力端子 : $\Phi 3.5$ mmステレオミニジャック (3極)

ヘッドフォン端子 : $\Phi 3.5$ mmステレオミニジャック

リモコン端子 : リモートスイッチRS-60E3 (別売) 対応

電源関連

使用電池

対応バッテリーパック	LP-E17
使用個数	1個

USB充電・給電: USB電源アダプター PD-E2使用/PD-E1使用

AC電源: AC アダプターAC-E6N、およびDC カブラーDR-E18

撮影可能枚数

撮影方法	温度	撮影可能枚数 (約・枚)	
		省電力優先 ^{*1}	なめらかさ優先 ^{*2}
モニター撮影	+23℃	480	390

* 1 : CIPA規格準拠

* 2 : CIPA規格を基準にした当社測定条件による

* 新品・フル充電のLP-E17使用時

* 撮影環境により、撮影可能枚数が大きく変動することがある

* マルチアクセサリシュー対応のアクセサリ使用時は、カメラからアクセサリに給電が行われるため、撮影可能枚数が少なくなることがある

動作可能時間

使用条件			温度	動作可能時間
バルブ撮影可能時間			+23℃	約3時間
ライブビュー撮影可能時間			+23℃	約3時間10分
動画撮影可能時間*1	4K	29.97 / 25.00 fps	+23℃	約1時間10分
			0℃	約1時間10分
	フルHD	29.97 / 25.00 fps	+23℃	約2時間20分
			0℃	約2時間10分
動画再生可能時間 (通常再生)	4K	29.97 / 25.00 fps	+23℃	約3時間10分

* 新品・フル充電のLP-E17使用時

* 1 : [動画サーボAF : しない] 設定時

大きさ・質量

大きさ

外観色	大きさ
ブラック/ホワイト	(幅) × (高さ) × (奥行)
	約119.3×73.7×45.2 mm

* CIPAガイドラインによる

質量

外観色	測定条件	質量
ブラック	本体 (バッテリー、カードを含む) *1	約370 g
	本体のみ	約323 g
ホワイト	本体 (バッテリー、カードを含む) *1	約373 g
	本体のみ	約326 g

* ボディキャップ、シューカバーを含まず

* 1 : CIPAガイドラインによる

動作環境

使用可能温度 : 0~+40℃

使用可能湿度 : 85%以下

Wi-Fi（無線LAN）

対応規格（IEEE 802.11b/g/n/a/ac規格相当）

Wi-Fi規格（相当）	伝送方式	リンク速度（最高）	
		5GHz帯	2.4GHz帯
IEEE 802.11ac	OFDM変調方式 (CSMA / CA)	433 Mbps	
IEEE 802.11n		150 Mbps	72 Mbps
IEEE 802.11a		54 Mbps	
IEEE 802.11g			54 Mbps
IEEE 802.11b	DSSS 変調方式		11 Mbps

送信周波数（中心周波数）

2.4GHz帯

周波数	2412～2462 MHz
チャンネル	1～11 ch

5GHz帯

周波数	5180～5825 MHz
チャンネル	36～165 ch

* 国・地域により仕様が異なる

認証方式とデータ暗号化方式

2.4GHz帯/ 5GHz帯

接続方式	認証方式	暗号方式
カメラアクセスポイント	オープン	しない
	WPA2 / WPA3-Personal	AES
インフラストラクチャー	オープン	しない
	WPA / WPA2 / WPA3-Personal	AES

Bluetooth

準拠規格 : Bluetooth Specification Version 5.1準拠 (Bluetooth low energy技術)

伝送方式 : GFSK変調方式

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準／ガイドラインによります。
- サイズ、質量はCIPAガイドラインによります (カメラ本体のみの質量を除く)。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

商標・ライセンスについて

[☑ 商標について](#)

[☑ MPEG-4使用許諾について](#)

[☑ アクセサリーについて](#)

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Google PlayおよびAndroidはGoogle LLCの商標です。
- IOSは、Ciscoの米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。
- DCF*は、(社) 電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- USB Type-C™およびUSB-C™はUSB Implementers Forumの商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。



MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE [HTTP://WWW.MPEGLA.COM](http://WWW.MPEGLA.COM)

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーについて

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

⚠ 注意

- バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

最新の対応アクセサリーについては、下記のサイトでご確認ください。

- <https://cam.start.canon/H002/>



無線機能について

- 本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。
- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解、改造すること
 - 本製品上の証明ラベルをはがすこと
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。

EOS R50 Vの使用可能な地域と制限事項

- 本製品は電気通信事業者の通信回線に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルータ等を経由し接続してください。
- 本製品は、世界各地の電波規制に準拠するため、地域別に「DS126907」「DS126938」「DS126939」「DS126940」「DS126941」のタイプを販売しています。それぞれのタイプは、使用可能地域以外では、使用できませんのでご注意ください。それぞれのタイプが使用できる地域の情報は、キヤノンのWebサイトでご確認ください。

無線LANの使用制限について

無線LANは、下記表の灰色で示したチャンネルの条件では使用できません。これは、各使用可能地域の法律によって定められていますので、厳守してください。そのほかのチャンネルは使用できます。ただし、「*」印のチャンネルは、一部使用制限がありますので、表の注釈をお読みください。

		(1)	(2)						
				W52	W53	W56			W58
DS126907	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
DS126938	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-116	120-128	132-140	149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-116	120-128	132-140	149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
DS126939	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
DS126940	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140*			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140*			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
DS126941	(3)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
	(4)	(5)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165
		(6)	1-11	36-48	52-64	100-140			149-165

(1):無線LAN接続方法

(2):チャンネル

(3):屋内

(4):屋外

(5):インフラストラクチャー

(6):カメラアクセスポイントモード

*ロシアでは、100~128チャンネルは使用禁止です。

DS126907、DS126938、DS126939、DS126940、DS126941は無線モジュール (Model:ES204)を搭載しています。



® 007-AH0264

電波干渉について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、およびアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- (1) この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- (2) 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- (3) その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせください。

2.4 DS/OF2



2.4 XX 8



「2.4」：2.4GHz 帯を使用している無線機器であることを意味します。

「DS/OF/XX」：変調方式を表します。DS は DS-SS 方式、OF は OFDM 方式、XX はその他の方式であることを意味します。

「2」：想定される与干渉距離が20m 以下であることを意味します。

「8」：想定される与干渉距離が80m 以下であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。
- W52/W53:5.2GHz帯高出力データ通信システムの基地局又は陸上移動中継局と通信する場合を除き屋内においてのみ可能である。
"W52/W53 : In door use only, except for connection to Base stations or Land mobile relay stations for a 5.2 GHz band high-power data communication system"